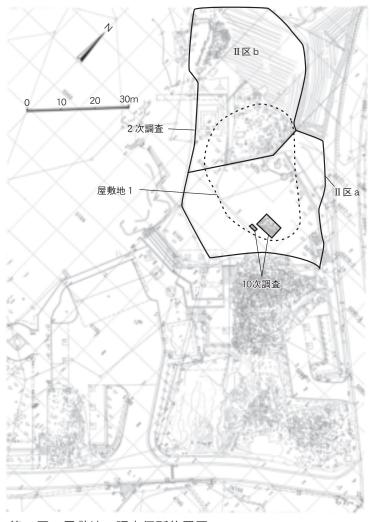
# 第Ⅴ章 報告

# 第1節 屋敷地1

屋敷地1とした地域はⅡ区を中 心とした地域である。Ⅱ区は地積 と現況によってa・bに小分割し た。具体的に、a は今泊5076·5102・ 5015・5052番地 (合計1,876㎡)、 bは今泊5071·5072·5073番地(合 計791㎡) である。なお、II区bの 中でもJ-12・13、K-12・13で確認 された道跡は、明治36年の地積図 でも確認することができる道跡で、 調査結果から近年まで利用されて いたことが分かっている。その構 築年代については不詳であるが、 古く遡るものではないと考え本章 「第5節 その他」の項目で詳述す る。

屋敷地1とした地域は以前実施された試掘調査で調査実績が無い地域も少なくない。また、Ⅱ区aとした地域は既存施設が配され、Ⅲ区b一帯は畑地となっていた。現況地形が異なることからaとbとに小分割している。調査区全体は10mの方形区画に分割してグリッドを設定している。調査を実



第19図 屋敷地 1 調査個所位置図

施したのは第19図に示した地域で、調査の結果  $\Pi$  区の北側(I-14・15)及び  $\Pi$  区 a ・ b の堺にあたる、K-15・16、L-15・16を中心とした地域で包含層の堆積が認められた。また、 $\Pi$  区 b の L-15・16から  $\Pi$  区 a の一帯にかけては柱穴を集中的に確認することができたため、ここを中心とした地域を屋敷の中心として捉え、恒常的な生活があったと想定した。他方  $\Pi$  区 b のI-14・15、I-14・15の一部については僅かに包含層が確認されるものの、柱穴などの遺構は皆無であった。これはバックホー等による耕作によって地山面深くまで攪乱が及んだためとも考えられるが、屋敷地ではなく例えば畑など別の用途を持った土地であった可能性も否定できない。

いずれにせよ今回の報告では、時間的都合整理のできなかった II 区 a (10次調査分)については報告を留保し、 2 次調査で実施した道跡を除く II 区 b 一帯の調査成果を報告する。前者 II 区 a については別の報告に譲りたい。

# 1. 層序

遺跡の層序を理解する上で東西方向の堆積状況をJ-15・16北壁で、K・J・I-15西壁で南北方向の堆積状況を図化した(第20図)。以下詳述する。南側に既存施設のグスク広場があり、この工事の際の客土が被覆する。耕作を行っていたため、II層が耕作土で、耕耘は地山深くまで及んでいる。また、休耕地となっていたことから、II 層の腐植土層が薄く堆積する。III 層は遺物包含層でIII 区 III 区 III 区 III の南北傾斜面にわずかに堆積している。包含層の下層は基盤岩の所々石灰岩が分布するが、基本的には石灰岩風化土のいわゆるマージが遺跡全体の地山となる。

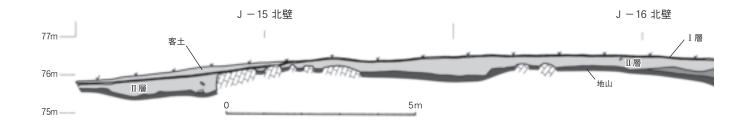
**客土**: Hue2.5YR赤褐色4/6。既存施設の造成に伴う堆積土である。このため既存施設の周辺で認められる。遺物は含まない。

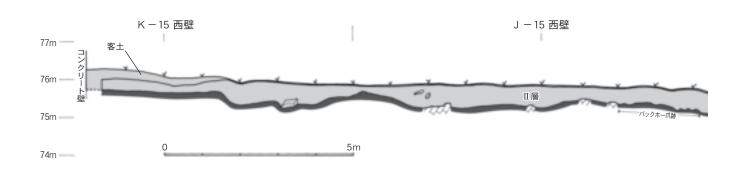
**I 層(上層)**: Hue7.5YR黒褐色 3/2。約  $2\sim5$  cmの現表土全体を覆う腐植土層。(ナンバーリング I 層もしくは表採)

**II層(上層)**:Hue7.5YR暗褐色  $3/3 \sim 3/4$ 。約20 $\sim$ 30cmの堆積。耕作土。 I 層とともに上面は凹凸となり畝が明瞭に残る。赤土がブロック状に含まれ、炭を含む土層。(ナンバーリング II 層) **III層(中層**):Hue7.5YR黒褐色 3/2。岩盤と岩盤の間に僅かに堆積するのみで II 区 b の南と北で僅かに残るように堆積する。約5 $\sim$ 10cmの堆積層。グスク時代の遺物包含層。炭化物を僅かに含み、粘性はほとんど無い土層。 II 層との層界は不明瞭。被覆は一部で全体には認められない。(ナンバーリング III 層)

地山: 所々岩盤が露頭し、遺物を全く含まない自然堆積層で、粘板岩を含む堆積層と、含まず 粘性のある締まった土層の層相の異なる地山からなる。 Ⅱ 区 b の一帯のほとんどの地域では バックホーの掘削による爪跡が地山面まで達しており、地山上面に凹凸をつくっていた。

- ・Hue2.5Y黄褐色5/4。やや粘性があり粘板岩を多く含む固く締まった土層。地山。
- ・Hue 5 B青灰色 5/1。古生代石灰岩の岩盤。地山。





第20図 屋敷地1セクション

# 2. 遺構

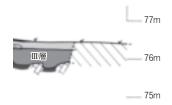
検出された遺構は柱穴と考えられるピットである。しかし当該地域は、かつてバックホーによって耕耘したと考えられる重機爪跡が多数確認されるなど、残存状況は決して良い状況にはなかった。また、遺跡が既存施設によって分断されていることから、検出された遺構を分析することは困難であった。このため柱穴から建物跡の推定を行うことはほとんどできなかった。

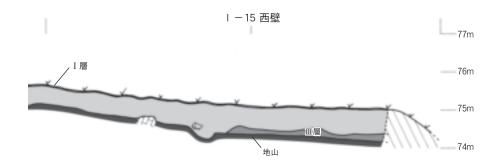
検出された柱穴はいずれも地山面において確認できた、その分布はL-16を中心とした地域に集中している。今回は図示のみであるが、10次調査では2次調査で実施されたよりも多くの集中する柱穴群を確認することができている。このため今回報告のメインとなるII区bより南東側の地域がより遺構が密に分布するものと想定される。以下に確認された遺構の内訳を示すが、復元できた住居跡等が無いので柱穴85基(要検討6基を含む)のみである。なお、下記内訳にはII区 a (10次調査)分の成果は含まれていない。

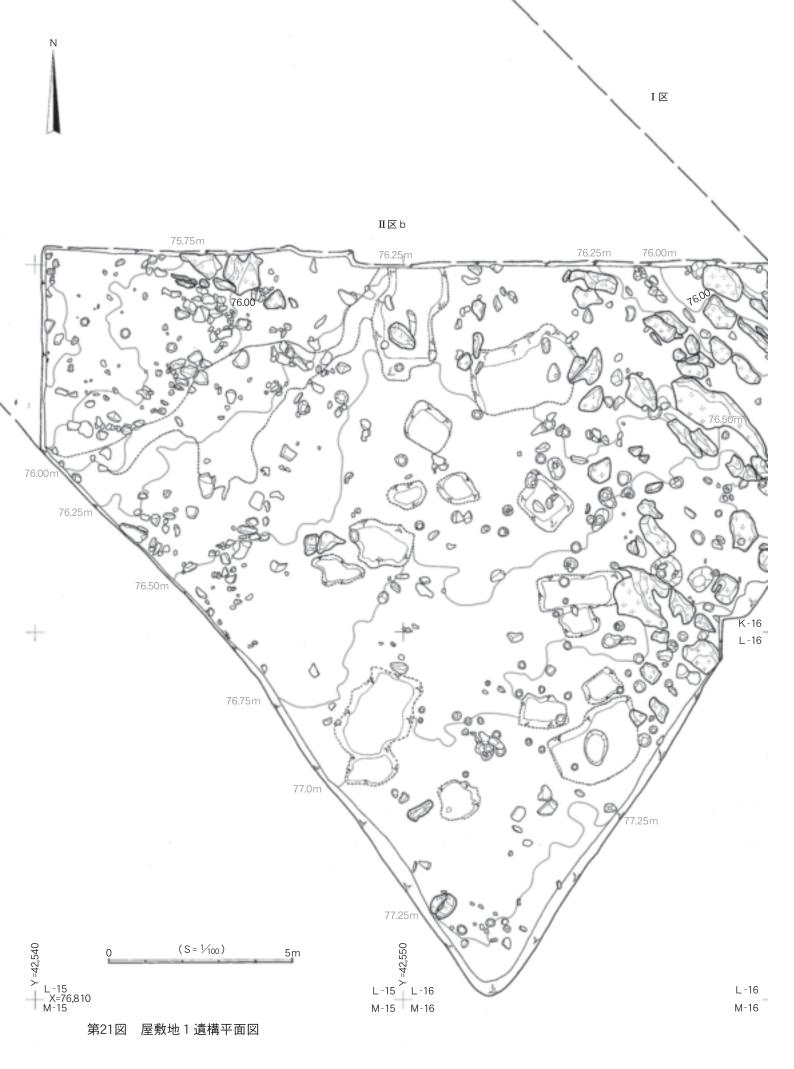
- 種 別 遺構数
- ・掘立柱建物跡 0基 〔内訳:母屋 0棟 高倉 0棟 竪穴建物 0棟〕
- ・土坑 0 基 ・溝状遺構 0 基 ・不明遺構 0 基

※上記の遺構は下記の個別遺構によって構成される。

・柱穴 79基 ・土坑? 1基 ・溝 0基 ・不明遺構 0基 ・柱穴? 6基(図化なし)







-56-

J -17 K-17 76.25m 76.75m

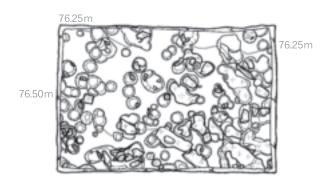
J -18 K -18

K-17 L-17

K-17 K-18 L-17 L-18

K-18 L-18

II⊠a





L-18 M-18

## 3. 人工遺物

遺物の多くは陶磁器である。内訳は第5表に示すとおりである。

#### (1) 陶磁器

屋敷地1(2次調査分)で出土した陶磁器は871点(推定個体数)を数える。このうち128点を図示する。

#### ① 土器

22-1 はグスク土器の底部で、粘板岩を混和材とする今帰仁城跡でも一般的な土器である。

#### ②カムィヤキ

22-2はカムィヤキで、壺の口縁部と推定される。

#### ③青磁

22-3・4は無鎬蓮弁文碗 I a の口縁部資料で間弁は広 く口縁部は直上する器形となる。22-5は鎬蓮弁文碗と推 定される底部資料で、高台を三角形に成形し見込みは凹 むタイプである。22-6・7は細蓮弁文碗aで前者は蓮弁 の線彫りが2条、後者は1条となる、無鎬蓮弁文碗に近い 器形となる。22-8は細蓮弁文碗に該当する資料で、蓮弁 の造りは丁寧である。22-9~14は細蓮弁文碗 c でいずれ も線彫りは粗雑で簡単である。13・14は底部資料である。 23-1~3は雷文帯碗で1~2は箆彫りによる雷文帯を口 縁部外面に描き、内面には刻花文を施文する。3は口縁 部を欠くため雷文帯碗であるかは不明であるが、口縁雷 文帯下にラマ式蓮弁文を描く資料で、一般的に明代青磁 碗にみられるタイプとされる(亀井1978)。23-4・5 はス タンプによる雷文を口縁部に施す資料で、前者は内面に も雷文帯を、後者の内面には花文を描く資料である(雷文 帯碗b)。23-6は刻花文碗aで、7は刻花文碗bである。 外反口縁碗の内外面に文様を箆彫りによって描く。23-8・24-1~5は無文外反碗の口縁部資料である。施釉の 方法や素地の特徴、形態等によって細分可能と考えられ る。例えば素地は白色で発色の良い青緑色の厚い釉を施 釉する資料で志慶真門郭の報告(金武ほか1983)ではA 窯系とした24-2、逆に素地が灰色で薄い釉を施釉するB 窯系24-3の資料などである。一方、24-1は大振りの碗 で口縁部を僅かに肥厚させる玉縁状口縁碗である。23-9 ~12は外面が無文となる碗の底部資料で、高台がやや幅 広、底部に厚みがあることから、無文外反碗の底部と推定 される。24-6は口縁部が直口する無文碗である。

24-7~8 は櫛描文皿でいわゆる同安窯系のベタ底皿底 部資料である。24-9~18は口縁部を逆L字状に屈曲させ

第5表 屋敷地1出土遺物一覧表

1 A	重別			Irra	ment At 1
	. 1	分類	器種・分類	個体数	百分率
	'	土器	鍋・鉢・壺・等	1	0.35%
	在地	カムィヤキ	壺・鉢・甕・等	1	0.35%
		瓦質土器	蓋・不明		
		20,50,11,111	碗	133	46.34%
l l			ill en	54	18.82%
			盤	6	2.09%
			杯	8	2.79%
		青磁	香炉	1	0.35%
		1 3 1000	瓶	2	0.70%
			7.0	2	0.70%
			器台		
			酒会壺(身・蓋)		
			置物	l .	
	1 1		碗	8	2.79%
			<u> </u>	11	3.83%
		白磁	杯	5	1.74%
		1100	燈明皿	1	0.35%
			壺	1	0.35%
			瓶	l	l
	1 1		元様式		
			碗	16	5.57%
			Ⅲ	18	6.27%
			大皿	l .	
		-6-11-	杯・小杯	1	0.35%
		青花	壺	_ ^	1
			瓶	4	1.39%
	the s			4	1.05%
	中国		鉢		1
			水注		
			合子 (身・蓋)	1	0.35%
_		# 14 194	瓶		
陶		青白磁	合子	i	i
磁器		天目	碗	1	0.35%
器				1	0.55%
		白濁釉陶器	壺		
			茶入れ		
			急須(身・蓋)	l .	
			小型壺	4	1.39%
			大型壺	4	1.39%
		褐釉陶器		4	1.59%
			長胴壺	!	!
			擂鉢	l .	
			深鉢	1	1
			花鉢	i	i
		五彩	碗		
		<b>山杉</b>			
		瑠璃釉	碗		
		par 1 g-1 M	瓶		
ı			Ш		
		翡翠釉	壺		l
			瓶	1	l
		緑釉	不明		
				1	0.35%
		三彩	水注	1	0.35%
			水注蓋	1	0.35% 0.35%
		三彩 土器	水注 蓋 壺	1	0.35%
		三彩	水注 蓋 壺 合子		0.35%
	タイ	三彩 土器	水注 蓋 壺	1	0.35%
	タイ	三彩 土器 鉄絵	水注 蓋 壺 合子	1 2	0.35%
	タイ	三彩 土器	水注 蓋 壺 合子 大型壺 中型壺	1 2 1	0.35% 0.70% 0.35%
	タイ	三彩 土器 鉄絵	水注 蓋 壺 合子 大型壺 中型壺 小型壺	1 2 1	0.35% 0.70% 0.35%
		三彩 土器 鉄絵 褐釉陶器	水注 蓋 童 合子 大型 壺 壺 中型 壺 瓶	1 2 1	0.35% 0.70% 0.35%
	ベト	三彩 土器 鉄絵 褐釉陶器 白磁	水注 蓋	1 2 1	0.35% 0.70% 0.35%
	ベトナム	三彩 土器 鉄絵 褐釉陶器	水注 蓋 童 合子 大型 壺 壺 中型 壺 瓶	1 2 1	0.35% 0.70% 0.35%
	ベト	三彩 土器 鉄絵 褐釉陶器 白磁	水注 蓋	1 2 1	0.35% 0.70% 0.35%
	ベト ナム 高麗	三彩 土 器	水注 蓋 壺 子	1 2 1	0.35% 0.70% 0.35%
	ベナム 高 備 前	三彩 土 器 鉄絵 褐和陶器 白青磁 青青磁 焼締め	水注       蓋       壹子       大型       壺       大型       壺       中型       瓶       碗       据	1 2 1	0.35% 0.70% 0.35%
Di-	ベナ 高 備 肥 前	三彩 土 鉄	水注 蓋 壺 合子 大型電電 中型型電 瓶 碗 瓶・その他 碗 擂鉢	1 2 1 1	0.35% 0.70% 0.35%
胸	ベナム 高 備 前	三彩 土 鉄	水注 蓋 壺 合子 大型型 壺 壺 板 碗 瓶 ・ その他 碗 擂 輪 総 計 総 総 計 の 総 に そ の の を の を の を の の を の を の を の を の を の	1 2 1	0.35% 0.70% 0.35%
	ベナ 高備肥	三彩 土器 鉄絵 褐釉陶器 白磁 青花 青磁 焼締め 染付	水注 蓋 壺子 大型型 壺 壺 板 ・その他 魔 播 蜂 総計 勾玉	1 2 1 1	0.35% 0.70% 0.35%
	ベナ 高 備 肥 前	三彩 土器 鉄絵 褐釉陶器 白磁 青花 青磁 焼締め 染付	水注 蓋 壺子 大型型 壺 壺 板 ・その他 魔 播 蜂 総計 勾玉	1 2 1 1	0.35% 0.70% 0.35%
	ベナ 高備肥	三彩 土器 鉄絵 褐釉陶器 白磁花 青磁 燒締め 染付	水注 蓋 壺 子 章 壺 壺 子 亜 亜 亜 亜 亜 亜 亜 亜 亜 亜 亜 亜 亜 亜 亜 亜 亜	1 2 1 1	0.35% 0.70% 0.35%
3	ベナ高備前配器	三彩 土 鉄	水注 蓋 壺 子 大型型壺 中型型壺 瓶 碗 瓶・その他 碗 擂鉢 碗 総計 勾玉・小玉 銭 (有文)	1 2 1 1	0.35% 0.70% 0.35%
3	ベナ 高備肥	三彩 土 鉄	水注 蓋 壺 合子 大型型壺 板 碗 服・その他 碗 擂鉢 総計 勾玉・小玉 医 銭 紙 (女)	1 2 1 1	0.35% 0.70% 0.35%
3	ベナ高備前配器	三彩 土 鉄	水注 蓋 壺 合子 大型型 壺 壺 極 施 施 施 ・ その他 魔 播 終 コ 玉 玉 ・ ( く ( く ( く ( く ( く ( く ( く ( く ( く (	1 2 1 1 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	0.35% 0.70% 0.35%
3	ベナ高備前配器	三彩 土 鉄	水注 蓋 壺 合子 型型 壺 中型型 壺 瓶 毛 その他 魔 瓶 ・その他 魔 猫 女	1 2 1 1	0.35% 0.70% 0.35%
3	ベナ高備前配器	三彩 土 鉄	水注 蓋 壺 合子 大型型 壺 壺 極 施 施 施 ・ その他 魔 播 終 コ 玉 玉 ・ ( く ( く ( く ( く ( く ( く ( く ( く ( く (	1 2 1 1 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	0.35% 0.70% 0.35%
3	ベナ高備前配器	三彩 土 鉄	水注 蓋 壺 合子 型型 壺 中型型 壺 瓶 毛 その他 魔 瓶 ・その他 魔 猫 女	1 2 1 1 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	0.35% 0.70% 0.35%
3	ベナ高備前配器	三彩 土 鉄	水注 蓋 壺 子 大型型型 壺 壺 壺 壺 壺 壺 壺 壺 壺 壺 壺 壺 壺 壺 壺 壺 極 ・ その他 碗	1 2 1 1 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	0.35% 0.70% 0.35%
3	ベナ高備前配器	三彩 土 鉄	水注 蓋 壹子 壺 壺 壺 壺 亜 亜 亜 亜 亜 亜 亜 亜 亜 亜 亜 亜 亜 亜 亜	2 1 1 2 2 2 87 5 5	0.35% 0.70% 0.35%
翁	ベナ高備前配器	三彩 土器 鉄絵 褐釉陶器 白磁花 青磁 燒締め 染付 丸 工 東 鉄製品	水注 蓋 壺 子 型型型 壺 電 電 電 電 電 電 電 電 電 電 電 電 電 電 電 電 電	1 2 1 1 2 287	0.35% 0.70% 0.35%
翁	ベナ高備前肥器	三彩 土 鉄	水注 蓋 壺 子 壺 壺 壺 亜 中 小 瓶 碗 瓶 ・ その 他 の	2 1 1 2 2 2 87 5 5	0.35% 0.70% 0.35%
翁	ベナ高備前肥器	三彩 土器 鉄絵 褐釉陶器 白磁花 青磁 燒締め 染付 丸 工 東 鉄製品	水注 蓋 壺 子 型型型 壺 電 電 電 電 電 電 電 電 電 電 電 電 電 電 電 電 電	1 2 1 1 2 287	0.35% 0.70% 0.35%
翁	ベナ高備前肥器	三彩 土	水注 蓋 壺 子 壺 壺 壺 亜 中 小 瓶 碗 瓶 ・ その 他 の	1 2 1 1 2 287	0.35% 0.70% 0.35%
翁	ベナ高備前肥器	三彩 土器 鉄絵 褐釉陶器 白磁花 青磁 燒締め 染付 丸 工 東 鉄製品	水注 蓋 壹子 量 壹子 壹 章 壹子 壹 章 壹子 壹 章 壹 子 壹 章 壹 章 壹 平 中 型 型 壹 施 顧 施 施 老 シ 玉 下 (有 銭 東 文 通 賣 フ 丁 鏃 鉄 の 定 正 美 (東 文 通 賣 フ 丁 鏃 鉄 で の 他 ・ 近 現 代 率 金 等 で 全 等 で 全 等 で か 等 質 か 手 で か 等 質 か 手 で か 等 質 か す か す で か 等 質 か す か す か す か す か す か す か す か す か す か	1 2 1 1 2 287	0.35% 0.70% 0.35%
翁	ベナ高備前肥器	三彩 土	水注 蓋 壺 子 壺 壺 壺 亜 中 小瓶 碗 瓶 碗 番 玉 玉 で 有 変 重 壺 壺 壺 壺 壺 亜 亜 亜 亜 亜 亜 亜 亜 亜 亜 亜 亜 亜 亜	1 2 1 1 2 287	0.35% 0.70% 0.35%
翁	ベナ高備前肥器	三彩 土	水注 蓋 壺 子 型型型 壺 電 電 電 電 電 電 電 電 電 電 電 電 電 電 電 電 電	1 2 1 1 1 287 5 4 4	0.35% 0.70% 0.35%
金属	ベナ高備肥磁 類 貨	三彩 土	水注 蓋壺 子型型型壺 板・ を設す。 を記する。 をこる。 を。 をこる。 をこる。 をこる。 をこる。 をこる。 をこる。 をこる。 をこる。 をこる。 をこる。 を。	1 2 1 1 2 287	0.35% 0.70% 0.35%
金属	ベナ高備前肥器	三彩 土	水注 蓋 宣子 型型型量	1 2 1 1 1 287 5 4 4	0.35% 0.70% 0.35%
金属石	ベナ高備肥磁 類 貨 製 品	三彩 土器 鉄線 褐釉陶器 白磁花 塘締め 染付 丸 工 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	水注 蓋 壺 子 型型型 壺 一 大 中 小 瓶 碗 瓶 碗	1 2 1 1 1 287 5 4 4	0.35% 0.70% 0.35%
金属石	ベナ高備肥磁 類 貨	三彩 土器 鉄線 褐釉陶器 白磁花 塘締め 染付 丸 工 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	水注 蓋 宣子 型型型量	1 2 1 1 1 287 5 4 4	0.35% 0.70% 0.35%
金属石具	ベナ高備肥磁 類 貨 製 製 製 制品	<ul> <li>三 主</li> <li>主</li> <li>禁</li> <li>器</li> <li>数</li> <li>は</li> <li>は</li> <li>は</li> <li>り</li> <li>り<td>水注 蓋 壹子 中小瓶 碗 瓶 碗 瓶 碗 瓶 碗 瓶 碗 瓶 碗 瓶 碗 瓶 碗</td><td>1 2 1 1 1 287 5 4 4</td><td>0.35% 0.70% 0.35%</td></li></ul>	水注 蓋 壹子 中小瓶 碗 瓶 碗 瓶 碗 瓶 碗 瓶 碗 瓶 碗 瓶 碗 瓶 碗	1 2 1 1 1 287 5 4 4	0.35% 0.70% 0.35%
金属石具	ベナ高備肥磁 類 貨 製 品	<ul> <li>三彩</li> <li>土器</li> <li>鉄器</li> <li>基準</li> <li< td=""><td>水注 蓋 壺 子 型型型 壺 一 大 中 小 瓶 碗 瓶 碗</td><td>1 2 1 1 1 287 5 4 4</td><td>0.35% 0.70% 0.35%</td></li<></ul>	水注 蓋 壺 子 型型型 壺 一 大 中 小 瓶 碗 瓶 碗	1 2 1 1 1 287 5 4 4	0.35% 0.70% 0.35%

る口折皿の口縁部・底部資料。24-9は蓮弁口折皿 a の口縁部資料で内体面に蓮弁を施文、10は蓮弁口折皿 b で外体面に鎬蓮弁を施す。11・12は外体面に簡略化した無鎬蓮弁を描く(蓮弁文d)。底部はその特徴から24-13~18のいずれも蓮弁口折皿に属すると判断される。25-1~3は口縁部が直口する皿で、1は外面に蓮弁を、2・3は内体面に蓮弁を施す(蓮弁直口 b)。24-4~17は腰折皿で4~6は口縁部を等間隔に刻む資料で(腰折 d)、7・8は内外面に蓮弁文を(腰折 a)、9~11は刻花文を内外面に描く資料で(腰折 c)、12~16は無文となる(腰折 e)。17は腰折皿の底部資料である。18・19無文外反皿で口唇部が僅かに肥厚し外反する。19の底部資料は見込みに回線が廻る。26-1~7は盤の口縁部・底部資料で1は口縁部を稜花(Ia)。2~5は鍔縁口縁の盤で、6・7は高台脇の立ち上がりの緩やかなタイプの底部資料。8は碁笥底の杯で(b)口縁部がやや内傾する。9は香炉で口縁部を内側に折り内面途中まで釉が施釉される。26-10・11は袋物などと推定されるが器種不明の資料である。26-12~14は小型の壺もしくは瓶の口縁部と推定する口縁部資料でいずれも小片である。22-15は酒会壺(b)の口縁部資料で、口唇部は露胎となり、胴体部には蓮弁等の文様が配されたと考えるが、大部分を欠損するため不明。

#### 4)白磁

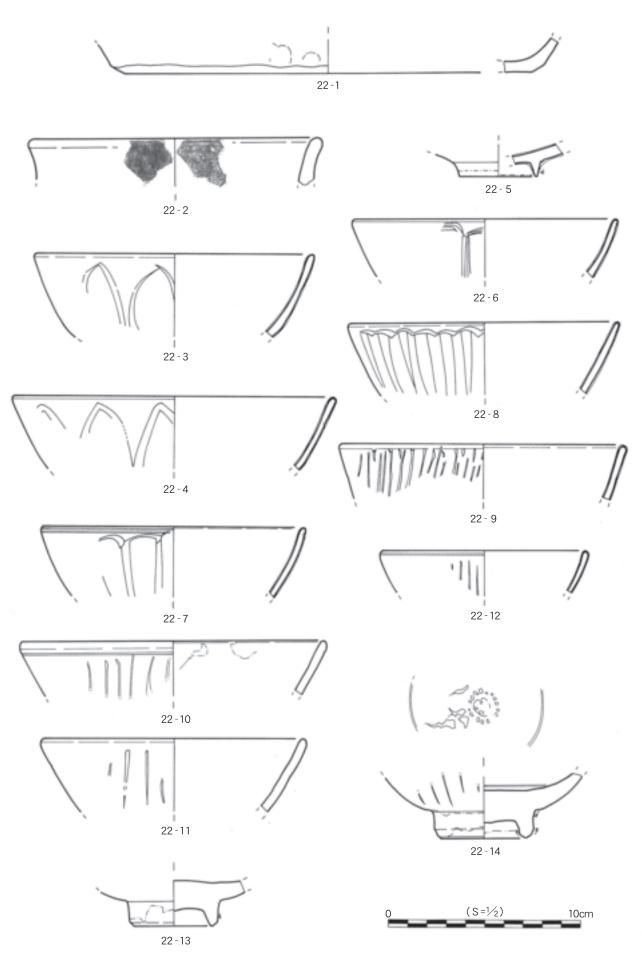
27-1 はビロースクタイプ碗 I で内面には櫛描文が施される。27-2 はビロースクタイプ碗 II 。 3 は粗製の直口碗。27-4~7 は口禿の資料で、4 は高台をつくる資料で碗とも考えられる。6・7 はベタ底で器高の低い口禿皿である。27-8~13は森田分類 D 群(森田1982)の直口皿で8・9 は高台に抉りを入れる小皿(直口皿 a)。27-18は同じく D 群の燈明皿で、27-17は体部を八角形に面取する八角杯。27-14~16は外反皿 a で森田分類 E 群に該当、14・15は口縁部、16は底部資料。19は青白磁の梅瓶などの胴体部の破片で、外面には櫛描きによる渦巻文を描く。

#### ⑤ 青花

28-1 は外反碗 b (主郭分類 II 類,以下略)で、比較的コバルトの発色は良い。崩れた波濤文と唐草文を外面に描く。28-2 も外反碗(II 類)に該当すると考えるが、外面の文様も崩れ発色も前者に比べ悪く類別は不明。28-3 は外反碗(II 類)底部資料である。28-5・6 は直口碗 a (II 類)と考えられる資料で、前者は口縁に波濤文を描く資料、後者は見込みに蓮花文、腰部に蕉葉文を描く底部資料でいわゆる蓮子形となる。28-7 は分類不明の直口口縁部資料。28-4 は外反皿(I 類)の口縁部資料。28-8・9 は外反皿(I 類)で断面逆三角形の高台の底部資料。8 は外反皿 a で見込みに十字文、9 は玉取り獅子が描かれる外反皿 b。28-11は碁笥底皿 b (II 類)で碁笥底の底部見込みに捻子花文が描かれる。28-10は分類不明の皿で見込みに蛙が描かれる。28-12は大皿 b (II 類)で腰部に箆彫りされた蓮弁を配し、高台外面に如意頭繋文が配される。見込みの文様は不明(大皿 b)。28-13は合子の身で体部には花文が描かれる。28-14は杯(II 類)に近似するが容量の小さな表品であることから小杯に分類されると考える。28-15は瓶等袋物の底部資料。28-16は水注の注口部分になる資料、コバルトの発色は淡い。

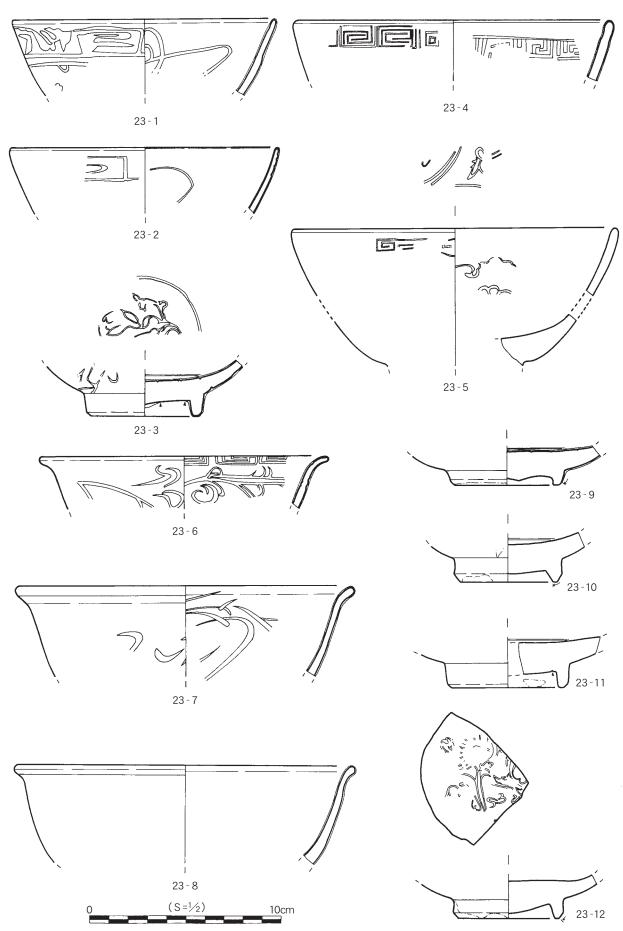
# ⑥褐釉陶器

29-1 は大海茶入れの口縁部破片資料と推定される。頸部に圏線が廻る。29-2 は口縁部が三角形に肥厚する特徴的な資料で、長胴壺の口縁部資料と推測される。類品が鷹島海底遺跡や新安沖沈没船等で出土しており、その特徴から13世紀後半から14世初頭に位置づけられる(森2001)。 29-3 ~ 7 は褐釉陶器壺口縁部である。  $3 \cdot 4$  は口縁部が丸く肥厚し(壺 b)、5 は口唇部が平坦となる(壺 c)。 $6 \cdot 7$  は口縁部が方形に肥厚する(壺 d)。 $6 \cdot 7$  はグスク時代の褐釉陶器として比較的ポピュラーな壺でグスク等で多く出土する。本地区でも多く見られる。



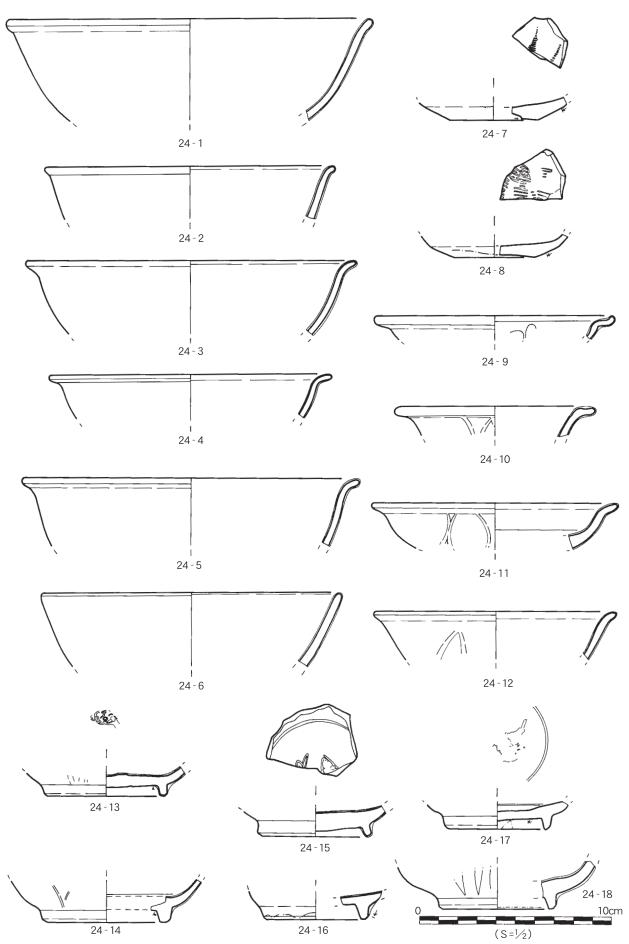
第22図 屋敷地1出土遺物(1)

1: 土器 2: カムィヤキ 3~14: 青磁碗



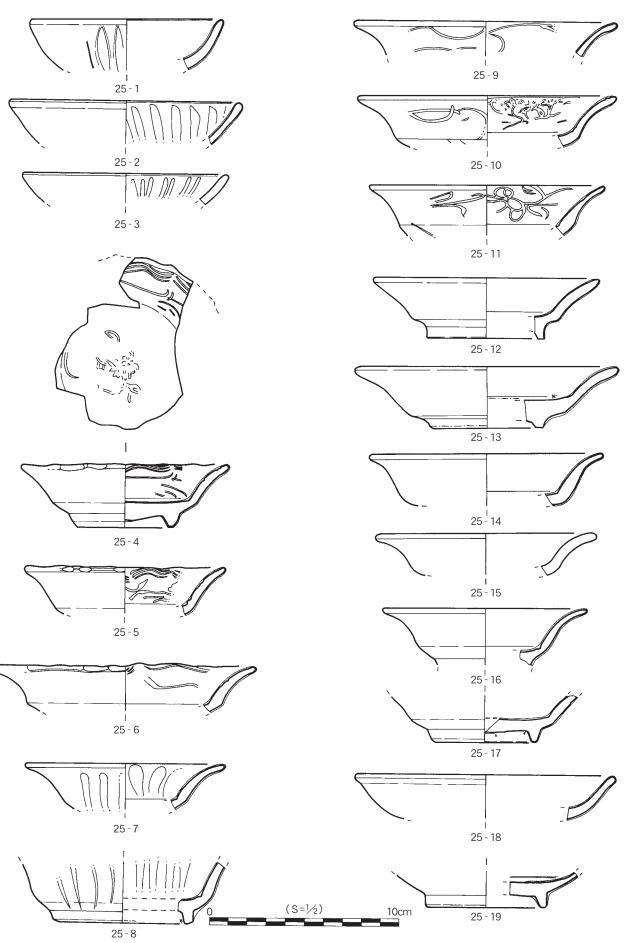
第23図 屋敷地1出土遺物(2)

青磁碗 1~5:雷文帯 6・7:有文外反 8:無文外反 9~12:底部



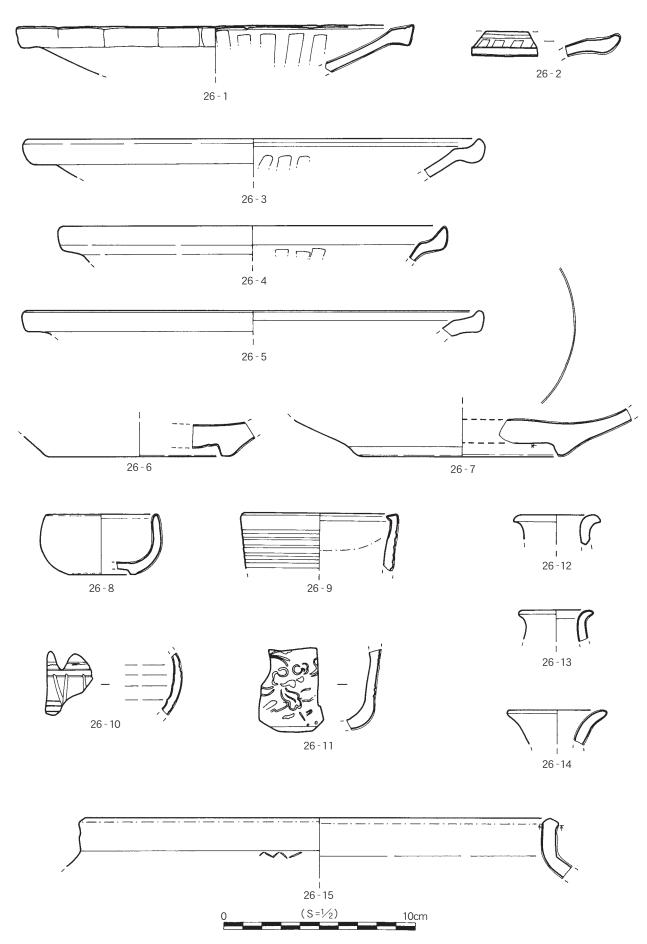
第24図 屋敷地1出土遺物(3)

青磁  $1 \sim 5$ : 無文外反碗 6: 無文直口碗  $7 \cdot 8$ : 櫛描文皿  $9 \sim 18$ : 口折皿



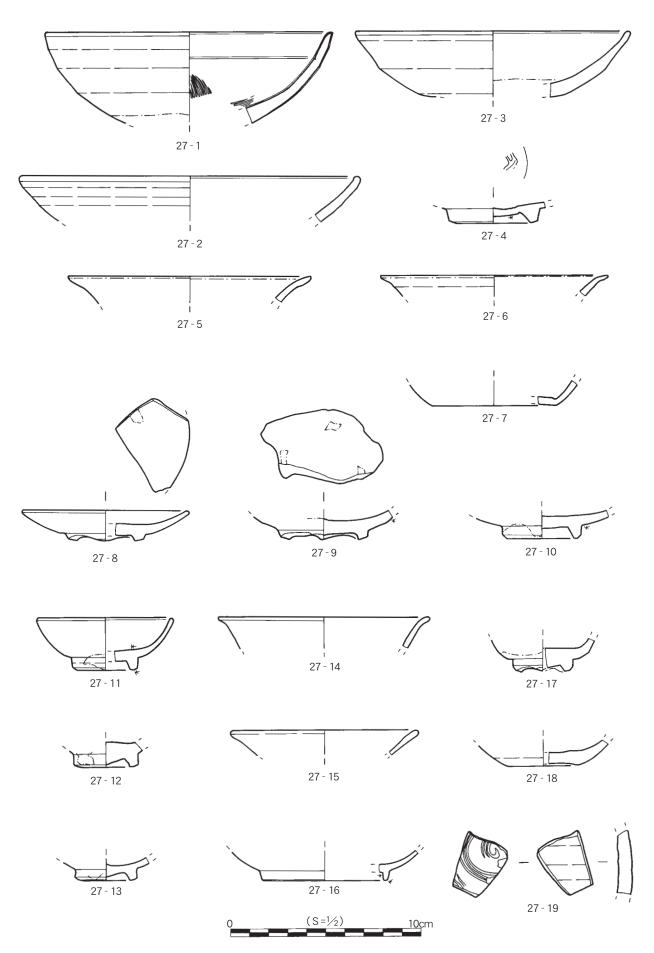
第25図 屋敷地1出土遺物(4)

青磁皿  $1 \sim 3$ :直口  $4 \sim 7$ :腰折  $18 \cdot 19$ :無文外反



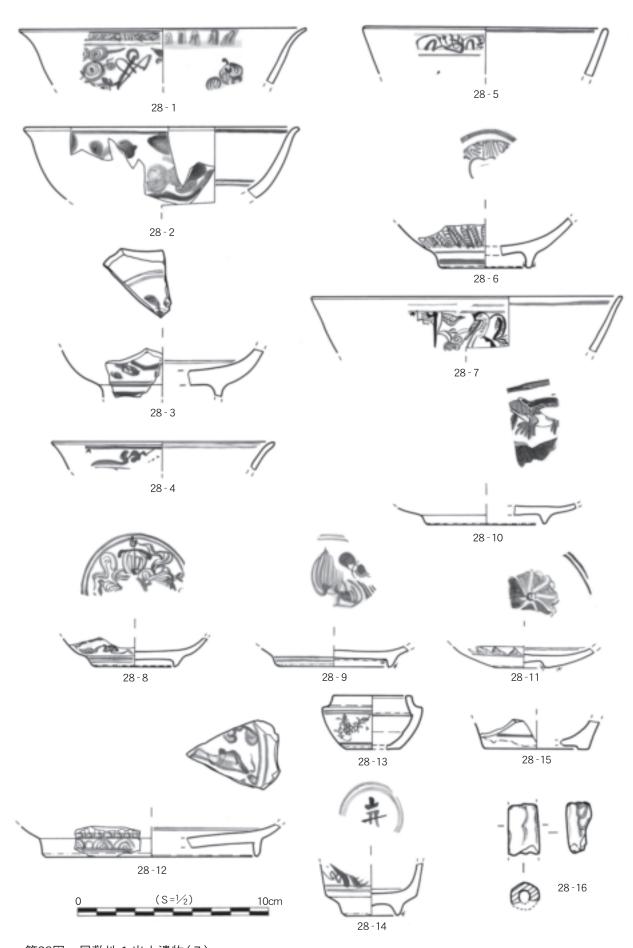
第26図 屋敷地1出土遺物(5)

青磁  $1\sim7$ :盤 8:杯 9:香炉  $10\cdot11$ :不明  $12\sim14$ :瓶 or 小壺 15:酒会壺



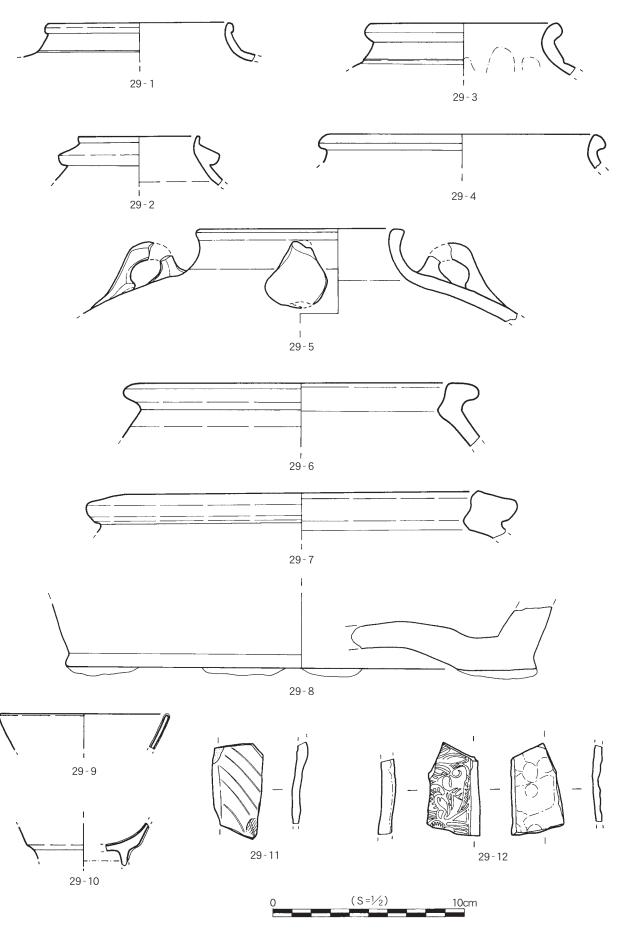
第27図 屋敷地1出土遺物(6)

白磁  $1\sim 4$ :碗  $4\sim 10$ 、 $14\sim 16$ :皿  $11\sim 13$ 、17:杯 18:灯明皿 19:青白磁瓶



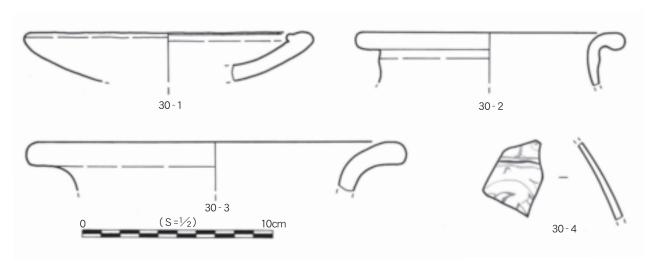
第28図 屋敷地1出土遺物(7)

青花 1~7:碗 8~11:皿 12:大皿 13:合子 14:杯 15:壺 or 瓶 16:注口部分



第29図 屋敷地1出土遺物(8)

1:大海茶入 2:長胴壺 3~5:褐釉陶器小型壺 6~8:褐釉陶器大型壺 9・10:瑠璃釉 11・12:三彩



第30図 屋敷地1出土遺物(9)

1: 土器(タイ) 2~3: 褐釉陶器壺(タイ) 4: 染付(ベトナム)

### ⑦瑠璃釉

29-9・10は瑠璃釉を厚く施釉する碗である。底部の形状は腰部で屈曲するタイプである。

## ⑧三彩陶器

29-11・12は三彩の破片資料で全体の形は不明であるが文様などの特徴から、鶴形の水注の破片資料と考えられる。11は鶴の羽根部分の、12は脚部周辺の装飾文と考えられる。

#### ⑨タイ陶磁

30-1 はいわゆる半練の蓋で、タイ産の土器である。30-2 は直上する頸部から外反させ口唇部を丸く肥厚するタイプの中型長胴壺で、頸部以下を失うが四耳壺と推定される。30-3 は大型の壺で口縁部を外反させる比較的口唇の肥厚が小さいタイプの大型壺である。その産地はいずれもノイ川窯系と目される。

#### 10ベトナム陶磁

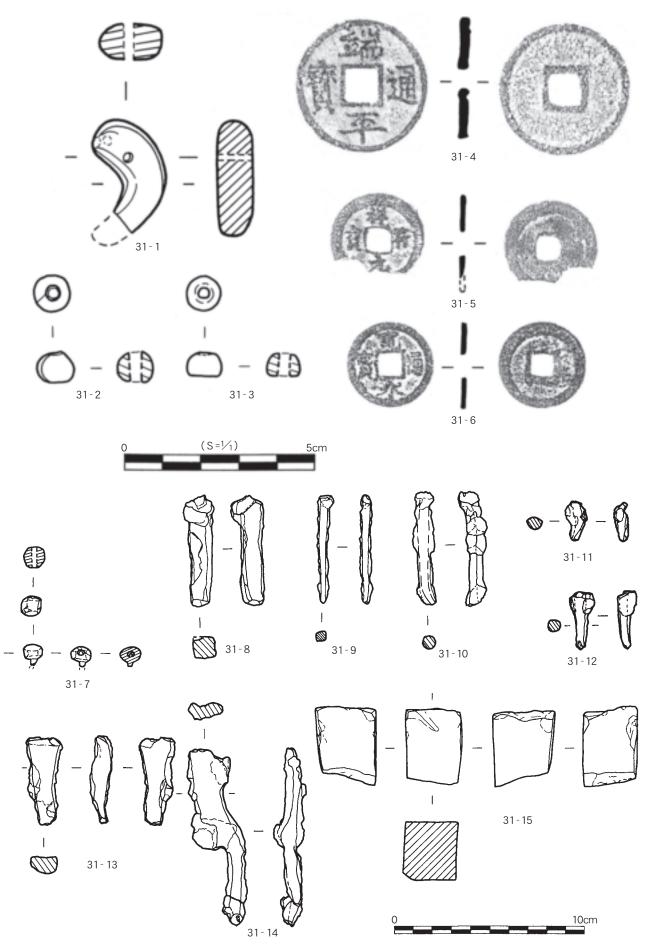
30-4 はベトナムで生産されたと考えられる染付瓶で、陰刻によって窓枠を描き、その中に染付で文様を配する。

## (2) 玉

31-1 は勾玉で石質は松本幡郎氏によって緑色片岩と同定いただいた。下端部分を欠損するがほぼ形状を確認できる資料である。 $31-2\cdot3$  はガラス製の小玉でK-16 III  $\overline{B}40\sim60$  cm より出土した資料で、包含層出土ではあるがほぼ同じ場所より得られている。

#### (3) 銭貨

銭貨は3枚が得られている。31-4は端平通寶で当三銭(南宋、1234年)。31-5は祥符元寶(北宋、1008年)。31-6は寛永通寶(江戸、(新寛永3期) 1697年)である。寛永通寶は近世期の遺物であるので本遺跡の主体時期とはずれるが、恒常的な生活以外で当地にもなんらかの活動があったのだろうと考えられる。



第31図 屋敷地 1 出土遺物(10)

1: 勾玉 2・3: ガラス玉 4~6: 銭貨 7: 銅製品 8~14: 鉄製品 15: 石器

# (4) 金属製品

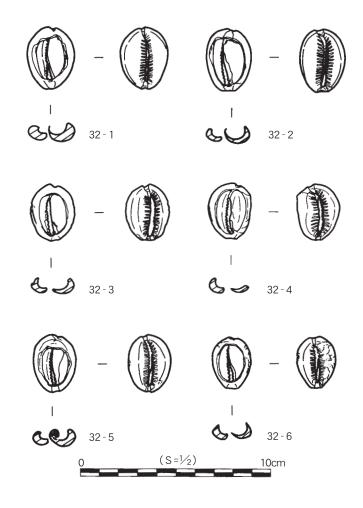
金属製品は銅製の資料と鉄製の資料とに大別できる。近現代のものも多く含まれていると考えられるが、陶磁器等と異なりその時代判別は困難である。ここでは、これまで経験則的に判別してきた報告者の分類によって、グスク時代に該当する可能性の高い資料だけを報告している。31-7は銅製品で鋲の頭部である。31-8~13は棒状の製品で釘の破損品と推定される、13については楔状の製品である。14は鋏の破損品で類例の完形品が志慶真門郭の調査で出土している(金武ほか1983)。指を入れる持ち手の部分や刃が残っておらず、二枚の刃を連結するために設けられた孔が穿たれており、レントゲンで確認することができた。

#### (5) 石器

31-15は玢岩製の砥石で断面はほぼ正方形となる柱状の砥石である。

### (6) 貝製品

32-1~6はタカラガイの殻頂部の割れた表品で、民俗例等から漁網錘の可能性がある製品として紹介する。これまでの調査では勝連城跡の調査で確認されたような研磨加工はされていないため、積極的に製品であるとして評価するには資料の蓄積を待たなければならないが、島袋春美氏によって漁網錘である可能性を指摘することのできる製品として鑑定いただいた。



第32図 屋敷地 1 出土遺物(11) 貝製品

## 4. 自然遺物

自然遺物は貝類遺体を黒住耐二氏(千葉県立博物館)、脊椎動物遺骸を名島弥生(慶應義塾大学博士課程)に依頼し個体数を同定いただいた。植物遺体については本村で実施したため暫定的な結果とする。植物遺体の観察・分類は宮城の責にある。

## (1)植物遺体

植物遺体については専門の鑑定をお願いしていない為詳細の検討は今後の課題とする。 採集した堆積土の一部をフローテーションした。フローテーションを行ったのはI-14グリッドの遺物包含層(II区b-III層)をコラムサンプリングして実施した。採集した堆積土は49リットルである。この中から、コメやムギの植物遺体を検出している。第6表に出土した植物遺体を同定したものの一覧表を作成した。

### (2) 脊椎動物遺骸

脊椎動物遺骸については第7表に最大個体数(NSIP)と最小個体数(MNI)を示した。 所見の詳細については第Ⅵ章第4節を参照頂きたい。

## (3) 貝類遺体

貝類遺体は第8表に最小個体数(MNI)を示した。所見の詳細については第VI章第5節を参照頂きたい。

#### 参考文献

亀井明徳 1978年「山田城跡発見の中国陶磁について」『座喜味城跡〈第3・4次遺構発掘調査〉』 読谷村教育委員会

金武正紀・ほか 1983年『今帰仁城跡発掘調査報告 I 』今帰仁村文化財調査報告書第9集 今帰仁 村教育委員会

森田勉 1982年「14~16世紀の白磁の分類と編年」『貿易陶磁研究』No.2 日本貿易陶磁研究会 森達也 2001年「褐釉長胴四耳壺の生産地と年代について」『鷹島海底遺跡V』高島町文化財調査報 告書第4集 高島町教育委員会

第6表 屋敷地1(サンプリング)の出土植物遺体

	粉	量			
包含層	完形(粒)	7.世 1上米左	推算 最小個体	百分率 (n=160)	
コメ		7	1	0.6%	
コムギ	58	30	58	36.3%	
オオムギ	20	13	20	12.5%	
アワ	58		58	36.3%	
キビ	5		5	3.1%	
カヤツリグサ科?	17		17	10.6%	
マメ科?		2	1	0.6%	
不明	19	96			
総数	40	06	160		

第7表 屋敷地1出土脊椎動物種組成

動物種	NSIP	NNI	百分率
サメ類			
ハタ科			
アジ科			
クロダイ属			
フエフキダイ科	1	1	13%
ベラ科			
ブダイ科	2	1	13%
モンガラカワハギ科			
ハリセンボン科			
ウミガメ			
イノシシ/ブタ	4	1	13%
ウシ	8	2	25%
ウマ	4	1	13%
ヤギ	1	1	13%
イルカ類			
ネズミ科			
その他	1	1	13%
計	21	8	

<sup>\*</sup>漁骨はPick up法採集資料に基づく。

<sup>※</sup>一部、非屋敷地 I 区の資料が含まれている。

第8表 屋敷地1の貝類遺体の詳細組成

	屋敷地1 遺跡の MN I	生息場所類型
*コシダカサザエ		I -2-a
*チョウセンサザエ	57	I -3-a
*ヤコウガイ	2	I -4-a
*カンギク		II -1-b
*オオウラウズ	2	I -2-a
*ニシキウズ		I -2-a
*ムラサキウズ	1	I -3-a
	1	
*ベニシリダカ		I -4-a
*サラサバテイラ	3	I -4-a
*アマオブネ		I -1-b
*マルアマオブネ	5	II-1-b
*ニシキアマオブネ		I -1-c
*カノコガイ		<b>I</b> II-1-e
*オニノツノガイ	8	I -2-c
*コオニノツノ	1	I -2-a
*クワノミカニモリ	4	I -1-b
*オシマカニモリ	2	II-1-b
*ムカシタモト		I -2-b
*オハグロガイ		II -2-c
*マガキガイ	93	
		I -2-c
*ネジマガキ	1	I -2-c
*イボソデ	1	I -2-c
*クモガイ	1	I -2-c
*スイジガイ		I -2-c
*キイロダカラ	2	I -1-a
*ハナビラダカラ	6	I -1-a
*ハナマルユキ	44	I -3-a
*カモンダカラ		I -2-a
*コモンダカラ		I -2-b
*ナツメモドキ	1	I -2-b
*スソムラサキダカラ		I -2-a
*ウスムラサキダカラ		I -2-b
*クチムラサキダカラ		I -2-a
*ホシキヌタ		I -2-a
ヒメホシダカラ		I -2-b
*ヤクシマダカラ	1	I -2-a
*ホシダカラ		I -2-c
*タカラガイ類	0	I
*ミツカドボラ	6	I -3-a
*サツマボラ		I -3-a
*シロシノマキ	3	I -2-a
*シオボラ		I -2-a
<u>*</u> *ホラガイ		I -4-a
*オキニシ	7	I -3-a
*イワカワウネボラ	2	I -3-a
*ガンゼキボラ		I -2-a
*シラクモガイ	4	I -3-a
*ツノレイシ	16	I -3-a
*ツノテツレイシ		I -1-a
*テツレイシ		I -1-a
*レイシ類		I
*ムラサキイガレイシ	1	I -3-a
*アカイガレイシ	1	I -3-a
*キイロイガレイシ		I -3-a
*コオニコブシ	20	I -3-a
*イトマキボラ	4	I -2-a
*リュウキュウツノマタ	1	I -2-a
*ツノマタモドキ	1	I -3-a
*ベニマキ		I -2-a
*キイロツノマタモドキ	2	I -2-b
*ムラサキツノマタモドキ	1	I -2-a

	F-186-146-1	
	屋敷地1 遺跡の	生息場所類型
	MNI	工心勿开放主
*チトセボラ	2	I -2-c
*ニシキノキバフデ	2	I -2-a
*マダライモ	5	I -1-a
*サヤガタイモ	9	I -1-a
*ハナワイモ?		I -1-a
*ジュズカケサヤガタイモ	1	I -1-a
*キヌカツギイモ	2	I -2-a
*イボシマイモ	7	I -2-a
ササラモドキ	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	I -2-c
*ヤナギシボリイモ	5	I -3-a
*ハイイロミナシ		I -3-a
*サラサミナシ	1	I -2-c
*クロミナシ	3	II -2-c
*ミカドミナシ		I -2-c
*アカシマミナシ	1	I -2-c
*ゴマフイモ	1	I -2-c
*コモンイモ	4	I -2-c
*アンボンクロザメ		I -2-c
*アジロイモ	1	II -2-c
*小型イモガイ	20	H 2 C
*中型イモガイ	34	
*大型イモガイ	1	
*トウガタカワニナ	8	IV-5/6
*カワニナ	<u>5</u>	IV-5/6
*エガイ	1	I -1-a
*クロミノエガイ	1	II -2-a
*ベニエガイ	1	I -2-a
*リュウキュウサルボオ	5	I -2-a
*メンガイ類	1	I -2-a
*シロザル?		I -2-a
*キクザル類	3	I -2-a
*リュウキュウザル	1	II-2-c
*カワラガイ	4	II -2-c
*シラナミ	4	I -2-a
*ヒレジャコ	1	I -2-c
*ヒメジャコ	1	I -2-a
*シャゴウ	1	I -2-c
<u>*シャコソ</u> *シャコガイ類	4	I -2
*イソハマグリ	7	I -1-c
	1	I -1-c
*ナミノコマスオ *サメザラ	1	I -2-c
*シレナシジミ	1	II-0-c
*ヌノメガイ	4	
	4	II -2-c
*アラヌノメ	9	I -3-c
*ホソスジイナミ	2	II-1-c
*アラスジケマン	1	Ⅲ-1-c
*ヒメイナミ	1	I -1-c

生息場所類型 (Habitat)

I:外洋ーサンゴ礁域 Open sea coast- Coral reef area

Ⅱ:内湾一転石域

Inland sea - boulder area Ⅲ:河口干潟ーマングローブ域 Tidal flat - Mangrove area

Ⅳ:淡水域 Fresh water area

V:陸域 Terrestrial area

VI:その他 Others

# 第2節 屋敷地2

屋敷地2は現在資料整理途中 であるため概要のみを以下に紹 介する。

Ⅲ区の中でも小分割されたⅢ区 bに該当する地域で5100、5101、5095-1番地(1057㎡)の地域に属する。このⅢ区 b南側に隣接する地域5096-1、5096-2番地は岩盤が露頭しているところであったが、平成6年度に駐車場進入路として整備されたため現況地形はほとんど残っていない。あわせて、過去の試掘調査成果などから遺構、包含層の無い場所と判断され、本調査対象地域から除外した。

基本層序は上層の客土・耕作 土層と中層の黒褐色土層(ナン バーリングⅡ層)である。中層 の黒褐色土層がグスク時代の遺 物包含層である。最も多く柱穴 が確認された地区で数棟の建物 跡を推定できた。

遺構はほとんどが地山面に確認できた柱穴で、密集して確認されている点は試掘調査の成果



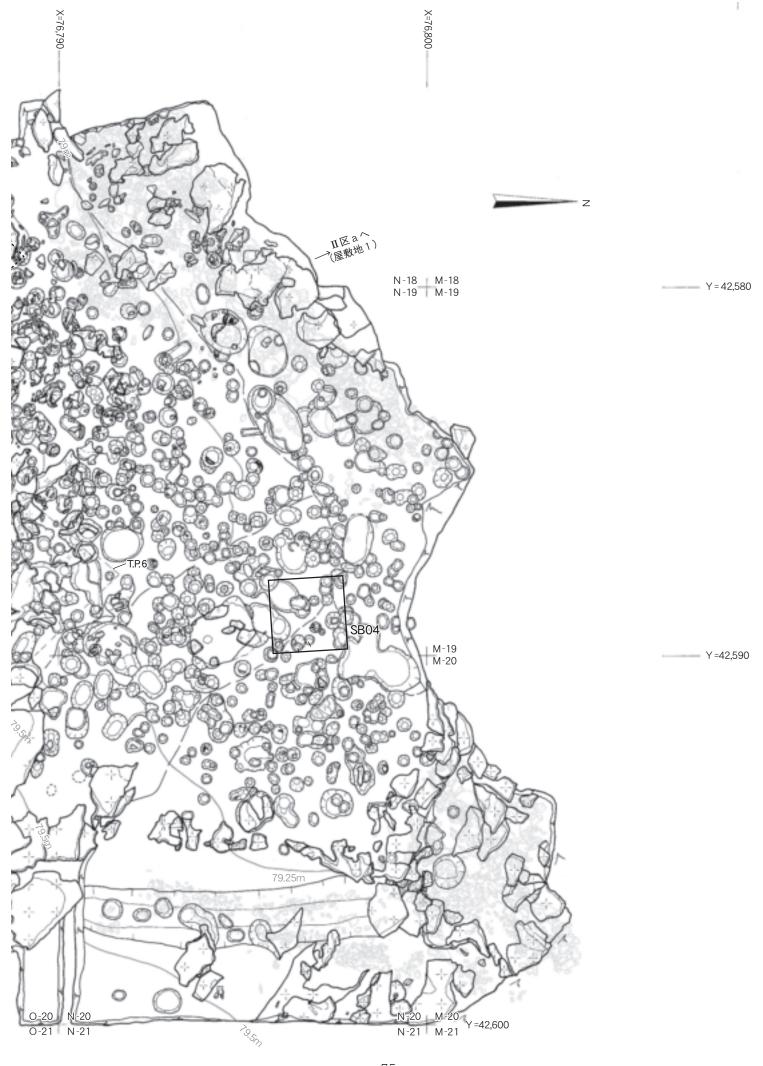
第33図 屋敷地 2 調査個所位置図

より想定するとおりである。その数は今回の調査されたいずれの地区よりも、密集しており約1,000基を数える。また他の地区に比べて土坑が多く見られる点も特徴的である。柱穴や土坑以外の遺構としては、石積み遺構(試掘調査時の石敷き遺構)が調査区北側で確認された。石積み遺構は後代になって当該地域が畑として利用されていた時代(近代から現代まで)に地表面に露頭していたようである。このため遺構上層からは新しい時代の遺物も多く得られている。この石積み遺構の機能については、屋敷地1と屋敷地2を区画する屋敷区画及び屋敷地2の平場を造作するための、土留め石積みと考えられる。これは、今帰仁城跡志慶真門郭で認知した「土留め石積み」と同じ機能の遺構と考えられる。

この他にも溝などが確認されている。本地区の調査成果の詳細については資料整理後次号の報告に譲りたい。ここでは遺構の概況と調査区全体の実測図のみを示すこととした(第34図)。

なお、遺構だけでなく遺物の量も他の地区に比べ膨大な量となる。概数ではあるが、遺物収納ケース約50箱に現在収納され資料整理を待っている。他の屋敷地同様青磁・白磁・青花・褐釉陶器といった陶磁器類を主体として、石器やガラス製の玉、銭貨、鉄製品なども出土している。出土遺物の詳細についても次回の報告に譲る。





# 第3節 屋敷地3

屋敷地3とした地域はⅢ区の南側を中心とした地域である。Ⅲ区はabcdに4分割され、先に記したとおり、屋敷地2はⅢ区b、屋敷地3がⅢ区a・Ⅲ区cとなる。なお、Ⅲ区dは発掘調査の結果から後述するⅣ区の性格により近いことから「5節その他」の項目で詳述する。

Ⅲ区は次の地番からなる。 a: 5097-1 (248 m)、c: 5098 (320 m)、d: 5099(379 m)。このうちはについては前述のとおり実施した発掘調査の成果から岩盤が露頭する地域である。このためⅣ区と性格を同じとする地区と判断、dについては屋敷地から除外している。よって、6次調査で実施したⅢ区 c と 8 次調査で実施したⅢ区 a を合わせた地域を屋敷地3として報告する。

屋敷地3とした地域は以前実施された試掘調査では遺物包含層も無く、 遺構の検出も認められない。これは



第35図 屋敷地 3 調査個所位置図

実施した場所が皿区 a の縁辺部であったことによるもので、実際には包含層の堆積する場所を広く有していた。調査着手にあたっては、以前の成果を踏まえ、当該地域の客土及び耕作土層をバックホーによって除去した後調査を着手している。次に、調査区全体を10mの方形区画に分割してグリッドを設定行った。調査を実施したのは第35図に示した地域で、皿区 a 及び皿区 b の東側を中心とした地域である。遺物包含層は特に東側では厚い堆積が認められたが、西側では被覆は薄く、皿区 c の南側では約5 m四方の大きな攪乱坑がある状況であった。それでも皿区 a を中心に柱穴を集中的に確認することができたため、この地域では恒常的な生活があったと想定し、一帯を屋敷地とした。他方皿区 c の遺構分布は散在的で、また攪乱坑によって破壊されるため判然としない。あるいは、別の屋敷があったことは否定できないと考える。

なお一点特筆されることに、Ⅲ区aの東側、現在道路敷きとなっている地域について記しておきたい。当該地域は道路敷き下にあるため調査は行えていない場所であるが、Ⅲ区aの調査より考えれば、遺物包含層が良好な状態で残っていることは確実であると考える。東区と西区を分断する道路は盛土と開削によって道路をつくっているが、当該地域は盛土によるため、Ⅲ区aの東側の調査によって今後、東区と西区の繋ぎを確認することができるものと考える。

#### 1. 層 序

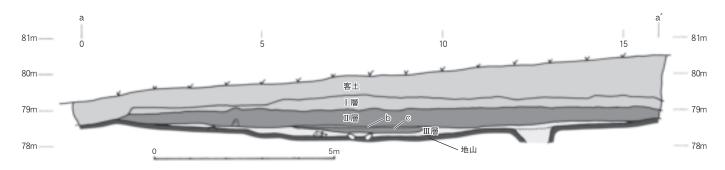
遺跡の層序を理解する上でa-a'ラインの東側壁を図化した。aを略北、a'を略南として以下詳述する。

**I 層 (上層)**: Hue10YR暗褐色  $3/3 \sim 3/4$ 。約50 $\sim$ 100cmの堆積層で、客土・耕作土。遺物の回収は、バックホーによって除去作業を行って作業をはじめたので、除去中に回収できた遺物と若干残っていた表土層からの出土となる。(ナンバーリング I 層)

**II 層(中層)**: Hue7.5YR黒褐色 3/2。約 $0\sim50$ cmの堆積層。グスク時代の遺物包含層。炭化物を多く含みやや粘性がある土層。東側で厚く堆積する以外は調査区全体では被覆は薄く堆積の認められない場所もある。(ナンバーリング II 層)

**Ⅲ層(下層)**: Hue7.5YR褐色土層 4/4。粘性がなく、粘板岩小礫を含み、遺物をほとんど含まない自然堆積層と考えられ、遺跡形成期の地表面と想定される。(ナンバーリングⅢ層)

**Ⅳ層(地山)**: 所々岩盤が露頭し、遺物を全く含まない自然堆積層で、粘板岩を含む堆積層と、含まず粘性のある締まった土層の層相の異なる地山からなる。



第36図 屋敷地 3 セクション

# 2. 遺 構

最終的に建物跡 5 棟(要検討 1 棟含む)を復元することができた。遺構は柱穴が大多数で、その分布は東側に偏在しているが西側に規模の大きな撹乱坑があるため、西側一帯にもあったものとも考えられる。確認された柱穴の総数は522基(復元建物に使用した16基含む)で、土坑は 9 基(SB01の竪穴含む)、溝が 2 基となる。全体的には南側に 4 本柱の建物跡が 3 棟推定できたこと。柱穴の集中する地区が北東側にあることなどから、母屋(主屋)的建物を北東側に配置したと想定され、その南側に付帯施設を配していたと考えられる。また、特筆すべき建物跡として SB01の竪穴建物があげられる。 1 間× 1 間の建物跡の中央に方形の土坑が付設されているもので竪穴建物として紹介した。遺構検出面は西側よりも東側が低く傾斜している。また、土坑が 8 基確認されているが集中するような傾向には無い。強いて言うなら柱穴の集中域の外縁にあたる部分に多くみられるようである。なお、調査区外となった南側にも遺構が残存すると考えられるが工事範囲外であることや、既に造成が行われており全ての調査を実施していない。

#### 種類 遺構数

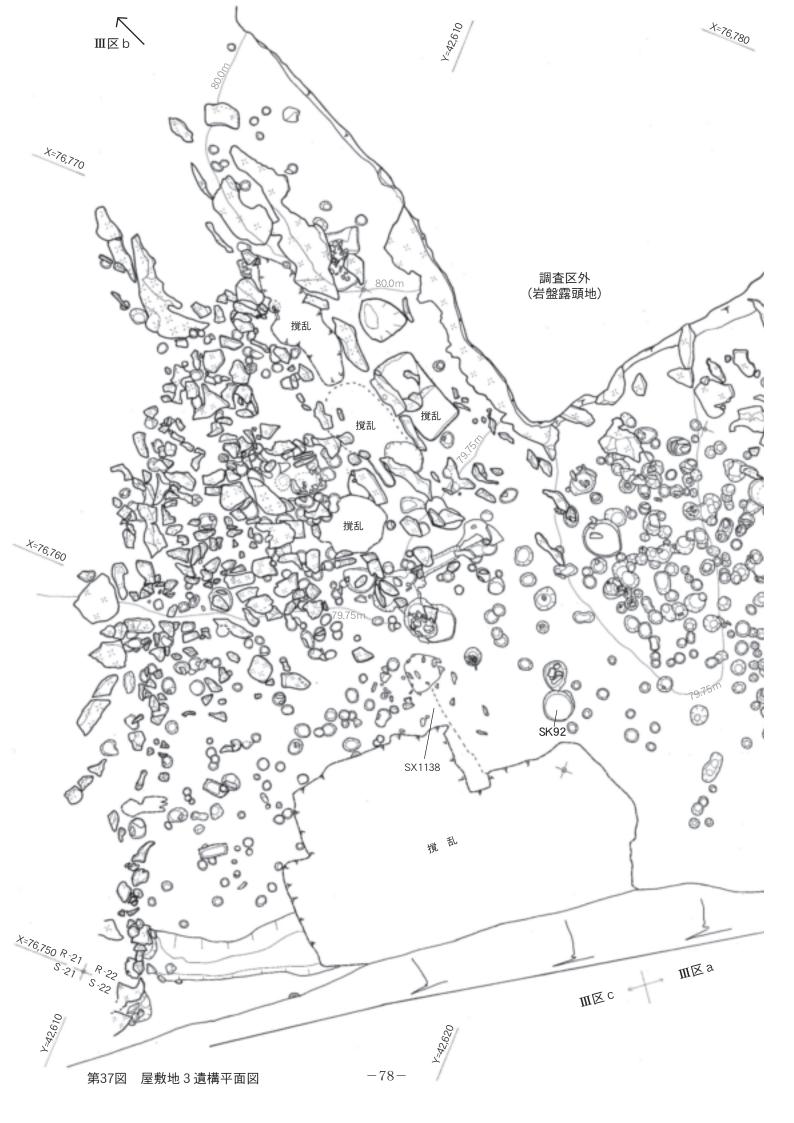
・掘立柱建物跡 5基(※うち要検討:1基)

〔内訳:母屋 1棟(※要検討) 高倉 4棟 竪穴建物 1棟〕

・土坑 8基・溝状遺構 2基・不明遺構 2基

※上記の遺構は下記の遺構によって構成される。

·柱穴 522基 ·土坑 9基 ·溝 2基 ·不明遺構 2基 ·柱穴? 49基



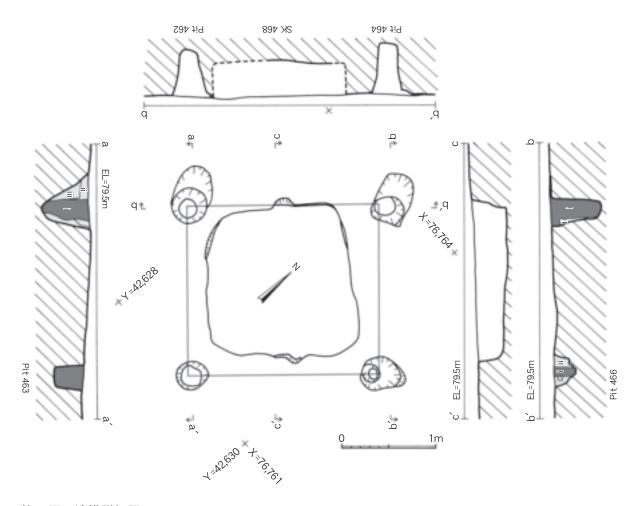


**〔名 称〕**屋敷地 3:SB01(竪穴建物跡) **〔位 置〕**Ⅲ区 a (Q-23・Q-24) **〔検 出 面〕**Ⅳ層(地山) **〔遺構構成〕**柱穴 4 基、土坑 1 基

[規 模] 1間×1間 長軸約203cm×短軸約180cm

「所 見」Pit462・463・464・466とSK468で構成される竪穴建物。柱穴の径は30cm~50cm程度でそれぞれに柱痕を確認することができる。柱痕の直径は20cm~15cm程度である。Pit462・464はGLから50cm以上掘り込んでいるが、Pit463・466は23cm~32cmと前者に比して若干浅くなっている。竪穴は長軸170cm×短軸150cmで深さは35cmを測る。I層の旧表土耕作土を除去した段階で確認されており遺構検出面は削平されていると考えられる、また一部土坑などによって切られており先後関係を確認することができる。覆土からの遺物はほとんどみられず、僅かにPit464から鉄片が出土する。竪穴はほぼ垂直に掘り込まれ、底面は平坦である。土坑の北側中央部は若干外に突出したような掘り込みが認められる。

(遺構内堆積層) 柱穴内の堆積層は i 層褐色土層で地山とほぼ同色の堆積層と、ii 層はわずかに 炭混じりの暗褐色土層で柱痕と推定される堆積層からなる。また、竪穴は地山と同色の黄褐色 の土がまだらに混ざる。



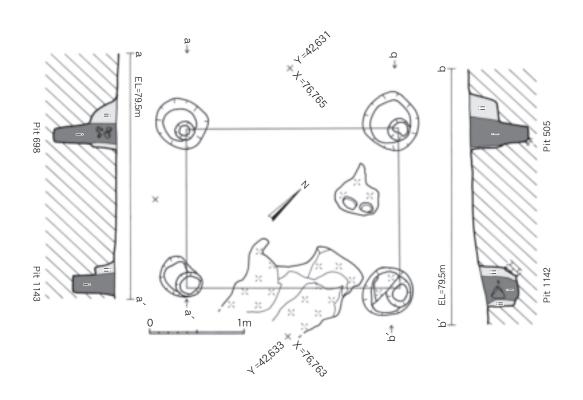
第38図 遺構詳細図SB01

〔検 出 面〕Ⅳ層(地山) 〔遺構構成〕柱穴4基

[規 模] 1間×1間 長軸約225cm×短軸約169cm

「所 見」Pit505・698・1142・1143で構成される掘立柱建物跡。柱穴の径は40cm $\sim$ 60cm程度でそれぞれに柱痕を確認することができる。柱痕の直径は17cm $\sim$ 20cm程度である。Pit505・698はGLから60cm以上掘り込んでいるが、Pit1142・1143は42cmと前者に比して若干浅くなっている。これは後者の地山が前者に比して低くなっていることにも起因するものと考える。事実遺構検出は I 層の旧表土を除去した段階で確認されており遺構検出面は削平されていると考えられる。覆土からの遺物はほとんどみられない。柱穴の造作は特徴的で一旦60cm程度垂直に掘り下げて後、柱径分を更に掘り下げる二段掘りによって掘られている。SB02と後述するSB03は規格が近似していて、配置された基軸がほぼ同様であること等類似点が多い。

【遺構内堆積層】柱穴内の堆積層は i 層:褐色の堆積土で地山とほぼ同色となる。ii 層:暗褐色 土層で炭を含む。柱痕と推定される。



第39図 遺構詳細図SB02

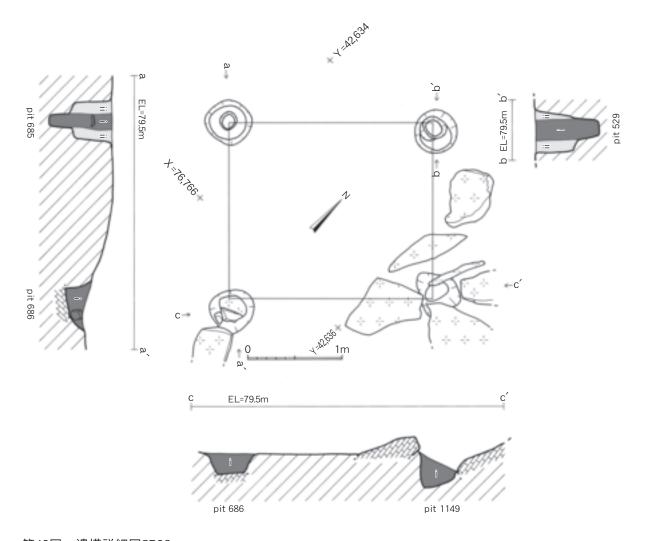
[名 称] 屋敷地 3:SB03 (掘立柱建物跡) [位 置] Ⅲ区 a (Q-24)

**〔検 出 面〕**IV層(地山) **〔遺構構成〕**柱穴4基

[規 模] 1間×1間 長軸約215cm×短軸約176cm

「所 見」Pit529・685・686・1149で構成される掘立柱建物跡。柱穴は30cm~50cm程度でそれぞれに柱痕を確認することができる。柱痕の直径は10cm~18cm程度である。Pit529・685はGLから60cm程度掘り込んでいるが、Pit686・1149は約45cmと前者に比して若干浅くなっている。これは後者の柱穴の底面あるいはその周辺で岩盤が露頭するためであると考えられる。このため、他の遺構に比べそれぞれの柱穴の芯で建物規格を計るとゆがみが生ずる。遺構検出はI層の旧表土を除去した段階で確認されており遺構検出面は削平されていると考えられる。また、Pit.1149については9次調査では確認することが出来なかったため補足調査を実施して確認している。覆土からの遺物はほとんどみられず、僅かにPit618から青磁胴部が出土する。柱穴の造作はSB02と同様二段掘りによって掘られている。

【遺構内堆積層】柱穴内の堆積層は i 層:褐色の堆積土で地山とほぼ同色となる。ii 層:暗褐色 土層で炭を含む。柱痕と推定される。



第40図 遺構詳細図SB03

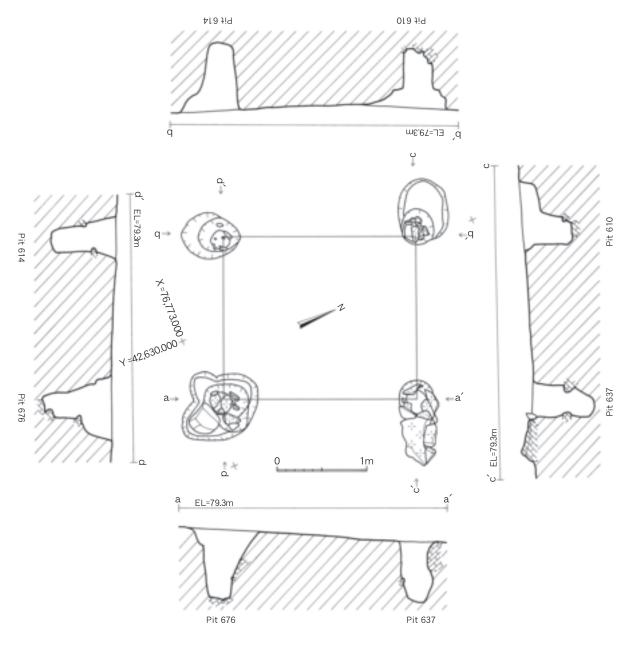
[名 称] 屋敷地 3:SB04(掘立柱建物跡) [位 置] Ⅲ区 a (P-23·P-24)

**〔検 出 面〕**Ⅳ層(地山) **〔遺構構成〕**柱穴4基

[規 模] 1 間×1 間 長軸約216cm×短軸約180cm

「所 見」Pit637・676・614・610で構成される掘立柱建物跡。柱穴は60cm~40cm程度となる。遺構完掘後にプランを確認したためセクション図は未作成である。いずれの柱穴も柱痕を有する。Pit676には楔石が残っている。Pit610がやや二段掘り様に造作されているが全体としてほぼ直に掘られている。柱穴の底面で岩盤が露出するところがあるが柱穴の規格はほぼ同一で、深さ70cm前後となる。覆土からの遺物はほとんどみられず、僅かにPit614から青花外反皿口縁部が出土する。

〔遺構内堆積層〕柱穴内の堆積層は暗褐色土に赤土がブロック状に炭とともに僅かに混ざる。



第41図 遺構詳細図SB04

[名 称] 屋敷地 3:SK92(土坑)

**〔位 置〕**Ⅲ区 c (P-22)

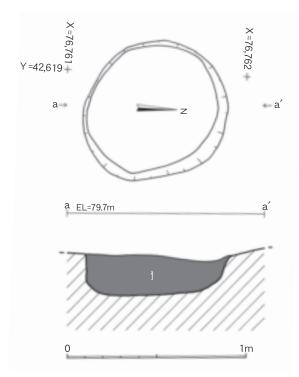
〔検出面〕Ⅳ層(地山)

〔遺構構成〕土坑1基

〔規 模〕約155cmの円形、深さ約40cm

「所 見」SK92単独で構成される土坑で用途は不明である。規模は長軸160cm 短軸150cmの円形の平面で側壁の立ち上がりはほぼ垂直で底面は平坦となる。深さはGLより40cm前後で浅い土坑となる。覆土からの遺物はほとんどみられず、僅かに青磁腰折皿が出土する。

(遺構内堆積層)土坑覆土は暗褐色~黒褐色で、赤土・褐色土がブロック状に混ざる。炭が微量に混入。



第42図 遺構詳細図SK92

[名 称] 屋敷地 3:SK520(土坑)

[位 置] Ⅲ区a (Q-24·P-24)

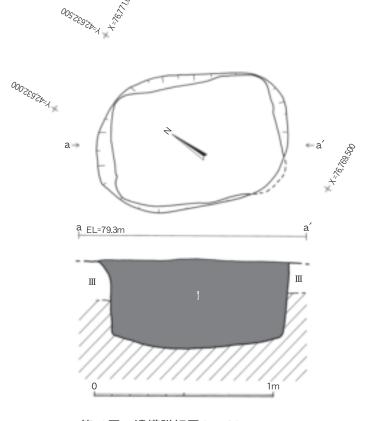
〔検出面〕Ⅳ層(地山)

〔遺構構成〕土坑1基

**〔規 模〕**長軸106cm、短軸73cm、深さ約100cm

「所 見」SK520単独で構成される土 坑で用途は不明である。規模は長軸106 cm×短軸73cmの長方形の平面で側壁の 立ち上がりはほぼ垂直、底面は平坦とな る。深さはGLより50cm前後で深い土坑 となる。覆土からの遺物はグスク土器、 青磁腰折皿、褐釉陶器壺(中国・タイ) が出土する。

(遺構内堆積層)土坑覆土は暗褐色で混入物に小礫を含み、赤色の土塊がブロック状に含まれ、炭を微量に含む。



第43図 遺構詳細図SK520

[名 称] 屋敷地3:SD1137(溝)

[位 置] Ⅲ区a (Q-24、P-24)

〔検出面〕Ⅲ層(地山)

〔遺構構成〕 溝1基

**[規 模]**幅30~70cm、深さ約30cmの溝

**〔所 見〕**SD1137単独で構成される溝で用途は不明南端ほど浅く北側に行くにつれて深くなる溝。調査区外に延びているため長さは不明。

覆土に遺物はほとんど含まれない。

(遺構内堆積層) 覆土は褐色の堆積土で、地山とほぼ同色となる。

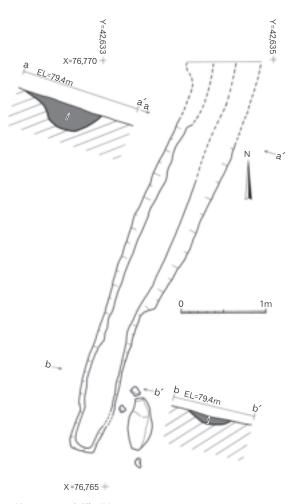
[位 置] Ⅲ区 c (R-22 · Q-22)

〔検出面〕Ⅳ層(地山)

〔遺構構成〕土坑1基

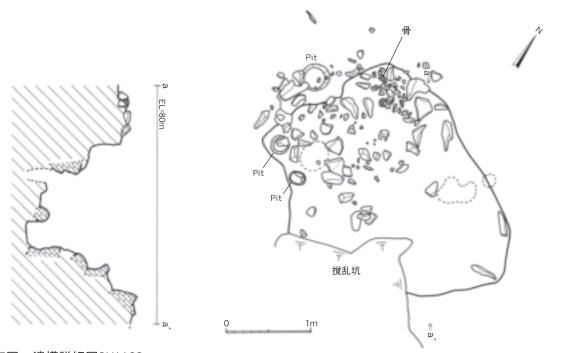
**[規 模]** 長軸320m、短軸210cm、深さ不明(1 m 以上)

[所 見] SX1138単独で構成される用途不明の落ち込みで自然にできたフィッシャー内に礫が詰め込まれるように堆積する。一部攪乱によって切られるため遺構の平面的な規模は不明。覆土からの遺物はほとんどみられないが、僅かに上層より同安窯系青磁皿(51-2)が出土する。



第44図 遺構詳細図SD1137

**〔遺構内堆積層〕**土坑覆土は暗褐色で人頭大の礫を多量に含む。下層では覆土は固く締まらず、湿めったシルト質の土塊となって、礫が充填し間隙が多くなる。



第45図 遺構詳細図SX1138

[名 称]屋敷地3:SB05(要検討・掘立柱建物跡)

[位 置] Ⅲ区 a (P-23 · P-24 · Q-23 · Q-24)

**〔検 出 面〕**IV層(地山) **〔遺構構成〕**柱穴16基

[規 模] 4間×3間 長軸約580cm×短軸約430cm

[所 見] 遺構について、検出時及び完掘後に検討を重ねた。本遺構は現場で検出時には判然としなかった。しかし完掘後に検討した結果、Pit1062・1018・508・519・646・645・631・620・986・1069・749・727・733(14基)で構成される掘立柱建物跡を想定することができた。要検討の建物跡として報告する。中柱以外の柱穴は平均するとGLから34cmの掘込みで、深いものはPit1069の82cm、浅いものでもPit727の20cmを測った。柱痕が確認することができたのはPit450、508、519、620、645、749、1018(7基)の半分であるが、調査時に検出できなかった可能性も考えると柱痕を有しているのが一般的であると思量される。柱穴の直径は平均して35cm程度となる。一方、Pit900・482(2基)は中柱として想定した(但し、中柱で無い可能性もある)。中柱はPit733と646の線上に当たる箇所となる。柱穴の覆土は概して暗褐色で、炭が少量混ざると共に赤土が塊状に含まれている。また、Pit519・645・646・900・1018から少量ながら遺物が出土している。なお、図示していないがPit450の対称となる柱穴が検出できていない。これはSK520が隣接しているために見逃した可能性も否定できないと考えるが、現場での調査時には確認することができず資料整理中に気が付いた点である。

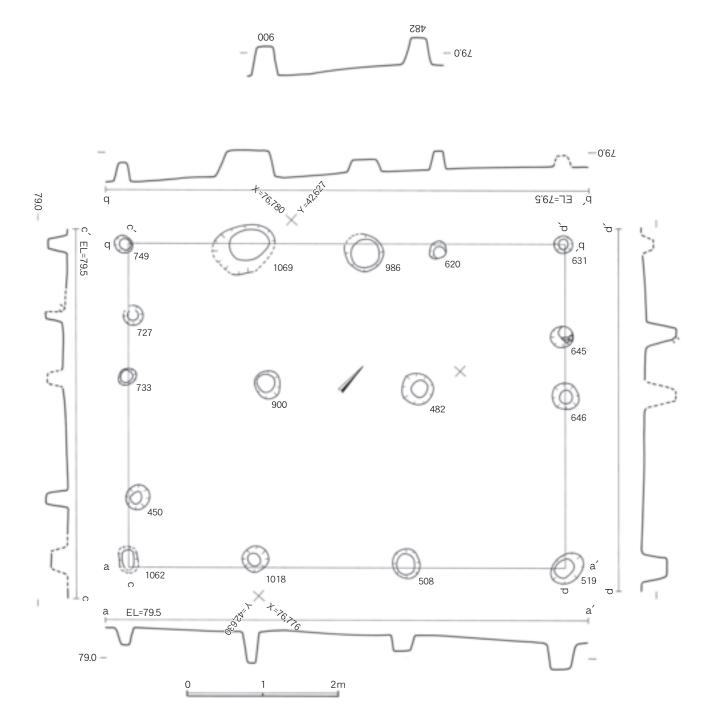
本調査区では多くの柱穴を確認している。それにも関わらず検出時にはほとんどの建物跡を現場で組むことが出来なかった。一方、完掘後に建物跡を数棟組むことができた本遺構も遺構精査時に採録した記録類と合わせて検討を行った結果、唯一建物跡として復元できる可能性のあるものである。今回はこれを要検討として断りながらも報告することをご了承願いたい。今後検討によっては遺構として認定できない可能性も考慮する。

#### 〔遺構所見詳細〕

柱穴は検出時と完掘時に所見をまとめ作成したものである。下表のとおり報告する。

					柳子	計測値					
Pit	Pit グリッド	埋土の観察	柱痕	遺物	楔石 (礫)	長軸 (cm)	短軸 (cm)	GL(EL)	底面(EL)	深さ(cm)	備考
450	Q-23	暗褐色。オレンジ土・炭・赤土が微量混ざる。	有り	なし	なし	48	36	79.39	79.09	30	
508	Q-24	暗褐色。柱痕は褐色土・炭・赤土が微量混ざる。埋土は褐 色土が多く混ざる。	有り	なし	なし	40	34	79.29	79.09	20	
519	Q-24	暗褐色土。褐色土多く混ざる。赤土・炭が微量混ざる。	有り	有り	なし	47	36	79.19	78.86	33	
620	P-23	暗褐色土。褐色ブロック・赤土・炭が微量混ざる。	有り	なし	なし	28	26	79.22	78.97	25	
631	P-23	暗褐色土。褐色土少量、赤土・炭微量混ざる。								0	詳細不明
645	P-24	暗褐色土。褐色土・赤土・炭微量混ざる。	有り	有り	有り	30	28	79.12	78.74	38	
646	P-24	暗褐色土。褐色土少量、赤土・炭微量混ざる。		有り						0	詳細不明
727	Q-23	暗褐色土。褐色土少量、赤土・炭微量混ざる。	?	なし	なし	37	27	79.32	79.09	23	
733	Q-23									0	所見なし
749	Q-23	暗褐色土。褐色土・赤土・炭微量混ざる。	有り	なし	なし	23	16	79.38	79.13	25	
986	P-23	暗褐色土。褐色土少量、赤土・炭微量混ざる。	なし	なし	なし	50	40	79.25	78.95	30	
1018	Q-23	暗褐色土。埋土は褐色土多量、赤土・炭微量混ざる。	有り	有り	なし	40	36	79.34	78.93	41	
1062	Q-23	暗褐色土。褐色土少量、赤土・炭微量混ざる。	?	なし	なし	40	30	79.39	79.17	22	
1069	Q-23	暗褐色土。褐色土少量、赤土・炭微量混ざる。	なし	なし	なし	38	32	79.32	78.98	34	
482	Q-23	暗褐色土。オレンジ土・炭・赤土微量混ざる。	なし	なし	なし	40	37	79.16	78.8	36	中柱
900	Q-23			有り						0	中柱

第9表 SB05柱穴観察表



第46図 遺構詳細図SB05

# 3. 人工遺物

#### (1) 陶磁器

屋敷地3 (6・8次調査分)で出土した陶磁器は1,489点(推定個体数)を数える。

#### ① 土器

47-1 は土器の口縁部で、直口する鉢形土器で外面はナデ調整も粗放で凹凸があり、内面は箆削り様の横方向の調整が残る。47-2 は口縁部の小片で器表面がアバタ状となっている。47-3 は土器の底部資料で底径は5.2cmと小型で底部の立ち上がり部は丸みを持つ。47-4 は底部資料で器表面がアバタ状となる資料である。47-5 は粘板岩を入れる今帰仁村内のグスク時代遺跡では最も一般的なグスク土器である。底面には葉脈痕と目される圧痕が残るが小片の為判然としない。

## ②カムィヤキ

47-6 はカムィヤキ須恵器壺の頸部と推定される。47-7 は底部資料で新里分類 B 群に該当する (第V章第2節参照)。

# ③青磁

48-1~4は劃花文碗である。1~3は口 縁部の破片資料で直口する器形の外面は無文、 内面には片切彫りによって文様を施す。 4は 底部資料で見込みには片切彫りによって花文 を描く。48-5・6 は鎬蓮弁文碗で、5 は淡緑 色の有を施釉、鎬のある幅広の蓮弁を間蓮弁 をもって丁寧に描かれる。6は緑黄色の釉を 厚く施釉する蓮弁文を描く底部資料で、見込 みが凹み、畳付けは幅が狭く整形される。 48-7~9は無鎬蓮弁文碗。7は間弁を持つ て箆彫りの蓮弁文が外面に描かれ、内面には 不明の文様が彫られている(無鎬 I a)。8は 口縁部上部に一条圏線を持つ蓮弁文碗で(無 鎬 I b)、9は口縁帯に波頭文を描く資料で 内面には雷文帯を配する (無鎬 I c)。48-10 ~15・49-1~5は細蓮弁文碗で器高に比して 口径は狭く、蓮弁の描き方に精粗が認められ る。49-1・2は蓮弁の頂部を略しているもの で粗造である(細蓮弁 c)。49-6~11は雷文 帯碗で口縁部外面に雷文を持つ資料である。 6~8は箆彫りの雷文を外面に描く資料で

第10表 屋敷地 3 出土遺物一覧表

歩!!	110	全放地3四	<u> </u>	_	
種	<b>重別</b>	分類	器種・分類	個体数	百分率
		土器	鍋・鉢・壺・等	4	0.27%
	在地	カムィヤキ	壺・鉢・甕・等	1	0.07%
	江地				
		瓦質土器	蓋・不明	3	0.20%
			碗	850	57.09%
		İ	Ш	160	10.75%
			盤	66	4.43%
			杯	9	0.60%
		青磁	香炉	,	0.0070
		FI 1022			0.0007
			瓶	3	0.20%
			器台		
			酒会壺(身・蓋)	6	0.40%
			置物		
			碗	30	2.01%
			1	65	4.37%
		白磁	杯	6	0.40%
			燈明皿	4	0.27%
			壺	1	0.07%
			瓶	6	0.40%
			元様式	3	0.20%
			碗	139	9.34%
			Ш.	38	2.55%
			大皿		
		<b>事</b> #:	杯・小杯	5	0.34%
		青花	壺		
		İ	瓶	4	0.27%
	中国		鉢	'	0.2170
	十四	İ			I
			水注	.	0.0-0.
			合子 (身・蓋)	1	0.07%
		# 4 7%	瓶		
陶		青白磁	合子		ı
磁		天目	碗	2	0.13%
器					
		白濁釉陶器	壺	2	0.13%
			茶入れ	1	0.07%
			急須(身・蓋)	1	0.07%
			小型壺	15	1.01%
			大型壺	20	1.34%
		褐釉陶器		20	1.0-1/0
			長胴壺		
			擂鉢		
			深鉢	1	0.07%
			花鉢	2	0.13%
		五彩	碗	2	0.13%
		11.45			
		瑠璃釉	碗	2	0.13%
		emeleatin	瓶	3	0.20%
			Ш	1	0.07%
		翡翠釉	壺	1	0.07%
		244 TF 1144	瓶	2	0.13%
		4⊐ 46L			
		緑釉	不明	2	0.13%
		三彩	水注		
		_L, 9,9	蓋	1	0.07%
		土器	壺	1	0.07%
		鉄絵	合子	0	
	タイ	多人小公	大型壺	17	1.14%
	91				
		褐釉陶器	中型壺	2	0.13%
		140/1141/1911	小型壺		
		<u> </u>	瓶	1	0.07%
	ベト	白磁	碗	4	0.27%
	ナム	青花	瓶・その他	<u> </u>	0.2170
	ナロ			0	0.120/
	高麗	青磁	碗	2	0.13%
	備前	焼締め	擂鉢		
	肥前	染付	碗		
陶	磁器		総計	1,489	
			勾玉		
E	<b>E類</b>		三・小玉	22	
		사그	ホ (早平) 7 小下		
	N.4		浅(有文)	6	
錐	<b>线</b> 貨		<b>無文銭</b>	2	
		寛	永通寶		
			釘	21	
			刀子		ı
		鉄製品	鏃	2	- 1
金属製品		2/3×111			- 1
		İ	鋏	,,	
			その他・不明	14	
		鉄製品	推定・近現代	11	1
			座金・飾り金物等	2	
		l	鋲等	1	- 1
		銅製品	等。 注解口	1	- 1
		İ	簪・装飾品	.	- 1
		ļ	その他・不明	1	
			砥石	4	
石	製品		硯	1	
			錘	1	
В	製品	カカラギ	<u>異</u> イ製漁網錘?	5	
只	交印				
骨	製品		うへう	1	
н	-~	歯	ブラシ		
					_

(雷文 a)、9・10は押印によって雷文帯を配する(雷文 b)。いずれも内面にも文様を描いている。11は底部資料であるが、口縁部に雷文帯を描き、外体部には箆彫りによる花文もしくはラマ式蓮弁文等を描いた物と推定されるた資料である。49・12は唐草刻文碗で四方襷文を内面に外面口縁帯には蔓唐草文と思われる文様を、その下にも文様が認められるがモチーフは不明である。49・13は波状文碗で口縁部を直口させる小碗である。50・1 は外面無文、内面型造りによる文様を描く型造り碗である。50・2~6 は無文外反碗である。5 は B 窯系の碗である。50・7 は無文直口碗で釉の発色は褐色となり焼成不良の製品である。50・8~10は底部資料で文様が無いため判然としないが無文外反碗の底部資料と推測される。8 は蛇の目状の釉剥ぎとなる以外は9・10とも高台内は露胎となり畳付け脇までの施釉となる。なお、9 は B 窯系の無文外反碗の底部資料である。50・11は青緑釉碗とした資料で、いわゆる泉州窯系として報告される資料である。

 $51-1 \sim 4$  は櫛描文皿で見込みには櫛によるジグザグ文が描かれている。 $51-5 \sim 7$  は外面に 蓮弁文を描く口折皿でいずれも口折れは丸みをもち蓮弁は間をとって描かれる主郭分類皿 II 類に属する(口折 c)。5 は見込みに双魚文が押印される資料で口縁を1/3 欠くが全形を伺える資料である。 $51-8 \sim 11$  は腰折皿で $8 \sim 10$  のいずれも稜花皿とするタイプ(腰折 d)。51-12 は蓮弁を描く直口皿で外面は上下に区画した下部に二条の蓮弁が描かれ、内面にも同様の文様が描かれる(蓮弁直口 a)。 $52-1 \cdot 2$  は無文の直口皿で比較的口径の小さい資料である。52-3 は無文外反皿で口径は広くなる。 $52-4 \sim 9$  は青磁皿の底部資料で、特徴から 4 は無文外反皿、5 は腰折皿の底部資料と推定されるが、 $6 \sim 9$  はいずれか判然としない。

#### (4)白磁

54-1 は玉縁碗口縁部の小破片で今回報告対象の資料では唯一得られた。今帰仁城跡及び周辺遺跡では既報告資料としては初出となる。54-2・3 は今帰仁タイプ碗で、2 は外開きで口径の広くなる口縁部資料。3 は見込みを蛇の目状に釉剥ぎする資料で素地や釉調などから本分類とした。54-4 はビロースクタイプ碗 II の口縁部資料。54-5・6 は無文外反碗で口縁部資料。54-7 は釉調から白磁資料でもビロースクタイプに近いと考えられる。文様を施す資料は希で器形文様だけを見れば青磁の波状文碗とも近いため暫定的に本項で報告する。54-8 は底部資料で釉調からビロースクタイプもしくは無文外反碗に相当すると考えられる。見込みが凹む特徴からはビロースクタイプかと推定する。54-9~11は無文直口碗。9・10は口縁部資料で薄い釉を施釉し、11は底部資料で見込みは露胎となる。

54-12は口唇部を釉剥ぎし口禿とする口縁部資料で、器種は碗か皿か判別できないが、皿として報告する。54-13~17・22・23は素地釉調などからいわゆる森田分類のD群に属する資料である。13~16は直口皿で概略ではあるが二種に分けられる。一つは口径が広く比較的釉を厚く施釉する13と、14~16に見るように口径は小さく高台に抉りを入れ重ね焼きのための目痕が残る資料である。両者の違いは年代の先後関係と考えられる。17は直口か外反させる杯の底部。54-18~21は外反皿で森田分類E群に該当する。高台脇の立ち上がりが段を持つか、段を持たな

いかによって外反皿 a  $(18\sim20)$  と外反皿 b (21) に分けられる。 $54-22\cdot23$ は燈明皿で見込みは釉を掛けるが外面は露胎となる。 $22\cdot23$ は素地・釉調から同一個体と想定する。54-24は瓶の胴部資料で花文が線彫りされる。

## ⑤青花

55-1~4はコバルトの発色が良くいわゆる元様式青花である。1は屈曲する口縁資料で、いわゆる驢蹄口の壺と推定される。外面には亀甲繋文を描く。2は盤の腰部破片資料で外面にはラマ式蓮弁文、内面には唐草文が描かれる。3は盤の見込みの資料で文様から藻図の藻草部分と考えられる。よく知られている蓮池魚藻図の破片資料をイメージする。4は碗もしくは鉢の胴部破片資料で内外面に唐草文が描かれる。

55-5 は外反碗 a 類とした元代の様式を踏襲する底部資料。見込みには宝相華唐草、外面腰部にはラマ式蓮弁を配す(主郭分類碗 I)。55-6~8 は主郭分類碗 II 類に該当する資料と考えられ、6 は外反口縁で宝相花唐草を描く(外反碗 b)。7・8 は底部資料で8 については破片で判然としないが主郭分類碗 V類の可能性もある。55-9~13は主郭分類碗 II 類に相当する。12・13の底部は蓮子形となり、9 は外面に波濤文、その下に蕉葉文(直口碗 a)、10は波濤文のみ(直口碗 b)、11は花唐草を描いているが、花のモチーフは不明である。55-14は口縁部を屈曲させる特徴的な資料である(主郭分類碗IV類)。56-1・2 は底部資料で腰部を屈曲させる(主郭分類碗 V類)。56-3 は見込みが僅かに饅頭状に盛り上がる。体部見込みの花文をダミ技法で描いている(直口碗 d)。56-4 は外面を瑠璃釉で施釉し、内面は白地に染付口縁下に二条の界線を施す。56-5 は外反皿 b で外面に唐草文、見込みに玉取り獅子を描く(皿 I 類)。56-6~8 は碁笥底の底部となる器種で(皿 I 類)、6 は蕉葉文を腰部に描く(碁笥底 a)。7 は見込みに花文を描き (碁笥底 b)、8 は外面に崩れた唐草文を描いている(碁笥底 c)。

56-9・10は高足杯でそれぞれ別個体と考えられる。9は花文を外面に描く。56-11は胴部中央が僅かにミミズ腫れ状に膨らみ圏線を描いて区画、上部と下部にそれぞれ文様を描いている。56-12は玉壺春瓶の頸部資料で蕉葉文を描く。56-13~16は青花瓶の破片資料で同一個体ではないかと判断される。13は頸部にあたり、区画界線を境に上方では染付、下方は陰刻によって花唐草を描く、14は胴部資料で花文が陰刻されている。15は腰部と推定、破片上方に陰刻文、下方に染付が描かれている。16は底部資料で高台は付かない。

#### ⑥黒釉陶器

57-1・2はいわゆる天目茶碗である。1は底部を欠く高台脇・腰部資料である。茶褐色の釉を施釉する。2は黒釉陶器の底部資料と目される。摩滅が著しく水摩を受けたため角が減じたものと考えられる。57-3は褐色の釉を施釉する資料だが報告では黒釉陶器として報告する。糸切り底の底部で、小さな底径の底部から膨らむように立ち上がる。

### ⑦褐釉陶器

57-4~17は褐釉陶器である。4・5は白濁釉の小壺で釉は褐色ではなく灰白色となる。4は口唇部上端を削り露胎させ口縁部を肥厚させる(白濁釉小型壺 a)。5は口縁が肥厚しないタイプ(白濁釉小型壺 b)。57-6は褐釉陶器の小型の壺で頸部に段をつくる。57-7は大小の違いはあるものの57-4と同様口唇部上端を削り露胎とする肥厚口縁の小型壺である。57-8は口縁部上面がやや凹み肩に張りのある褐釉小型壺である。57-9は逆L字状に口縁部を屈曲させる褐釉深鉢で口縁下に二条の沈線を施す(深鉢 b)。57-10~13は口縁部を方形に肥厚させる大型壺で(壺 d)、57-15は同種の底部資料と考えられる。57-14は褐釉壺の底部資料で中・小型壺になると考えられる。57-16は褐釉陶器水注もしくは急須など注口部と考えられる。57-17は褐釉陶器の蓋で急須に伴うものと考えられる。58-1は褐釉陶器の小片で器種だけでなく産地も含めて判然としない。口縁部資料として復元しているが、底部資料である可能性もある。58-2は褐

釉陶器の擂り鉢で、10本を単位とした櫛目が器内面に施されている。58-3 は褐釉花鉢とした資料で、赤褐色素地に褐釉が掛かる。逆L字状の口縁部端部を波状に成形している。

58-4は焼締め陶器の擂り鉢底部資料である。8本を単位とした櫛目が底中央に向かって施される。

## ⑧色絵(五彩)

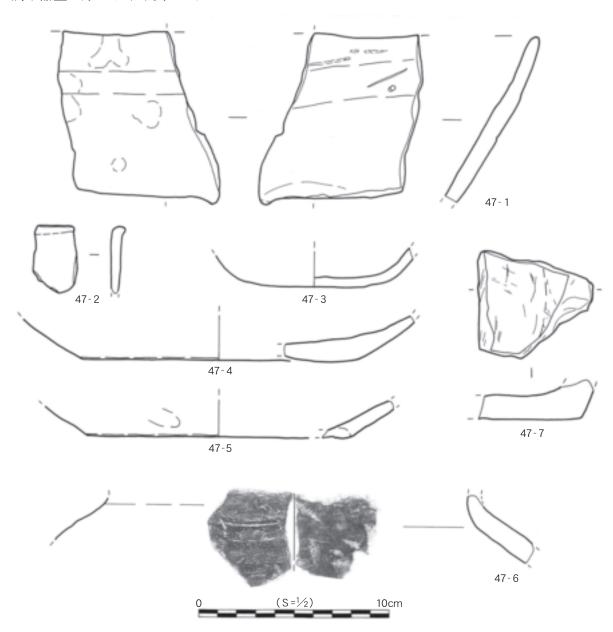
58-5 は色絵碗もしくは皿の口縁部小片の資料である。外面の施文は色彩も含めて退色剥落が著しく判然としない。

## ⑨瑠璃釉

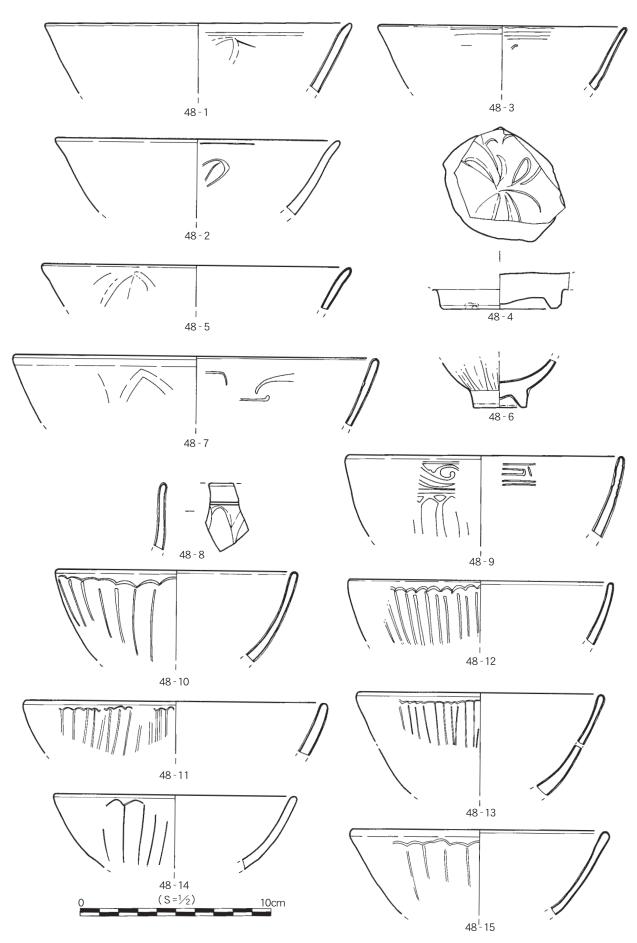
58-6 は瑠璃釉磁器の瓶口縁部である。

## 10翡翠釉

58-7・8 は翡翠釉陶器の瓶でいずれも頸部資料である。同一個体である可能性もあるが、色調や器壁の厚みがやや異なる。

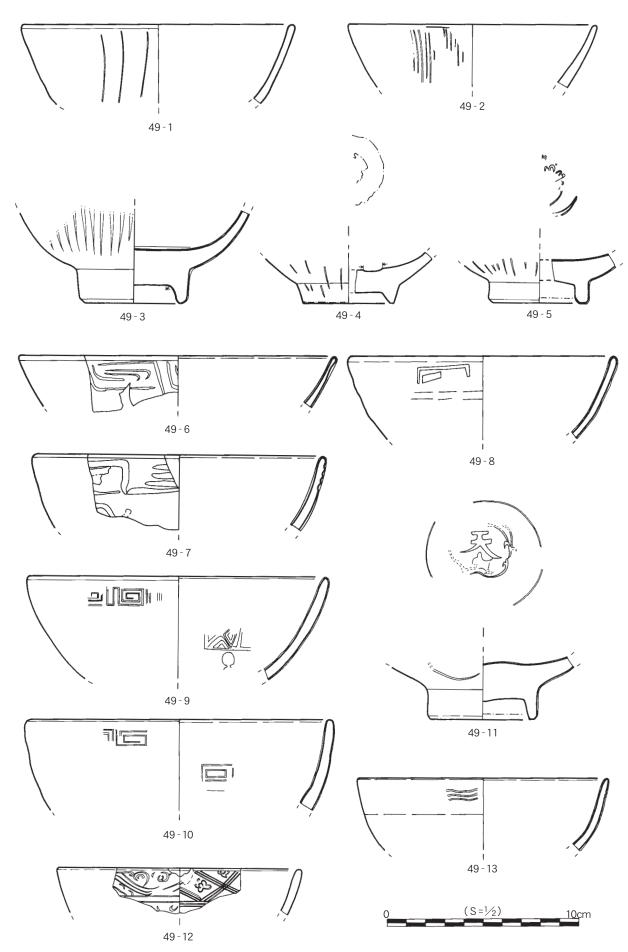


第47図 屋敷地3出土遺物(1) 1~7:土器 6・7:カムィヤキ



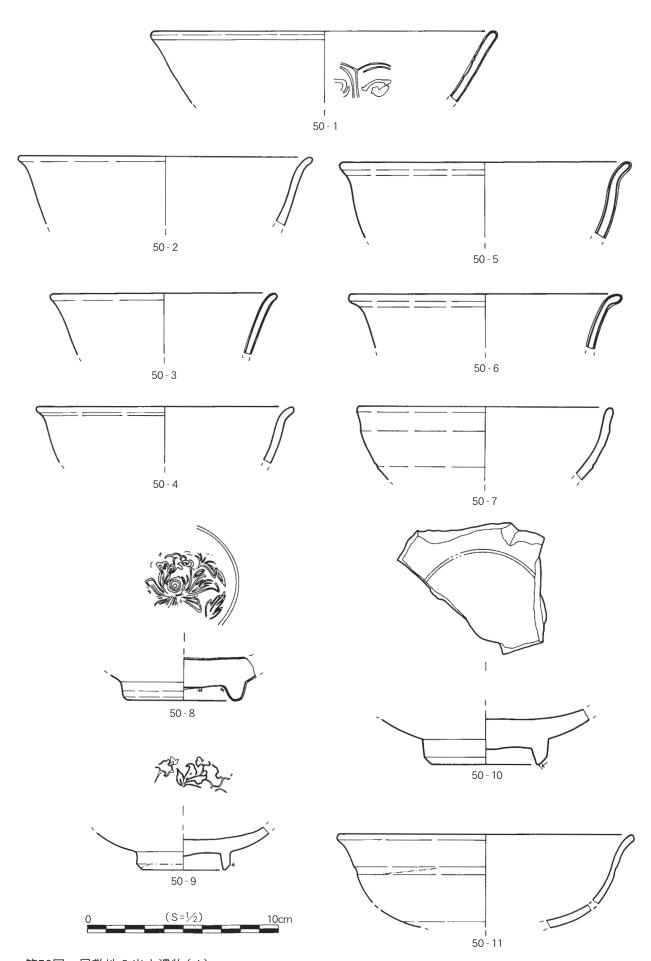
第48図 屋敷地3出土遺物(2)

青磁碗  $1\sim4$ : 劃花文  $5\cdot6$ : 鎬蓮弁文  $7\sim9$ : 直口の無鎬蓮弁文  $10\sim15$ : 細蓮弁文



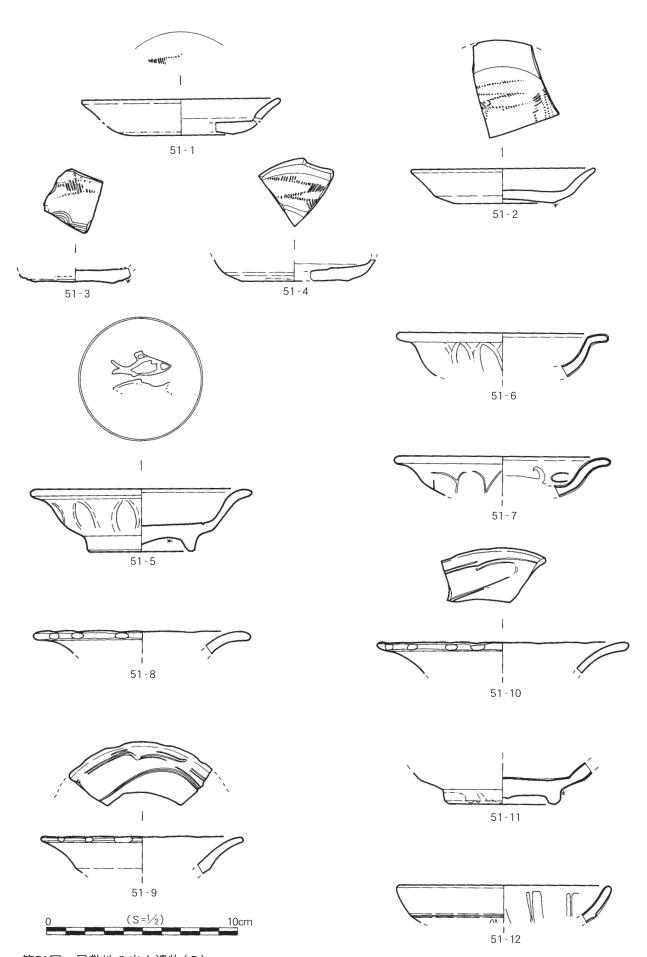
第49図 屋敷地3出土遺物(3)

青磁碗 1~5:細蓮弁文 6~11:雷文带



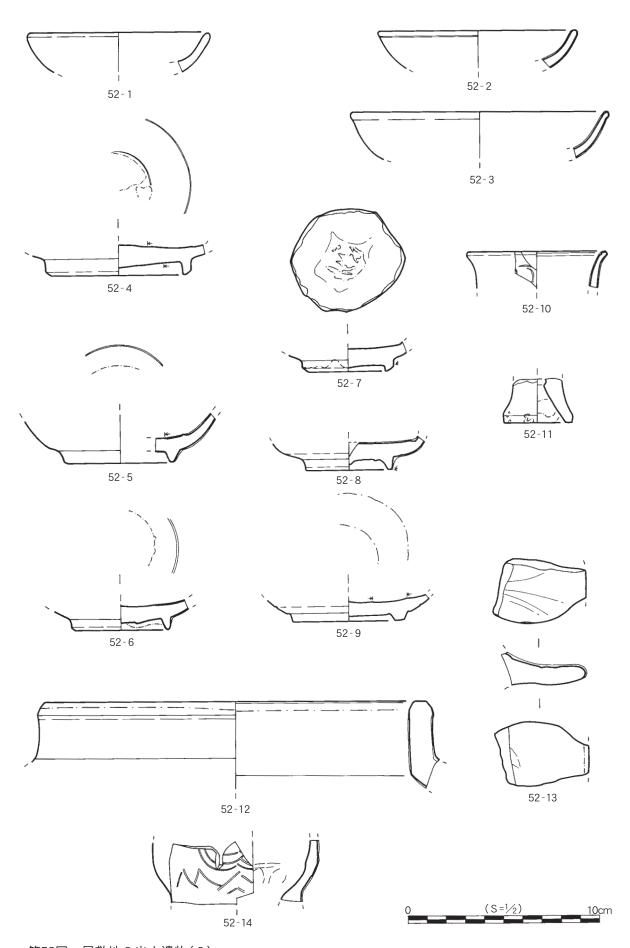
第50図 屋敷地 3 出土遺物(4)

青磁無文碗 1: 人形手  $2\sim6$ : 無文外反 7: 直口  $8\sim10$ : 底部 11: 泉州窯系



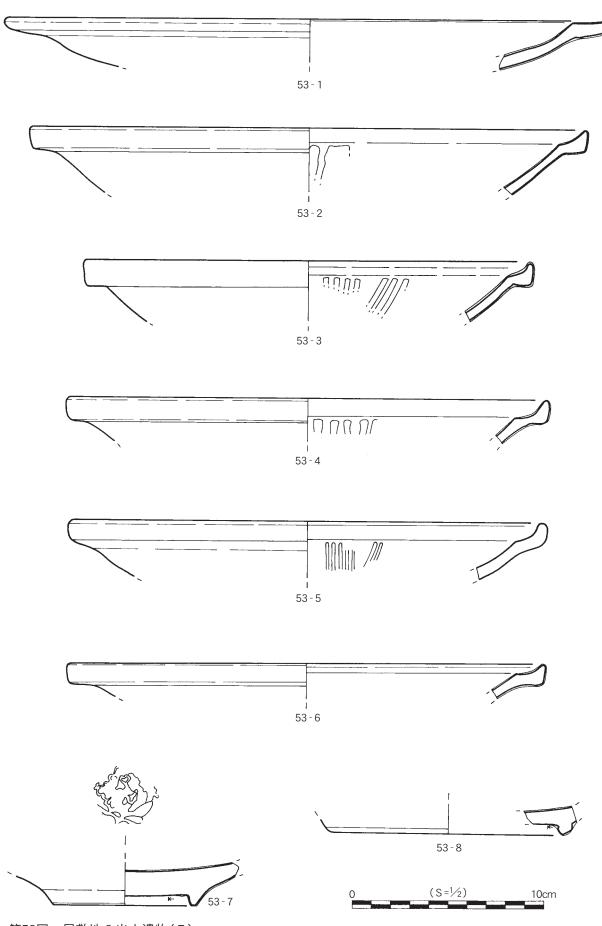
第51図 屋敷地3出土遺物(5)

青磁皿  $1 \sim 4$ :櫛描文  $5 \sim 7$ :口折皿  $8 \sim 11$ :腰折皿 12:直口皿



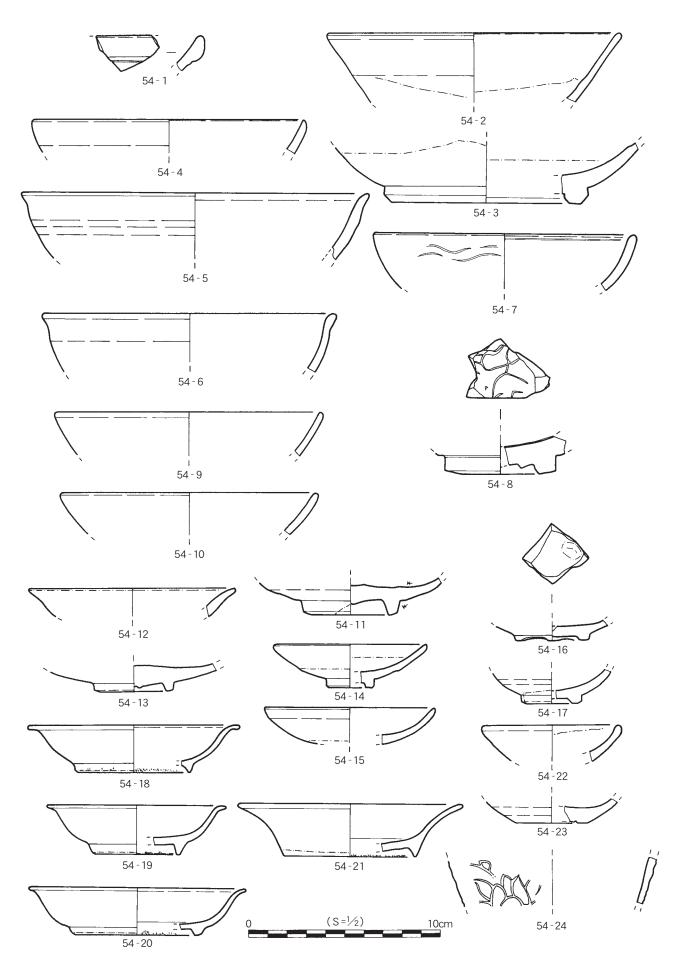
第52図 屋敷地3出土遺物(6)

 $1 \sim 9$ : 青磁皿  $10 \cdot 11$ : 高足杯  $12 \cdot 13$ : 酒会壺 14: 青磁不明



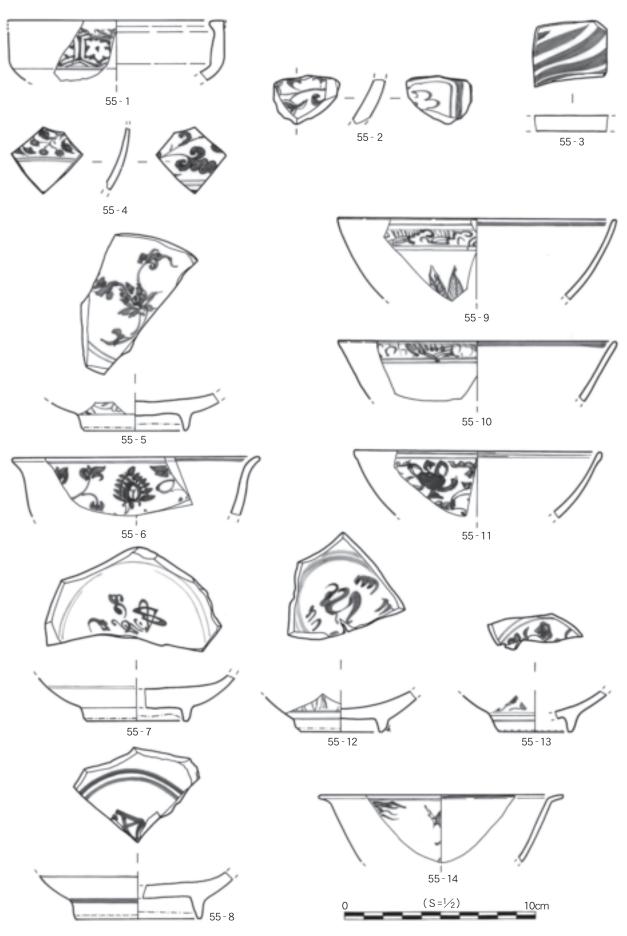
第53図 屋敷地3出土遺物(7)

青磁盤



第54図 屋敷地3出土遺物(8)

白磁碗 1:玉緑碗 2・3:今帰仁タイプ 4・7・8:ビロースクタイプ 5・6:外反 9~11:直口 白磁皿 12:口禿 13~17:直口皿 18~21:外反 22・23:橙明皿 24:白磁瓶

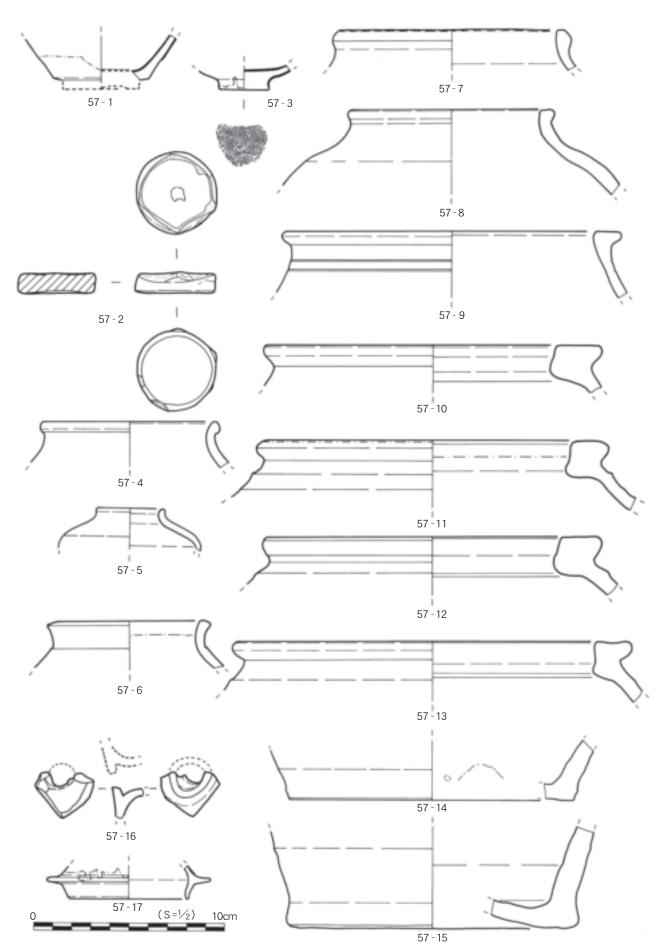


第55図 屋敷地3出土遺物(9) 1~5:元(様)青花 6~14:明青花碗



第56図 屋敷地 3 出土遺物(10)

青花 1~4:碗 5~8:皿 9·10:高足杯 11:杯 12~16:瓶



第57図 屋敷地 3 出土遺物(11)

 $1 \sim 3$  : 黒釉(天目)  $4 \cdot 5$  : 白濁釉小型壺  $6 \sim 8$  : 褐釉小型壺 9 : 褐釉小型深鉢  $10 \sim 15$  : 褐釉大型壺

## ① 緑釉

58-9 は緑釉陶器の壺等の底部資料と考えられる。底部は正円にならなず歪むがこれは成形が型作りによるものであるためと考えられる。

## 12瓦質土器

58-10は産地不明の瓦質の土器で、首里城京の内では蓋として報告(金城1998)された資料である。表裏は判然としないが器表面が削られている面(上図)とナデ調整等器表面を平滑にせずそのままとする面(下図)がある。

### ③高麗陶磁

 $59-1\cdot 2$  は象眼青磁でいわゆる高麗青磁に属する資料である。小片が 2 点得られている。 1 は白土を象嵌し区画線文を施す。 2 は碗と目され内面には草花文が白土と黒土で装飾されている。

## (4)タイ陶磁

59-3~5は褐釉長胴壺で、4は口縁部を外反させ上端面に凹線が一条ある(壺 c)。5は底部資料である。59-7は大型壺の底部資料である。厚い釉が腰部から底部付近まで垂れてきている。59-8・9は、いわゆる半練と呼称される。59-8は文様(タタキの痕)が連続的に並ぶ。今帰仁城跡の主郭志慶真門郭の調査を含めて初例となる資料である。59-9は蓋で外縁上面は二本の沈線が施される。

## 15ベトナム陶磁

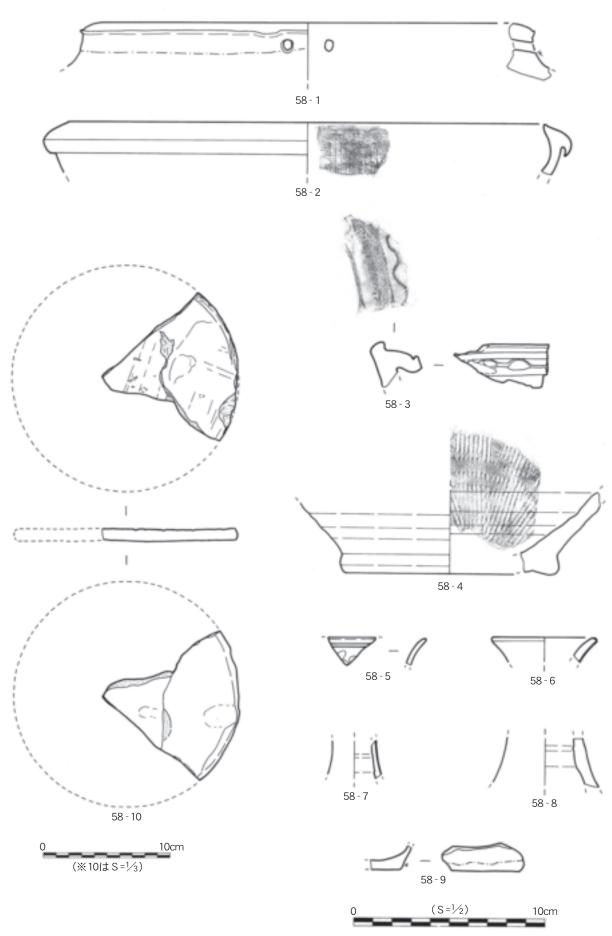
59-10は白磁で、白化粧後透明釉を施釉、高台内は浅く削り、口唇部を釉剥ぎし露胎とする小碗である。

## (2) 玉

 $60-1 \sim 22$ はガラス製の小玉で、大きさに大小認められる。それは主郭で b 2 種とした $20\text{mm} \sim 5\text{mm}$ の丸玉  $(1 \sim 5)$  と、 c 種とした 5mm以下の丸玉資料  $(6 \sim 22)$  に大別できる。色は青、緑、白濁色、透明がある。

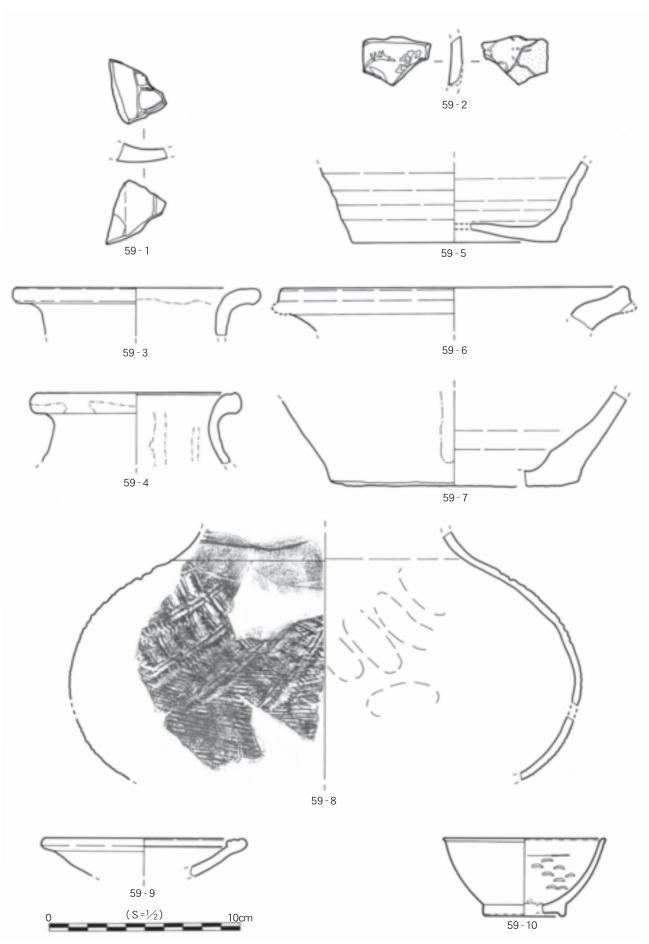
## (3) 遊具

いわゆる円盤状製品として報告できる資料として、57-2 がある。これは黒釉陶器の項目でも 説明した資料で、水摩を受けているとみられる。製品とするかには更に検討を要する。



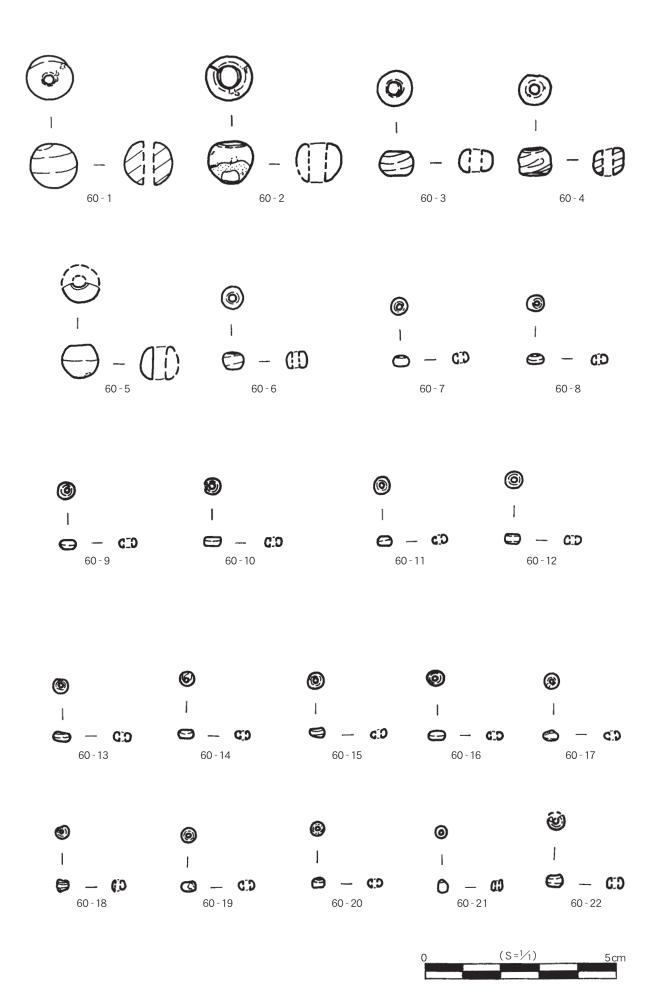
第58図 屋敷地 3 出土遺物(12)

 $1 \sim 3$  : 褐釉陶器鉢 4 : 褐釉陶器擂鉢 5 : 五彩碗 6 : 瑠璃釉瓶  $7 \cdot 8$  : 翡翠釉瓶 9 : 緑釉陶器 10 : 瓦質土器



第59図 屋敷地 3 出土遺物(13)

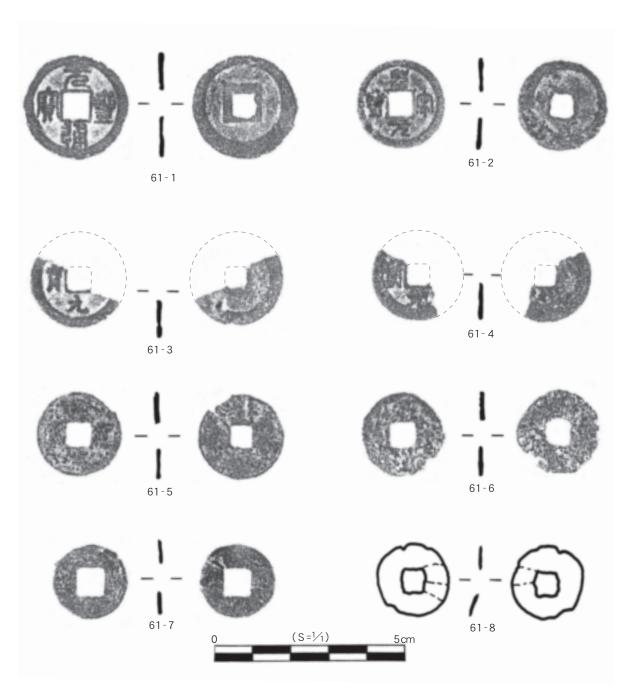
1・2:象嵌青磁(韓国) 3~7:褐釉陶器(タイ) 8・9:土器(タイ) 10:白磁碗(ベトナム)



第60図 屋敷地 3 出土遺物 (14) 玉

## (4) 銭貨

61-1 は元豊通寶の折二銭 (北宋、1078年)、61-2 は聖宋元寶 (北宋、1011年)、61-3・4 は □□元寶もしくは□元□寶の銘を持つ銭貨である。61-5・6 は銘が腐食が著しく銘の判断できない銭貨である。61-7・8 は無文銭で銭厚は薄く、無文となる。



第61図 屋敷地 3 出土遺物(15)

銭貨 1:元豊通寶 2:聖宋元寶 3~6:銭種不明 7・8:無文銭

## (5) 金属製品

62-1~12は鉄釘でいずれも皆折釘と推定される。釘の長さや太さに大小が認められる。ただし6~12は棒状の製品で、釘と推測したが頭部を欠損するため釘であるか判然としない。62-13は鉄鏃で刃部はバチ形に広がる形状となる。62-14~16は不明の鉄製品でいずれも板状の製品であるが腐食が著しく形状は判然としない。15などは彎曲した板の形状などから鉄鍋等の製品を連想させるが、詳細な検討が必要である。

62-17は四角形の鋲頭で、角部を面取して成形する。62-18・19は一括で出土した資料で、その出土状況は18の金具の輪の中に19が入り込むように出土している。18は責具のような資料を、19は飾り金具のような資料を推定する。製品としてはいずれも塗金されているもので同一製品に付いていた飾り金物であると考えられる。20は環状の製品であるが用途は不明。

## (6)石器

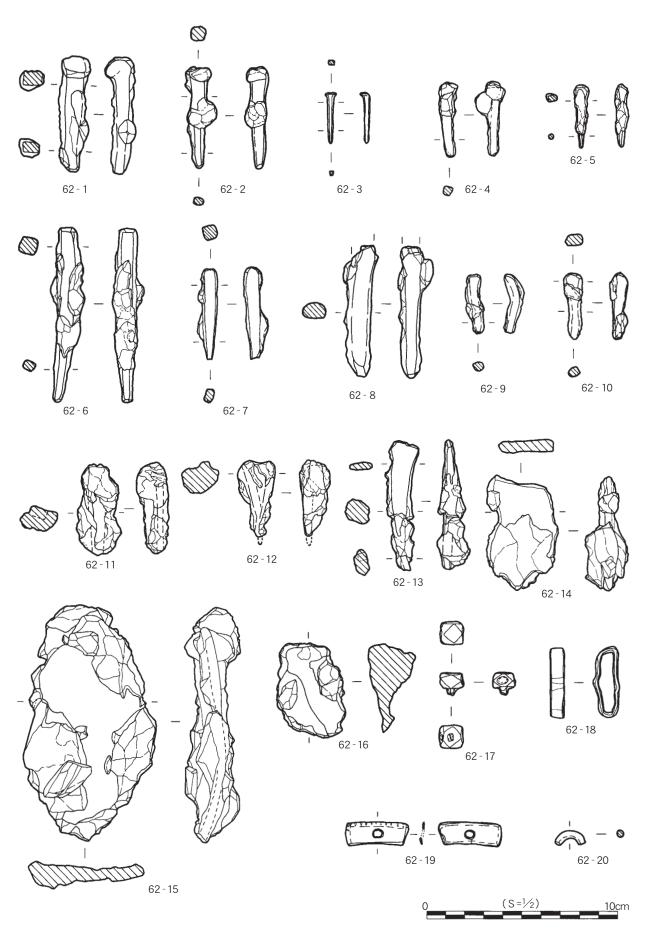
63-1 は石器で四面を作業面とした粘板岩製の砥石である。63-2 は自然石に近いが作業面を上面に持つ資料で火山灰を起源とすると考えられる緑色岩である。63-3 は安山岩製の錘で彫られた溝に糸を結んで使用したと考えられる。63-4 は粘板岩製の硯で陸(岡)部分を残す破損資料である。使用のため減じたためか海側が薄くなっている。その薄くなった部分が円形に穿たれているようで、使途は不明であるが二次製品として使われたと考えられる。

## (7) 貝製品

63-5~9はタカラガイの殻頂部の割れた表品で、漁網錘の可能性がある製品として紹介する。 いずれもハナマルユキを材料とする。製品か自然遺物の殻頂部を欠損した遺物かは不明である。

#### (8) 骨製品

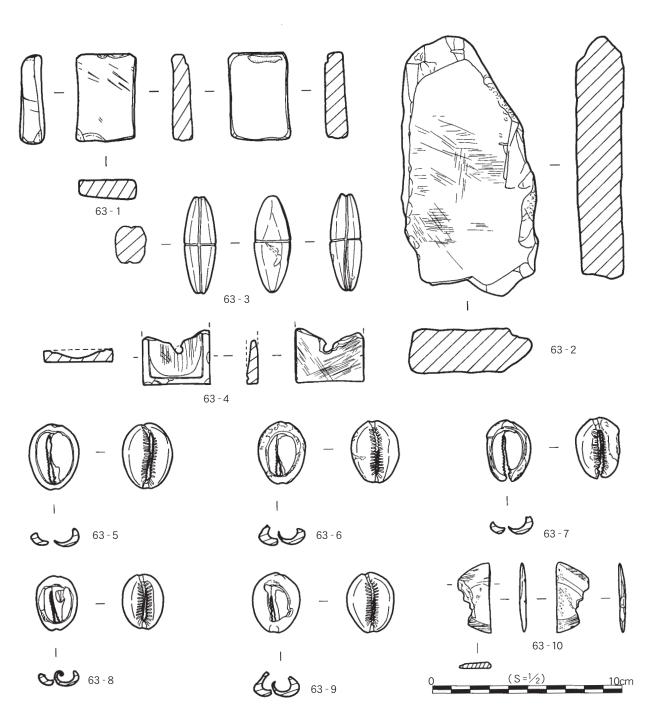
63-10は骨製のヘラ状製品である。正面観は半月状になるもので、弧状の部分を研磨して付刃する。刃部の一部が欠損している。



第62図 屋敷地 3 出土遺物(16)

鉄製品 1~5:釘 6~12:釘? 13:鏃 14~16:不明

銅製品 17: 鋲 18~19: 不明金具 20: 環状製品



第63図 屋敷地 3 出土遺物(17)

1・2:砥石 3:錘 4:硯 5~9:タカラガイ製魚網錘 10:骨製ヘラ

## 4. 自然遺物

自然遺物については貝類を黒住耐二氏(千葉県立博物館)、脊椎動物遺骸を名島弥生(慶應義 塾大学博士課程)に依頼し個体数を同定いただいた。植物遺体については本村で実施したため 暫定的な結果とする。植物遺体の観察に大きな誤謬があれば宮城の責である。

## (1) 植物遺体

植物遺体については専門の鑑定をお願いしていない為詳細の検討は今後の課題とする。 採集した堆積土の一部をフローテーションした。実施したのはSK92、SK520の各遺構内覆土を サンプリングしてフローテーションを行った。採集した堆積土はそれぞれ前者が24、後者が20 リットルである。この中から、コメやムギの植物遺体を検出している。第11表に出土した植物 遺体を同定したものの一覧表を作成した。

## (2) 脊椎動物遺骸

脊椎動物遺骸については第12表に最大個体数 (NSIP) と最小個体数 (MNI) を示した。 所見の詳細については第VI章第4節を参照頂きたい。

## (3) 貝類遺体

貝類遺体は第13表に最小個体数 (MNI) を示した。所見の詳細については第Ⅵ章第5節を 参照頂きたい。

## 参考文献

金城亀信・ほか 1998年『首里城跡-京の内跡発掘調査報告書(I)-』沖縄県文化財調査報告書 第132集 沖縄県教育委員会

第11表 屋敷地 3 (サンプリング)の出土植物遺体 第12表 屋敷地 1 出土脊椎動物種組成

SK520	数 完形 (粒)	量 破片数 (片)	推算 最小個体	百分率 (n=71)
コメ	2	2	3	4.2%
コムギ	23	8	24	33.8%
オオムギ	4	1	5	7.0%
アワ	38		38	53.5%
キビ	1		1	1.4%
カヤツリグサ科?				0.0%
マメ科?				0.0%
不明	127			
総数	206		71	

	数	量	141-165	エハカ	
SK92	完形 (粒)	破片数 (片)	推算 最小個体	百分率 (n=299)	
コメ	8	3	11	3.7%	
コムギ	92	53	145	48.5%	
オオムギ	12	5	17	5.7%	
アワ	119		119	39.8%	
キビ	3		3	1.0%	
カヤツリグサ科?	2		2	0.7%	
マメ科?	0	2	2	0.7%	
不明	32	15			
総数	6.	14	299		

動物種	NSIP	NNI	百分率
サメ類			
ハタ科			
アジ科	1	1	6%
クロダイ属			
フエフキダイ科	2	1	6%
ベラ科	2	2	11%
ブダイ科	7	2	11%
ニザダイ科	1	1	6%
モンガラカワハギ科			
ハリセンボン科	4	2	11%
ウミガメ			
イノシシ/ブタ	13	1	6%
ウシ	31	3	17%
ウマ	15	2	11%
ヤギ	3	1	6%
イルカ類	1	1	6%
ネズミ科			
その他	1	1	6%
計	81	8	
. W E LID: 1 LEE W.			

<sup>\*</sup>漁骨はPick up法採集資料に基づく。

第13表 屋敷地3の貝類遺体の詳細組成

	屋敷地1		
	遺跡の MN I	生息場所類型	
*コシダカサザエ	IVIIVI	I -2-a	
*チョウセンサザエ	31	I -3-a	
*ヤコウガイ	3	I -4-a	
*カンギク		II -1-b	
*オオウラウズ		I -2-a	
*ニシキウズ	1	I -2-a	
*ムラサキウズ	1	I -3-a	
*ベニシリダカ		I -4-a	
*サラサバテイラ	6	I -4-a	
*アマオブネ	1	I -1-b	
*マルアマオブネ		II -1-b	
*ニシキアマオブネ	-	I -1-c	
*カノコガイ	1	Ⅲ-1-e	
*オニノツノガイ	8	I -2-c	
*コオニノツノ *クワノミカニモリ		I -2-a I -1-b	
*オシマカニモリ *オシマカニモリ		II-1-b	
*ムカシタモト	1	I -2-b	
*オハグロガイ	1	II -2-c	
*マガキガイ	121	I -2-c	
*ネジマガキ	101	I -2-c	
<u>*</u> イボソデ	1	I -2-c	
*クモガイ	3	I -2-c	
*スイジガイ	1	I -2-c	
*キイロダカラ		I -1-a	
*ハナビラダカラ	2	I -1-a	
*ハナマルユキ	6	I -3-a	
*カモンダカラ		I -2-a	
*コモンダカラ		I -2-b	
*ナツメモドキ		I -2-b	
*スソムラサキダカラ		I -2-a	
*ウスムラサキダカラ		I -2-b	
*クチムラサキダカラ		I -2-a	
*ホシキヌタ	3	I -2-a	
ヒメホシダカラ		I -2-b	
*ヤクシマダカラ	6	I -2-a	
*ホシダカラ	1	I -2-c	
*タカラガイ類 *ミツカドボラ	6	I	
*サツマボラ		I -3-a I -3-a	
*シロシノマキ		I -2-a	
<u>*シオボラ</u>		I -2-a	
*ホラガイ	1	I -4-a	
*オキニシ	9	I -3-a	
*イワカワウネボラ	1	I -3-a	
*ガンゼキボラ		I -2-a	
*シラクモガイ	3	I -3-a	
*ツノレイシ	16	I -3-a	
*ツノテツレイシ		I -1-a	
*テツレイシ		I -1-a	
*レイシ類		I	
*ムラサキイガレイシ		I -3-a	
*アカイガレイシ	1	I -3-a	
*キイロイガレイシ	1	I -3-a	
*コオニコブシ	31	I -3-a	
*イトマキボラ	29	I -2-a	
*リュウキュウツノマタ		I -2-a	
*ツノマタモドキ	2	I -3-a	
*ベニマキ		I -2-a	
*キイロツノマタモドキ *ムラサキツノマタモドキ		I -2-b	
<u>*</u> ムフリナフノ Yダセトキ		I -2-a	

#チトセボラ 1 I-2-c *エシキノキバフデ I-2-a *マダライモ I-1-a *ササガタイモ 2 I-1-a *サナフィモ? *ジュズカケサヤガタイモ I-1-a *キスカツギイモ I-2-a *オボシマイモ I-1-a *オボシマイモ I-2-a *オボシマイモ I-2-a *オボシマイモ I-2-a *カナラモドキ I-2-c *ヤナギシボリイモ 3 I-3-a *ハイイロミナシ I-2-c *カリサミナシ I-2-c *カトミナシ I-2-c *オフィモ I-2-c *アカシマミナシ I-2-c *アカシマミナシ I-2-c *アカシマミナシ I-2-c *アンボンクロザメ I-2-c *アンボンクロザメ I I-2-c *アンボンクロザメ I I-2-c *アンボンクロザメ I I-2-c *アリカリアニナ IV-5/6 *カワニナ IV-5/6 *オガイ I-1-a *カロミノエガイ I-2-a *メンガイ類 I-2-a *レジャコ I I-2-c *オリハマグリ I-2-c *オリハマグリ I-2-c *オリハマグリ I-2-c *オリハマグリ I-2-c *オリスオイ I-2-c *オリハマグリ I-2-c *オリスカイ I-2-c *オリハマグリ I-2-c *オリスカイ I-2-c *オリハマグリ I-2-c *オリスカイ I-2-c *オリスカイ I-2-c *オリスカイカ I-2-c *オリュウキュウザル II-2-c *カワラガイ II-2-c *カワラガイ II-2-c *カワラガイ II-2-c *カフラガイ II-2-c *カフラオラ II-1-c *オリハマグリ II-1-c *オリハマグリ II-1-c *オリスジケマン II-1-c *オートー・ *アラスジケマン II-1-c *オートー・ *アラスジケマン II-1-c *アースジケマン II-1-c *アースジケマン II-1-c *アースジケマン II-1-c *アースジケマン II-1-c		 屋敷地1	
*チトセボラ 1 I-2-c *ニシキノキバフデ I-2-a *マダライモ I-1-a *ササガタイモ 2 I-1-a *ハナワイモ? I-1-a *ハナワイモ? I-1-a *・ハナワイモ? I-1-a *・ハナワイモ? I-1-a *・ハナワイモ? I-1-a *・ハナワイモ? I-1-a *・ハナワイモ? I-1-a *・ハナワイモ? I-1-a *・カッギイモ I-2-a *・イボシマイモ 2 I-2-a *・オージャイーにます。 I-2-a *・カーロミナシ II-2-c *・カルマミナシ II-2-c *・カルマミナシ II-2-c *・カルマミナシ II-2-c *・コモンイモ I-2-c *・コモンイモ I-2-c *・フ・ボングロザメ II-2-c *・アンボンクロザメ II-2-c *・アンボンクロザメ II-2-c *・カリカイー I-2-a *・トウガタカワニナ IV-5/6 *・カリコーナ IV-5/6 *・カリコーナ IV-5/6 *・カリコーナ II-2-a *・カリカイ II-2-a *・カリカイ II-2-a *・カリカガガ II-2-a *・カリカガガガ II-2-a *・カリカガガガガガガガガガガガガガガガガガガガガガガガガガガガガガガガガガガガ		遺跡の	生息場所類型
*マダライモ	*チトセボラ		I -2-c
*マダライモ			
*ハナワイモ? I-1-a **ジュズカケサヤガタイモ I-1-a **キヌカツギイモ I-2-a **イボシマイモ 2 I-2-a ササラモドキ I-2-c **ヤナギシボリイモ 3 I-3-a *ハイイロミナシ 1 I-3-a **カトミナシ II-2-c **カトミナシ II-2-c **コモンイモ I-2-c **コモンイモ I-2-c **コモンイモ I-2-c **アンボンクロザメ 1 I-2-c **アンボンクロザメ 1 I-2-c **アンボンクロザメ 1 I-2-c **アンボンクロザメ 1 I-2-c **ル型イモガイ 2 *中型イモガイ 17 **大型イモガイ 17 **大型イモガイ I-1-a *カロミノエガイ I-1-a *カロミノエガイ I-2-a **メンガイ類 I-2-a **シーナンザル II-2-c **カワラガイ II-2-c **カワラガイ II-2-c **カワラガイ II-2-c **カワラガイ II-2-c **シーナシボーコ II-2-c **シーナシャコ II-2-c **シーナシャコ II-2-c **シーナン II-2-c **シーナン II-2-c **シーナン II-2-c **シーナン II-2-c **シーナン II-2-c **シーナン II-2-c **シーナン II-2-c **シーナン II-2-c **シーナン II-2-c **シーナン II-2-c **シーナン II-2-c **シーナン II-2-c **フーナン II-2-c **フーナン II-1-c **アラスノメ II-1-c **アラスゾケマン III-1-c			
*ハナワイモ? I-1-a **ジュズカケサヤガタイモ I-1-a **キヌカツギイモ I-2-a **イボシマイモ 2 I-2-a ササラモドキ I-2-c **ヤナギシボリイモ 3 I-3-a *ハイイロミナシ 1 I-3-a **カトミナシ II-2-c **カトミナシ II-2-c **コモンイモ I-2-c **コモンイモ I-2-c **コモンイモ I-2-c **アンボンクロザメ 1 I-2-c **アンボンクロザメ 1 I-2-c **アンボンクロザメ 1 I-2-c **アンボンクロザメ 1 I-2-c **ル型イモガイ 2 *中型イモガイ 17 **大型イモガイ 17 **大型イモガイ I-1-a *カロミノエガイ I-1-a *カロミノエガイ I-2-a **メンガイ類 I-2-a **シーナンザル II-2-c **カワラガイ II-2-c **カワラガイ II-2-c **カワラガイ II-2-c **カワラガイ II-2-c **シーナシボーコ II-2-c **シーナシャコ II-2-c **シーナシャコ II-2-c **シーナン II-2-c **シーナン II-2-c **シーナン II-2-c **シーナン II-2-c **シーナン II-2-c **シーナン II-2-c **シーナン II-2-c **シーナン II-2-c **シーナン II-2-c **シーナン II-2-c **シーナン II-2-c **シーナン II-2-c **フーナン II-2-c **フーナン II-1-c **アラスノメ II-1-c **アラスゾケマン III-1-c	*サヤガタイモ	2	I -1-a
*キヌカツギイモ 1-2-a *イボシマイモ 2 I-2-a ササラモドキ I-2-c *ヤナギシボリイモ 3 I-3-a *ハイイロミナシ 1 I-3-a *サラサミナシ II-2-c *クロミナシ II-2-c *アカシマミナシ II-2-c *アカシマミナシ II-2-c *ブンボンクロザメ 1 I-2-c *アンボンクロザメ 1 I-2-c *アジロイモ II-2-c *ル型イモガイ 4 *トウガタカワニナ IV-5/6 *オガイ I-1-a *クロミノエガイ II-2-a *ベニエガイ II-2-a *メンガイ類 II-2-a *シロザル? II-2-a *シロザル? II-2-a *シロザル II-2-c *カワラガイ III-2-c *カワラガイ III-2-c *シラナミ 3 I-2-a *シーザル類 II-2-a *シーザル類 II-2-c *シラナミ 3 I-2-a *シーガイ類 II-2-c *シーガイ類 II-2-c *シャコガイ類 II-2-c *シャコガイ類 II-2-c *シャコガイ類 II-2-c *シャコガイ類 II-2-c *シャコガイ類 II-2-c *シャコガイ類 II-2-c *シャコガイ類 II-2-c *シャコガイ類 II-2-c *シャコガイ類 II-2-c *シャコガイ類 II-2-c *シャコガイ類 II-2-c *ブースオ II-1-c *ブースジケマン III-1-c			I -1-a
*イボシマイモ 1-2-a ササラモドキ I-2-c *ヤナギシボリイモ 3 I-3-a *ハイイロミナシ 1 I-3-a *サラサミナシ 1 I-2-c *クロミナシ II-2-c **フカンマミナシ II-2-c *アカシマミナシ II-2-c *アカシマミナシ II-2-c *アンボンクロザメ 1 I-2-c *アンボンクロザメ 17 *大型イモガイ 2 *中型イモガイ 2 *中型イモガイ 4 *トウガタカワニナ IV-5/6 *エガイ II-2-a *カロニノエガイ II-2-a *ベニエガイ II-2-a *メンガイ類 I-2-a *レジャコ 1 I-2-c *シーナショナ II-2-c *シーナラガイ II-2-c *シーナラガイ II-2-c *シーナラガイ II-2-c *シーナラガイ II-2-c *シーナラガイ II-2-c *シーナラガイ II-2-c *シーナラガイ II-2-c *シーナラガイ II-2-c *シーナラガイ II-2-c *シーナラガイ II-2-c *シーナラガイ II-2-c *シーナラガー II-2-c *シーナラガー II-2-c *シーナラガー II-2-c *シーガー II-2-c *シーガー II-2-c *シーガー II-2-c *シーガー II-2-c *シーガー II-2-c *シーガー II-2-c *シーガー II-2-c *シーガー II-2-c *シーガー II-2-c *シーブー II-1-c *ブースブーナー II-1-c *ブースジケーン III-1-c *ブースジケーン III-1-c	*ジュズカケサヤガタイモ		I -1-a
*イボシマイモ 1-2-a ササラモドキ I-2-c *ヤナギシボリイモ 3 I-3-a *ハイイロミナシ 1 I-3-a *サラサミナシ 1 I-2-c *クロミナシ II-2-c **フカンマミナシ II-2-c *アカシマミナシ II-2-c *アカシマミナシ II-2-c *アンボンクロザメ 1 I-2-c *アンボンクロザメ 17 *大型イモガイ 2 *中型イモガイ 2 *中型イモガイ 4 *トウガタカワニナ IV-5/6 *エガイ II-2-a *カロニノエガイ II-2-a *ベニエガイ II-2-a *メンガイ類 I-2-a *レジャコ 1 I-2-c *シーナショナ II-2-c *シーナラガイ II-2-c *シーナラガイ II-2-c *シーナラガイ II-2-c *シーナラガイ II-2-c *シーナラガイ II-2-c *シーナラガイ II-2-c *シーナラガイ II-2-c *シーナラガイ II-2-c *シーナラガイ II-2-c *シーナラガイ II-2-c *シーナラガイ II-2-c *シーナラガー II-2-c *シーナラガー II-2-c *シーナラガー II-2-c *シーガー II-2-c *シーガー II-2-c *シーガー II-2-c *シーガー II-2-c *シーガー II-2-c *シーガー II-2-c *シーガー II-2-c *シーガー II-2-c *シーガー II-2-c *シーブー II-1-c *ブースブーナー II-1-c *ブースジケーン III-1-c *ブースジケーン III-1-c	*キヌカツギイモ		I -2-a
*ヤナギシボリイモ 3 I -3-a *ハイイロミナシ 1 I -3-a *サラサミナシ 1 I -2-c *クロミナシ II-2-c **ファンマミナシ 1 I -2-c *アカシマミナシ 1 I -2-c *ブマフイモ I -2-c *ブマフイモ I -2-c *ブジロイモ I -2-c *アンボンクロザメ 1 I -2-c *アジロイモ II -2-c *アジロイモ II -2-c *アグロイモ II -2-c *アグロイモ II -2-c *アグロイモ II -2-c *アグロイモ II -2-c *ル型イモガイ 2 *中型イモガイ 4 *トウガタカワニナ IV-5/6 *エガイ I -1-a *クロミノエガイ II -2-a *エガイ I -2-a *メンガイ類 I -2-a *メンガイ類 I -2-a *カワラガイ I II -2-c *カワラガイ I II -2-c *シラナミ 3 I -2-a *ヒレジャコ I I -2-c *シラナミ 3 I -2-a *ヒレジャコ I I -2-c *シャゴウ I I -2-c *シャゴウ I I -2-c *シャゴウ I I -2-c *シャゴウ I I -2-c *シャゴウ I I -2-c *シャゴウ I I -2-c *シャゴウ I I -2-c *シャゴウ I I -2-c *シャゴウ I I -2-c *シャゴウ I I -2-c *シャゴウ I I -2-c *シャガイ類 I I -2-c *シャガイ類 I I -2-c *シャガイ類 I I -2-c *シャガイ類 I I -2-c *シャガイ類 I I -2-c *シャガイ類 I I -2-c *ナミノコマスオ I -1-c *ナミノコマスオ I I -1-c *ナミノコマスオ I I -1-c *オノメガイ I II -2-c *アラヌノメ I I I -0-c *オノメガイ I II -2-c *オフスジケマン III -1-c		2	I -2-a
*ハイイロミナシ 1 I-3-a *サラサミナシ 1 I-2-c *クロミナシ II-2-c **カトミナシ 1 I-2-c **アカシマミナシ II-2-c **ゴマフイモ I-2-c *ゴマフイモ I-2-c *ブンボンクロザメ 1 I-2-c *アンボンクロザメ 1 I-2-c *アンボンクロザメ 1 I-2-c *アンボンクロザメ 1 I-2-c *アンボンクロザメ 1 I-2-c *ハ型イモガイ 2 *中型イモガイ 4 *トウガタカワニナ IV-5/6 *カワニナ IV-5/6 *エガイ I-1-a *クロミノエガイ II-2-a *ベニエガイ I-2-a *メンガイ類 I-2-a *シロザル? II-2-c *シラナミ 3 I-2-a *シーナンデュー II-2-c *シラナミ 3 I-2-a *レジャコ 1 I-2-c *シャコガイ II-2-c *シャコガイ II-2-c *シャコガイ II-2-c *シーナンブイ II-2-c *シーナンブイ II-2-c *シーナンブイ II-2-c *シーナンブイ II-2-c *シーナンブー II-2-c *シーナンブー II-2-c *シーナンブー II-2-c *シーナンブー II-2-c *シャコガイ II-2-c *シャコガイ II-2-c *シャコガイ II-2-c *シャコガイ II-2-c *シャコガイ II-2-c *シャコガイ II-2-c *シャコガイ II-2-c *シャコガイ II-2-c *シャコガイ II-2-c *シャコガイ II-2-c *シャコガイ II-2-c *シャコガイ II-2-c *シャコガイ II-2-c *シャコガイ II-2-c *シャコガイ II-2-c *シャコガイ II-2-c *シャコガイ II-2-c *シャコガイ II-2-c *シャコガイ II-1-c *ブラヌノメ II-1-c *ブラヌノメ III-1-c	ササラモドキ		I -2-c
*ハイイロミナシ 1 I-3-a *サラサミナシ 1 I-2-c *クロミナシ II-2-c **カトミナシ 1 I-2-c **アカシマミナシ II-2-c **ゴマフイモ I-2-c *ゴマフイモ I-2-c *ブンボンクロザメ 1 I-2-c *アンボンクロザメ 1 I-2-c *アンボンクロザメ 1 I-2-c *アンボンクロザメ 1 I-2-c *アンボンクロザメ 1 I-2-c *ハ型イモガイ 2 *中型イモガイ 4 *トウガタカワニナ IV-5/6 *カワニナ IV-5/6 *エガイ I-1-a *クロミノエガイ II-2-a *ベニエガイ I-2-a *メンガイ類 I-2-a *シロザル? II-2-c *シラナミ 3 I-2-a *シーナンデュー II-2-c *シラナミ 3 I-2-a *レジャコ 1 I-2-c *シャコガイ II-2-c *シャコガイ II-2-c *シャコガイ II-2-c *シーナンブイ II-2-c *シーナンブイ II-2-c *シーナンブイ II-2-c *シーナンブイ II-2-c *シーナンブー II-2-c *シーナンブー II-2-c *シーナンブー II-2-c *シーナンブー II-2-c *シャコガイ II-2-c *シャコガイ II-2-c *シャコガイ II-2-c *シャコガイ II-2-c *シャコガイ II-2-c *シャコガイ II-2-c *シャコガイ II-2-c *シャコガイ II-2-c *シャコガイ II-2-c *シャコガイ II-2-c *シャコガイ II-2-c *シャコガイ II-2-c *シャコガイ II-2-c *シャコガイ II-2-c *シャコガイ II-2-c *シャコガイ II-2-c *シャコガイ II-2-c *シャコガイ II-2-c *シャコガイ II-1-c *ブラヌノメ II-1-c *ブラヌノメ III-1-c		3	I -3-a
*サラサミナシ       1       I-2-c         *クロミナシ       II-2-c         *ミカドミナシ       1       I-2-c         *アカシマミナシ       I-2-c         *ゴマフイモ       I-2-c         *コモンイモ       I-2-c         *アンボンクロザメ       1       I-2-c         *アンボンクロザメ       1       I-2-c         *小型イモガイ       2       *中型イモガイ       IV-5/6         *カワニナ       IV-5/6       *エガイ       II-2-a         *カワニナ       IV-5/6       *エガイ       II-2-a         *ベニエガイ       II-2-a       *ベニエガイ       II-2-a         *リュウキュウサルボオ       2       I-2-a         *シロザル?       I-2-a       *シーナル類         II-2-a       *カワラガイ       II-2-a         *レジャコ			
*ミカドミナシ I I-2-c *アカシマミナシ I-2-c *ゴマフイモ I-2-c *ゴマフイモ I-2-c *コモンイモ I-2-c *アンポンクロザメ 1 I-2-c *アジロイモ II-2-c *アジロイモ II-2-c *小型イモガイ 2 *中型イモガイ 4 *トウガタカワニナ IV-5/6 *エガイ I-1-a *クロミノエガイ I-2-a *ベニエガイ I-2-a *メンガイ類 I-2-a *リュウキュウザル II-2-c *カワラガイ III-2-c *カワラガイ III-2-c *カワラガイ III-2-c *シラナミ 3 I-2-a *ヒレジャコ 1 I-2-c *ヒメジャコ 2 I-2-a *シャゴウ II-2-c *シャコガイ類 II-2-c *シャコガイ類 II-2-c *シャコガイ類 II-2-c *シャコガイ類 II-2-c *シャコガイ類 II-2-c *シャコガイ類 II-2-c *シャコガイ類 II-2-c *ナミノコマスオ I-1-c *オリハマグリ III-0-c *オリメガイ III-0-c *オノハマジィナミ III-0-c *オノメガイ III-0-c *オノメガイ III-0-c *アラヌノメ III-1-c *アラスジケマン III-1-c		1	
*アカシマミナシ I-2-c *ゴマフイモ I-2-c *ゴマフイモ I-2-c *コモンイモ I-2-c *アンボンクロザメ 1 I-2-c *アジロイモ II-2-c *アジロイモ II-2-c *小型イモガイ 2 *中型イモガイ 4 *トウガタカワニナ IV-5/6 *カワニナ IV-5/6 *エガイ I-1-a *クロミノエガイ II-2-a *ベニエガイ I-2-a *メンガイ類 I-2-a *シロザル? I-2-a *カワラガイ II-2-c *カワラガイ II-2-c *シラナミ 3 I-2-a *ヒレジャコ 1 I-2-c *シャゴウ II-2-c *シャゴウ II-2-c *シャゴガイ類 II-2-c *シャゴウ II-2-c *シャコガイ類 II-2-c *シャコガイ類 II-2-c *シャコガイ類 II-2-c *シャコガイ類 II-2-c *シャコガイ類 II-2-c *シャコガイ類 II-2-c *シャコガイ類 II-2-c *シャコガイ類 II-2-c *シャコガイ類 II-2-c *シャコガイ類 II-2-c *シャコガイ類 II-2-c *シャコガイ類 II-2-c *カリコマスオ II-1-c *アラスジケマン III-1-c	*クロミナシ		II -2-c
*アカシマミナシ I-2-c *ゴマフイモ I-2-c *ゴマフイモ I-2-c *コモンイモ I-2-c *アンボンクロザメ 1 I-2-c *アジロイモ II-2-c *アジロイモ II-2-c *小型イモガイ 2 *中型イモガイ 4 *トウガタカワニナ IV-5/6 *カワニナ IV-5/6 *エガイ I-1-a *クロミノエガイ II-2-a *ベニエガイ I-2-a *メンガイ類 I-2-a *シロザル? I-2-a *カワラガイ II-2-c *カワラガイ II-2-c *シラナミ 3 I-2-a *ヒレジャコ 1 I-2-c *シャゴウ II-2-c *シャゴウ II-2-c *シャゴガイ類 II-2-c *シャゴウ II-2-c *シャコガイ類 II-2-c *シャコガイ類 II-2-c *シャコガイ類 II-2-c *シャコガイ類 II-2-c *シャコガイ類 II-2-c *シャコガイ類 II-2-c *シャコガイ類 II-2-c *シャコガイ類 II-2-c *シャコガイ類 II-2-c *シャコガイ類 II-2-c *シャコガイ類 II-2-c *シャコガイ類 II-2-c *カリコマスオ II-1-c *アラスジケマン III-1-c	*ミカドミナシ	1	I -2-c
*ゴマフイモ I-2-c *コモンイモ I-2-c *アンボンクロザメ 1 I-2-c *アンボンクロザメ 1 I-2-c *アジロイモ II-2-c *・小型イモガイ 2 *・中型イモガイ 4 *・トウガタカワニナ IV-5/6 **カワニナ IV-5/6 **エガイ I-1-a *クロミノエガイ II-2-a *ベニエガイ I-2-a **リュウキュウサルボオ 2 I-2-a *シロザル? I-2-a *シロザル? I-2-a *シロザル? I-2-a *・シロザル II-2-c *・シラナミ 3 I-2-a *・ヒレジャコ 1 I-2-c *・シャコガイ類 1 I-2-c *・シャコガイ類 1 I-2-c *・シャコガイ類 1 I-2-c *・シャコガイ類 1 I-2-c *・シャコガイ類 1 I-2-c *・シャコガイ類 1 I-2-c *・シャコガイ類 1 I-2-c *・シャコガイ類 1 I-2-c *・シャコガイ類 1 I-2-c *・シャコガイ類 1 I-2-c *・シャコガイ類 1 I-2-c *・シャコガイ類 1 I-2-c *・シャコガイ類 1 I-2-c *・シャンジミ II-1-c *アラヌノメ 1 I-3-c *アラヌノメ 1 I-3-c *アラスジケマン 2 III-1-c			
*アンボンクロザメ 1 I-2-c *アジロイモ II-2-c *アジロイモ II-2-c *小型イモガイ 2 *中型イモガイ 4 *トウガタカワニナ IV-5/6 *カワニナ IV-5/6 *エガイ I-1-a *クロミノエガイ II-2-a *ベニエガイ I-2-a *メンガイ類 I-2-a **リュウキュウザル II-2-c *カワラガイ II-2-c *カワラガイ II-2-c *シラナミ 3 I-2-a *ヒレジャコ II-2-c *シャゴウ II-2-c *シャゴウ II-2-c *シャゴウ II-2-c *シャコガイ類 II-2-c *シャコガイ類 II-2-c *シャコガイ類 II-2-c *シャコガイ類 II-2-c *シャコガイ類 II-2-c *シャコガイ類 II-2-c *シャコガイ類 II-2-c *シャコガイ類 II-2-c *シャンガイ類 II-2-c *シャコガイ類 II-2-c *シャンガイ類 II-2-c *シャンガイ類 II-2-c *シャンガイ類 III-0-c *アラスノメ III-0-c *アラスノメ III-1-c *アラスジケマン III-1-c	*ゴマフイモ		I -2-c
*アジロイモ II-2-c *小型イモガイ 2 *中型イモガイ 17 *大型イモガイ 4 *トウガタカワニナ IV-5/6 *カワニナ IV-5/6 *カワニナ IV-5/6 *エガイ I-1-a *クロミノエガイ II-2-a *ベニエガイ I-2-a *リュウキュウサルボオ 2 I-2-a *メンガイ類 I-2-a *シロザル? I-2-a *シロザル? I-2-a *カワラガイ III-2-c *カワラガイ III-2-c *シラナミ 3 I-2-a *ヒレジャコ I I-2-c *シナコガイ II-2-c *シャゴウ I I-2-c *シャゴウ I I-2-c *シャゴウ I I-2-c *シャコガイ類 I I-2 *イソハマグリ II-1-c *ナミノコマスオ I-1-c *サメザラ III-0-c *ヌノメガイ III-0-c *ヌノメガイ III-0-c *アラヌノメ III-1-c *アラスジケマン III-1-c	*コモンイモ		I -2-c
*アジロイモ II-2-c *小型イモガイ 2 *中型イモガイ 17 *大型イモガイ 4 *トウガタカワニナ IV-5/6 *カワニナ IV-5/6 *カワニナ IV-5/6 *エガイ I-1-a *クロミノエガイ II-2-a *ベニエガイ I-2-a *リュウキュウサルボオ 2 I-2-a *メンガイ類 I-2-a *シロザル? I-2-a *シロザル? I-2-a *カワラガイ III-2-c *カワラガイ III-2-c *シラナミ 3 I-2-a *ヒレジャコ I I-2-c *シナコガイ II-2-c *シャゴウ I I-2-c *シャゴウ I I-2-c *シャゴウ I I-2-c *シャコガイ類 I I-2 *イソハマグリ II-1-c *ナミノコマスオ I-1-c *サメザラ III-0-c *ヌノメガイ III-0-c *ヌノメガイ III-0-c *アラヌノメ III-1-c *アラスジケマン III-1-c	*アンボンクロザメ	1	I -2-c
*中型イモガイ 17 *大型イモガイ 4 *トウガタカワニナ IV-5/6 *カワニナ IV-5/6 *カワニナ IV-5/6 *エガイ I-1-a *クロミノエガイ II-2-a *ベニエガイ I-2-a *リュウキュウサルボオ 2 I-2-a *メンガイ類 I-2-a *シロザル? I-2-a *シロザル? I-2-a *カワラガイ III-2-c *カワラガイ III-2-c *シラナミ 3 I-2-a *ヒレジャコ I I-2-c *ヒメジャコ 2 I-2-a *シャゴウ I I-2-c *シャゴヴ I I-2-c *シャコガイ類 I I-2 *イソハマグリ II-1-c *ナミノコマスオ I-1-c *サメザラ III-0-c *ヌノメガイ III-0-c *ヌノメガイ III-0-c *アラヌノメ III-0-c *アラヌノメ III-1-c *アラスジケマン III-1-c			II -2-c
*大型イモガイ 4 *トウガタカワニナ IV-5/6 *カワニナ IV-5/6 *エガイ I-1-a *クロミノエガイ II-2-a *ベニエガイ I-2-a *ベニエガイ I-2-a *リュウキュウサルボオ 2 I-2-a *メンガイ類 I-2-a *シロザル? I-2-a *カワラガイ II-2-c *カワラガイ III-2-c *カワラガイ III-2-c *シラナミ 3 I-2-a *ヒレジャコ I I-2-c *シャゴウ I I-2-c *シャゴウ I I-2-c *シャゴヴ I I-2-c *シャコガイ類 I I-2 *イソハマグリ II-1-c *ナミノコマスオ I-1-c *サメザラ III-0-c *ヌノメガイ III-0-c *ヌノメガイ III-0-c *アラヌノメ III-0-c *アラヌノメ III-1-c *アラスジケマン III-1-c	*小型イモガイ	2	
*トウガタカワニナ IV-5/6 *カワニナ IV-5/6 *エガイ I-1-a *クロミノエガイ II-2-a *ベニエガイ I-2-a *ベニエガイ I-2-a *リュウキュウサルボオ 2 I-2-a *メンガイ類 I-2-a *カワラガイ II-2-a *カワラガイ II-2-c *カワラガイ II-2-c *シラナミ 3 I-2-a *ヒレジャコ I I-2-c *シャゴウ I I-2-c *シャゴウ I I-2-c *シャゴヴ I I-2-c *シャコガイ類 I I-2 *イソハマグリ I I-1-c *ナミノコマスオ I-1-c *サメザラ I I-0-c *ヌノメガイ II-0-c *ヌノメガイ II-0-c *アラヌノメ II-1-c *アラスジケマン III-1-c	*中型イモガイ	17	
*トウガタカワニナ IV-5/6 *カワニナ IV-5/6 *エガイ I-1-a *クロミノエガイ II-2-a *ベニエガイ I-2-a *ベニエガイ I-2-a *リュウキュウサルボオ 2 I-2-a *メンガイ類 I-2-a *カワラガイ II-2-a *カワラガイ II-2-c *カワラガイ II-2-c *シラナミ 3 I-2-a *ヒレジャコ I I-2-c *シャゴウ I I-2-c *シャゴウ I I-2-c *シャゴヴ I I-2-c *シャコガイ類 I I-2 *イソハマグリ I I-1-c *ナミノコマスオ I-1-c *サメザラ I I-0-c *ヌノメガイ II-0-c *ヌノメガイ II-0-c *アラヌノメ II-1-c *アラスジケマン III-1-c	*大型イモガイ	4	
*カワニナ IV-5/6 *エガイ I-1-a *クロミノエガイ II-2-a *ベニエガイ I-2-a *ベニエガイ I-2-a *リュウキュウサルボオ 2 I-2-a *メンガイ類 I-2-a *シロザル? I-2-a *カワラガイ I II-2-c *カワラガイ 1 II-2-c *シラナミ 3 I-2-a *ヒレジャコ 1 I-2-c *シャゴウ 1 I-2-c *シャゴウ 1 I-2-c *シャコガイ類 1 I-2 *イソハマグリ 2 I-1-c *ナミノコマスオ I-1-c *サメザラ 1 I-2-c *メンノガイ 2 II-2-c *メンノガイ 2 II-2-c *オノメガイ 2 II-2-c *オフスプメナミ III-0-c *オフスプイナミ 5 II-1-c *アラスジケマン III-1-c			IV-5/6
*クロミノエガイ II-2-a *ベニエガイ I -2-a *ベニエガイ I -2-a *リュウキュウサルボオ 2 I -2-a *メンガイ類 I -2-a *シロザル? I -2-a *シロザル II-2-a *カワラガイ I II-2-c *カワラガイ I II-2-c *シラナミ 3 I -2-a *ヒレジャコ I I -2-c *シャゴウ I I -2-c *シャゴウ I I -2-c *シャコガイ類 I I -2 *イソハマグリ I I -1-c *ナミノコマスオ I -1-c *サメザラ I I -2-c *シレナシジミ I II-0-c *ヌノメガイ I I -3-c *ボソスジイナミ 5 II-1-c *アラスジケマン III-1-c			
*ベニエガイ I -2-a *リュウキュウサルボオ 2 I -2-a *メンガイ類 I -2-a *メンガイ類 I -2-a *シロザル? I -2-a *キクザル類 I -2-a *リュウキュウザル II -2-c *カワラガイ 1 II -2-c *シラナミ 3 I -2-a *ヒレジャコ 1 I -2-c *とメジャコ 2 I -2-a *シャゴウ 1 I -2-c *シャゴウ 1 I -2-c *シャコガイ類 1 I -2 *イソハマグリ 2 I -1-c *ナミノコマスオ I -1-c *サメザラ 1 I -2-c *シレナシジミ 1 II -0-c *ヌノメガイ 2 II -2-c *アラヌノメ 1 I -3-c *ホソスジイナミ 5 II -1-c *アラスジケマン 2 III -1-c	*エガイ		I -1-a
*リュウキュウサルボオ 2 I-2-a *メンガイ類 I-2-a *メンガイ類 I-2-a *シロザル? I-2-a *キクザル類 I-2-a *リュウキュウザル II-2-c *カワラガイ 1 II-2-c *シラナミ 3 I-2-a *ヒレジャコ 1 I-2-c *とメジャコ 2 I-2-a *シャゴウ 1 I-2-c *シャコガイ類 1 I-2 *イソハマグリ 2 I-1-c *ナミノコマスオ I-1-c *サメザラ 1 I-2-c *シレナシジミ 1 II-0-c *ヌノメガイ 2 II-2-c *アラヌノメ 1 I-3-c *アラスジケマン 2 II-1-c	*クロミノエガイ		II -2-a
*リュウキュウサルボオ 2 I-2-a *メンガイ類 I-2-a *メンガイ類 I-2-a *シロザル? I-2-a *キクザル類 I-2-a *リュウキュウザル II-2-c *カワラガイ 1 II-2-c *シラナミ 3 I-2-a *ヒレジャコ 1 I-2-c *とメジャコ 2 I-2-a *シャゴウ 1 I-2-c *シャコガイ類 1 I-2 *イソハマグリ 2 I-1-c *ナミノコマスオ I-1-c *サメザラ 1 I-2-c *シレナシジミ 1 II-0-c *ヌノメガイ 2 II-2-c *アラヌノメ 1 I-3-c *アラスジケマン 2 II-1-c	*ベニエガイ		I -2-a
*メンガイ類       I -2-a         *シロザル?       I -2-a         *キクザル類       II -2-c         *カワラガイ       1         *シラナミ       3       I -2-a         *ヒレジャコ       1       I -2-c         *とメジャコ       2       I -2-a         *シャゴウ       1       I -2-c         *シャゴウ       1       I -2-c         *シャコガイ類       1       I -2-c         *ナミノコマスオ       I -1-c         *サメザラ       1       I -2-c         *シレナシジミ       1       II -0-c         *ヌノメガイ       2       II -2-c         *アラヌノメ       1       I -3-c         *ホソスジイナミ       5       II -1-c         *アラスジケマン       2       III -1-c		2	
*キクザル類       I-2-a         *リュウキュウザル       II-2-c         *カワラガイ       1       II-2-c         *シラナミ       3       I-2-a         *ヒレジャコ       1       I-2-c         *ヒメジャコ       2       I-2-a         *シャゴウ       1       I-2-c         *シャゴガイ類       1       I-2-c         *ナミノコマスオ       I-1-c       *ナミノコマスオ         *サメザラ       1       I-2-c         *シレナシジミ       1       II-0-c         *ヌノメガイ       2       II-2-c         *アラヌノメ       1       I-3-c         *ホソスジイナミ       5       II-1-c         *アラスジケマン       2       III-1-c			I -2-a
*リュウキュウザル II-2-c *カワラガイ 1 II-2-c *シラナミ 3 I-2-a *ヒレジャコ 1 I-2-c *ヒメジャコ 2 I-2-a *シャゴウ 1 I-2-c *シャコガイ類 1 I-2 *イソハマグリ 2 I-1-c *ナミノコマスオ I-1-c *サメザラ 1 I-2-c *シレナシジミ 1 II-0-c *ヌノメガイ 2 II-2-c *アラヌノメ 1 I-3-c *オソスジイナミ 5 II-1-c *アラスジケマン 2 III-1-c	*シロザル?		I -2-a
*カワラガイ 1 II-2-c *シラナミ 3 I-2-a *ヒレジャコ 1 I-2-c *ヒメジャコ 2 I-2-a *シャゴウ 1 I-2-c *シャコガイ類 1 I-2 *イソハマグリ 2 I-1-c *ナミノコマスオ I-1-c *サメザラ 1 I-2-c *シレナシジミ 1 II-0-c *ヌノメガイ 2 II-2-c *アラヌノメ 1 I-3-c *オソスジイナミ 5 II-1-c *アラスジケマン 2 III-1-c	*キクザル類		I -2-a
*シラナミ 3 I-2-a *ヒレジャコ 1 I-2-c *ヒメジャコ 2 I-2-a *シャゴウ 1 I-2-c *シャゴウ 1 I-2-c *シャコガイ類 1 I-2 *イソハマグリ 2 I-1-c *ナミノコマスオ I-1-c *サメザラ 1 I-2-c *シレナシジミ 1 II-0-c *ヌノメガイ 2 II-2-c *アラヌノメ 1 I-3-c *ホソスジイナミ 5 II-1-c *アラスジケマン 2 III-1-c	*リュウキュウザル		II -2-c
*ヒレジャコ 1 I-2-c *ヒメジャコ 2 I-2-a *シャゴウ 1 I-2-c *シャゴウ 1 I-2-c *シャコガイ類 1 I-2 *イソハマグリ 2 I-1-c *ナミノコマスオ I-1-c *サメザラ 1 I-2-c *シレナシジミ 1 II-0-c *ヌノメガイ 2 II-2-c *アラヌノメ 1 I-3-c *ホソスジイナミ 5 II-1-c *アラスジケマン 2 III-1-c	*カワラガイ	1	II -2-c
*ヒメジャコ 2 I-2-a *シャゴウ 1 I-2-c *シャコガイ類 1 I-2 *イソハマグリ 2 I-1-c *ナミノコマスオ I-1-c *サメザラ 1 I-2-c *シレナシジミ 1 II-0-c *ヌノメガイ 2 II-2-c *アラヌノメ 1 I-3-c *ホソスジイナミ 5 II-1-c *アラスジケマン 2 III-1-c	*シラナミ	3	I -2-a
*シャゴウ 1 I-2-c *シャコガイ類 1 I-2 *イソハマグリ 2 I-1-c *ナミノコマスオ I-1-c *サメザラ 1 I-2-c *シレナシジミ 1 II-0-c *ヌノメガイ 2 II-2-c *アラヌノメ 1 I-3-c *ホソスジイナミ 5 II-1-c *アラスジケマン 2 III-1-c	*ヒレジャコ	1	I -2-c
*シャコガイ類 1 I-2 *イソハマグリ 2 I-1-c *ナミノコマスオ I-1-c *サメザラ 1 I-2-c *シレナシジミ 1 II-0-c *ヌノメガイ 2 II-2-c *アラヌノメ 1 I-3-c *ホソスジイナミ 5 II-1-c *アラスジケマン 2 III-1-c	*ヒメジャコ	2	I -2-a
*シャコガイ類 1 I-2 *イソハマグリ 2 I-1-c *ナミノコマスオ I-1-c *サメザラ 1 I-2-c *シレナシジミ 1 II-0-c *ヌノメガイ 2 II-2-c *アラヌノメ 1 I-3-c *ホソスジイナミ 5 II-1-c *アラスジケマン 2 III-1-c	*シャゴウ	1	
*ナミノコマスオ I-1-c *サメザラ 1 I-2-c *シレナシジミ 1 II-0-c *ヌノメガイ 2 II-2-c *アラヌノメ 1 I-3-c *ホソスジイナミ 5 II-1-c *アラスジケマン 2 III-1-c	*シャコガイ類	1	I -2
*ナミノコマスオ I-1-c *サメザラ 1 I-2-c *シレナシジミ 1 II-0-c *ヌノメガイ 2 II-2-c *アラヌノメ 1 I-3-c *ホソスジイナミ 5 II-1-c *アラスジケマン 2 III-1-c		2	I -1-c
*サメザラ 1 I-2-c *シレナシジミ 1 II-0-c *ヌノメガイ 2 II-2-c *アラヌノメ 1 I -3-c *ホソスジイナミ 5 II-1-c *アラスジケマン 2 III-1-c			I -1-c
*シレナシジミ 1 II-0-c *ヌノメガイ 2 II-2-c *アラヌノメ 1 I -3-c *ホソスジイナミ 5 II-1-c *アラスジケマン 2 III-1-c		1	
*ヌノメガイ       2       II-2-c         *アラヌノメ       1       I-3-c         *ホソスジイナミ       5       II-1-c         *アラスジケマン       2       III-1-c	*シレナシジミ	1	
*アラヌノメ 1 I-3-c *ホソスジイナミ 5 II-1-c *アラスジケマン 2 III-1-c		2	II -2-c
*ホソスジイナミ 5 II-1-c *アラスジケマン 2 III-1-c		1	I -3-c
		5	II -1-c
*ヒメイナミ I -1-c	*アラスジケマン	2	Ш-1-с
	*ヒメイナミ		I -1-c

生息場所類型 (Habitat)

I:外洋ーサンゴ礁域

Open sea coast- Coral reef area

Ⅱ:内湾一転石域

Inland sea - boulder area

Ⅲ:河口干潟ーマングローブ域 Tidal flat - Mangrove area

Ⅳ:淡水域

Fresh water area

V:陸域

Terrestrial area

VI:その他 Others

# 第4節 屋敷地4

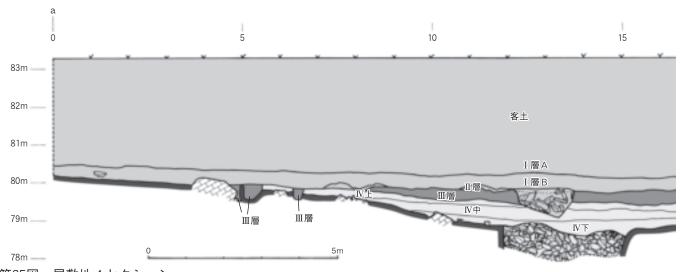
屋敷地4とした地域はV区が 該当する。V区の地積は今泊 5107 (313㎡) を中心とした地 域で、これを10mの方形区画に 分割してグリッドを設定してい る。但し、西側に村歴史文化セ ンターが隣接し、既存施設の盛 土が大きく被るため、西側の一 部については調査を断念せざる を得なかった。調査したU-17・ 18 · V-17 · 18では保存状態良好 な包含層が確認され、完掘後に は柱穴を集中的に検出すること ができた。また、逆に東側につ いては岩盤が露頭しはじめⅣ区 と一つの性格をもった地域と考 えられる。このことから、この U-17・18・V-17・18の地域を中 心とした地点で恒常的な生活が あったと想定し、屋敷地4とし て報告する。

## 1. 層序

遺跡の層序を理解する上で a - a'ラインの西側壁を図化した。 a を略北、 a'を略南として以下



第64図 屋敷地 4 調査個所位置図



第65図 屋敷地4セクション

詳述する。

I 層A (上層): Hue 5 YR赤褐色4/6。駐車場造成時の造成層。(ナンバーリング表採)

**I層B (上層)**: Hue 5 Yオリーブ黒色 3/1 とHue7.5 YR褐色  $4/3 \sim 4/4$  の混層。約20~40 cmの堆積。現代の表土と考える。粘性に乏しく砂を含み、ねじり鎌で削ると僅かに砂粒が表れる。 I 層下面、II 層上面付近にはHue2.5 YR暗赤褐色 3/6 の筋状の着色が認められ酸化着色と推定される。(ナンバーリング I 層)

**II層(上層)**:Hue7.5YR暗褐色  $3/3 \sim 3/4$ 。約10cmの堆積。旧耕作土と考えられる。 I 層との層界は凹凸となる。粘性に乏しくわずかに砂粒や炭を含む土層。(ナンバーリング II 層)

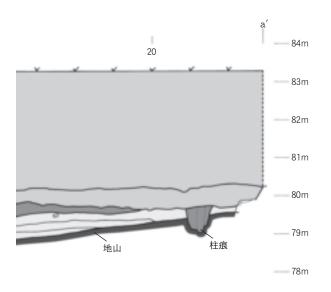
**Ⅲ層(中層)**: Hue7.5YR黒褐色 3/2。約15~20㎝の堆積層。グスク時代の遺物包含層。炭化物を多く含みやや粘性がある土層。 II 層との層界は水平で上部はより淡いようにもおもわれる。土層図中央ほどより厚く堆積し、南北では被覆は薄く堆積の認められない場所もある。(ナンバーリング III 層)

IV**層(下層)**: Hue7.5YR褐色土層 4/4。遺物をほとんど含まない自然堆積層と考えられ、遺跡形成期の地表面と想定される。層相の異なる 3 枚に分層可能。(ナンバーリングIV層)

- ①(上) Hue7.5YR褐色 4/4 わずかに淡い。粘性がなく、粘板岩小礫を含み、遺物をほとんど含まない層。上面は遺構検出面となる。
- ②(中) Hue7.5YR褐色4/4。粘性がなく、粘板岩小礫を含み、遺物をほとんど含まない層。上面は遺構検出面となる。①との層界は水平堆積となるが、不明瞭。
- ③(下) Hue10YRにぶい黄褐色 4/3。光線の具合で若干灰オリーブ気味に見えることから分層を行った。

V**層(地山)**: 所々岩盤が露頭し、遺物を全く含まない自然堆積層で、粘板岩を含む堆積層と、 含まず粘性のある締まった土層の層相の異なる地山からなる。

- ①Hue10YR黄褐色5/4。やや粘性があり粘板岩を多く含む固く締まった土層。地山。
- ②Hue7.5YR明褐色 5/8。やや粘性があり粘板岩を多く含む固く締まった土層。地山。
- ③Hue 5 BG青灰色 5/1。古生代石灰岩の岩盤。地山。



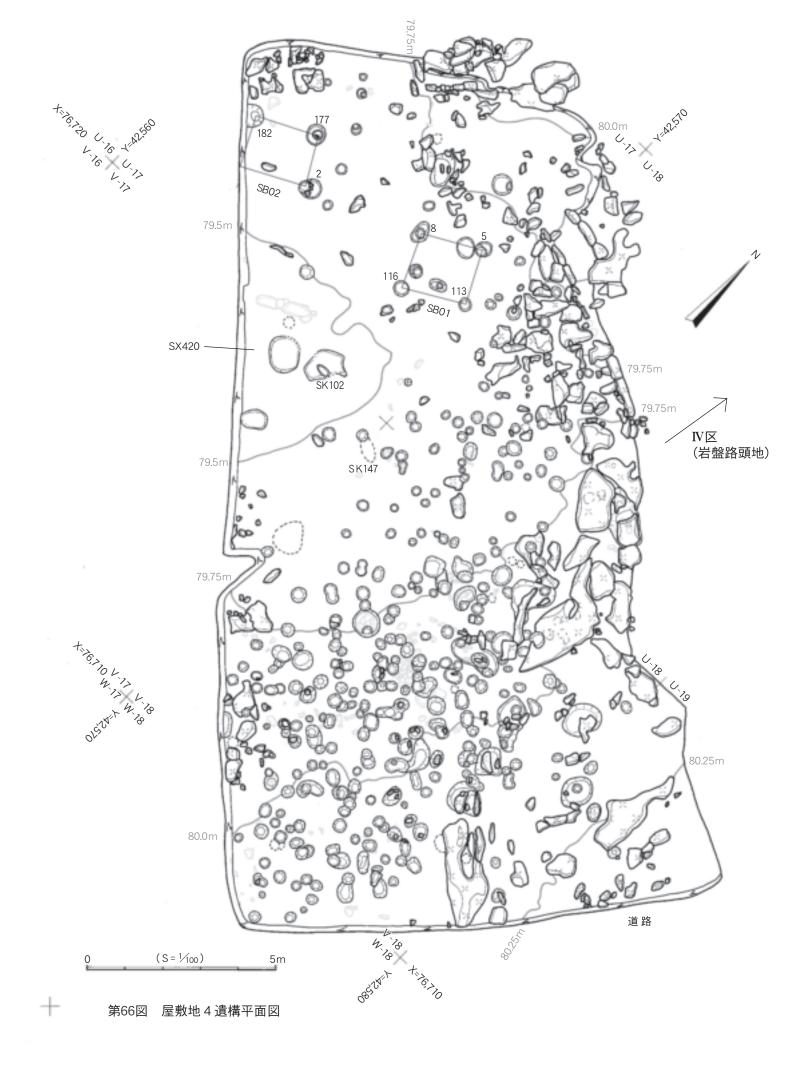
## 2. 遺 構

最終的に建物跡 2 棟(要検討 1 棟含む)を復元することができた。遺構は柱穴が大多数でその分布も北西側には柱穴直径が50前後の大きな柱穴が集中。他方30cm前後になる柱穴は南東側で集中している。これら柱穴サイズに見る相違は、建てられた建物の種類の違いと考えられ、前者柱穴サイズの大きい建物を高倉的な建物を、後者は母屋的な建物と想定される。また、母屋側を推定する柱穴群の周辺には土坑が 5 基確認されており、母屋周辺で調理や工作等の作業を行ったと推定、簡便な作業空間として利用されたものと考えられる(第72図参照)。なお、調査区外となった南側にも遺構が残存すると考えられるが工事範囲外であることや、既に造成が行われており調査を実施していない。

- 種類 遺構数
- · 掘立柱建物跡 2 基 (※要検討:1 基)

[内訳:母屋 0 棟 高倉 2 棟(要検討:1 棟) 竪穴建物跡 0 棟〕

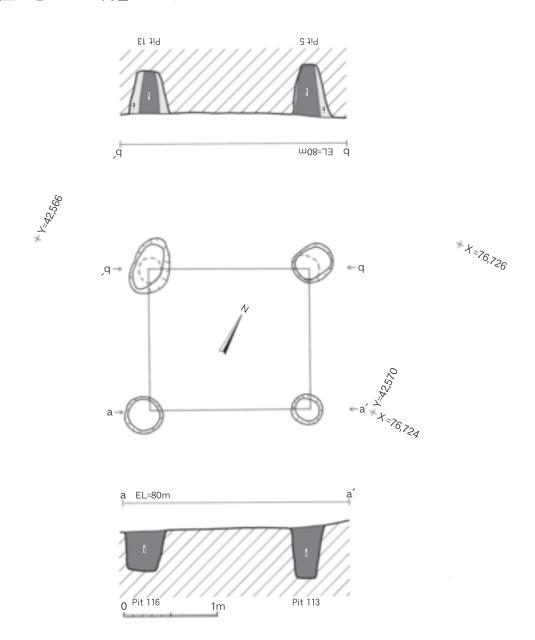
- ・土坑 5基・溝状遺構 0基・不明遺構 1基
- ※上記の遺構は下記の遺構によって構成される。
  - · 柱穴 299基 · 土坑 5基 · 溝 0基 · 不明遺構 1基 · 柱穴? 0基



[規 模] 1間×1間 長軸約170cm×短軸約150cm

(所 見) Pit 5・8・113・116で構成される掘立柱建物跡。柱穴は40cm~30cm程度でそれぞれに柱痕を確認することができる。柱痕の直径は25cm程度である。Pitの掘り込みは極端な差は見いだせない。遺構検出面は若干削平されていると考えられるが良好な状態で検出された遺構である。覆土からの遺物はほとんどみられず、僅かにPit 5 から鉄製品(88-7)、Pit113から青磁碗、Pit116から白磁(80-15)が出土する。柱穴の造作は特徴的で大きな径で一気に掘り下げており深い。屋敷地 3 で検出されたSB02、SB03とは若干異なる。これは地山の硬軟にあるものと考えられ、当該地域(屋敷地 4・V区)は比較的軟らかい

〔遺構内堆積層〕柱穴内の堆積層はi層:暗褐色土層で炭を含む。柱痕と推定される。ii層:褐色の堆積土で地山とほぼ同色となる。



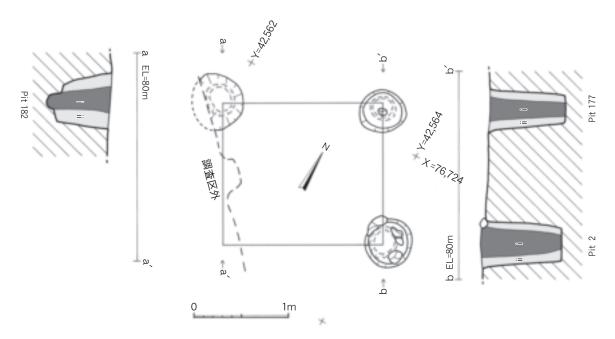
第67図 遺構詳細図SB01

[名 称] 屋敷地4:SB02(掘立柱建物跡) [位 置] V区(U-17)

[規 模] 1 間×1 間 長軸約170cm×短軸約150cm

**(所 見)** Pit  $2\cdot 177\cdot 182\cdot$ 地区外?で構成される掘立柱建物跡。柱穴は $60\text{cm}\sim 50\text{cm}$ で、それぞれに柱痕を確認することができる。柱痕の直径は23cm程度である。Pitの掘り込みは極端な差は見いだせない。柱痕は比較的容易に確認できるが、遺構検出面がIV層であるため柱穴の確認は注意しなければ解らないような状況であった。覆土からの遺物はほとんどみられず、僅かにPit182から遺物が出土する。柱穴の造作は特徴的で大きな径で一気に掘り下げており深い。前述した屋敷地 4 のSB01と同じ形状であると考える。また、柱穴の形状だけでなく長軸と短軸の復元値もほぼ同一規格であった。

〔遺構内堆積層〕柱穴内の堆積層はi層:暗褐色土層で炭を含む。柱痕と推定される。ii層:褐色の堆積土で地山とほぼ同色となる。



第68図 遺構詳細図SB02

[名 称] 屋敷地4:SK147(土坑)

[位 置] V区 (V-17、V-18)

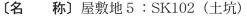
〔検出面〕Ⅳ層(自然堆積層)

〔遺構構成〕土坑1基

**[規 模]** 長軸:40cm、短軸:17cmで惰円形 深さ約40cm

[所 見] SK147単独で構成される土坑で用途は不明である。規模は長軸40㎝短軸17㎝の平面観惰円形の土坑で壁の立ち上がりは緩やかで底面は平坦とならない。深さもGLより5㎝前後で浅い。IV層面での遺構の検出は難しく当初判然としなかった、覆土からの遺物は判然としないが、周辺からは褐釉陶器(dot.207、86-1)が出土する。

【遺構内堆積層】土坑覆土は i 層:暗褐色土層。 粘性に乏しく炭、赤色の粒を含む。ii 層:黒 褐色土層。粘性に乏しく炭を多く含む。



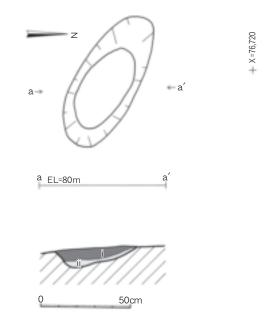
[位 置] V区 (U-17、V-17)

〔検出面〕Ⅳ層(自然堆積層)

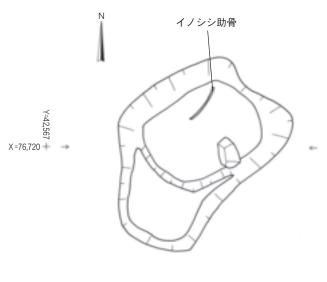
〔遺構構成〕土坑1基

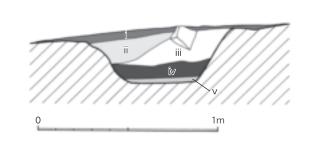
〔規 模〕長軸110cm、短軸70cm、深さ約30cm

見】SK102単独で構成される土坑で 〔所 ある。(但し、セクションが設置されたため 現場で判断することはできなかったが形状か ら2つの土坑の切り合いとも考えられる。こ こでは現場で判断した1つの不整形の土坑と して報告する) 用途は不明である。規模は長 軸110cm×短軸70cmの長方形の平面で南側に 突出するように高い平坦面を持っている。側 壁の立ち上がりはほぼ垂直で、底面は平坦と なる。深さはGLより30cm前後で浅い土坑と なる。覆土からの遺物はほとんどみられず、 僅かにイノシシの肋骨(dot.884)が出土する。 〔遺構内堆積層〕 i 層:褐色土層。粘性に乏し く炭を多く含む。ii層:褐色土層。粘性に乏 しく炭を多く含み、赤色粒が散見される。iii 層:黒褐色土層。炭は少なく粘性はあり、約 3 cmほどの大きな赤色粒が上方に偏る。iv層: 灰色土層。粘性のある炭をほとんど含まない 層。灰層か?



第69図 遺構詳細図 SK147





第70図 SK102遺構詳細図

EL=80m

[位 置] V区 (U-17·V-17)

〔検出面〕 V層(地山)

〔遺構構成〕土坑1基(旧称S419・420)

〔規 模〕長軸約5m、短軸残存値2.5m、深さ不明(1m以上)

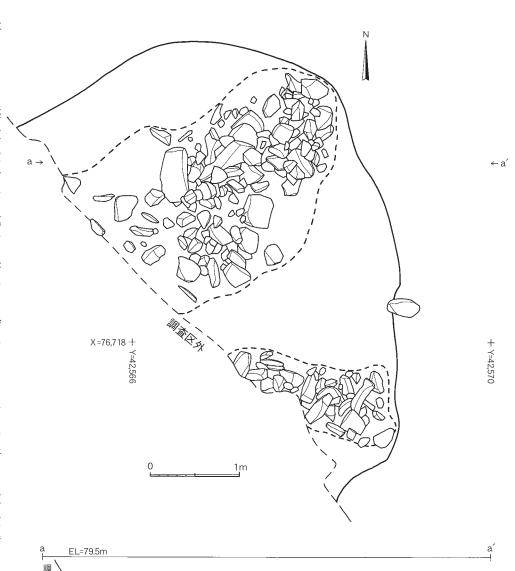
〔所 見〕旧S419・420の2つの土坑で構成される用途不明の坑で自然にあった石灰岩のフィッシャー内に礫が詰め込まれるように堆積する。直上には径の大きなピットがあったことから、直下に湿

X=76,722 +

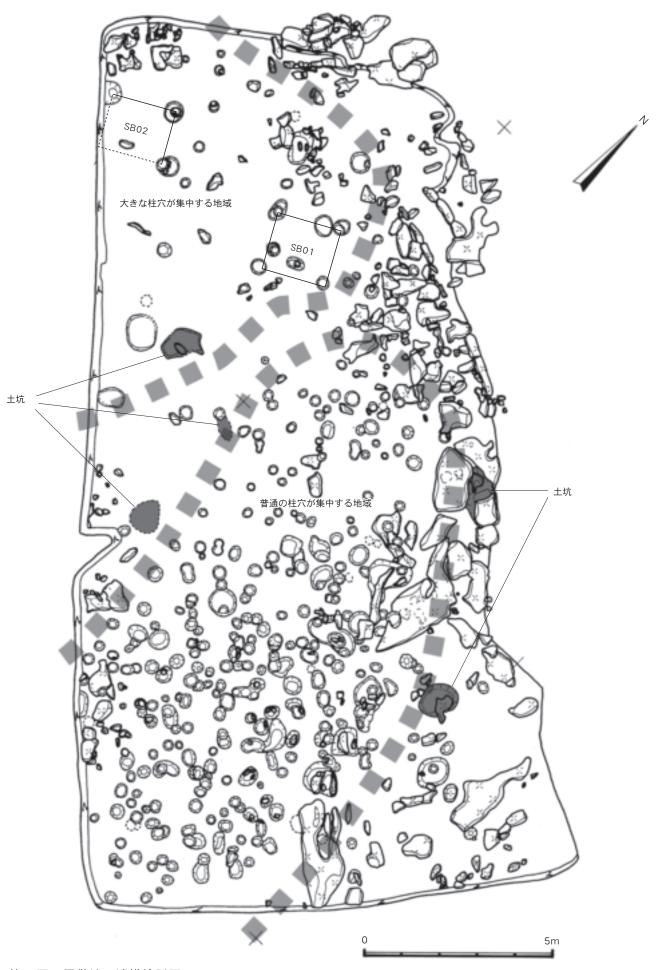
気などを嫌ってつくられた排水遺構と考えられたが、屋敷地4全体を平坦とすることを目的とした遺構と考える。

おそらく当該地域に 最初入った人間が自然 にできていた縦穴洞穴 内に礫を投げ入れ目潰 しをしたものと推測す る。目潰し後当該地域周 辺が開発され森林が伐 採されることによって 自然堆積が促され結果 的にIV層が堆積したの ではないかと想定する。 屋敷地4(V区)に限らず 遺跡内あるいは遺跡周 辺は石灰岩地域である ため縦穴の洞穴がとこ ろどころで口を開けて いる。大きな所はその ままとなり中には拝所 となっているところも あるが、屋敷近隣の縦穴 は生活する上では目潰 しされふさがれたので はないかと想定される。

【遺構内堆積層】土坑覆土は暗褐色で50~60 cmの礫を多量に雑然と規則性無く含む。覆土上層は密に礫が密着しているが、掘り下げていくと固く締まらず間隙が多くなる。



第71図 遺構詳細図SX420



第72図 屋敷地 4 遺構検討図

## 3. 人工遺物

## (1) 陶磁器

屋敷地4 (5次調査分)で出土した陶磁器は1,000点(推定個体数)を数える。

### ① 土器

73-1 はわずかにくびれる頸部をもった鉢もしくは甕形土器でナデ調整も徹底せず仕上はやや粗造。73-2 は壺形土器の口縁部で比較的均整のとれた器形で粘板岩を含むグスク土器である。73-3 はいわゆる貝塚時代後期の系譜を引くくびれ平底土器で、赤褐色の胎土に石英や石灰質粗砂を混和財として用いる。内面には縦方向の擦痕を残す。

### ② 青磁

74-1・2は劃花文碗である。1は口縁部資 料、2は胴部資料で、いずれの文様とも内面 に片切彫りで描かれる。74-3は器形的な特 徴から劃花文碗とほぼ同時期の無文碗と推定 される。釉の発色は褐色がかっていて悪い。 高台に3点目跡が残る特徴的な資料である。 74-4 は鎬蓮弁文碗で大宰府分類ではⅢ類に 近いと考える。74-5は無鎬蓮弁文碗の口縁 資料で、口縁下に一条回線を施しその下に蓮 弁を配する(b)。74-6~14は細蓮弁文碗で 蓮弁の形状から a~c種に分別可能である。 6~9はa種に該当する比較的丁寧に蓮弁を 描くタイプである。10・13は c 種に該当する。 蓮弁は短く弁数に統一性が無い比較的小振り の碗である。11·12·14はb種で幅の広い蓮 弁を配し、弁先も雑で弁尻も高台際まで伸び ずに粗造の印象が強い。75-1~8は雷文帯 碗で、1~4はヘラ彫りの雷文を口縁に描く 資料 (a)。内面を無文(1~3)とする資 料と有文とする資料(4)の二種に細別可能。 75-5~7はスタンプによる雷文を口縁に押 印する資料(b)。6は雷文とその下位にある ラマ式蓮弁文の弁先を一緒に押印。8は口縁 に描かれた文様が雷文であるかは不明である が、腰部に箆彫りされた文様からヘラ彫りの 雷文下に描かれるラマ式蓮弁文のモチーフと 考えられる。10~13は蓮弁文を描く底部資 料で、高台際までの文様しか残らないため判 断を保留した資料である。その特徴から10

第14表 屋敷地 4 出土遺物一覧表

弗I4			<u> </u>	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
和	重別	分類	器種・分類	個体数	百分率
		土器	鍋・鉢・壺・等	4	0.40%
	在地	カムィヤキ	壺・鉢・甕・等		
	· ·	瓦質土器	蓋・不明	1	0.10%
		207(33)	碗	563	56.30%
	l		<u> </u>	85	8.50%
			盤	25	2.50%
	l	1			
		-t+ +1\4	杯	5	0.50%
		青磁	香炉	4	0.40%
			瓶	4	0.40%
			器台	1	0.10%
			酒会壺 (身・蓋)	3	0.30%
			置物	_	
			碗	30	3.00%
			III.	46	4.60%
		白磁	杯	7	0.70%
		III HAA	燈明皿		
			壺	4	0.40%
			瓶		
			元様式		
			碗	109	10.90%
			III.	41	4.10%
			大皿	1	0.10%
		青花	杯・小杯	5	0.50%
	l	F1%	壺	1	0.10%
	l	1	瓶	2	0.20%
	中国		鉢	1	0.10%
			水注	^	0.10/0
	l	1			
	l		合子(身・蓋)		
陥	l	青白磁	瓶		
p回 形法	l		合子	1	0.10%
磁器		天目	碗	1	0.10%
nn		白濁釉陶器	壺		
		- незтиптони	茶入れ		
			急須 (身・蓋)	1	0.10%
			小型壺	11	1.10%
		褐釉陶器	大型壺	10	1.00%
		作的不用中国名合	長胴壺		
			擂鉢	1	0.10%
			深鉢	1	0.10%
			花鉢		0.10%
		7.0/		1	
		五彩	碗	1	0.10%
		瑠璃釉	碗	1	0.10%
		<i>&gt;</i> нг-рч тш	瓶	1	0.10%
			Ⅲ	1	0.10%
		翡翠釉	壺		
		224 — 1144	瓶		
		\$-1.45H	不明		
		緑釉		0	0.0007
		三彩	水注	2	0.20%
		土器	蓋		
		77.1111	壺		
		鉄絵	合子	2	0.20%
	タイ		大型壺	15	1.49%
	l '	terature and	中型壺	2	0.20%
	l	褐釉陶器	小型壺	1	0.10%
	l	1		2	
		,L, 734	瓶	4	0.20%
	ベト	自磁	碗		0 - 00
	ナム	青花	瓶・その他	1	0.10%
	高麗	青磁	碗		
ļ	備前	焼締め	擂鉢	2	0.20%
	肥前	染付	碗		
[編]	磁器		総計	1,000	
			勾玉	_,000	
∃	E類			9	
		<u> </u>	医・小玉	2	
	D 416		銭(有文)	2	
金	<b></b>		<b>無文銭</b>	1	
			永通寶		
		A-ret	35		
			釘	00	
			剣   刀子	4	
		鉄製品	刀子		
		鉄製品	刀子 鏃	4	
		鉄製品	刀子 鏃 鋏	4 2	
金属	禹製品		刀子 鏃 鋏 その他・不明	4 2 36	
金属	<b>属製品</b>	鉄製品 鉄製品	刀子 鏃 鋏 その他・不明 推定・近現代	4 2 36 2	
金属	<b>属製品</b>		刀子 鏃 鋏 その他・不明 推定・近現代 座金・飾り金物等	4 2 36	
金属	<b>属製品</b>	鉄製品	刀子 鏃 鋏 その他・不明 推定・近現代	4 2 36 2	
金厚	<b>属製品</b>		刀子 鏃 鋏 その他・不明 推定・近現代 座金・飾り金物等 鋲等	4 2 36 2 2	
金属	<b>夷製品</b>	鉄製品	刀子 鏃 鋏 その他・不明 推定・近現代 座金・飾り金物等 鋲等	36 2 2 1 3	
金属	<b>夷製品</b>	鉄製品 銅製品	刀子 鏃 をの他・不明 推定・近現代 座金・飾り金物等 籤等・装飾品 その他・不明	4 2 36 2 2 1 3 1	
		鉄製品 銅製品	刀子 鏃 その他・不明 推定・近現代 座金・飾り金物等 籤等 管・装飾品 その他・不明 砥石	36 2 2 1 3	
	<b>製品</b>	鉄製品 銅製品	刀子 鏃 その他・不明 推定・近現代 座金・飾り金物等 籔等 り金物等 の他・不明 をの他・不明 をの他・不明 の他・不明	4 2 36 2 2 1 3 1	
石	製品	鉄製品	刀子 鏃 その他・不明 推定・近現代 座金等 響・装飾品 その他・不明 砥石 視	4 2 36 2 2 1 3 1 11	
石		鉄製品 銅製品 タカラガ	刀子 鏃 その他・不明 推定・近現代 座金・飾り金物等 籔等・装飾品 その他・不明 砥石 視 垂れ の機 での世・不明 低石 の機 乗り 乗り 乗り 乗り 乗り 乗り 乗り 乗り 乗り 乗り	4 2 36 2 2 1 3 1	
石具	製品	鉄製品 銅製品 タカラガ <sup>作</sup>	刀子 鏃 その他・不明 推定・近現代 座金等 響・装飾品 その他・不明 砥石 視	4 2 36 2 2 1 3 1 11	

は無鎬蓮弁文碗の底部、11~13は細蓮弁文碗の底部と想定される。76-1~6は無文外反碗の口縁部資料である。釉の色調、胎土などから数種に分類可能である。5はB窯系で素地胎土が他の資料と若干異なる。6は底部資料で見込みに花文が押印されている。口縁部を欠くもののその特徴から無文外反碗の項目で説明した。76-7・8は無文直口碗である。76-9~11は青磁碗底部資料である。形態等から、9は蓮弁が高台際までおよばない細蓮弁文碗の底部と推定。10は雷文帯碗の底部資料を想定する。この10は屋敷地3で出土した49-11とスタンプがほぼ同範の資料と考えられる。仮にこれが同一の窯で生産され、商品として流通、消費された場所が隣接する屋敷であったことは陶磁器消費の実態を捉える上で示唆的な出土状況であると考えられ興味深い資料である。11は不明であるが強いて分けられるとすれば雷文帯碗の底部と近しいと考える。

77-1~3は櫛描文皿で、1・2は口縁部資料、3は底部資料である。77-4~8は蓮弁口折皿で、4は主郭分類皿 I 類に相当する。口折屈曲部に明瞭な稜線をもち、蓮弁文を二本線で丁寧に描いている(口折り)。5~7は主郭分類Ⅱに該当する資料で屈曲がより明瞭な資料(5・6)と不明瞭な資料(7)、あるいは釉を厚く施釉し蓮弁が盛りあがる資料(7)とそうでない資料(5・6)と若干のバリエーションが認められる(口折 c)。8は蓮弁を腰部に配する皿の底部資料で、皿Ⅱ類に該当する物と考える(口折 c)。77-9は高台際より上部を欠損するため全形は不明で分類は困難であるが、双魚文を押印する皿の底部である。77-10~13は直口皿で10~12は内面に蓮弁を配する資料、13は無文の資料。77-14~16・78-1~7は腰折皿である。77-14・15は内外面無文の資料で(腰折 e)、77-16・78-1は口縁を刻み稜花とする資料(腰折 d)。78-2・3は刻花文を施す資料である。底部は78-4~7が腰折皿に該当すると推定されるが、いずれも屈曲部から口縁部を失うため判断の難しい物も含まれている。78-8・9は無文外反皿の口縁部資料である。78-10・11は青磁皿底部資料で、10は見込みが露胎となる資料で形状からは直口口縁皿の底部かと推定される。11は底径の広い資料で無文外反皿の底部資料と推定される。

79-1~6 は青磁盤の破片資料である。口縁部資料はいずれも鍔縁盤となる。  $1 \cdot 5$  は幅広の 蓮弁を内体面にヘラ彫りする(b)。  $2 \cdot 3$  については櫛によって蓮弁を描く(e)。 6 は焼成 不良で器表面が白く変色している。 4 は外面に片切彫りによる文様を施す資料で、高台のつく りも前二者とは異なる。

79-7 は碁笥底の杯で底部小片のみの出土である(杯 b)。79-8 は酒会壺の頸胴部の破片で胴体部の主文様は牡丹唐草などの文様と推測される。またその空白部分を刷毛目文によって埋めている。今帰仁城跡主郭の調査でも類品(今本 II 第53図-4)が出土している。79-9 は器台でこれも今帰仁城跡主郭の調査で類品(今本 II 第52図-7)が出土している。79-10は球形の胴部の瓶と推測される資料で、片切彫りによって文様を描くがモチーフについては不明。

#### ③白磁

80-1 は今帰仁タイプ碗の口縁部破片資料である。80-2 は釉調から白磁ビロースクタイプ碗に近いと考えられる。先に紹介したとおり、文様を施す資料は希で器形文様だけを見れば青磁の波状文碗とも近いため暫定的にビロースクタイプに含めて報告する。79-3・4 は無文外反碗の口縁部資料(3)と底部資料(4)である。80-5 は無文直口碗の底部資料で、見込みは露胎とし、雷文帯によって円形に縁取りその中央に「得」の字を押印する。

80-6 は口禿皿の口縁部資料である。80-7  $\sim$  9 はいずれも抉入高台の皿で(直口 a )、いわゆる森田分類D群である。80-10  $\sim$  12 は外反皿で森田分類E群に該当する(外反 a )。

80-13は輪花杯で口唇部を刻み胴部に花弁の輪郭をヘラ彫り、見込みは露胎となる。80-14は白磁杯口縁部の小片で胎土釉調から森田分類E群に類似する。80-15は杯の底部小片と考えられる。内面は露胎し高台も小さく特徴的な器形である。80-16・17は白磁の壺で口縁部の小片で

ある。縦耳が付いたと考えられるが検討を要する。

## ④青白磁

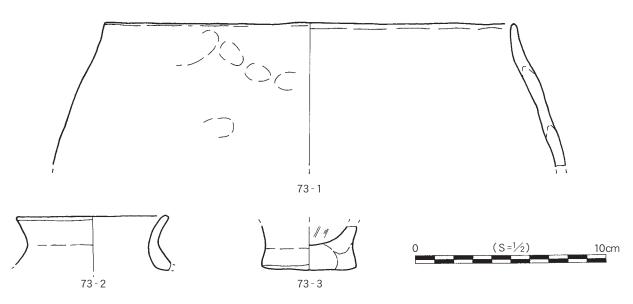
80-18は合子の蓋部分の破片資料と推定される。

### (5) 青花

81-1 は大振りの碗もしくは鉢の胴部片である。いわゆる雲堂手で人物・風景図を描いた物とみられる。81-2~4 は主郭分類碗 I 類で、2 は口縁部資料で外面には雷文帯を内面には四方襷文を配する。主文様は胴下半を欠くため不明。3 も口縁部資料で外面の主文様を唐草文とし、内面にも同種の文様を配する(外反 b)。4 は底部資料で胴部に描かれた主文様は不明、見込みは月梅図の一部と思われる(外反 c)。81-5・6 は主郭分類碗皿類の底部資料でいわゆる蓮子形となる。5 は腰部に蕉葉文を、見込みには蓮花文を配する(直口 a)。6 は見込み、外面とも三つ葉文を連続的に描き、豹柄様に配している。81-7~9 は主郭分類碗V類にあたる。7 は口縁部に波頭文、胴部にアラベスク文の一部を描く。8 も外面に波濤文を体部には蕉葉文を配している(直口 a)。81-10はダミ技法を用いて山水図を描く。82-1 は波濤文を口縁部に下方の文様は不明であるが唐草文等と推定される。いずれも器形的には主郭分類碗V類に類するが口唇部がやや肥厚しV類の特徴とは異なる点もあるため分類は保留する。82-2 は饅頭心の底部資料で主郭分類碗VI類に該当。見込みは花文、高台内に字款が見られるが判読は不明。82-3 は底部資料で上層からの出土であるため時代的に今帰仁城廃城以前の17世紀初頭まで遡るものか判断しかねる。粗製で胎土質の素地に白濁した釉が施釉され見込みには文様が染付けられるがこれも不明。

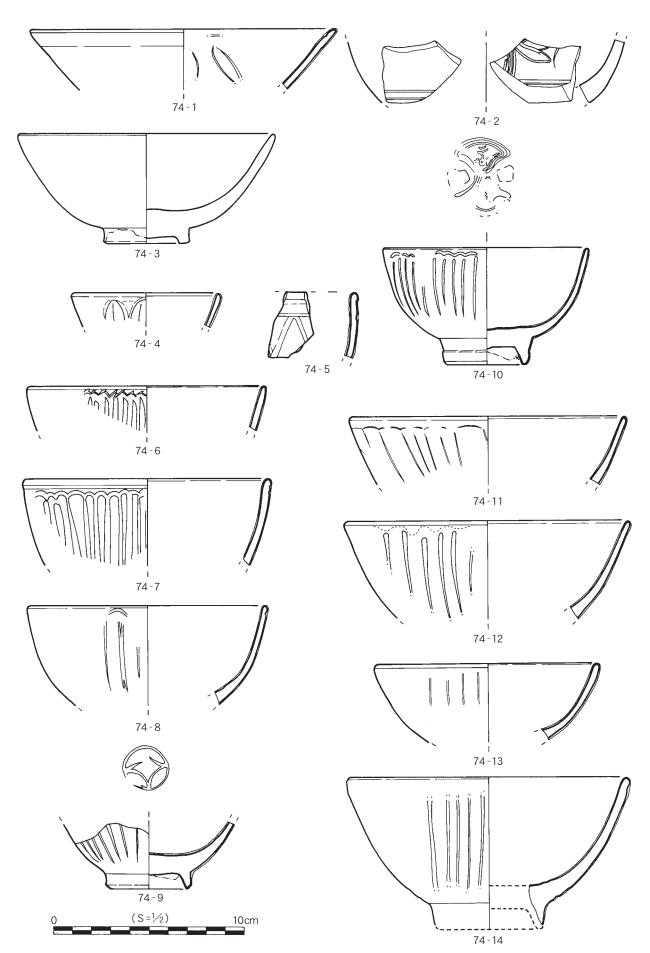
82-5~7は外反皿で主郭分類 I 類。5は見込みに十字文が描かれている。6は外面胴部に 唐草文が描かれ、見込みには十字文が配される。7は外面に唐草文と思われる文様が描かれ、 見込みは蛇の目状に釉剥ぎし中央に花文と思われる文様が配される。82-8 は碁笥底の皿で腰部には蕉葉文が描かれ、見込みには捻子花文が配されている(碁笥底皿 b)。9 も碁笥底の皿であるが一回りサイズが大きい物で外面には唐草、見込みには草花文が配される(碁笥底皿 c)。

82-10は主郭分類杯 II 類で腰部をゆるやかに屈曲させ、直線的に開く器形となる。腰部の文様は略した蓮弁文がハート形を逆さにしたように並ぶ(直口杯 c)。82-11・12は小杯で底部の削りだしは浅くなる。見込みにはいずれも一筆書きのモチーフ不明の簡略化した文様を描く。82-13は小壺で体部に唐草文を描く。82-14は玉壺春瓶の頸部資料で蕉葉文を描く。



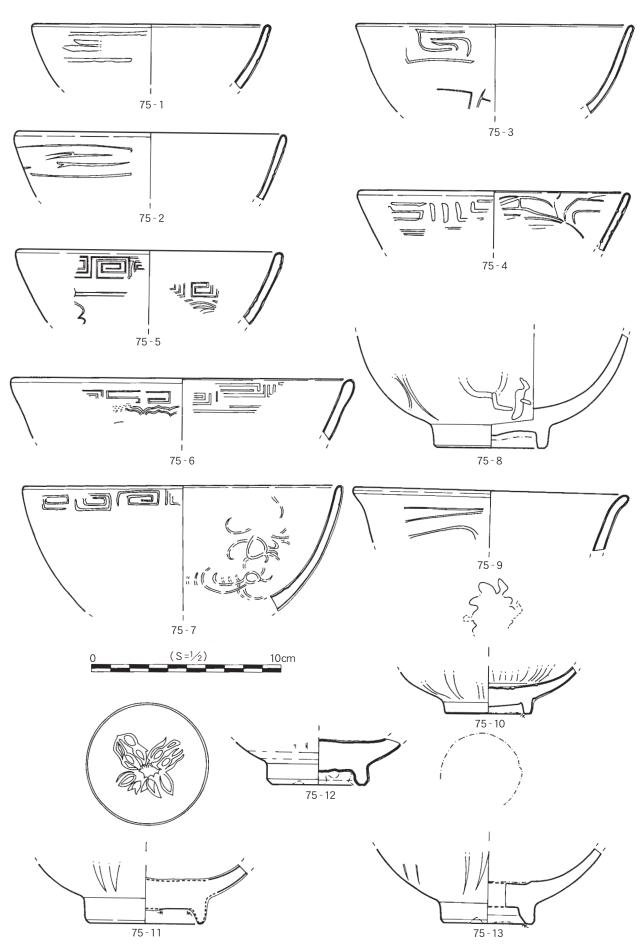
第73図 屋敷地 4 出土遺物(1)

土器 1:鉢もしくは甕 2:壺 3:底部



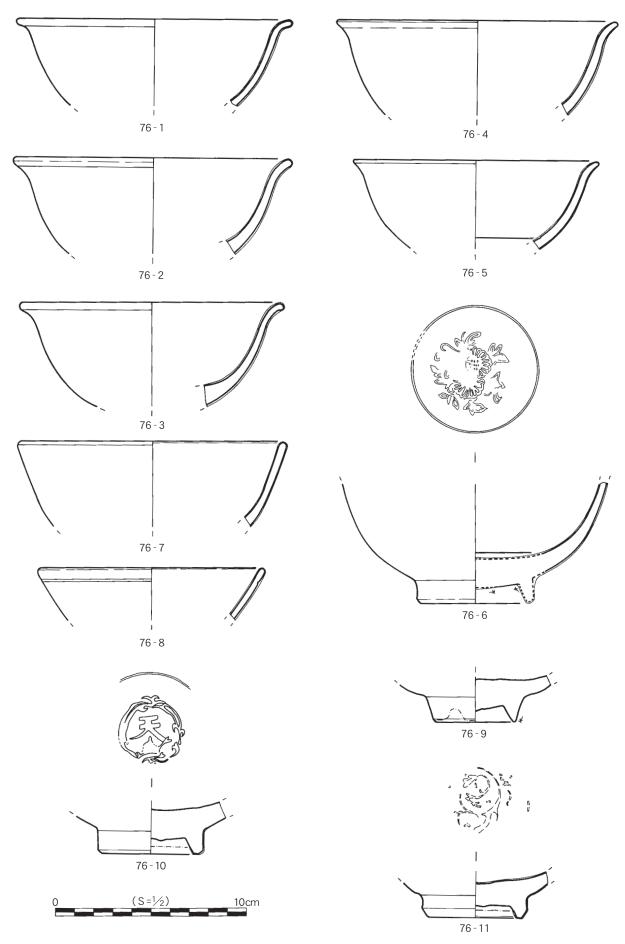
第74図 屋敷地 4 出土遺物(2)

青磁碗  $1 \cdot 2$  : 劃花文 3 : 無文 4 : 鎬蓮弁文小碗 5 : 無鎬蓮弁文  $6 \sim 14$  : 細蓮弁文



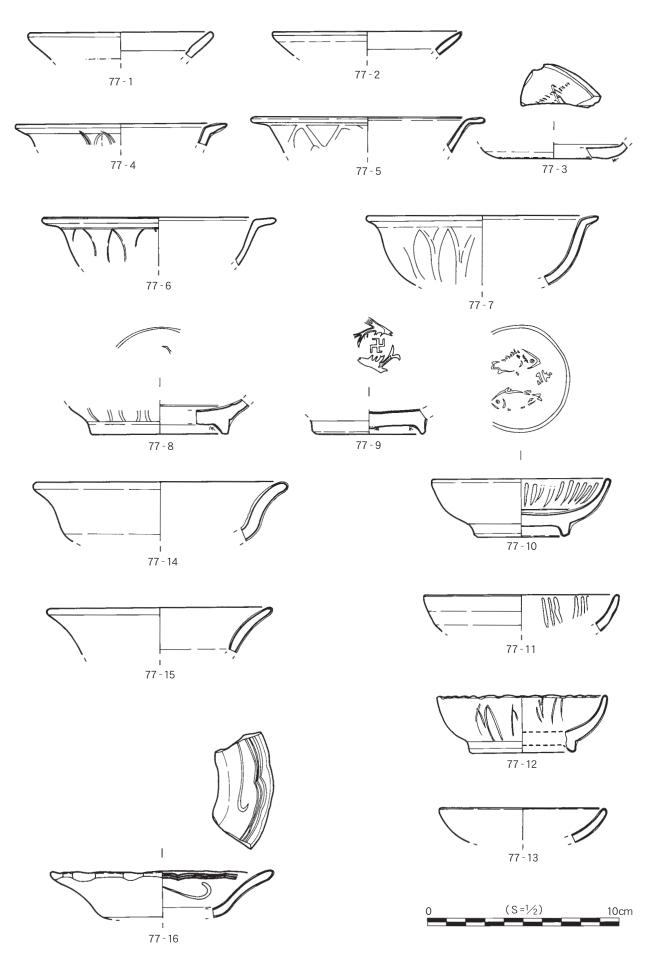
第75図 屋敷地4出土遺物(3)

青磁碗 1~8:雷文带 9:有文外反口縁 10~13:底部



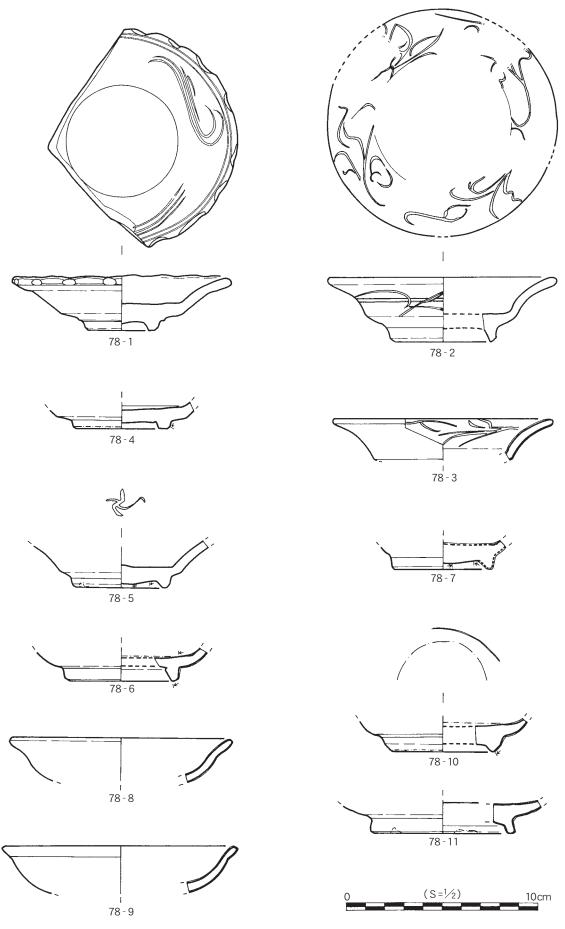
第76図 屋敷地4出土遺物(4)

青磁碗  $1 \sim 6$ :無文外反  $7 \cdot 8$ :無文直口  $9 \sim 11$ :底部



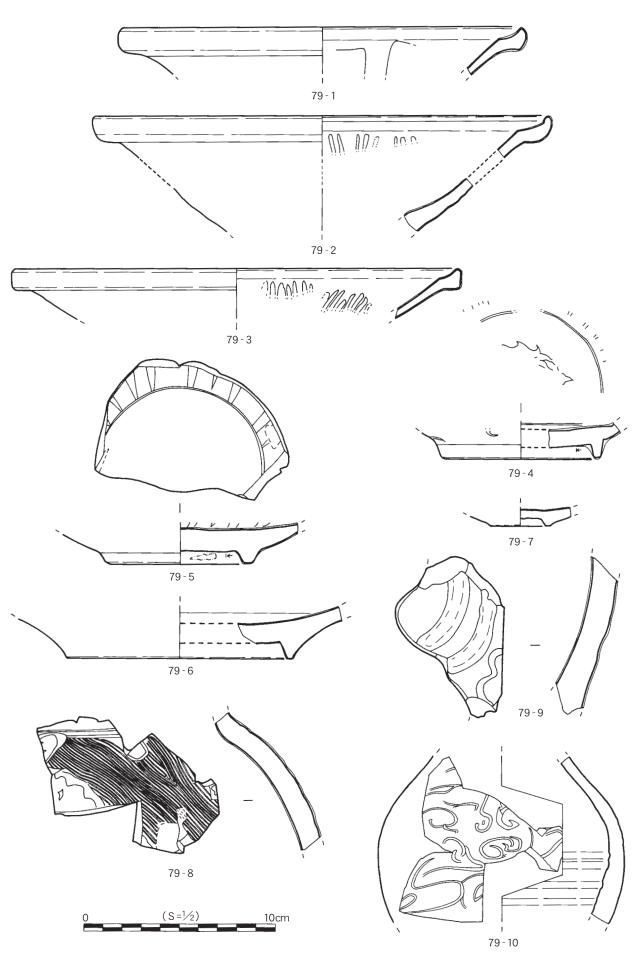
第77図 屋敷地4出土遺物(5)

青磁皿 1~3: 櫛描文 4~9: 口折 10~12: 腰折外反 13~16: 直口



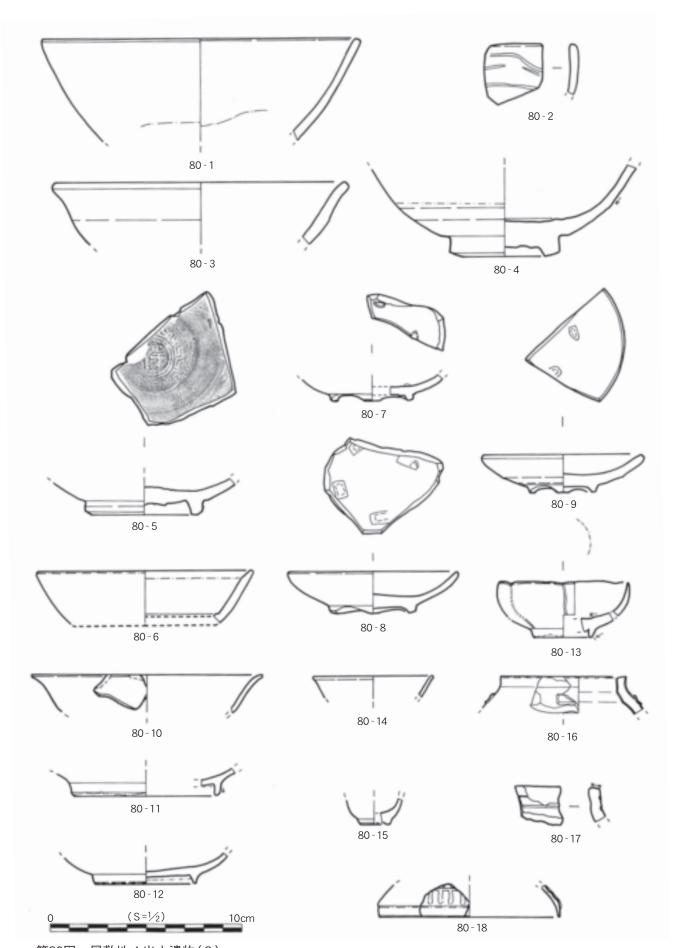
第78図 屋敷地4出土遺物(6)

青磁皿 1~6:腰折皿 7:底部 8~11:無文外反



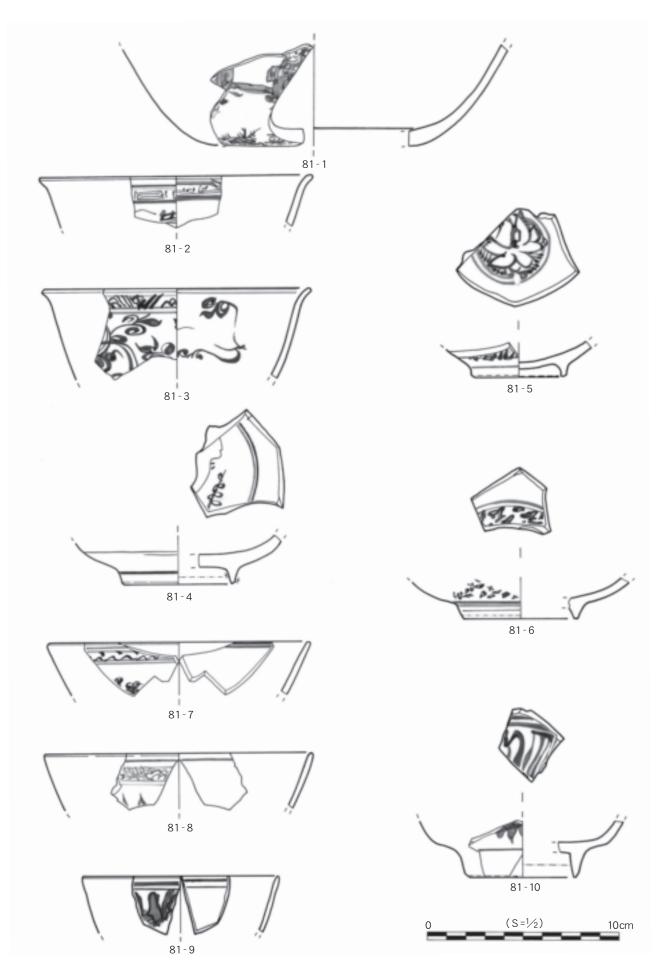
第79図 屋敷地4出土遺物(7)

青磁 1~6:盤 7:杯 8:酒会壺 9:器台 10:瓶

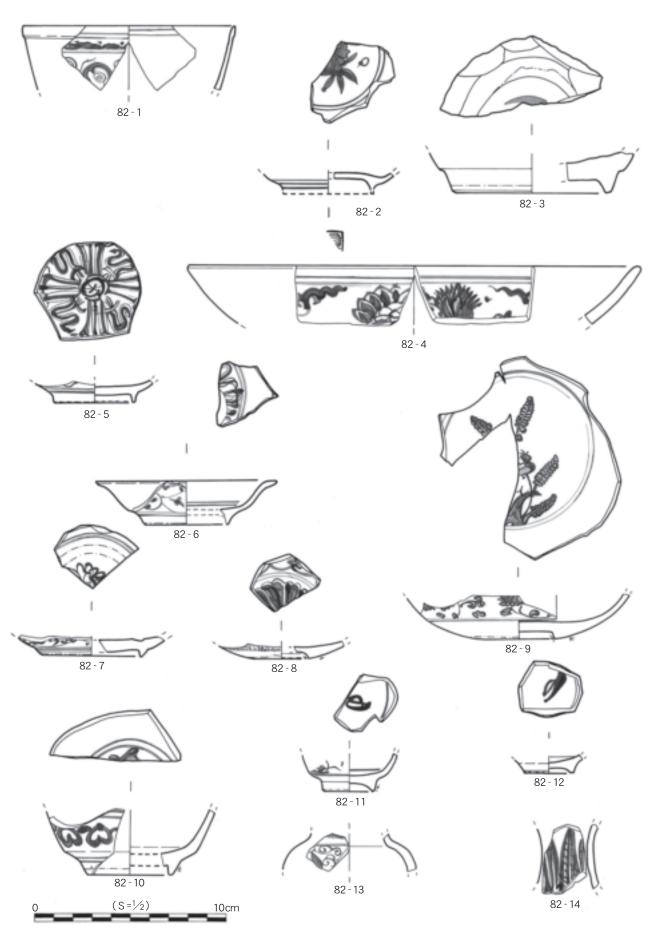


第80図 屋敷地4出土遺物(8)

白磁  $1 \sim 5$ :碗  $6 \sim 13$ :皿  $14 \cdot 15$ :杯  $16 \cdot 17$ :壺 18:青白磁合子

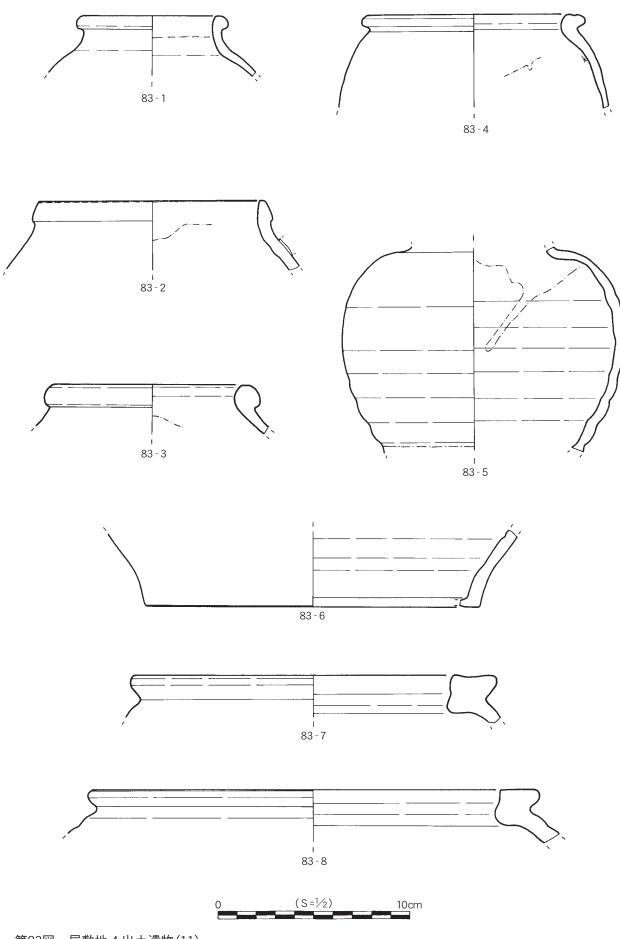


第81図 屋敷地4出土遺物(9) 青花 1:鉢 2~10:碗



第82図 屋敷地 4 出土遺物(10)

青花  $1 \sim 3$  : 碗 4 : 大皿  $5 \sim 9$  : 皿  $10 \sim 12$  : 杯 13 : 小壺 14 : 瓶

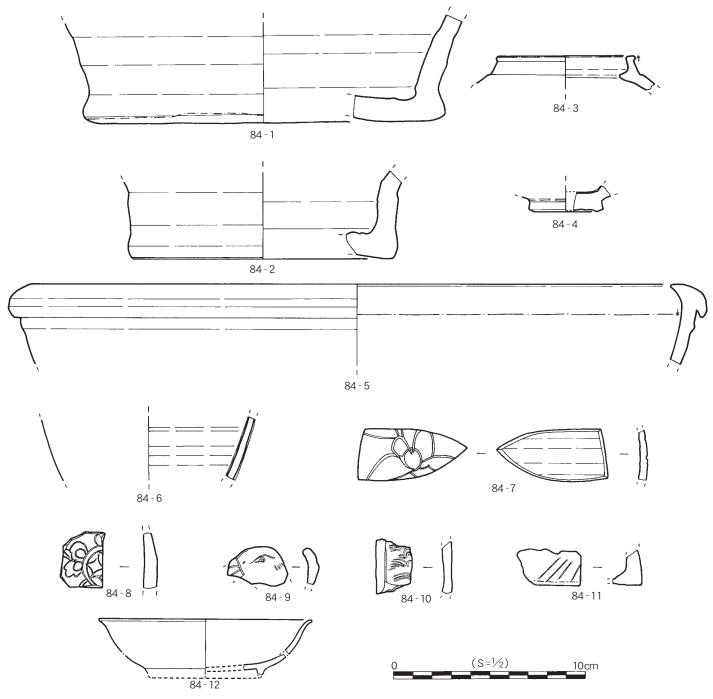


第83図 屋敷地 4 出土遺物(11)

褐釉陶器 1~3、5・6:壺 4:鉢 7~8:大型壺

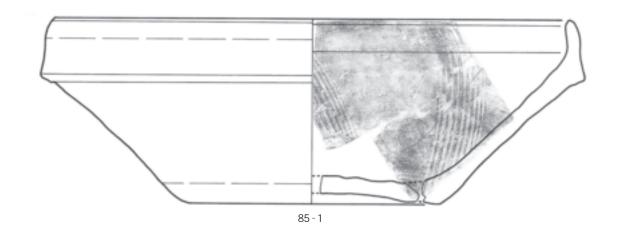
# ⑥褐釉陶器

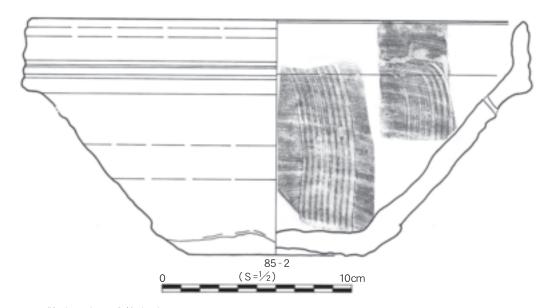
83-1~3 は褐釉陶器の壺で中・小型壺の口縁部資料であると考える(壺 b)。83-4 は鉢の口縁部で、やや胴部に張りのあるタイプである(深鉢 a)。83-5 は小型の壺になる胎土に粗砂粒を混和剤として用いるため器表面に露出している。83-6 は底部資料で破片内には褐釉は認められないが、素地などから判断した。83-7・8 及び84-1・2 は褐釉陶器の壺で前者 7・8 が口縁部(壺 d)、後者 1・2 が底部資料である。大型の壺になる資料である。84-3 は褐釉陶器の口縁部で口造りが主郭出土の褐釉陶器(『今帰仁城跡 II 』第72図-11)と類似することから注口をもった水注もしくは急須等の破片資料と考えられる(褐釉急須 b)。84-5 は褐釉陶器の鉢で口造りは屋敷地 3 で出土した褐釉陶器の擂鉢(57-2)に近似するが、擂り目は認められない。



第84図 屋敷地 4 出土遺物(12)

 $1 \sim 3 \cdot 5$  : 褐釉陶器 4 : 黒釉陶器碗 6 : 瑠璃釉  $7 \sim 11$  : 三彩 12 : 翡翠釉





第85図 屋敷地 4 出土遺物 (13)

備前焼 擂鉢

# ⑦黒釉陶器

84-4 は天目茶碗で底部片の資料である。見込みに厚く黒釉が施釉される。

### ⑧瑠璃釉

84-6 は瑠璃釉を外面に施釉した袋物(瓶など)の胴部片である。

#### ⑨三彩

84-7~11はいわゆる華南三彩釉陶器として分類される軟質の陶器である。7は胴部片で釉も剥落することから緑釉とも考えられる。8は三彩で緑・黄・茶色の釉が花文に配色された破片資料である。9は鴨形水注の鴨の首部分と推定される資料でくちばしには黄色の釉が、顔は緑色の釉が施釉されている。10は脚部周辺の装飾文と考えられる破片資料で波濤文が型造りで配されている。11は鴨形水注の底部と推定される緑釉が施されている。

### 10翡翠釉

84-12は翡翠釉を施釉した皿で内外面とも剥落が著しい。

### 11)備前

85-1・2は備前焼の擂鉢で、1は本報告分類 a 種とした資料で、2は b 種とした資料である。 前者は間壁編年(間壁1977)によればIV期15世紀頃とされ、後者はV期16世紀頃の資料とされる。

### (12)タイ陶磁

86-1~10は褐釉陶器で素地や釉調などからタイ産の陶磁器であると考えられる。  $1 \sim 2$  は中型の長胴壺で、 $3 \sim 8$  が大型の壺である。 3 は口縁部が僅かに肥厚し(壺 b)、4 は大きく肥厚し口縁上位に凹帯が廻る(壺 c)。 6 は口縁部が三角形状に肥厚する(壺 a)。  $3 \sim 5$  はノイ川窯系、 6 はその形態からシーサッチャナライ窯系の資料と目される。  $9 \cdot 10$  は褐釉陶器の口縁部で屈曲する口造りが特徴的な資料である。小型の瓶や壺の口縁資料と考えられる。

86-11・12は鉄絵合子の破片資料でいずれも蓋と推定した。

### ③ベトナム陶磁

86-13は小片ではあるが本調査区より得られた唯一のベトナム陶磁で染付瓶の胴部片と考えられる。

### (2)玉

87-1・2はガラス製の小玉で1は包含層出土で、2はPit165の遺構内より採土した覆土をフローテーションした際に確認した遺物である。いずれも透明のガラス小玉でサイズが $20\sim5\,\mathrm{mm}$ の(今帰仁城跡主郭分類)b 2種に該当する。

# (3) 銭貨

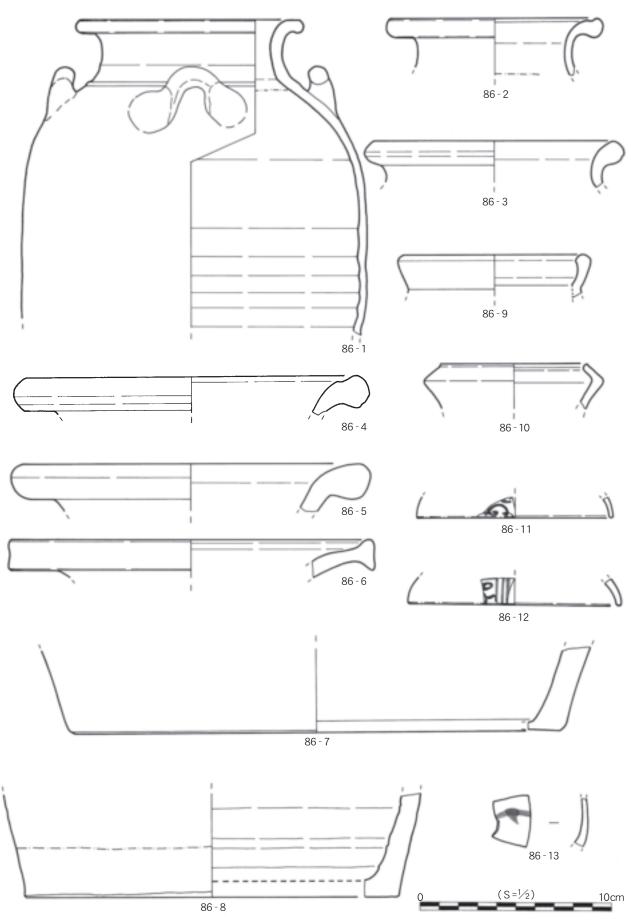
銭貨は3枚が得られている。87-3は□定□寶で、例として嘉定通寶(南宋、1208年)、紹定通寶(南宋、1228年)、景定元寶(南宋、1260)などが想定される。87-4は元祐通寶の折二銭(北宋、1093年)である。87-4は銭銘の判別できない銭である。模鋳銭と考えられ、踏み返しを繰り返した結果凹凸を減じていると考える。

#### (4) 金属製品

87-6~13は銅製品である。6は飾り金物で、孔が穿たれているところから放射状に花弁が広がる、モチーフは菊の花と考えられる。87-7は中央に家紋が配されている金具である。家紋は巴文を配し上下左右に四方にもこし状の文様が付いているため具志頭御殿紋章と近似すると考える。いずれの文様も鏨によって打ち付け施すもので左右対称となる。両端には孔が穿たれ、裏面は仕上げが雑であることから金物として調度品や武具類に付されたと考えられる。87-8~10は簪で、8はくの字に折れ曲がるが、これを復元した長さは6.3cmを推定する。断面は菱形で頭部の形状は耳掻きの先端部の形状に類し、首の部分では捻りボルトの溝のような装飾とする。9は頭部を、10は両端部を欠損する簪。断面は六角形でネジ巻きボルトの溝状の装飾が彫られている。87-11は丸頭の鋲で、87-12は鉄製品を銅製の金物を被せた製品である。87-13は板状の銅製品で鏡などの破片と推定する。

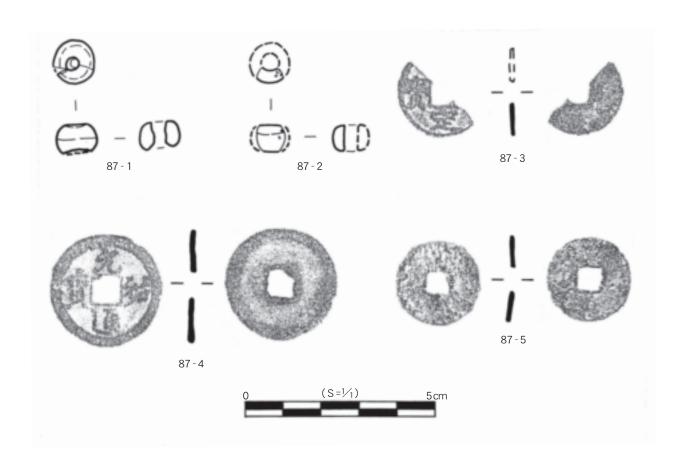
88-1~29は鉄製品である。 1~14は鉄釘で長短、断面の大小がある。 15~18は刀子である。 志慶真門郭の報告では刀子を I 類切っ先部分で反るものと、 I 類の刀身中央部より反るものに 二大別される。 これに従えば、15は I 類、 $16\cdot18$ は I 類として分類されると考える。 それぞれ の資料の推定される部位は15は切っ先部分の破片、16は切っ先部分を欠損する刀身から中茎ま での資料、17は中茎の破片、18は中茎を欠く刀身の資料と考えられる。  $19\cdot20$ は鉄鏃でいずれ も刃部を平坦とするタイプである。 21~23は棒状の不明鉄製品である。 24~26は板状の不明鉄製品でこれの用途も判然としない。 27は鎹状の鉄製品だが扁平の板状製品がコの字形になった ものとも判断される。 28は薄い板状の鉄製品で木質が錆ぶくれに付着していることから、刀子の柄部分であったとも考えられる。

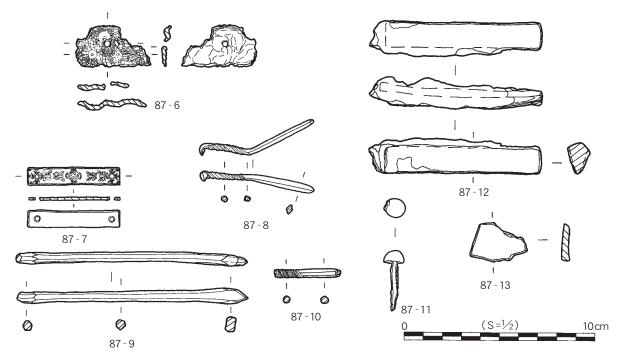
29はリング状の金具で直径1.5cmの孔が開いた製品である。



第86図 屋敷地 4 出土遺物(14)

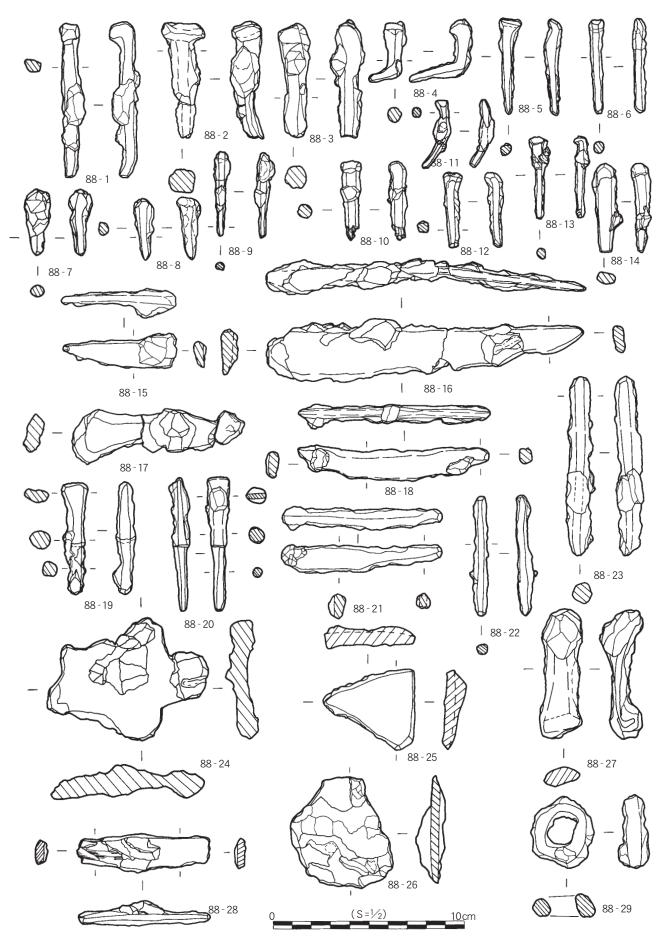
1~8: 褐釉陶器壺(タイ) 9・10: 褐釉陶器(タイ) 11・12: 鉄絵(タイ) 13: 染付(ベトナム)





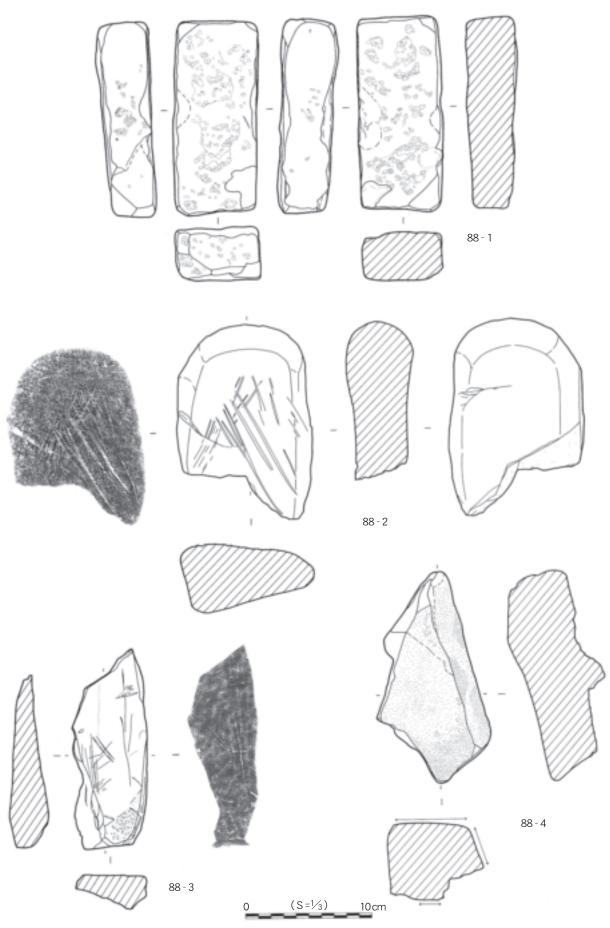
第87図 屋敷地 4 出土遺物(15)

 $1 \sim 2$  : 玉  $3 \sim 5$  : 銭貨  $6 \sim 13$  : 金属製品



第88図 屋敷地 4 出土遺物(16)

鉄製品 1~14: 釘 15~18: 刀子 19·20: 鏃 21~29: 不明



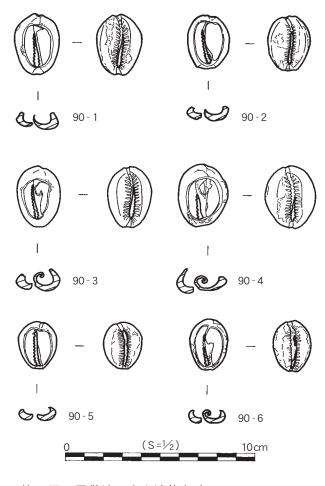
第89図 屋敷地 4 出土遺物(17) 石器 1~4:砥石

# (5) 石器

石器は砥石が11点得られている。一つの 屋敷地からの出土としては最も多い。このう ち4点を図示した。いずれも置き砥石である 89-1は四角柱になる砥石で風化したためか 作業面は凹凸している。石質は玢岩である。 89-2は砂岩製の砥石で楕円形の自然礫の上 下平坦面を作業面としたもので、図下資料の 上面は断面V字の溝が刻まれる。89-3は粘 板岩製の砥石で平坦面一箇所を作業面として いる。長軸方向に平行して溝が刻まれる。 89-4は前述した89-2と同様砂岩を材料とし た砥石である。作業面はもともと三面以上 あったと考えられるが、破損している。

# (6) 貝製品

貝製品とした資料は、タカラガイを素材とした遺物で、製品か自然遺物の殻頂部を欠損した遺物かは不明である。90-1~6はタカラガイの殻頂部の割れた表品で、漁網錘の可能性がある製品として紹介する。1~4はハナマルユキを、5・6はハナビラダカラを材料とする。



第90図 屋敷地 4 出土遺物 (18) 貝製品

# 4. 自然遺物

自然遺物については貝類を黒住耐二氏(千葉県立博物館)、脊椎動物遺骸を名島弥生(慶應義塾大学博士課程)に依頼し個体数を同定いただいた。植物遺体については本村で実施したため暫定的な結果とする。植物遺体の観察に大きな誤謬があれば宮城の責である。

# (1) 植物遺体

植物遺体については専門の鑑定をお願いしていない為詳細の検討は今後の課題とする。 採集した堆積土の一部をフローテーションした。実施したのはSK102の土坑(旧称S102)の各 遺構内覆土をサンプリングしてフローテーションを行った。採集した堆積土は約50リットルで ある。この中から、コメやムギの植物遺体を検出している。第15表に出土した植物遺体を同定 したものの一覧表を作成した。

## (2) 脊椎動物遺骸

脊椎動物遺骸については第16表に最大個体数(NSIP)と最小個体数(MNI)を示した。 所見の詳細については第W1章第4節を参照頂きたい。

## (3) 貝類遺体

貝類遺体は第17表に最小個体数(MNI)を示した。所見の詳細については第VI章第5節を参照頂きたい。

第15表 屋敷地 4 (サンプリング)の出土植物遺体

	数量		111. M/C EF (	T () +
SK102	完形 (粒)	破片数 (片)	推算最小 個体数	日万年 (n=345)
コメ	5	1	6	1.7%
コムギ	113		114	33.0%
オオムギ	18		18	5.2%
アワ	187		187	54.2%
キビ	20		20	5.8%
カヤツリグサ科?				0.0%
マメ科?				0.0%
不明	467			
総数			345	

第16表 屋敷地 4 出土脊椎動物種組成

		1	
動物種	NSIP	NNI	百分率
サメ類	2	2	11%
ハタ科			
アジ科			
クロダイ属	1	1	5%
フエフキダイ科			
ベラ科			
ブダイ科	6	2	11%
ニザダイ科			
モンガラカワハギ科			
ハリセンボン科	1	1	5%
ウミガメ	2	1	5%
イノシシ/ブタ	20	2	11%
ウシ	52	5	26%
ウマ	34	2	11%
ヤギ	1	1	5%
イルカ類			
ネズミ科	2	2	11%
その他			
計	121	8	
- A F 1			

<sup>\*</sup>漁骨はPick up法採集資料に基づく。

第17表 屋敷地4の貝類遺体の詳細組成

	屋敷地1 遺跡の MN I	生息場所類型
*コシダカサザエ	2	I -2-a
*チョウセンサザエ	24	I -3-a
*ヤコウガイ	10	I -4-a
*カンギク	1	II -1-b
<u>・// / / / / / / / / / / / / / / / / / /</u>		I -2-a
	1	
*ニシキウズ	1	I -2-a
*ムラサキウズ	1	I -3-a
*ベニシリダカ		I -4-a
*サラサバテイラ	3	I -4-a
*アマオブネ		I -1-b
*マルアマオブネ	4	II -1-b
*ニシキアマオブネ		I -1-c
*カノコガイ		<b>Ⅲ</b> -1-e
<u>・/// ニ//  </u> *オニノツノガイ	4	I -2-c
	4	
*コオニノツノ		I -2-a
*クワノミカニモリ	1	I -1-b
*オシマカニモリ		II -1-b
*ムカシタモト	2	I -2-b
*オハグロガイ		II -2-c
*マガキガイ	114	I -2-c
*ネジマガキ	1	I -2-c
<u>・                                    </u>		I -2-c
*クモガイ	2	I -2-c
*スイジガイ		I -2-c
*キイロダカラ		I -1-a
*ハナビラダカラ	4	I -1-a
*ハナマルユキ	9	I -3-a
*カモンダカラ	1	I -2-a
*コモンダカラ		I -2-b
*ナツメモドキ		I -2-b
*スソムラサキダカラ	2	I -2-a
*ウスムラサキダカラ	1	I -2-b
	1	
*クチムラサキダカラ		I -2-a
*ホシキヌタ	1	I -2-a
ヒメホシダカラ		I -2-b
*ヤクシマダカラ		I -2-a
*ホシダカラ	1	I -2-c
*タカラガイ類	6	I
*ミツカドボラ		I -3-a
*サツマボラ	2	I -3-a
*シロシノマキ		I -2-a
*シオボラ	1	I -2-a
*ホラガイ		I -4-a
*オキニシ	2	I -3-a
*イワカワウネボラ		I -3-a
*イワカワウネボラ *ガンゼキボラ	1	I -3-a I -2-a
	1 3	
*ガンゼキボラ		I -2-a I -3-a
*ガンゼキボラ *シラクモガイ *ツノレイシ	3 11	I -2-a I -3-a I -3-a
*ガンゼキボラ *シラクモガイ *ツノレイシ *ツノテツレイシ	3 11 1	I -2-a I -3-a I -3-a I -1-a
*ガンゼキボラ *シラクモガイ *ツノレイシ *ツノテツレイシ *テツレイシ	3 11 1 1	I -2-a I -3-a I -3-a I -1-a I -1-a
*ガンゼキボラ *シラクモガイ *ツノレイシ *ツノテツレイシ *テツレイシ *レイシ類	3 11 1	I -2-a I -3-a I -3-a I -1-a I -1-a I
*ガンゼキボラ *シラクモガイ *ツノレイシ *ツノテツレイシ *テツレイシ *レイシ類 *ムラサキイガレイシ	3 11 1 1 3	I -2-a I -3-a I -3-a I -1-a I -1-a I I -3-a
*ガンゼキボラ *シラクモガイ *ツノレイシ *ツノテツレイシ *テツレイシ *レイシ類 *スラサキイガレイシ *アカイガレイシ	3 11 1 1	I -2-a I -3-a I -3-a I -1-a I -1-a I I -3-a
*ガンゼキボラ *シラクモガイ *ツノレイシ *ツノテツレイシ *テツレイシ *ナイシ類 *スラサキイガレイシ *キイロイガレイシ	3 11 1 1 3	I -2-a I -3-a I -3-a I -1-a I -1-a I I -3-a
*ガンゼキボラ *シラクモガイ *ツノレイシ *ツノテツレイシ *テツレイシ *ナイシ類 *ムラサキイガレイシ *アカイガレイシ *キイロイガレイシ *コオニコブシ	3 11 1 1 3	I -2-a I -3-a I -3-a I -1-a I -1-a I I -3-a
*ガンゼキボラ *シラクモガイ *ツノレイシ *ツノテツレイシ *テツレイシ *ナイシ類 *スラサキイガレイシ *キイロイガレイシ	3 11 1 1 3	I -2-a I -3-a I -3-a I -1-a I -1-a I I -3-a I -3-a
*ガンゼキボラ *シラクモガイ *ツノレイシ *ツノテツレイシ *テツレイシ *ナイシ類 *ムラサキイガレイシ *アカイガレイシ *キイロイガレイシ *コオニコブシ *イトマキボラ	3 11 1 1 3 2	I -2-a I -3-a I -3-a I -1-a I -1-a I -1-a I -3-a I -3-a I -3-a I -3-a I -3-a I -3-a
*ガンゼキボラ *シラクモガイ *ツノレイシ *ツノテツレイシ *テツレイシ *ナイシ類 *ムラサキイガレイシ *アカイガレイシ *キイロイガレイシ *コオニコブシ *イトマキボラ *リュウキュウツノマタ	3 11 1 1 3 2	I -2-a I -3-a I -3-a I -1-a I -1-a I -1-a I -3-a I -3-a I -3-a I -3-a I -3-a I -3-a I -2-a I -2-a
*ガンゼキボラ *シラクモガイ *ツノレイシ *ツノテツレイシ *テツレイシ *レイシ類 *ムラサキイガレイシ *アカイガレイシ *オイロイガレイシ *オトマキボラ *リュウキュウツノマタ *ツノマタモドキ	3 11 1 1 3 2 40	I -2-a I -3-a I -3-a I -1-a I -1-a I -1-a I -3-a I -3-a I -3-a I -3-a I -2-a I -2-a I -2-a I -3-a
*ガンゼキボラ *シラクモガイ *ツノレイシ *ツノテツレイシ *テツレイシ *ナイシ類 *ムラサキイガレイシ *アカイガレイシ *キイロイガレイシ *コオニコブシ *イトマキボラ *リュウキュウツノマタ	3 11 1 1 3 2	I -2-a I -3-a I -3-a I -1-a I -1-a I -1-a I -3-a I -3-a I -3-a I -3-a I -3-a I -3-a I -2-a I -2-a

	屋敷地1 遺跡の	生息場所類型
1711-15-	MNI	T 0
*チトセボラ		I -2-c
*ニシキノキバフデ		I -2-a
*マダライモ	3	I -1-a
*サヤガタイモ		I -1-a
*ハナワイモ?		I -1-a
*ジュズカケサヤガタイモ		I -1-a
*キヌカツギイモ		I -2-a
*イボシマイモ	3	I -2-a
ササラモドキ		I -2-c
*ヤナギシボリイモ	1	I -3-a
*ハイイロミナシ		I -3-a
*サラサミナシ		I -2-c
*クロミナシ	2	II -2-c
*ミカドミナシ		I -2-c
*アカシマミナシ		I -2-c
*ゴマフイモ		I -2-c
*コモンイモ		I -2-c
*アンボンクロザメ	1	I -2-c
*アジロイモ	1	II -2-c
*小型イモガイ	11	
*中型イモガイ	19	
*大型イモガイ		
*トウガタカワニナ	2	IV-5/6
*カワニナ		IV-5/6
*エガイ		I -1-a
*クロミノエガイ		II -2-a
*ベニエガイ		I -2-a
*リュウキュウサルボオ	1	I -2-a
*メンガイ類	1	I -2-a
*シロザル?	1	I -2-a
*キクザル類	1	I -2-a
*リュウキュウザル		II -2-c
	2	
*カワラガイ		II -2-c
	2	I -2-a
*ヒレジャコ	1	I -2-c
*ヒメジャコ	2	I -2-a
*シャゴウ	1	I -2-c
*シャコガイ類	1	I -2
*イソハマグリ	11	I -1-c
*ナミノコマスオ	1	I -1-c
*サメザラ		I -2-c
*シレナシジミ		П-0-с
*ヌノメガイ	1	II -2-c
*アラヌノメ	1	I -3-c
*ホソスジイナミ	1	П-1-с
*アラスジケマン		<b>Ⅲ</b> -1-c
*ヒメイナミ		I -1-c

生息場所類型 (Habitat)

I:外洋ーサンゴ礁域

Open sea coast- Coral reef area

Ⅱ:内湾一転石域

Inland sea - boulder area

Ⅲ:河口干潟ーマングローブ域 Tidal flat - Mangrove area

Ⅳ:淡水域

Fresh water area

V:陸域

Terrestrial area

VI:その他 Others

# 第5節 その他

ここで取り扱う地区はいわゆる恒常的な生活を想定しない地域で、屋敷周辺の緩衝地帯、藪・原野あるいは方言でいう「毛」となっていたと推定する。後段で詳述するが、ここでは単に岩盤の発達した場所や崖斜面、近代の地積図で確認することのできる道跡などの遺構を掲載した。具体的にはそれぞれI区、道跡、IV区、ハラクブを報告する。

## 1. I区

I区は今泊5053で、石積みによって南北に区画され北側の小区画が南側に比べ一段低くなっている。北側をb、南側をaとした。東側に国道115号線があるため東区と分断されているが、道が通る以前には東区と一体となっていた地区と推定される。現況地形は畝を設けていることからサトウキビ畑等として近年まで耕作されていたことを窺うことができる。また、北側にはガマが所在しこのガマは仲原門中の拝所となっている。

#### (1) 層序

遺跡の層序を理解する上で東西ライン(J-16・17北壁)を図化した。以下詳述する。

I**層(上層)**:Hue7.5YR黒褐色 3/2。約2~5 cmの現表土全体を覆う腐植土層。(ナンバーリング I 層・表採)

II **層(上層)**: Hue7.5YR暗褐色 3/3~3/4。約20~30cmの堆

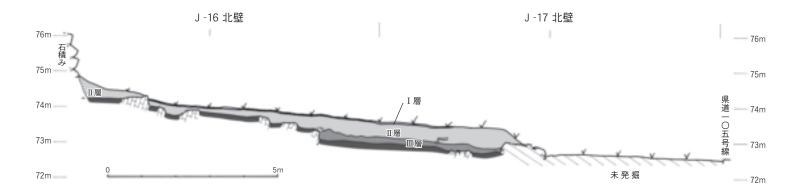


第91図 I 区調査個所位置図

積。耕作土。 I 層とともに上面は凹凸となり畝が明瞭に残る。赤土がブロック状に含まれ、炭を含む土層。(ナンバーリング II 層)

**Ⅲ層(中層)**: Hue7.5YR黒褐色 3 / 2。岩盤と岩盤の間に僅かに堆積する約 5 ~ 10cmの堆積層。 グスク時代の遺物包含層と思われるが不明。炭化物を僅かに含み、粘性はほとんど無い土層。 Ⅱ層との層界は不明瞭。被覆は一部で全体には認められない。(ナンバーリングⅢ層)

IV**層(下層)**:Hue10YR褐色土層 4/4。遺物をほとんど含まない自然堆積層と考えられ、遺跡 形成期の地表面と想定される。赤褐色の地山層とまだら状になり土層。(ナンバーリングⅢ層) V**層(地山)**: 所々岩盤が露頭し、遺物を全く含まない自然堆積層で、粘板岩を含む堆積層と、



第92図 I 区セクション

含まず粘性のある締まった土層の層相の異なる地山からなる。

- ・Hue2.5Y黄褐色5/4。やや粘性があり粘板岩を多く含む固く締まった土層。地山。
- ・Hue 5 B青灰色 5/4。古生代石灰岩の岩盤。地山。

### (2)遺構

グスク時代の遺構の検出はなかった。ただし近現代に構築されたと考える石積みが数列確認 されている。

# (3) 人工遺物

陶磁器を中心に287点(推定個体数)の遺物が出土している。

#### ①カムィヤキ須恵器

93-1 はカムィヤキ須恵器の底部で、内面は横方向の雑な調整が残る。雑な調整のため輪積みの状況が観察できる。外面は僅かに平行線の調整痕が残るが概してナデ調整によって平滑となる。

### ②青磁

93-2 は外面に蓮弁、内面に文様を施す無鎬蓮弁文碗で口縁部を外反させる(無鎬IIa)。93-3・4 は細蓮弁文碗で前者がc、後者がa種である。93-5・6 は雷文帯碗aで、5 はヘラ彫りによる雷文が口縁部に描かれ、体部にはラマ式蓮弁と思われる文様が廻る。6 は5 と別個体の底部資料と考えられ外体面にラマ式蓮弁文と思われる文様、見込みには印花が施される。93-7 は外反碗で、有文の資料である。93-8 は無文外反碗。93-9 は無文直口碗。93-10は無文外反碗の底部と推定される資料で、見込みは釉剥ぎされ露胎となる。93-11は無文直口碗もしくは細蓮弁文碗の底部資料となると考えられる。底部に厚みがあり高台径が小さいタイプである。

94-1 は蓮弁口折皿 b 種の口縁部資料で、内体面から鍔上面へ折れる部分が明瞭な稜を持つ。94-2 は復元径が大きいが皿の底部と推定される資料で、主郭分類口折皿 I の底部に近似する資料で、高台を全面施釉し畳付だけを掻き取って露胎とする。94-3・4 は口折皿 c の口縁部資料で、器肉は厚く内体面から鍔上面へ折れる部分の稜はやや緩やかである。94-5 は蓮弁直口皿で、外面に幅広の蓮弁を、内面に箆彫りの蓮弁を施す。94-6 は無文直口皿で、見込みに圏線を廻らせる。94-7 は無文直口皿の底部資料で見込みに印花文を押印する。

94-8 は碁箇底小杯の底部資料である。94-9 は鍔縁盤 I の口縁部資料で、内面には線彫りによって文様が描かれている。94-10は瓶の肩部の資料。

### ③白磁

94-11は今帰仁タイプの白磁碗底部資料で高台内を浅く削り、見込みは輪状に釉剥ぎする。94-12は志慶真分類 II 類としたいわゆる「枢府手」タイプに近似する資料で、内面に菊花文と蓮弁を配する(印刻文碗)。94-13・14は白磁外反碗の口縁部資料。94-15は口禿皿の口縁部。94-16は外反皿の底部資料である(外反皿 a)。

94-17は体部が八角形に面取される杯で硬質で磁胎となる。94-18は小破片だが壺(酒会壺?)と推測される口縁部資料で、口唇部を釉剥ぎし露胎とする。

# ④青花

95-1 は主郭分類碗V類の底部資料で外面にアラベスク文が描かれる(直口碗c)。95-2 は蓋の摘み部分の資料で如意頭状の形状で頂部を中心に渦文が描かれる。

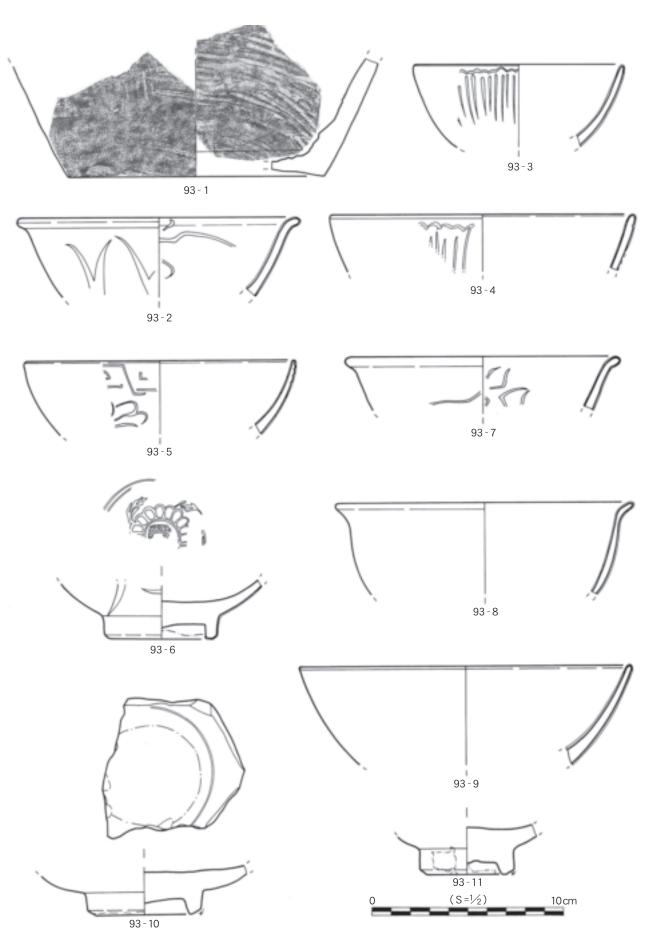
### ⑤褐釉陶器

95-3~5は褐釉陶器の壺で、3は口縁部を折り曲げ、頸部に沈線を施す特徴を持つ(壺b)。4は口唇部をわずかに肥厚させるタイプで、5は褐釉陶器壺の底部資料である。95-6は口縁部上端を平坦とする資料で器種は壺を推定する。95-7は褐釉陶器の急須注口部分の破片資料である。

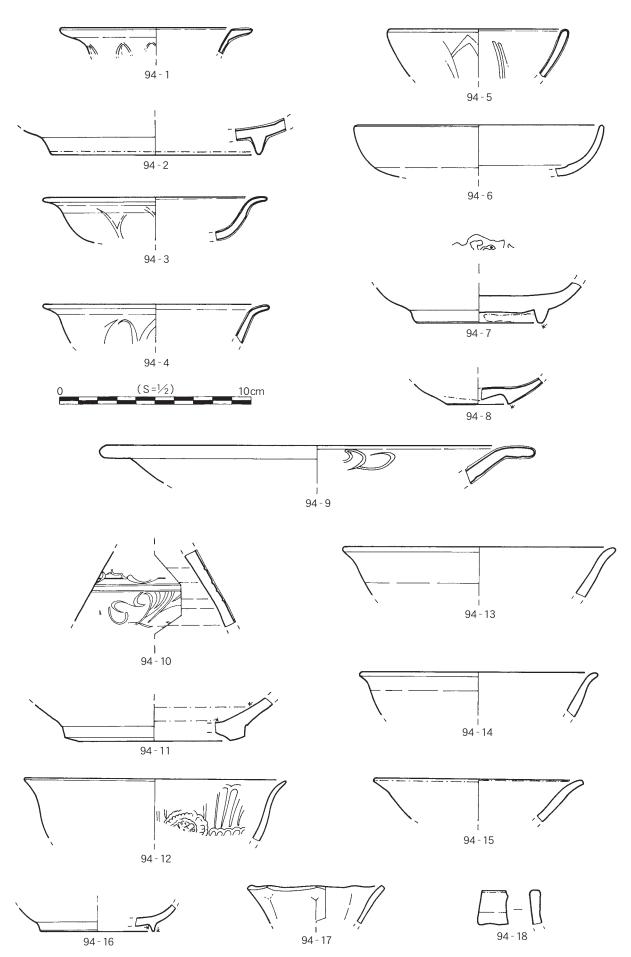
# ⑥タイ陶磁

95-8~10は褐釉陶器の壺で、8は大型壺の肩部資料である。9は中型長胴壺の底部、10は大型壺の底部資料と推測される。95-11は合子の蓋で内面は露胎とし外面に鉄絵による文様が描かれる。

	51X			Ind D. No.	<b>ポハナー</b>
和	重別	分類 土器	器種・分類 鍋・鉢・壺・等	個体数 1	百分率 0.35%
	在地	工 <u>品</u> カムィヤキ	・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	1	0.35%
	11.70	瓦質土器	蓋・不明	-	0,0070
			碗	133	46.34%
			III.	54	18.82%
			盤	6	2.09%
		青磁	杯   香炉	8 1	2.79% 0.35%
		H RAA	瓶	2	0.70%
			器台		011 070
			酒会壺 (身・蓋)		
			置物		
			碗皿	8 11	2.79% 3.83%
			杯	5	1.74%
		白磁	燈明皿	1	0.35%
			壺	1	0.35%
			瓶		
			元様式	1.6	E E 70/
			碗皿	16 18	5.57% 6.27%
			大皿	10	0.2170
		**	杯・小杯	1	0.35%
		青花	壺		
			瓶	4	1.39%
	中国		鉢   水注		
			合子(身・蓋)	1	0.35%
		± r**	瓶	1	0.00/0
陶		青白磁	合子		
磁器		天目	碗	1	0.35%
		白濁釉陶器	壺		
			茶入れ 急須(身・蓋)		
			小型壺	4	1.39%
		AD 451.000 000	大型壺	4	1.39%
		褐釉陶器	長胴壺		İ
			擂鉢		
			深鉢		
		五彩	花鉢碗		
			碗		
		瑠璃釉	瓶		
			Ш		
		翡翠釉	壺		
		A7 &1.	瓶		
		 緑釉 三彩	水注	1	0.35%
			盖	1	0.35%
		土器	壺	_	
		鉄絵	合子	2	0.70%
	タイ		大型壺	1	0.35%
		褐釉陶器	中型壺	1	0.35%
			小型壺 瓶		
	ベト	白磁	碗		
	ナム	青花	瓶・その他		
	高麗	青磁	碗		
	備前	焼締め	擂鉢		
[76 <u>-</u> 1	肥前 磁器	染付	総計	287	
			<del>松</del> 町 勾玉	401	
3	E類		E・小玉		
		中国	銭(有文)		
金	线貨		無文銭		
			永通寶	5	
			釘   刀子	о	
		鉄製品	鏃		
			鋏		l
- 公同	<b>属製品</b>		その他・不明	4	
ᄺᅩᄹ	-44×111	鉄製品	推定・近現代	4	
			座金・飾り金物等		
		銅製品	鋲等 簪・装飾品		
			その他・不明		
			砥石	1	
Z	製品		硯		
17			錘		
	dut →	V. V. 11	a distillation have .		
	製品		イ製漁網錘?	1	
貝	製品製品	Ť	イ製漁網錘? 骨ヘラ ブラシ	1	

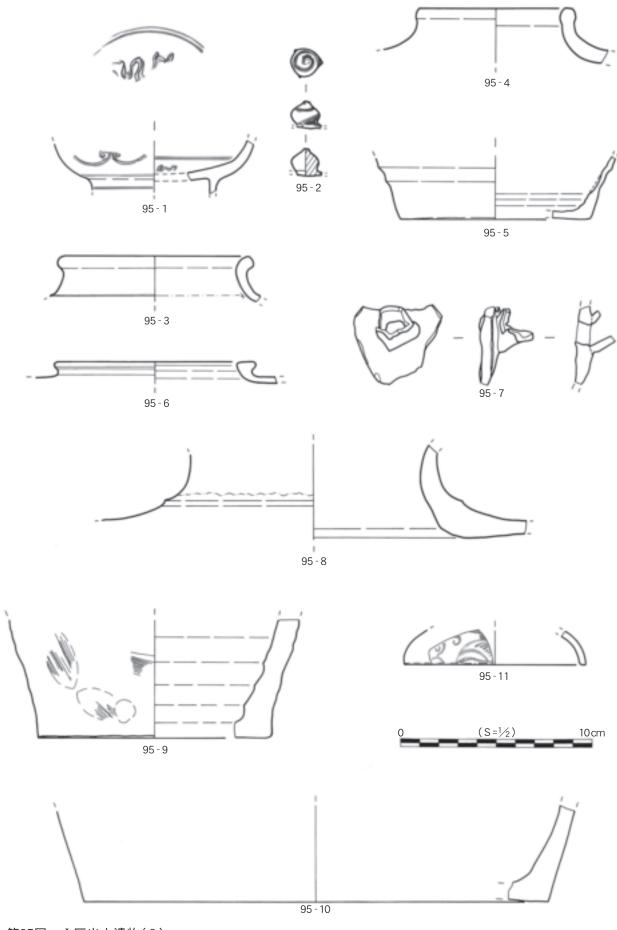


第93図 I 区出土遺物(1) 1:カムィヤキ 2~11:青磁碗



第94図 I区出土遺物(2)

 $1 \sim 7$ : 青磁皿 8: 青磁杯 9: 青磁盤 10: 青磁瓶  $11 \sim 14$ : 白磁碗  $15 \cdot 16$ : 白磁皿 17: 白磁杯 18: 白磁壺



1: 青花碗 2: 青花蓋  $3\sim5:$  褐釉陶器壺 6: 褐釉陶器鉢 7: 褐釉陶器急須  $8\sim10:$  褐釉陶器壺(タイ) 11: 鉄絵合子(タイ)

# ⑦金属製品

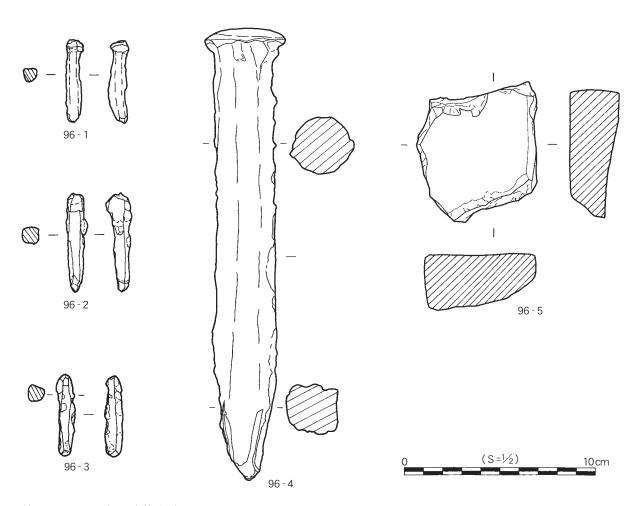
 $96-1 \sim 4$  は鉄製品で  $1 \sim 3$  は包含層より出土したグスク時代相当期の遺物である。いずれも釘になると考えられる。96-4 はグスク時代まで遡らない現代~近世期の製品と考えられる。断面六角形の鏨である。

# ⑧石器

96-5は砥石の破片で砥面が1面残存する。石質は砂岩である。

# (4) 自然遺物

自然遺物は貝類遺体のみの報告となる。貝類は黒住耐二氏(千葉県立博物館)に依頼し個体数を同定いただいた。第19表に最小個体数(MNI)を示した。所見の詳細については第VI章第5節を参照頂きたい。



第96図 I 区出土遺物(4) 1~3:鉄釘 4:鉄鏨 5:石器

第19表 Ι区の貝類遺体の詳細組成

	屋敷地1 遺跡の MN I	生息場所類型
*コシダカサザエ	1	I -2-a
*チョウセンサザエ	22	I -3-a
*ヤコウガイ	2	I -4-a
*カンギク		II -1-b
*オオウラウズ		I -2-a
*ニシキウズ	1	I -2-a
*ムラサキウズ		I -3-a
*ベニシリダカ		I -4-a
*サラサバテイラ	4	I -4-a
<u>*** フッパティフ                                    </u>		I -1-b
<u>*フ・オフホ</u> *マルアマオブネ	1	II-1-b
*ニシキアマオブネ	1	
		I -1-c
*カノコガイ	1	<b>Ⅲ</b> -1-e
*オニノツノガイ	9	I -2-c
*コオニノツノ		I -2-a
*クワノミカニモリ	17	I -1-b
*オシマカニモリ		II -1-b
*ムカシタモト	2	I -2-b
*オハグロガイ	1	II -2-c
*マガキガイ	61	I -2-c
*ネジマガキ	1	I -2-c
*イボソデ		I -2-c
*クモガイ	4	I -2-c
*スイジガイ	1	I -2-c
*キイロダカラ		I -1-a
*ハナビラダカラ	2	I -1-a
*ハナマルユキ	34	I -3-a
*カモンダカラ	1	I -2-a
*コモンダカラ	1	I -2-b
*ナツメモドキ		I -2-b
*スソムラサキダカラ		I -2-a
*ウスムラサキダカラ		I -2-b
*クチムラサキダカラ	1	I -2-a
*ホシキヌタ	3	I -2-a
ヒメホシダカラ		I -2-b
*ヤクシマダカラ		I -2-a
<u>*</u> ホシダカラ		I -2-c
<u>**</u> *タカラガイ類	5	I
<u>*ラハフハー娘</u> *ミツカドボラ	1	I -3-a
	1	
*サツマボラ		I -3-a
*シロシノマキ		I -2-a
*シオボラ		I -2-a
*ホラガイ		I -4-a
*オキニシ	3	I -3-a
*イワカワウネボラ		I -3-a
*ガンゼキボラ	2	I -2-a
*シラクモガイ	2	I -3-a
*ツノレイシ	<del></del>	I -3-a
*ツノレイシ *ツノテツレイシ	7	
*ツノレイシ *ツノテツレイシ *テツレイシ	<del></del>	I -3-a
*ツノレイシ *ツノテツレイシ *テツレイシ *レイシ類	<del></del>	I -3-a I -1-a I -1-a I
*ツノレイシ *ツノテツレイシ *テツレイシ *レイシ類 *ムラサキイガレイシ	<del></del>	I -3-a I -1-a I -1-a I I -3-a
*ツノレイシ *ツノテツレイシ *テツレイシ *レイシ類	<del></del>	I -3-a I -1-a I -1-a I
*ツノレイシ *ツノテツレイシ *テツレイシ *テツレイシ *レイシ類 *ムラサキイガレイシ *アカイガレイシ *キイロイガレイシ	<del></del>	I -3-a I -1-a I -1-a I I -3-a
*ツノレイシ *ツノテツレイシ *テツレイシ *テツレイシ類 *ムラサキイガレイシ *アカイガレイシ *オイロイガレイシ *コオニコブシ	<del></del>	I -3-a I -1-a I -1-a I I -3-a I -3-a
*ツノレイシ *ツノテツレイシ *テツレイシ *テツレイシ *レイシ類 *ムラサキイガレイシ *アカイガレイシ *キイロイガレイシ	7	I -3-a I -1-a I -1-a I I -3-a I -3-a I -3-a
*ツノレイシ *ツノテツレイシ *テツレイシ *テツレイシ類 *ムラサキイガレイシ *アカイガレイシ *オイロイガレイシ *コオニコブシ *イトマキボラ *リュウキュウツノマタ	7	I -3-a I -1-a I -1-a I I -3-a I -3-a I -3-a I -3-a
*ツノレイシ *ツノテツレイシ *テツレイシ *テツレイシ類 *ムラサキイガレイシ *アカイガレイシ *オイロイガレイシ *コオニコブシ *イトマキボラ *リュウキュウツノマタ	7	I -3-a I -1-a I -1-a I I -3-a I -3-a I -3-a I -3-a I -2-a
*ツノレイシ *ツノテツレイシ *テツレイシ *テツレイシ類 *ムラサキイガレイシ *アカイガレイシ *オイロイガレイシ *オイコブジ *イトマキボラ	7	I -3-a I -1-a I -1-a I -3-a I -3-a I -3-a I -3-a I -3-a I -3-a I -2-a I -2-a
*ツノレイシ *ツノテツレイシ *テツレイシ *テツレイシ類 *ムラサキイガレイシ *アカイガレイシ *キイロイガレイシ *コオニコブシ *イトマキボラ *リュウキュウツノマタ *ツノマタモドキ	7	I -3-a I -1-a I -1-a I -1-a I -3-a I -3-a I -3-a I -3-a I -2-a I -2-a I -2-a I -3-a

	屋敷地1 遺跡の	生息場所類型
	MNI	
*チトセボラ		I -2-c
*ニシキノキバフデ	1	I -2-a
*マダライモ		I -1-a
*サヤガタイモ		I -1-a
*ハナワイモ?	1	I -1-a
*ジュズカケサヤガタイモ		I -1-a
*キヌカツギイモ	1	I -2-a
*イボシマイモ	1	I -2-a
ササラモドキ		I -2-c
*ヤナギシボリイモ		I -3-a
*ハイイロミナシ		I -3-a
*サラサミナシ		I -2-c
*クロミナシ	1	II -2-c
*ミカドミナシ		I -2-c
*アカシマミナシ		I -2-c
*ゴマフイモ		I -2-c
*コモンイモ		I -2-c
*アンボンクロザメ		I -2-c
*アジロイモ		II -2-c
*小型イモガイ	3	1120
*中型イモガイ	17	
*大型イモガイ	3	
*トウガタカワニナ	2	IV-5/6
*カワニナ	5	IV-5/6
*エガイ	J	I -1-a
*クロミノエガイ	4	
*ベニエガイ	4	II -2-a
*リュウキュウサルボオ	9	I -2-a
	3	I -2-a
*メンガイ類	3	I -2-a
*シロザル?	1	I -2-a
*キクザル類		I -2-a
*リュウキュウザル	1	П-2-с
*カワラガイ		II -2-c
*シラナミ	1	I -2-a
*ヒレジャコ	1	I -2-c
*ヒメジャコ	2	I -2-a
*シャゴウ	1	I -2-c
*シャコガイ類	2	I -2
*イソハマグリ	6	I -1-c
*ナミノコマスオ		I -1-c
*サメザラ	1	I -2-c
*シレナシジミ		ІІ -0-с
*ヌノメガイ	1	II -2-c
*アラヌノメ	1	I -3-c
*ホソスジイナミ	1	П-1-с
*アラスジケマン		<b>Ⅲ</b> -1-c
*ヒメイナミ		I -1-c

生息場所類型 (Habitat)

I:外洋ーサンゴ礁域

Open sea coast- Coral reef area

Ⅱ:内湾一転石域

Inland sea - boulder area

Ⅲ:河口干潟ーマングローブ域 Tidal flat - Mangrove area

Ⅳ:淡水域

Fresh water area

V:陸域

Terrestrial area

VI:その他 Others

# 2. 道跡

道跡とした遺構はⅡ区bの調査に伴い、2次調査として実施された。調査の結果Ⅱ区との関係で考えるよりも単独の地区として認識した方がよいと考えその他の項目で報告する。遺構の時期的な考察は困難であるが、明治36年の地積図には掲載されていることから、この地区が既に道として、明治36年には機能していたと考えられる。

# (1) 遺構

検出された遺構は伐採作業を行い、表面の清掃を行うだけのもので確認することが出来た。先に述べた通り、当該地域は現在も里道であり、明治36年の地積図にもここに道があることが解る。このため一帯が道として利用されたのは明治36年以前で、ごく最近まで利用されていたものと考えられる。遺構は幅員3.5mで、縁石が岩盤や石積みによって強調されている。道中央が盛り上がっておりマウンド状になる。道跡の発見された地



第97図 道跡調査個所位置図

区は北に行くに連れて標高を低くし、その北端は段差となる。この為、北側には自然岩盤を利用した階段が残されている。道の東と西側外縁には礫が集中して認められるが石積みとするにはかなり粗雑である。



-153-

# (2) 遺物

陶磁器は18点(推定個体数)採集されている。いずれ も小破片で散見的である。

### 1) 青磁

99-1 は主郭分類口折皿 I で外面の蓮弁が盛り上がり 鎬の稜を明瞭につくる(蓮弁口折皿 b)。

## ②青花

99-2 は主郭分類Ⅲ類 c の青花碗で外面に三つ葉状の小文を描く。見込みは凹み文様が描かれるがモチーフは不明。

### ③肥前染付

99-3は肥前磁器碗で海外輸出向けに大量生産したⅢ期 (1650~1690年代) に生産された磁器碗。高台口縁を欠損

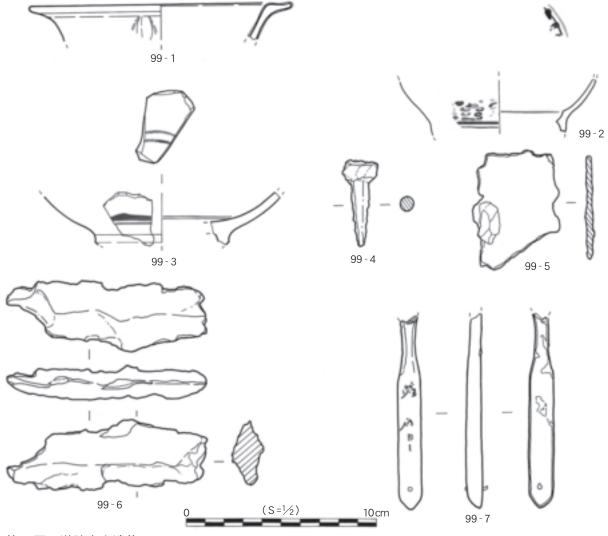
し器形は不明だが見込みに圏線が認められ、外面に文様が描かれるようである。

## ④鉄製品

99-4~6は鉄製品で、これらの遺物がグスク時代に遡るか不明である。4は釘、5は板状の鉄製品で用途は不明である。

## ⑤骨製品

99-7は骨製の歯ブラシで、ブラシ部分が欠損しているがほぼ全形を伺える資料である。持ち手部分の端部に穴が穿たれており棒状の付設品がそのまま付いている。背面は平坦となり、腹面はゆるやかに丸みを持つデザインとなっていて、中央には商品名と思われる銘が彫刻されるが判読できない。



第99図 道跡出土遺物

1: 青磁皿 2: 青花碗 3: 肥前染付 4~6: 金製品 7: 骨製品

種別		分類	器種・分類	個体数	百分率		
<b>淘</b> 数器	中国	青磁	碗	6	33.33%		
			Ш	5	27.78%		
			盤	2	11.11%		
		白磁	碗	1	5.56%		
			杯	1	5.56%		
			瓶	1	5.56%		
		青花	碗	1	5.56%		
	肥前	染付	碗	1	5.56%		
陶磁器		総計		18			
金属製品		その他・不明		1			
		推定・近現代		2			
骨製品		歯	ブラシ	1			

# 3. IV **区**

IV区は今泊5106番地で、南 北の岩山とともに一つの尾根 線をつくり、周囲に比べ一段 高くなっている。IV区の東側 下段Ⅲ区 d (今泊5099番地) は調査の結果、様相がIV区と 近いことから報告ではIV区と してまとめた。南側は村道に あるためその南側の史跡指定 地と分断されているが、道が 通る以前は尾根筋として繋 がっていたと推定される。調 査以前の現況は駐車場として 整備されている。しかし、設 置以前は畑地として近年まで 耕作されていたことが写真や 聞き取りによって確認されて いる。なお、この尾根を境と して屋敷地3と屋敷地4が東 西形成されている。

### (1) 層序

遺跡の層序を理解する上で 東西ライン (T-19・20南壁)を 図化した。

 I **層 (上層)**: Hue2.5YR赤褐

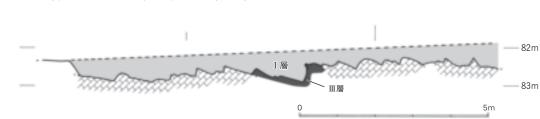
 色 4 / 6。既存施設の造成に伴

色4/6。既存施設の造成に伴 う堆積土である。(ナンバーリング I 層)

**II層 (上層)**: Hue7.5YR暗褐色  $3/3 \sim 3/4$ 。約10cmの堆積。旧耕作土と考えられる。 I 層とともに除去。粘性に乏しくわずかに砂粒や炭を含む土層。(ナンバーリング I・II 層)

Ⅲ**層(地山)**:所々岩盤が露頭し、遺物を全く含まない自然堆積層で、粘板岩を含む堆積層と、含まず粘性のある締まった土層の層相の異なる地山からなる。本地区は大部分で岩盤が露頭している。

- ・Hue10YR黄褐色5/4。やや粘性があり粘板岩を多く含む固く締まった土層。地山。
- ・Hue 5 BG青灰色 5/1。古生代石灰岩の岩盤。地山。



第101図 Ⅳ区セクション



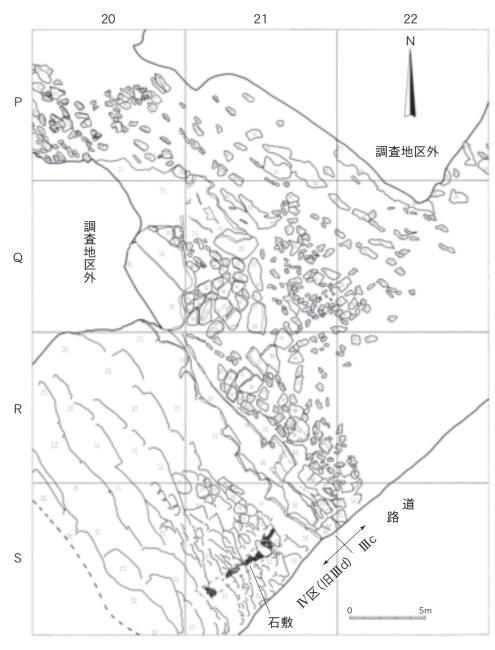
第100図 IV区調査個所位置図

## (2)遺構

IV区は表土層を除去すると基盤岩が露頭、全体的に岩がちな地形となる。同様の地形は北側の丘陵に現在も見ることができる。IV区は今帰仁城跡側から北側へ延びる尾根線となっていることが解る。この岩がちな地形は生活地としては不適であったと思われ恒常的な生活を証明する建物跡や意図的な削平、あるいは廃棄などを行った捨て場なども確認されていない。このため単に屋敷外として、遺跡の外と解することも容易ではあるが、後段で紹介するように遺物が出土することも事実である。このような遺物が単に流れ込み等によるものなのか、なんらかの活動との関わりで説明されるものかは不明である。

唯一確認された遺構らしきものとして、第102図に示した玉砂利敷きの石畳様の遺構を紹介する。玉砂利を除去した跡に近現代の沖縄産陶器片が出土したため遺構の構築年はこれ以降である。この石敷き遺構は(SL1として仮称)、S-21グリッド(旧称Ⅲ d 区)の表土層(I 層)除

去後、地山上 に構築される。 3㎝大の角の 取れた円礫を 岩盤の窪みに 沿って敷き均 されている。 遺構は略東西 600cm で、幅 120~90cmを 計る。岩盤の 窪みをなだら かにするよう に構築されて おり、岩盤と 岩盤の段差が 解消されてい る。道跡と想 定する。



第102図 IV区遺構図

# (3) 人工遺物

### ① 土器

103-1 は底部資料である。器種は不明だが底面の広いグスク土器である。

### ② 青磁

103-2 は鎬蓮弁文碗 a の口縁部資料である。103-4は外面に細蓮弁を描く碗の底部。103-3は無文外 反碗の口縁部。103-5は底部資料で見込みを露胎と する。103-6 は底部資料で体部を大きく欠損するた め文様は認められないが細蓮弁文碗もしくは雷文帯 碗の底部と見られる。103-7は櫛描文皿の底部で小 片だが本地区より出土した資料の中でも古相の年代 を与えることのできる資料である。103-8 は腰折皿 で内面には刻花文を描き口縁を稜花とする(腰折c)。 103-11は直口口縁無文皿の底部と思われる。高台は 幅広となる。103-9瓶の頸部で文様は見られず無 文となる。103-10は今帰仁城跡の調査でも多く出土 する最もポピュラーな盤で鍔縁盤eに該当する。 104-1 は内面に箆彫りの蓮弁が廻る資料で鍔縁盤 e の口縁である。104-2は盤の底部で高台の立ち上が りが緩やかであり、内面に箆彫りを認めることから

第21表 区出土遺物一覧表

1	重別	分類	器種・分類	個体数	百分率
		土器	鍋·鉢·壺·等	2	1.98%
	在地	カムィヤキ	壺・鉢・甕・等	1	0.99%
		瓦質土器	蓋・不明	1	0.99%
			碗	37	36.63%
		青磁	ш	18	17.82%
		育稅效	盤	8	7.92%
			置物	1	0.99%
			碗	4	3.96%
爬	中国	白磁	Ш	2	1.98%
陶磁器			杯	1	0.99%
奋		国 青花 褐釉陶器	碗	14	13.86%
			Ш	2	1.98%
			壺	1	0.99%
			小型壺	2	1.98%
			大型壺	2	1.98%
			擂り鉢	1	0.99%
		五彩	碗	1	0.99%
		瑠璃釉	碗	1	0.99%
		緑釉	不明	1	0.99%
陥	磁器		総計	100	
		鉄製品	鏃	1	
金月	属製品	2/2011	その他・不明	1	
		鉄製品	推定·近現代	8	

鍔縁盤の底部と目される。104-3は仏像等の置物の衣部分の破片と推定される。

#### ③白磁

104-4 は外反碗の口縁部。104-5 は無文外反碗の底部である。104-6 は直口碗の底部で見込みを露胎とする。

#### 4) 青花

104-7 は外反碗 c の底部資料で、首里城京の内で主体となった碗資料と類似の資料である。 見込みには梅花文と月、外面は胴上半を失うため不明であるがいわゆる雲堂手といわれる文様 が描かれているものと思われる(主郭分類碗 II 類)。

### ⑤ 瑠璃釉

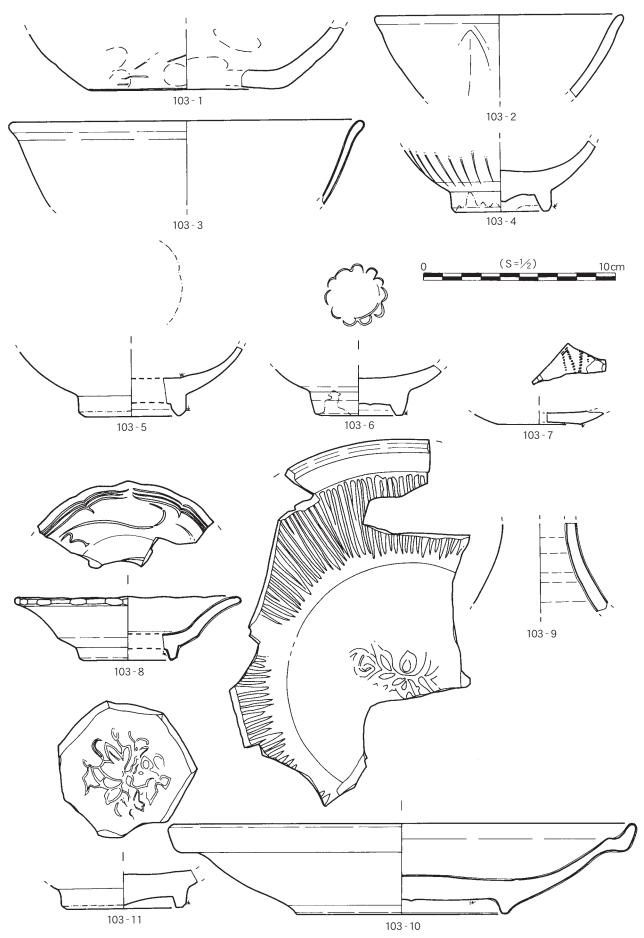
104-8 は瑠璃釉の碗底部で見込みは凹み高台内、内面は白色の釉を施釉、外面を瑠璃釉とする。

### ⑥褐釉陶器

104-9 は褐釉陶器の口縁部で、器種は不明であるが、口径は小さく胴部は直立し口縁は肥厚する。104-10は今帰仁城跡でも出土する方形肥厚の大型壺の底部と推測される。

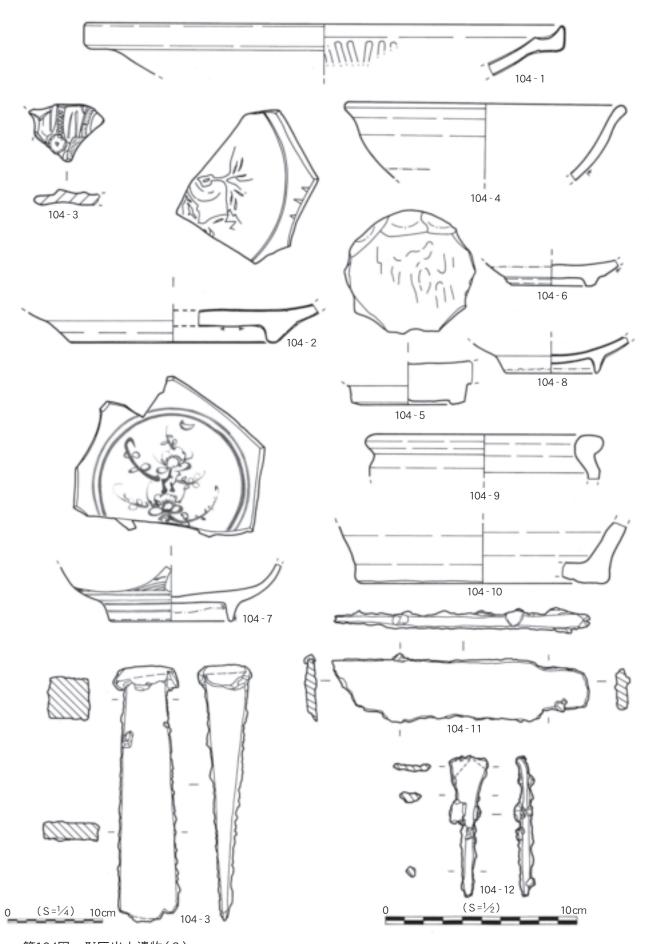
### ⑦鉄製品

104-11~13は鉄製品でいずれも包含層出土でないためグスク時代に相当する遺物かは判然としない。特に11・13については近代~近世期の物と考えられる。11は刀物の破片で中茎と刀身の一部が残存する破片資料。12は鉄鏃で刃部が幅広になるタイプのものである。13は鑿で先端にいくにつれ幅広につくられる、断面方形となる。



第103図 IV区出土遺物(1)

1: 土器 2~6: 青磁碗 7~8: 青磁皿 9: 青磁瓶 10: 青磁盤 11: 白磁



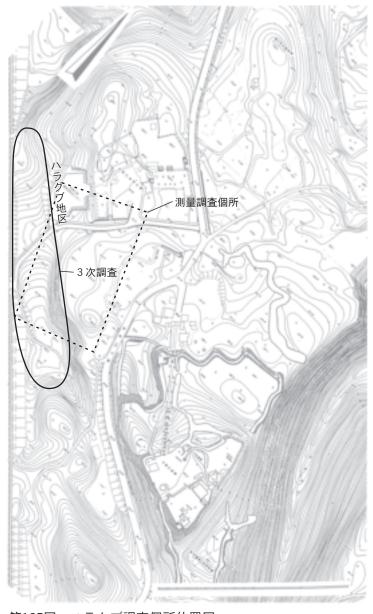
第104図 Ⅳ区出土遺物(2)

 $1 \cdot 2$  青磁盤 3:青磁置物  $4 \sim 6$ :白磁碗 7:青花碗 8:瑠璃釉碗  $9 \sim 10$ :褐釉陶器  $11 \sim 13$ :鉄製品

# 4. ハラクブ

3次調査として実施したハラ クブは、主に工事計画地域 4,100㎡において試掘調査を実 施している。試掘の概況と出土 遺物については既に第IV章第1 節で詳述しているのでここでは 割愛する。ここではハラクブ地 区で実施した踏査について報告 する。踏査は岩盤の露頭する地 域一帯 (第105図) AD-17を中 心とした地域について実施した。 その目的は今帰仁城跡に接した 地点であることから、石切場な ど今帰仁城に係わるなんらかの 痕跡が存在するかどうかを確認 するためである。

具体的には第106図に示した性格不詳の石積みや堀り切り状の遺構などを確認することができた。また、礫を小さく積み上げた遺構が清掃後12基確認されたためこの内1つを遺構の性格の把握のため解体確認調査を行った。他にも一帯は急峻な崖地ではあるものの、幾つかの平坦な面がある。平板測量を実施してこれを図化性格の把握に努めた。



第105図 ハラクブ調査個所位置図

### (1) 遺構

ハラクブは一帯が鬱蒼とした森であることから、落ち葉が多くこれを取り払うと基盤岩が広い範囲で露頭する。このため畑なども無く、開墾が行われた形跡も無い。當眞嗣一氏によれば今帰仁 城跡の西側斜面となり城壁とともに敵兵を拒む天然の要害となったであろうとされ、唯一確認された遺構らしきものとして、幾つかの礫を小さく積み上げた集積を確認することができる。これらの構築年は不明であるが、人工遺物が含まれることから人為的な所産であることは間違いない。

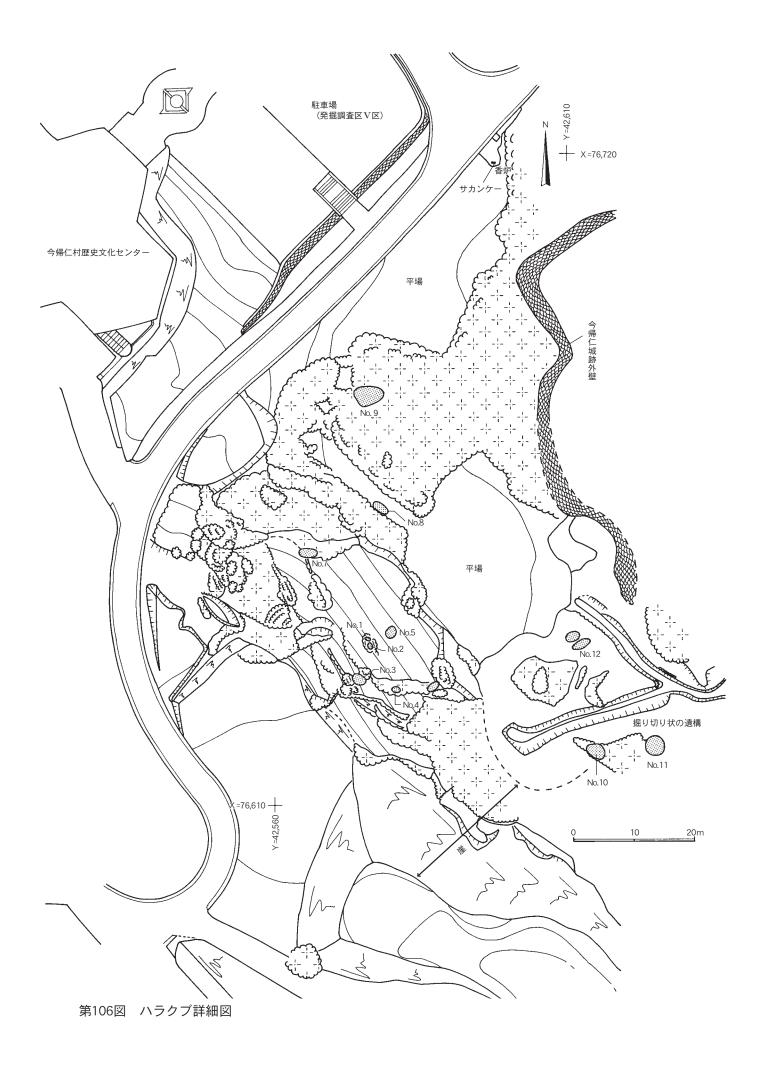
# (2)遺物

### ①カムィヤキ須恵器

107-1 はカムィヤキ須恵器の胴部資料で平行線当て具が内面に認められる。厚手で焼成はや や軟質化することから時代的には新里分類B群以降の資料と思量される。

#### ②青磁

107-2 は細蓮弁文碗 a の口縁部、107-3 は底部資料で同一個体と考えられる。107-4 は見込



みに印花文が押印されている碗の底部資料で外面の文様は確認できないが、雷文帯碗もしくは 細蓮弁文碗の底部資料と考えられる。107-5 は鍔縁盤 c に該当する口縁部破片。

### ③青花

107-6 は直口碗 a で見込みが凹むいわゆる蓮子型、外面に芭蕉文が描かれる(主郭分類碗Ⅲ類)。

# 4湖釉陶器

107-7 は褐釉陶器壺で方形肥厚の口縁部である(壺d)。107-8・107-9 は底部資料で107-7 と同型の底部資料と思われる。後者の資料が復元径は大きくなっている。

### ⑤タイ陶磁

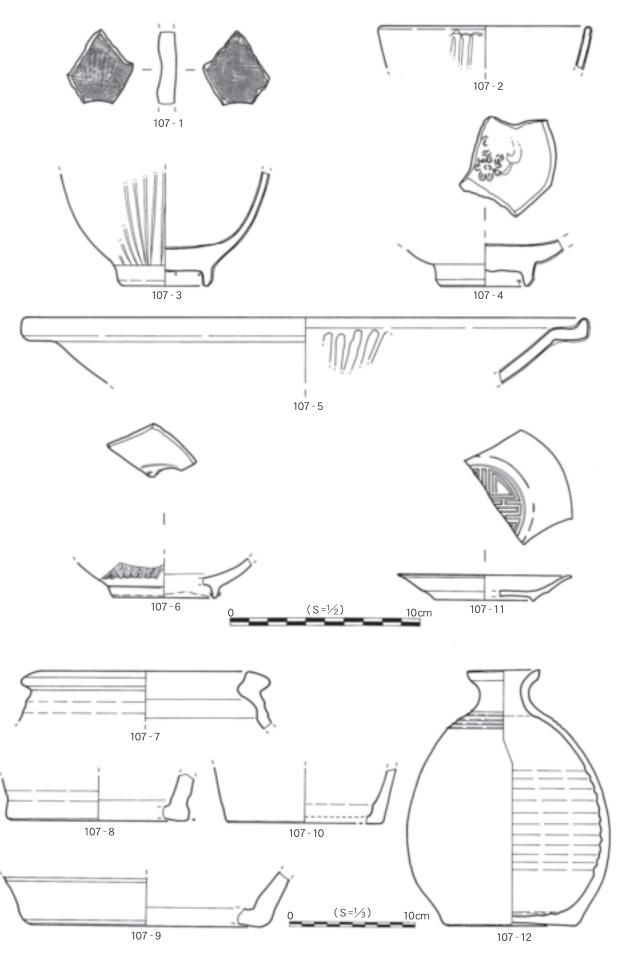
107-10は内面外面とも破片資料に褐釉が見られないが、タイ産の褐釉陶器で、器形は中型壺の底部である。

# ⑥清朝磁器

107-11は中国清朝期の磁器皿で三角形の高台で端部のみ露胎とし、腰部は腰折れで口縁部は外反、見込みには吉祥文字が型打ちされる。

#### ⑦沖縄産陶器

107-12は壺屋で生産されたと考えられる素焼きの壺で、近代以降の制作と思量される。いわゆる荒焼の徳利で胴が豊かに張るタイプ。容量はおよそ4合(720ml)に収まる。表採資料である。



第107図 ハラクブ出土遺物

1: カムィヤキ  $2\sim4$ : 青磁碗 5: 青磁盤 6: 青花碗  $7\sim10$ : 褐釉陶器 11: 清朝磁器 12: 沖縄産陶器壺

											⇒l.;	SHILE: (	\	
											口径	測値(cm, 器高	g) 底径	
遺物番号	屋敷	次	地区	グリッド	層	遺構	dot/No	種別	形式	分類	外径	厚さ	重量	備考
8 - 1	ハラクブ	3	T.P.12		II	_	No.9	染付	碗 (口縁)	外反碗 b ?	_	_		
8 - 2	ハラクブ	3	T.P.22 T.P.33				No.13 No.15	青磁 沖縄産陶器	酒会壺 擂鉢	酒会壺 a	24.6 28.2			
	ハラクブ	3	AH-18		表採		No.4	白磁	杯	口縁部	7.8		_	外反稜花
8 - 5	ハラクブ	3	Z-18	_	表採	_	No.5	青磁	碗	底部	-	_	5.0	
	ハラクブ	3	AH-18	- V 16	表採		No.1	陶器	厨子甕	マンガン掛け	_		21.6	
$\frac{22}{22} - \frac{1}{2}$	1 1	2	II区b	K-16	 表採		No.538 No.546	土器 カムィヤキ	グスク土器 壺	底部 口縁部	15.6		21.6	
22 - 3	1	2	II区b	I-14	1	_	No.460	青磁	碗	無鎬a	14.8	_	_	
22 - 4	1	2	II区b	I-15	Ш	_	No.312	青磁	碗	無鎬a	17.0	_	_	Ⅱ区b I-15Ⅱ層 Ⅱ区b I-15Ⅲ層
22 - 5	1	2	II区b	K-18	II		No.479	青磁	碗		_		4.1	13C末~14C前半砧青磁
22 - 6	1	2	II区b	K-15	II		No.491	青磁	碗	細蓮弁 a	14.0		_	K-16Ⅱ層、I-14Ⅲ層
22 - 7	1	2	II区b	J-16	II		No.420	青磁	碗	細蓮弁a	14.0			II区b I-14
22 - 8	1 1	2		I -13 K-16	I		No.297 No.473	青磁 青磁	碗碗	細蓮弁 a 細蓮弁 c	14.4 15.1			Ⅱ b K-15Ⅱ層 Ⅱ区b J-15Ⅱ層
22 - 10	1	2	II Z b	L-16	IV		No.470	青磁	碗	細連弁c	16.0	_	_	k-16Ⅱ層
22 - 11	1	2	Ⅱ⊠b	L-16	II	_	No.470	青磁	碗	細蓮弁 c	13.9	_	_	II区b L-16
22 - 12 22 - 13	1	2		K-16 K-15	II II		No.476	青磁 青磁	Rich Data	細蓮弁 c 細蓮弁 c	11.0		4.1	
22 - 13	1	2	II Z b	H-15	II		No.489 No.225	青磁	碗碗	細連弁 c			4.1	
23 - 1	1	2	II区b	I-13	II	_	No.377	青磁	碗	雷文a	14.0	_	-	II区b I-14
23 - 2	1	2	II区b	I-15	<u>II</u>		No.362	青磁	碗	雷文a	14.2		_	
23 - 3	1	2	II区b	J-14 J-15	<u>Ш</u> П		No.430 No.306	青磁 青磁	碗碗	雪文a 雷文b	16.6		6.2	II⊠b I-15
23 - 5	1	2	II区b	K-15	II		No.491	青磁	碗	雷文b	17.2	_	_	J-13表採
23 - 6	1	2	II区b	I-14	Ш	_	No.458	青磁	碗	刻花文 a	15.2	_	_	II区b I-14
23 - 7	1	2	II区b	I-14	Ш		No.460	青磁	碗	刻花文 b	17.8			
23 - 8	1 1	2	II区b	J-14 J-15	<u>Ш</u> П		No.469 No.367	青磁 青磁	碗碗	無文外反 無文外反底部	18.0		5.5	
23 - 10	1	2	IIZb	J-16	I		No.419	青磁	碗	無文外反底部	_		5.0	
23 - 11	1	2	II区b	L-16	II	_	No.504	青磁	碗	無文外反底部	-	_	6.0	
23 - 12	1	2	II区b	K-16	П		No.531	青磁	碗	無文外反底部	101		5.4	TICL VIC
$\frac{24}{24} - \frac{1}{2}$	1	2	II区b	K-15 J-16	II II		No.493 No.10	青磁青磁	碗碗	無文外反 無文外反	19.1 17.8			II区b K-15 A窯系
24 - 3	1	2	II区b	K-16	II		No.604	青磁	碗	無文外反	17.6	_	_	B窯系
24 - 4	1	2	II区b	I-14	11		No.430	青磁	碗	無文外反	15.0	_	_	
24 - 5 24 - 6	1	2	II区b	I-14 I-15	II II		No.375 No.227	青磁 青磁	碗碗	無文外反 無文直口	17.8 15.7			II⊠b I-15
$\frac{24}{24} - 7$	1	2	II区b	K-15	II		No.491	青磁	17E	櫛描文	-	_	4.6	珠光青磁
24 - 8	1	2	II区b	K-15	II	_	No.320	青磁	Ш	櫛描文	-	_	4.2	珠光青磁
24 - 9	1	2	II区b	K-16	II		No.528	青磁		口折皿a	12.6			
24 - 10 24 - 11	1	2	II区b	J-13 K-15	II I		No.311 No.556	青磁 青磁	<u>III.</u>	□折皿 b 蓮弁□折皿 d	10.6			
24 - 12	1	2	II区b	J-16	II	_	No.421	青磁	Ш	蓮弁口折皿 d	12.8	_	_	
24 - 13	1	2	II区b	I-14	Ш		No.460	青磁	Ш	蓮弁口折底部	_		6.2	
24 - 14 24 - 15	1	2	II区b	K-15 K-15	<u>П</u>		No.320 No.398	青磁 青磁	<u>III.</u>	蓮弁口折底部 蓮弁口折底部			6.4 5.6	
$\frac{24}{24} - \frac{13}{16}$	1	2	II Z b	I-14	Ш		No.430	青磁	Ш.	連弁口折底部	_		5.2	
24 - 17	1	2	II区b	I-15	II	_	No.401	青磁	Ш	蓮弁口折底部	_		5.0	II区b I-15
24 - 18		2	II区b	I-14	II		No.451	青磁		蓮弁口折底部	-		5.7	
$\frac{25}{25} - \frac{1}{2}$	1	2	II区b	L-16 I-14	Ш		No.472 No.430	青磁 青磁	Ш.	蓮弁直口皿 b 蓮弁直口皿 b	10.0			Ⅱ⊠b I-15
25 - 3	1	2	IIZb	K-15	II		No.537	青磁	Ш.	連弁直口皿 b	11.0	_		II区bK-15
25 - 4	1	2	II区b	I-14	Ш	_	No.298	青磁	Ш	腰折皿c	11.0	3.3	5.0	II区bI-14
25 - 5 25 - 6	1	2	II区b	L-16 -		- SI 1	No.504	青磁	Ш	腰折皿c	10.6			
25 - 6 25 - 7	1	2	II区b	K-16	 II	SL1	No.259 No.531	青磁 青磁	<u> </u>	腰折皿 c 腰折皿 a	13.8			
25 - 8	1	2	II区b	J-16	II		No.420	青磁	Ш.	腰折皿a	-	_	7.4	
25 - 9	1	2	II区b	I-15	II	_	No.362	青磁	Ш	腰折皿b	14.0	_	_	
25 - 10 25 - 11	1 1	2	II区b	J-16 K-15	II I		No.436 No.492	青磁 青磁	<u> </u>	腰折皿b 腰折皿b	13.6 12.4			II区 b I-16 SL2 K-13
25 - 12		2	II K b	K-15	II		No.320	青磁		腰折皿d	12.4			II区 b K-15
25 - 13	1	2	II区b	I-14	II	_	No.371	青磁	Ш	腰折皿d	14.0	_	_	II区 b I-15
25 - 14		2	II 🗵 b	I-14	II		No.303	青磁		腰折皿d	12.4			
25 - 15 25 - 16	-	2	II区b	I-14 I-14			No.303 No.423	青磁 青磁	<u> </u>	腰折皿d 腰折皿d	11.6			I⊠a I-16
25 - 17	1	2	IIZb	K-15	II	_	No.483	青磁	Ш.	腰折底部	-	_	5.2	I区b O-13
25 - 18	1	2	II区b	I-14	Ш	_	No.423	青磁	Ш	無文外反	13.6	_	_	
25 - 19		2	II Z b	K-16	Ш		No.473	青磁	#0	無文外反底部			6.2	<b>Ⅱ以り F16 Ⅲ以下 平松</b>
26 - 1 26 - 2	1	2	II区b	J-14 I-15	<u>Ш</u> П		No.430 No.369	青磁 青磁	盤盤	盤a 盤b	_			Ⅱ区b J-16、Ⅱ区b 表採
26 - 3	1	2	I区b	I-15	I	_	No.369	青磁	盤	盤b	_	_	_	
26 - 4	1	2	II区b	J-15	П	_	No.387	青磁	盤	盤b	-	-		Ⅱ区b K-15Ⅱ層
26 - 5 26 - 6	1	2	II区b	I-14 I-14	Ш		No.305 No.423	青磁 青磁	盤盤	盤 b  底部	_		9.6	Ⅱ区b I-15、Ⅱ区b I-15
26 - 7	1	2	II Z b	I-14 I-15	表採		No.260		盤				10.6	
26 - 8	1	2	II区b	I-14	1	_	No.423	青磁	杯	碁笥底杯 b	_	_	3.6	II区 b I-14

第22表 出土遺物観察表(1)

											計	測値(cm,	σ)	
遺物番号	屋敷	次	#	グリッド	層	遺構	dot/No	種別	形式	分類	口径	器高 器高	底径	備考
											外径	厚さ	重量	
26 - 9 26 - 10	1 1	$\frac{2}{2}$	II区b	K-15 I-14	II		No.421 No.229	青磁 青磁	香炉 杯?	□ □縁部 胴部				II区b I-13 II区b H-15
26 - 11	1	2	IIZb	I-15	II	_	No.306	青磁	器種不明		_	_	_	1110
26 - 12	1	2	II区b	K-15	П	_	No.319	青磁	瓶	口縁部	4.6	_	_	
26 - 13 26 - 14	1	2	II区b	J-16 H-15	II II		No.387 No.489	青磁 青磁	<u>瓶</u> 瓶	□□緑部 □縁部	4.0 5.2			
26 - 15	1	2	IIZb	J-15	II		No.306	青磁	酒会壷	酒会壺b	25.2	_	_	
27 - 1	1	2	II区b	L-15	П	_	No.552	白磁	碗	ビロースクI	15.2	_	_	
27 - 2 27 - 3	1	2	II区b	L-16 L-16	II II		No.499 No.470	<u>自磁</u> 自磁	碗	ビロースクⅡ 粗製無文直口	18.0 14.6			Ⅱ区 L-15、Ⅱ区b K-16
$\frac{27}{27} - 4$	1	2	IIZb	K-15	П		No.556	白磁	碗	口禿底部	-		4.8	11 F-13, 11 FD K-10
27 - 5	1	2	I区b	K-16	II	_	No.478	白磁	Ш	口禿口縁	12.8	-	_	
27 - 6 27 - 7	1	2	II区b	K-15 I-14	II II		No.537 No.303	自磁 自磁	<u>III</u>	口禿口縁  口禿底部	12.0		6.6	II区b J-14
27 - 8	1	2	IIZb	I-14	П		No.438	白磁		直口皿a	8.8	4.0	1.6	11 × D J-14
27 - 9	1	2	I区b	K-15	II		No.493	白磁	Ш	直口皿a	-	_	4.6	
27 - 10 27 - 11	1	2	II区b	I-15 K-16	II II		No.222 No.523	自磁 自磁	 杯	直口皿 b 直口杯	7.2	2.8	3.7	 Ⅱ区b K-16
$\frac{27}{27} - 12$	1	$\frac{2}{2}$	II Z b	I-14	п п		No.303	白磁		直口皿b	- 1.2		3.0	11   N - 10
27 - 13	1	2	II区b	L-15	П	_	No.552	白磁	Ш	直口皿b	_	_	3.0	
27 - 14	1	2	II区b	K-16	II		No.529	白磁		外反皿	11.2			
27 - 15 27 - 16	1	$\frac{2}{2}$	II区b	I-15 K-16	II II		No.269 No.473	自磁 自磁	<u>III</u>	外反皿 外反皿 a	10.0		6.6	
27 - 17	1	2	II区b	I-14	II	_	No.460	白磁	杯	八角杯	-	_	3.0	
27 - 18	1	2	II区b	I-14	II		No.303	白磁	燈明皿	底部	_		3.8	
27 - 19 28 - 1	1	$\frac{2}{2}$	II区b	K-15 I-14	II II		No.373 No.302	青白磁 染付	梅瓶 碗		15.2			II区b I-14
														II X b J-15, II X b J-15,
28 - 2	1	2	II区b	J-15	II		No.307	染付	碗	外反碗b?	14.6			Ⅱ区b J-14 (主郭分類Ⅱ類)
28 - 3 28 - 4	1	2	II区b	K-16 K-16	II I		No.509 No.496	<u>染付</u> 染付	施 皿		11.8		6.2	
28 - 5	1	2	II Z b	I-14	П		No.305	染付	碗	直口碗a	12.9		_	11 K D K-10
28 - 6	1	2	II区b	L-16	Π	_	No.499	染付	碗	直口碗a	_	_	4.9	
28 - 7 28 - 8	1	$\frac{2}{2}$	II Z b	J-16	II I		No.425	染付	碗	分類不明	16.4		- 4.4	II区b K-15 (直口口縁)
28 - 8 28 - 9	1 1	2	II区b	K-15 I-14	П		No.320 No.303	<u>染付</u> 染付	<u>III</u>	<u>外反皿 a</u> 外反皿 b			6.0	Ⅱ☑b I-14、Ⅱ☑b I-15
28 - 10	1	2	II区b	K-16	II	_	No.496	染付	Ш	分類不明	-	_	6.2	
28 - 11	1	2	II区b	K-15	II		No.482	染付		碁笥底 b	_	_	2.2	
28 - 12	1	2	II区b	J-12	II	SL2	dot.116	染付		大皿b			11.2	Ⅱ⊠b J-16, Ⅱ⊠bL-16,
28 - 13	1	2	II区b	J-16	ΙΙ	_	No.421	染付	合子	身	_	_	2.8	I⊠b K-16
28 - 14	1	2	II区b	k-15	II		No.483	染付	杯	底部	_		2.8	
28 - 15 28 - 16	1	2	II区b	I-14 I-16	II		No.305 No.227	<u>染付</u> 染付	袋物 水注				5.6	
29 - 1	1	2	IZb	K-16	III	_	No.570	褐釉	壺	大海茶入	10.0	_	_	
29 - 2	1	2	I区b	I-14	Ш	_	No.430	褐釉	壺	長胴壺	7.0	_	_	
29 - 3 29 - 4	1	2	II区b	L-16 I-14	II		No.499 No.423	褐釉 褐釉	壺壺	壺 b 壺 b	10.4 15.2			
29 - 5	1	2	IIZb	I-14	III		No.460	褐釉	壺	壺 C	11.0	_	_	
29 - 6	1	2	II区b	I-14	П	_	No.305	褐釉	壺	壺d	18.8	_	_	Ⅱ区b L-15
29 - 7 29 - 8	1 1	2	II区b	k-15 J-16	II II		No.488 No.421	褐釉 瑠璃釉	<u></u> 壺 <u></u> 碗	量 d 口縁部	9.0			
29 - 9	1	2	II Z b	K-15	П		No.519	瑠璃釉	碗	底部	-		4.9	
29 - 10	1	2	II区b	K-16	Ш	_	No.589	三彩	水注	鶴形	_	_	-	
29 - 11 30 - 1	1	2	II Z P	K-16 I-14	Ш		No.531	緑釉	水注 半練	胴部 善	15.9		_	II区b I-15
30 - 1	1 1	2	II区b	J-14 J-15	II		No.465 No.307	土器 褐釉		蓋 長胴壺	15.2 14.2			ш № П С П С П С П С П С П С П С П С П С П
30 - 3	1	2	II区b	J-14	II	_	No.388	褐釉	壺	壺 b	20.2	_	_	II⊠b J-16
30 - 4	1	2	II区b	K-16	П		No.531	染付工	瓶	胴部	_	1.022	- 6 0 4	71 欠 ・ 0.999
$\frac{31}{31} - \frac{1}{2}$	1	2	II区b	K-15 K-16	II		No.482 No.561	玉玉玉	<u>勾玉</u> 丸玉	緑色片岩 ガラス製	1.001	1.023 0.767	6.94 0.89	孔径: 0.233 孔径: 0.313
31 - 3	1	2	I区b	K-16	Ш		No.562	玉	丸玉	ガラス製	0.877	0.590	0.53	75E - 0.020
31 - 4	1	2	II区b	_	-	S42	No.602	銭貨	端平通寶	_	3.508	0.267	10.31	
31 - 5	1	2	II区b	J-14 J-16	II		No.416 No.429	銭貨 銭貨	祥符通寶 寛永通寶		2.496	0.135	3.23	
31 - 7	1	2	IIZb	I-15	II		No.223	銅製品	<u>見小旭貝</u> 鋲		<u> </u>	-	3.06	
31 - 8	1	2	II区b	K-16	II	_	No.528	鉄製品	釘	_	5.8	_	24.4	
31 - 9	1	2	II区b	K-16 L-13		S20 -	dot.179 dot.97	鉄製品	<u></u> 釘 釘		5.7 5.9		3.0 8.5	
31 - 10	1	2	II Z b	I-14	Ш		No.430	鉄製品 鉄製品	<u></u> 新		2.0		1.5	
31 - 12	1	2	II区b	I-14	Ш		No.439	鉄製品	釘		3.0	_	3.2	
31 - 13	1	2	II区b	I-14	Ш		No.430	鉄製品	楔		4.6	_	14.1	
31 - 14 31 - 15	1	2	II区b	J-16 I-14	III IV		No.429 No.464	鉄製品 石器	鋏 砥石	<u>ー</u> ヒン岩	9.3		24.8 55.9	
32 - 1	1	2	II Z b	K-15	II		No.521	貝製品	漁網錘?	ハナマルユキ	3.3	_	7.1	
32 - 2	1	2	II区b	K-16	Ш	_	No.538	貝製品	漁網鍾?	ハナマルユキ	3.3	-	4.8	
32 - 3	1	2	II Z P	J-15	П		No.401	貝製品	漁網錘?	ハナマルユキ	2.9		3.8	
32 - 4	1	_ 4	II区b	Q-13	II		No.404	貝製品	漁網錘?	ハナマルユキ	2.9		9.1	

第23表 出土遺物観察表(2)

											⇒L√	Bilita (om	~ )	
											口径	則値(cm, 器高	g) 底径	
遺物番号	屋敷	次	地区	グリッド	層	遺構	dot/No	種別	形式	分類	外径	が向 厚さ	重量	備考
32 - 5	1	2	II区b	K-16	II		No.544	貝製品	漁網錘?	ハナマルユキ	3.0		5.7	
32 - 6	1	2	II区b	K-15	II	_	No.320	貝製品	漁網錘?	ハナビラダカラ	2.7	_	3.5	
47 - 1	3	6	Ⅲ区c	S-22	II	S165	No.104	土器	グスク土器	口縁部	_	_		鉢形
47 - 2	3	8	Ⅲ区a	D-24	ΙΙ	_	No.35	土器	グスク土器	口縁部	_			鉢形
47 - 3	3	6	Ⅲ区c	Q-22	II	S75	No.290	土器	グスク土器	底部 底部			5.2	
47 - 4 47 - 5	3	8	III区c III区c	Q-22 Q-22	II I	S100 S93	dot.136 No.353	土器 土器	グスク土器 グスク土器				14.6	
47 - 6	3	8	II⊠a o		I		No.33	カムィヤキ	<u>クヘクエ命</u>	頸部			-	
47 - 7	3	6	Ⅲ区c	Q-22	I	_	No.79	カムィヤキ	壺	底部	_	_	_	
48 - 1	3	8	Ⅲ⊠a	P-23	II	S567	dot.72	青磁	碗	劃花文	16.2	_	_	
48 - 2	3	8	Ⅲ⊠a	P-24	II	_	dot.50	青磁	碗	劃花文	15.0	_	_	
48 - 3	3	6	Ⅲ区c	Q-21	I		No.99	青磁	碗	劃花文	13.0		-	
<u>48 - 4</u> <u>48 - 5</u>	3	8	Ⅲ区c	R-22	I		No.26	青磁	碗i rst:	劃花文	16.4		6.0	
48 - 6	3	8	Ⅲ区a Ⅲ区a	Q-23 Q-22	I	S90	No.168 No.142	青磁 青磁	<u>碗</u> 碗	鎬蓮弁 a  鎬蓮弁 b	16.4 7.6	5.0	2.8	
48 - 7	3	6	II 🗵 C	R-21	I		No.39	青磁	碗	無鎬Ia	19.0	_		
48 - 8	3	6	Ⅲ区c	Q-21	I	_	No.160	青磁	碗	無鎬Ib	-	_	_	
48 - 9	3	6	Ⅲ区c	Q-21	II	_	No.100	青磁	碗	無鎬Ic	14.8	_	_	
48 - 10	3	8	Ⅲ⊠a	Q-23	II	S809	dot.212	青磁	碗	細蓮弁 b	12.6	_		
		6	Ⅲ⊠c	Q-21	Ι		No.33							
48 - 11	3	6	Ⅲ区c	R-22	I	_	No.58	青磁	碗	細蓮弁 b	15.6	_	_	
		6	Ⅲ区c	Q-21	I		No.60							
48 - 12	3	8	Ⅲ⊠a	P-24 P-23	Π	_ S568	dot.16 dot.97	青磁	砂道	細蓮弁 b	14.0	_	_	
		6		Q-21		2000	No.7					-		
48 - 13	3	6	II区c	Q-21 Q-22	I	_	No.103	青磁	碗	細蓮弁 b	12.8	_	_	
48 - 14	3	6	Ⅲ区c	Q-22	II	S73	dot.66	青磁	碗	細蓮弁 b	12.6	_	_	
48 - 15	3	6	Ⅲ区c	P-21	II	S242	dot.101	青磁	碗	細蓮弁 b	13.4			
49 - 1	3	8	Ⅲ⊠a	O-23	II		dot.45	青磁	碗	細蓮弁 b	14.0	_		
49 - 2	3	9	Ⅲ⊠a	P-23	Ι	_	No.20	青磁	碗	細蓮弁 b	13.0			
49 - 3	3	8	Ⅲ区a	P-23	II		No.29	青磁	碗	細蓮弁b			5.2	
<u>49 - 4</u> <u>49 - 5</u>	3	8	Ⅲ区a	P-24 P • Q-24	II	S520	dot.122	青磁 青磁	碗碗	細蓮弁a	_		4.8 5.0	
49 - 6	3	6	II ⊠c	Q-21	I	- 3020	No.78	青磁	砂道	細蓮弁 a 雷文 a	16.6		- 5.0	
49 - 7	3	6	II 🗵 C	Q-22	II	S73	No.79	青磁	碗	雷文a	15.2	_		
49 - 8	3	8	II ⊠a	P-24	II	-	dot.36	青磁	碗	雷文a	14.0			
49 - 9	3	6	Ⅲ区c	Q-22	II	_	dot.23	青磁	碗	雷文b	15.6	_	_	
49 - 10	3	6	Ⅲ区c	Q-22	Π	S52	dot.54	青磁	碗	雷文b	16.0	_	_	
49 - 11	3	8	Ⅲ区c	Q-22	II	S87	No.343	青磁	碗	雷文底部?			5.6	
49 - 12	3	6	Ⅲ区c	Q-22	I		No.259	青磁	碗	刻花文	12.8			
<u>49 - 13</u> <u>50 - 1</u>	3	6	Ⅲ区c	Q-22	II I	S241	No.113	青磁	碗碗	波状文型押文	13.2			
50 - 1	3	6	区c   区c	P-21 Q-21	II	S198	dot.107 dot.55	青磁 青磁	砂	無文外反	18.0 15.4			
50 - 3	3	8	II 🗵 a	P-24	II	-	dot.35	青磁	碗	無文外反	11.8			
50 - 4	3	8	Ⅲ⊠a	P-24	II	_	dot.1	青磁	碗	無文外反	13.6	_	_	
50 - 5	3	6	Ⅲ区c	Q-22	II	S73	dot.70	青磁	碗	無文外反	15.0	_	_	
50 - 6	3	8	Ⅲ⊠a	P-23	II	S614	dot.88	青磁	碗	無文外反	14.2	_	_	
50 - 7	3	8	Ⅲ⊠a	P-24	II		No.35	青磁	碗	無文直口	13.2			
50 - 8	3	8	Ⅲ区a	P-24	<u>II</u>	- 01000	No.690	青磁	碗	底部			6.0	無文外反
50 - 9	3	8	Ⅲ区a	Q-23	П	S1083	dot.229	青磁	Rije rate	底部 底郊			4.4	無文外反、B窯系
50 - 10	3	8 6	II区c II区c	Q-22 P-21		S93 S242	dot.149 dot.108	青磁	碗	底部			5.6	無文外反
50 - 11	3	8	II ⊠a	P-23	I	-	No.20	青磁	碗	青緑釉無文碗	15.4	_	_	泉州窯系
51 - 1	3	8	II ⊠a	P-24	II	S1138	No.678	青磁	Ш	櫛描文	10.6	1.9	5.4	
51 - 2	3	8	Ⅲ⊠a	Q-23	<b>Ⅱ</b> ・1	ш –	No.30	青磁	Ш	櫛描文	9.6	1.9	5.0	
51 - 3	3	6	Ⅲ⊠c	Q-22	I	_	No.86	青磁	Ш	櫛描文	_	_	4.2	
51 - 4	3	8	Ⅲ区a	P-23	II	S546	dot.68	青磁		櫛描文	-		5.6	
51 - 5	3	6	Ⅲ区c	Q-21	П	- C47E	No.32	青磁	<u> </u>	口折 c	11.4	3.3	5.6	
51 - 6 51 - 7	3	8	Ⅲ区a Ⅲ区a	Q-23 P-24	II I	S475 —	dot.189 dot.41	青磁 青磁	Ш.	<u>口折 c</u> 口折 c	11.0			
			II ⊠a	Q-23	П	S402	dot.108							
51 - 8	3	88	II ⊠a	P-24	II	-	No.47	青磁	Ш	腰折 c	11.4	_	_	
51 - 9	3	6	II ⊠c	Q-22	II	S13	dot.105	青磁	Ш	腰折 c	10.6			
51 - 10	3	8		P • Q-24	II	S528	dot.222	青磁	Ш	腰折 c	13.2	_	_	
51 - 11	3	8	Ⅲ⊠a	P-24	II		dot.28	青磁	Ш	腰折底部	_	_	5.6	
51 - 12	3	8	Ⅲ⊠a	P-24	II	- 0570	dot.6	青磁		蓮弁直口 a	11.2			
<u>52 - 1</u> <u>52 - 2</u>	3	8	Ⅲ区a	P-24	П	S576 -	dot.66	青磁	<u> </u>	無文直口	9.4			
52 - 2 52 - 3	3	8	II区c II区a	Q-21 Q-23	II		No.100 No.94	青磁 青磁	Ш	無文直口無文外反	10.4			
52 - 4	3	8	II ⊠a	Q-23 Q-22	П		dot.83	青磁	Ш.	<u>無又外及</u> 底部	- 15.4		7.2	
52 - 5	3	8	II ⊠a	Q-22	I	S306	dot.85	青磁		底部	_		5.6	
52 - 6	3	8	II 🗵 a	P-24	II	-	dot.12	青磁	Ш.	底部	_	_	5.0	
52 - 7	3	8	Ⅲ⊠a	Q-23	II	S874	dot.152	青磁	Ш	底部	_		4.2	
52 - 8	3	8	Ⅲ⊠a	Q-22	II	S1138	No.678	青磁	Ш	底部	_	_	4.6	
52 - 9	3	8	Ⅲ⊠a	Q-23	II	S1076	dot.228	青磁		底部	_		6.0	
52 - 10	3	6	Ⅲ区c	Q-22	I		No.79	青磁	高足杯	口縁部	7.2		- 2.C	
52 - 11 52 - 12	3	8	II ⊠a	P-24 P-24	П	 S664	dot.17	青磁	高足杯	底部 口線郊	20.2		3.6	
52 - 13	3	8	Ⅲ区a Ⅲ区a	Q-24	I	S664 S502	No.168 dot.126	青磁 青磁	一酒会壺 酒会壺	口縁部 蓋	20.2			
10	U	J	ш∠Са	¥ 4-±	щ	2002	401.140	H HAA	日本記	mı				

第24表 出土遺物観察表(3)

Section   Property												31.)	Ind today /		
The color   The															
1	遺物番号	屋敷	次	地区	グリット	※ 層	遺構	dot/No	種別	形式	分類				備考
Section   Sect			6	Ⅲ⊠c	Q-21	I		No.111							
Section   Sect	52 - 14	3					_	No.38	青磁	不明	腰部	_	_	_	
Section   Sect				Ⅲ区c	R-22			No.125							
Section   Sec															
So	53 - 2	3		-			S87		青磁	盤	盤 b	29.2			
58   1	53 - 3	3					S36		青磁	盤	盤c	23.6	_	_	
Section   Sect	E2 4	2							主が	thri-	AU O	9F 4			
Signature   Sign															
58														_	
Section   Sect						II							_	7.6	
Section   Sect	53 - 8	3	8	Ⅲ⊠a	P-24	II	_	dot.39			底部	_	_	12.2	
Section   Sec	54 - 1	3	8	Ⅲ区a	P-24	II	_	No.35	白磁	碗	玉縁碗Ⅱ	_	_	_	
Section   Sec							_						_		
54   5															
54															
54   7   3   8															
54															
54   9   3   8   IK   P-23   I															
18															
54   11   3   8   RE   P23	54 - 9	3	8	ШZа	P-23	II	_		白磁	倾道	無文直口	14.0	_	_	
54 - 13 3 6	54 - 10	3	8	Ⅲ区a	P-23	П	S584		白磁	碗	無文直口	13.6			
54 - 14 3 3 6							_								
54   14   3   8															
															口径の大きいタイプ
54   16   3   8															
54   18   3   6															直口よしくけが反
54 + 20   3							- 3400								直口もしては外及
54 + 21							_								
54							_								
54 - 24 3 8 8	54 - 21	3	6		_	表面清掃	_	No.175		Ш		11.9	2.8	6.9	
54 - 24 8 8 8 ⅢKα P24 ⅢF - dot.20 白磁 照像 P3	54 - 22	3	8	Ⅲ区a	Q-23	II	_	dot.32	白磁	燈明皿	口縁部	7.3	_	_	
55   1   3   8	54 - 23			Ⅲ区c	Q-21		_	No.112	白磁	燈明皿		_	_	3.7	
55															
55															
55   4   3   8							C071				_				
55   5   5   8   1   1   1   1   1   1   1   1   1															
55 - 6         3         8         IIKa         P-24         I         S670         dot.223         肯花         碗         外反競り?         13.2         -         -           55 - 7         3         8         IIKa         Q-23         I         S72         dot.210         青花         碗         底部         -         -         5.3           55 - 9         3         6         IIKa         Q-22         I         S73         dot.99         青花         碗         直口碗日         1.46         -         -         6.7           55 - 10         3         8         IIKa         P-24         II         -         dot.10         青花         碗         直口碗日         1.46         -         -         -         -         4.3         -         -         -         4.3         -         -         -         4.3         -         -         -         4.3         -         -         -         4.3         -         -         3.8         IIKa         -         I         -         -         4.3         -         -         -         -         4.3         -         -         -         -         -         -         - <td< td=""><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>_</td><td></td><td></td><td></td><td></td></td<>											_				
												100			
55	55 - 6	3	8	ш⋉а	P-24	П	S670	dot.223	育化	10912	外反腕 D ?	13.2	_	_	
	55 - 7	3	8	Ⅲ区a	Q-23	II	S724	dot.210	青花	碗	底部	_	_	5.3	
55 - 10 3 8					Q-22		S73								
55 - 11 3         6															
55 - 13 3 8				-					-6-11-						
55															
56 - 1         3         8         Ⅲ区 c         - 表面清掃 S1125 dot.251 青花 碗 直口碗c         4.3         4.3           56 - 2         3         8         Ⅲ区 a P-23 Ⅱ S352 dot.70 青花 碗 直口碗c         5.3         - 5.3           56 - 3         3         8         Ⅲ区 a Q-23 Ⅱ S899 dot.143 青花 碗 直口碗c         4.3 6次Ⅲ区 c Q-22 Ⅱ R S899 dot.173 青花 碗 直口碗c															
56 - 2         3         8         Ⅲ区a													_		
56 - 3         3         8         Ⅲ区a C Q-23         Ⅱ         S899 dot.143         青花 暗繭 個 口線部 4.3 6次Ⅲ区 C Q-22 Ⅲ 層					P-23							_			
56 - 5         3         8         Ⅲ区a         P-23         Ⅱ         -         dot.55         青花         Ⅲ         外反Ⅲb         11.2         2.3         5.7           56 - 6         3         8         Ⅲ区a         Q-23         Ⅱ         S328         dot.104         青花         Ⅲ         基筍底a         10.5         -         -         -         4.4         -         -         -         4.4         -         -         -         4.4         -         -         -         4.4         -         -         -         4.4         -         -         -         4.4         -         -         -         -         4.4         -         -         -         -         4.4         -         -         -         -         -         4.4         -         -         -         -         4.4         -         -         -         -         -         -         -         4.4         -															6 次Ⅲ区 c Q-22 Ⅱ 層No.113
56 - 6         3         8         Ⅲ区a         Q-23         Ⅱ         S328         dot.104         青花         Ⅲ         碁笥底a         10.5         -         -         -         4.4         -         -         4.4         -         -         4.4         -         -         4.4         -         -         4.4         -         -         -         4.4         -         -         -         4.4         -         -         -         4.4         -         -         -         4.4         -         -         -         4.4         -         -         -         4.4         -         -         -         4.4         -         -         -         4.4         -         -         -         4.4         -         -         -         3.7         56         -         9         3         6         Ⅲ区c         R-22         I         -         No.101         青花         高足杯         底部         -         -         3.4         -         -         3.4         -         -         -         3.4         -         -         -         3.4         -         -         -         -         -         -         -         - <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td>															
56 - 7         3         8         Ⅲ区a         Q-23         Ⅱ         S753         dot.206         青花         Ⅲ         基笥底 b         -         -         4.4           56 - 8         3         8         Ⅲ区a         Q-23         Ⅱ         S397         dot.73         青花         Ⅲ         基笥底 c         -         -         3.7           56 - 9         3         6         Ⅲ区c         R-22         I         -         No.101         青花         高足杯         丘部         -         -         3.4           56 - 10         3         8         Ⅲ区a         P-24         Ⅱ         -         dot.9         青花         杯         直口杯a         9.8         -         -           56 - 12         3         6         Ⅲ区c         Q-22         Ⅱ         -         No.76         青花         瓶         頸部         -															
56 - 8         3         8         II Ka         Q-23         II         S397         dot.73         青花         III         基笥底c         -         -         3.7           56 - 9         3         6         IIK c         R-22         I         -         No.101         青花         高足杯         口縁部         6.5         -         -           56 - 10         3         8         IIK a         -         I         -         No.5         青花         高足杯         丘麻布         -         3.4           56 - 10         3         8         IIK a         P-24         II         -         dot.9         青花         杯         直口杯a         9.8         -         -         3.4           56 - 12         3         6         IIK c         Q-22         I         -         No.76         青花         瓶         頸部         - <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>_</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td>											_				
56 - 9 3 6 III C R-22 I - No.101 青花 高足杯 口縁部 6.5       3.4         56 - 10 3 8 III C R P-24 II - No.5 青花 高足杯 底部 - 3.4         56 - 11 3 8 III C R P-24 II - No.76 青花 瓶 頂田杯 9.8         56 - 12 3 6 III C R P-22 II - No.76 青花 瓶 頸部         56 - 13 3 6 III C R P-22 II - No.101 青花 瓶 頸部         56 - 14 3 6 III C R P-22 II - No.47 青花 瓶 厨部         56 - 15 3 8 III C R P-24 II - No.47 青花 瓶 厨部         56 - 16 3 6 III C R P-24 II - No.47 青花 瓶 厩部         56 - 16 3 6 III C R P-24 II - No.47 青花 瓶 底部         57 - 1 3 6 III C R P-22 II S144 dot.94 黒釉 天目茶碗 天目 a         57 - 2 3 8 III C Q Q-22 II - dot.64 青花 天 天 日 下 R E															
56 - 10 3 8 Ⅲ区a - I - No.5 青花 高足杯 底部 - 3.4           56 - 11 3 8 Ⅲ区a P-24 Ⅱ - dot.9 青花 杯 直口杯a 9.8           56 - 12 3 6 Ⅲ区c Q-22 I - No.76 青花 瓶 頸部           56 - 13 3 6 Ⅲ区c R-22 Ⅱ - No.101 青花 瓶 頸部           56 - 14 3 6 Ⅲ区a Q-22 Ⅱ - dot.54 青花? 瓶 胴部           56 - 15 3 8 Ⅲ区a P-24 Ⅱ - No.47 青花 瓶 腰部           56 - 16 3 6 Ⅲ区c Q-22 Ⅱ - dot.6 青花 瓶 底部 3.5           57 - 1 3 6 Ⅲ区c Q-22 Ⅱ - dot.6 青花 瓶 底部 3.5           57 - 2 3 8 Ⅲ区a Q-23 Ⅱ - dot.24 黒釉 天目茶碗 天目a															
56 - 11 3 8 Ⅲ区															
56 - 12 3 6 Ⅲ区 C Q-22 I - No.76 青花 瓶 頸部           56 - 13 3 6 Ⅲ区 C R-22 II - No.101 青花 瓶 頸部           56 - 14 3 6 Ⅲ区 Q-22 II - dot.54 青花? 瓶 胴部           56 - 15 3 8 Ⅲ区 Q-22 II - No.47 青花 瓶 腰部           56 - 16 3 6 Ⅲ区 C Q-22 II - dot.6 青花 瓶 废部 3.5           57 - 1 3 6 Ⅲ区 C R-22 II S144 dot.94 黑釉 天目茶碗 天目 a           57 - 2 3 8 Ⅲ区 Q-23 II - dot.24 黑釉 天目茶碗 天目 a           57 - 3 3 6 Ⅲ区 C Q-22 II - No.79 黑釉 天目茶碗 天目 b 2.6           57 - 4 3 8 Ⅲ区 P-23 II - dot.47 白濁釉 小型壺 白濁釉壺 a 9.2           57 - 5 3 6 Ⅲ区 R-21 I - No.90 白濁釉 小型壺 口縁部 7.6           57 - 7 3 8 Ⅲ区 Q-24 II - No.681 褐釉 小型壺 口縁部 11.9           57 - 8 3 6 Ⅲ区 R-21 I - No.90 褐釉 小型壺 口縁部 10.6           57 - 9 3 8 Ⅲ区 Q-23 II S484 dot.195 褐釉 小型☆ 深鉢b 17.8															
56 - 13 3 6							_						_	_	
56 - 15 3 8 Ⅲ区 a P-24 Ⅱ - No.47 青花 瓶 腰部         56 - 16 3 6 Ⅲ区 c Q-22 Ⅱ - dot.6 青花 瓶 底部 - 3.5         57 - 1 3 6 Ⅲ区 c R-22 Ⅱ S144 dot.94 黒釉 天目茶碗 天目 a         57 - 2 3 8 Ⅲ区 a Q-23 Ⅱ - dot.24 黒釉 天目茶碗 天目 a         57 - 3 3 6 Ⅲ区 c Q-22 Ⅱ - No.79 黒釉 天目茶碗 天目 b 2.6         57 - 4 3 8 Ⅲ区 a P-23 Ⅱ - dot.47 白濁釉 小型壺 白濁釉壺 a 9.2         57 - 5 3 6 Ⅲ区 c Q-22 Ⅱ - No.90 白濁釉 小型壺 白濁釉壺 b 3.4         57 - 7 3 8 Ⅲ区 c Q-22 Ⅲ - dot.43 褐釉 小型壺 口縁部 7.6         57 - 7 3 8 Ⅲ区 c Q-21 Ⅱ - No.681 褐釉 小型壺 口縁部 11.9         57 - 8 3 6 Ⅲ区 c R-21 Ⅰ - No.90 樹釉 小型壺 口縁部 10.6         57 - 9 3 8 Ⅲ区 c R-21 Ⅰ - No.90 樹釉 小型壺 口縁部 10.6         57 - 9 3 8 Ⅲ区 Q-23 Ⅱ S484 dot.195 褐釉 小型変数 深鉢b 17.8									青花	瓶					
56 - 16 3 6 Ⅲ区 C       Q-22 Ⅲ - dot.6 青花 瓶 底部 3.5         57 - 1 3 6 Ⅲ区 C       R-22 Ⅲ S144 dot.94 黒釉 天目茶碗 天目 a															
57 - 1       3       6       Ⅲ区C       R-22       Ⅱ       S144       dot.94       黒釉       天目茶碗       天目a       -       -       -         57 - 2       3       8       Ⅲ区a       Q-23       Ⅱ       -       dot.24       黒釉       天目茶碗       天目a       -       -       -         57 - 3       3       6       Ⅲ区c       Q-22       Ⅱ       -       No.79       黒釉       天目茶碗       天目 a       -       -       -       -       2.6         57 - 4       3       8       Ⅲ区a       P-23       Ⅱ       -       dot.47       白濁釉       小型壺       白濁釉壺a       9.2       -       -         57 - 5       3       6       Ⅲ区c       R-21       Ⅱ       -       No.90       白濁釉       小型壺       白濁和壺b       3.4       -       -         57 - 6       3       6       Ⅲ区c       Q-22       Ⅲ       -       dot.43       褐釉       小型壺       口縁部       7.6       -       -         57 - 7       3       8       Ⅲ区c       R-21       Ⅱ       -       No.90       褐釉       小型壺       口縁部       10.6       -       -         57 - 8 <t< td=""><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></t<>															
57 - 2 3 8 Ⅲ区a Q-23 Ⅱ - dot.24 黒釉 天目茶碗 天目 a         57 - 3 3 6 Ⅲ区c Q-22 Ⅰ - No.79 黒釉 天目茶碗 天目 b 2.6         57 - 4 3 8 Ⅲ区a P-23 Ⅱ - dot.47 白濁釉 小型壺 白濁釉壺 a 9.2         57 - 5 3 6 Ⅲ区c R-21 Ⅰ - No.90 白濁釉 小型壺 白濁釉壺 b 3.4         57 - 6 3 6 Ⅲ区c Q-22 Ⅲ - dot.43 褐釉 小型壺 口縁部 7.6         57 - 7 3 8 Ⅲ区a O-24 Ⅱ - No.681 褐釉 小型壺 口縁部 11.9         57 - 8 3 6 Ⅲ区c R-21 Ⅰ - No.90 褐釉 小型壺 口縁部 11.9         57 - 9 3 8 Ⅲ区a Q-23 Ⅱ S484 dot.195 褐釉 小型壺 冗縁部 10.6															
57 - 3     3     6     Ⅲ区c     Q-22     I     -     No.79     黒釉     天目 茶碗     天目 b     -     -     2.6       57 - 4     3     8     Ⅲ区a     P-23     II     -     dot.47     白濁釉     小型壺     白濁釉壺a     9.2     -     -       57 - 5     3     6     Ⅲ区c     R-21     I     -     No.90     白濁釉     小型壺     白濁釉壺b     3.4     -     -       57 - 6     3     6     Ⅲ区c     Q-22     II     -     dot.43     褐釉     小型壺     口縁部     7.6     -     -       57 - 7     3     8     Ⅲ区c     Q-24     II     -     No.90     褐釉     小型壺     口縁部     11.9     -       57 - 8     3     6     Ⅲ区c     R-21     I     -     No.90     褐釉     小型壺     口縁部     10.6     -     -       57 - 9     3     8     Ⅲ区a     Q-23     II     S484     dot.195     褐釉     小型深鉢     深鉢b     17.8     -     -															
57 - 4     3     8     II 区     P-23     II     - dot.47     白濁釉     小型壺     白濁釉壺 a     9.2      -       57 - 5     3     6     II 区     R-21     I     - No.90     白濁釉     小型壺     白濁釉壺 b     3.4        57 - 6     3     6     II 区     Q-22     II     - dot.43     褐釉     小型壺     口縁部     7.6        57 - 7     3     8     II 区     Q-24     II     - No.681     褐釉     小型壺     口縁部     11.9        57 - 8     3     6     II 区     R-21     I     - No.90     褐釉     小型壺     口縁部     10.6        57 - 9     3     8     II 区     Q-23     II     S484     dot.195     褐釉     小型深針     深針b     17.8     -     -															
57 - 5 3 6 Ⅲ区C R-21 I - No.90 白濁釉 小型壺 白濁釉壺b 3.4       57 - 6 3 6 Ⅲ区C Q-22 Ⅲ - dot.43 褐釉 小型壺 口縁部 7.6       57 - 7 3 8 Ⅲ区a O-24 Ⅱ - No.90 褐釉 小型壺 口縁部 11.9       57 - 8 3 6 Ⅲ区C R-21 Ⅰ - No.90 褐釉 小型壺 口縁部 10.6       57 - 9 3 8 Ⅲ区a Q-23 Ⅱ S484 dot.195 褐釉 小型漆 深鉢b 17.8															
57 - 6 3 6 Ⅲ区c     Q-22 Ⅲ - dot.43 褐釉 小型壺     口縁部 7.6       57 - 7 3 8 Ⅲ区a     O-24 Ⅱ - No.681 褐釉 小型壺     口縁部 11.9       57 - 8 3 6 Ⅲ区c     R-21 Ⅰ - No.90 褐釉 小型壺     口縁部 10.6       57 - 9 3 8 Ⅲ区a     Q-23 Ⅱ S484 dot.195 褐釉 小型深鉢     深鉢b     17.8															
57 - 7 3     8 II区a O-24 II - No.681 褐釉 小型壺 口縁部 11.9       57 - 8 3 6 II区c R-21 I - No.90 褐釉 小型壺 口縁部 10.6       57 - 9 3 8 II区a Q-23 II S484 dot.195 褐釉 小型深鉢 深鉢b 17.8															
57 - 8 3 6 III区 R-21 I - No.90 褐釉 小型壺 口縁部 10.6       57 - 9 3 8 III区 Q-23 II S484 dot.195 褐釉 小型深鉢 深鉢 D 17.8													_	_	
57 - 10 3 8 III A P-23 II - No.243 褐釉 大型壺 壺d 17.6															
	57 - 10	3	8	II⊠a	P-23	П	_	No.243	褐釉	大型壺	壺d	17.6	_	_	

第25表 出土遺物観察表(4)

											34.	測値(cm,	<i>a</i> )	
	04										口径	則他(cm, 器高	g) 底径	10. 1
遺物番号	屋敷	次	地区	グリット	ド層	遺構	dot/No	種別	形式	分類	外径	厚さ	重量	備考
57 - 11	3	6	Ⅲ区c	R-22	I	_	No.110	褐釉	大型壺	壺d	17.6	_		
57 - 12 57 - 13	3	8	Ⅲ区a Ⅲ区c	P-24 P-22	I		dot.37 No.103	褐釉 褐釉	大型壺 大型壺	壺 d 壺 d	20.6			
57 - 14	3	6	II ⊠C	Q-22	II	_	dot.7	褐釉	小型壺	底部		_	15.0	
57 - 15	3	6	Ⅲ区c	Q-22	I	_	No.25	褐釉	大型壺	底部	_	_	15.0	
57 - 16	3	6	Ⅲ区c	_	I	_	No.31	褐釉	水注or急須?		_			
57 - 17 58 - 1	3	6	II区c II区c	Q-21 R-21	I I		No.85 No.37	褐釉 褐釉	蓋 鉢	蓋 口縁?底部?	7.0			
58 - 2	3	6	III 🗵 C	R-21	I		No.169	1497मा	擂鉢	口縁部	25.0			
58 - 3	3	8	Ⅲ区c	Q-22	П	S92	dot.157	褐釉	花鉢	口縁部	_	_	_	
58 - 4	3	6	Ⅲ区c	Q-21	I		No.99	焼締陶	擂鉢	底部			11.0	
58 - 5 58 - 6	3	8	II区a II区a	P-24	I		- No.21	五彩 瑠璃釉	碗or皿 瓶		5.5			
58 - 7	3	8	ш⊠а Ш⊠а	Q-23	II	S423	dot.176	翡翠釉	瓶瓶	頸部	-			
58 - 8	3	8	Ⅲ区a	P-24	I		No.21	翡翠釉	瓶	頸部	_		_	
58 - 9	3	6	Ⅲ区c	Q-22	П		dot.5	緑釉	壺?	底部				
58 - 10 59 - 1	3	6 8	Ⅲ区 c	Q-22	П	S18	dot.50	瓦質土器	蓋	蓋	17.8			口径として計測
59 - 1 59 - 2	3	8	II区a c	Q-22 Q-22	П	S306 -	dot.100 dot.130	象嵌青磁象嵌青磁	碗碗	胴部 胴部				
59 - 3	3	8	II 🗵 a	0-23	П		No.100	褐釉	壺	タイ壺 b	12.8			
59 - 4	3	6	Ⅲ区c	Q-21	I	_	No.100	褐釉	壺	タイ壺 c	10.5			
59 - 5	3	8	II⊠a	P-24	II	S520	dot.116	褐釉	壺	底部	17.0		10.7	
59 - 6 59 - 7	3	6	Ⅲ区c	Q-21	I I		No.31 No.113	褐釉 褐釉	壺	口縁部 底部	17.9		13.0	
59 - 8	3	6	III ⊠ C	S-22	I	S165	No.172	土器	壺	— NEZ LIN			-	
59 - 9	3	8	Ⅲ区a	P-24	II	S520	dot.119	土器	蓋	_	10.6	_	_	
59 - 10	3	6	Ⅲ区c	Q-21	П	S190	No.262	ベトナム白磁	碗		8.5	4.1	4.1	
60 - 1	3	8	Ⅲ区a	Q-23	II II	S721 S1097	dot.205 dot.233	玉	丸玉	<u>ガラス製</u> ガラス製	1.245	1.133	2.13	孔径:0.231 1cm前後の玉
60 - 3	3	8	Ⅲ区a Ⅲ区a	Q-24 P-23	II	S921	dot.214	<u> </u>	<u>丸玉</u> 丸玉	<u>ガラス製</u> ガラス製	1.180 0.631	0.912	1.36 0.61	孔径: 0.502 孔径: 0.332
60 - 4	3	8	II 🗵 a	Q-22	II	S898	dot.150	玉	丸玉	ガラス製	0.859	0.694	0.69	孔径: 0.273
60 - 5	3	8	Ⅲ区a	Q-23	II	S426	dot.91	玉	丸玉	ガラス製		0.826	0.39	孔径:-
60 - 6	3	8	Ⅲ区a	Q-23	П	S397	dot.89	玉	小玉	ガラス製	0.527	0.439	0.24	孔径:0.180 5mm以下のガラス製 小玉
60 - 7	3	8	Ⅲ区a	Q-23	Π	S1040		玉	小玉	ガラス製	0.424	0.263	0.08	孔径:0.175
60 - 8	3	8	Ⅲ区a	Q-23	<u>II</u>	S1040	dot.185	玉工	- 小玉	ガラス製	0.424	0.265	0.08	孔径:0.156
60 - 9	3	8	Ⅲ区a Ⅲ区a	Q-23 Q-23	II II	S1040 S1040	dot.187	<u>玉</u> 玉	小玉 	ガラス製 ガラス製	0.414	0.210	0.08	孔径: 0.172 孔径: 0.160
60 - 11	3	8	II 🗵 a	Q-23	II	S1040		玉	小玉	ガラス製	0.403	0.220	0.05	孔径: 0.164
60 - 12	3	8	Ⅲ区a	Q-23	II	S1040		玉	小玉	ガラス製	0.416	0.259	0.06	孔径:0.163
60 - 13	3	8	Ⅲ区a	Q-23	<u>II</u>	S1040	dot.179	玉工	小玉	ガラス製	0.404	0.243	0.05	孔径:0.157
60 - 14	3	8	II区a II区a	Q-23 Q-23	II II	S1040 S1040		玉 玉	小玉 	ガラス製 ガラス製	0.370	0.273	0.05	孔径: 0.126 孔径: 0.184
60 - 16	3	8	II 🗵 a	Q-23	II	S1040	dot.183	玉	小玉	ガラス製	0.409	0.212	0.07	孔径: 0.173
60 - 17	3	8	Ⅲ区a	Q-23	Π	S1040	dot.180	玉	小玉	ガラス製	0.435	0.272	0.05	孔径: 0.155
60 - 18	3	8	Ⅲ区a	Q-23	<u>II</u>	S1040		玉	小玉	ガラス製	0.321	0.338	0.03	孔径:0.105
60 - 19 60 - 20	3	8	II区a II区a	Q-23 Q-23	П	S1040 S771	dot.180	玉 玉	<u>小玉</u> 小玉	ガラス製 ガラス製	0.377	0.267	0.05	孔径: 0.137 孔径: 0.141
60 - 21	3	6	II 🗵 a	Q-22	II	S317	No.221	玉	小玉	ガラス製	0.309	0.290	0.03	孔径: 0.143
60 - 22	3	8	Ⅲ区a	Q-23	II	S859	dot.153	玉	小玉	ガラス製	0.452	0.321	0.05	孔径:-
61 - 1	3	6	III⊠ c	Q-21	I		No.112	銭貨	元豊通寶		2.782	0.165	5.85	1078年初鋳
61 - 2	3	- 8 - 6	II区a II区c	P-23	表面清掃	S921	dot.213 No.175	銭貨 銭貨	聖宋元寶		2.426	0.138	3.63 1.93	1101年初鋳 または□□元寶
61 - 4	3	8	II ⊠ a		区田刊市 II	_	No.110	銭貨	□元□頁 □元□寶	_	_	0.130	1.33	または口口元寶
61 - 5	3	8	Ⅲ区a	Q-23	II	S394	dot.161	銭貨	口元口寶	_	2.291	0.179	2.38	または口口元寶
61 - 6	3	8	Ⅲ区a	Q-23	II	S397	dot.90	銭貨	判読不能	_	2.248	0.156	1.44	または無文銭
61 - 7	3	8	II区a II区a	P-24 Q-23	II II	- S752	No.60 dot.209		無文銭		2.017 1.884	0.116	0.58	
62 - 1	3	8	ш⊠с	Q-23	I	-	No.33	数 数製品	<u>無又獎</u> 釘	_	6.3	-	19.1	
62 - 2	3	8	Ⅲ区a	P-23	II	S1115	dot.239	鉄製品	釘	_	5.4	_	10.0	
62 - 3	3	8	Ⅲ区a	P-24	П	_	dot.43	鉄製品	釘	-	2.7	_	0.8	
62 - 4 62 - 5	3	- 8 - 6	II区a II区c	P-24 Q-21	П	- S180	No.77 No.250	鉄製品 鉄製品	釘 釘		3.9		5.9 8.3	
62 - 6	3	6	III ⊠ C	Q-21	I	-	No.136	<b>鉄製品</b>	<u></u>	_	9.3		29.6	
62 - 7	3	8	II⊠a	P-24	II	_	No.35	鉄製品	釘?	_	4.8		8.4	
62 - 8	3	8	Ⅲ区a	Q-23	П	S691	dot.190	鉄製品	釘?	_	7.0	_	15.3	
62 - 9	3	8	Ⅲ区a		П	S401	No.203	鉄製品	釘?		3.2		2.9	
62 - 10 62 - 11	3	8	II区a II区a	Q-23 Q-23	П	S401 S464	No.203 dot.86	鉄製品 鉄製品	<u> </u>		3.4 4.8		3.9	SB01
62 - 12	3	8	II⊠ a	Q-23	II II		dot.216	鉄製品	<u> </u>		4.0		10.6	2201
62 - 13	3	8	Ⅲ区a	P-24	II	_	dot.52	鉄製品	鏃	_	6.8	_	15.4	
62 - 14	3	8	Ⅲ区a	P-24	II	-	dot.9	鉄製品	不明		6.0		35.5	Alt o
62 - 15	3	8	Ⅲ⊠α	Q-23 R-22	П	S845	dot.211	鉄製品 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	不明		12.3		176.2	鍋?
62 - 16 62 - 17	3	<u>6</u> 8	Ⅲ区c Ⅲ区a	R-22 P-23	II II	S105 S1115	dot.87 dot.239	鉄製品 鉄製品	不明 鋲		4.8 1.2		51.5 4.6	
62 - 18	3	8	Ш⊠a	P-23	II		dot.239	鉄製品	責具?	_	3.7		5.2	
62 - 19	3	8	Ⅲ区a	P-23	П	S1115	dot.239	鉄製品	飾り金具?	_	3.3	_	2.1	
62 - 20	3	8	Ⅲ区a	P-23	II	S1115	dot.239	鉄製品	環状製品				1.1	

第26表 出土遺物観察表(5)

										·	計	則値(cm,	g)	
遺物番号	屋敷	次	地区	グリッド	層	遺構	dot/No	種別	形式	分類	口径	器高	底径	備考
33 - 1	2	C	шід а	D 91	т		No 2F	て 割 口	715.7	*F+도브	外径 4.c	厚さ 0.9	重量	
63 - 1 63 - 2	3	6	Ⅲ区 c	R-21 Q-22	I	S71	No.25 dot.61	石製品 石製品	延石 砥石	料板岩 緑色岩	4.6 12.9	2.4	32.8 387.8	
63 - 3	3	8	II 🗵 a	P-24	II	-	dot.51	石製品	錘	安山岩	5.2	1.7	16.7	
63 - 4	3	6	Ⅲ区a	Q-23	-	S467	dot.80	石製品	硯	粘板岩	_	_	12.1	
63 - 5	3	8	Ⅲ区a	_	I	_	_	貝製品	漁網鍾	ハナマルユキ	3.4	_	4.2	
63 - 6	3	6	Ⅲ区c	R-21	I	-	No.37	貝製品	漁網鍾	ハナマルユキ	3.3	_	6.5	
63 - 7 63 - 8	3	6	Ⅲ区 c	Q-22	_	S1138	No.674	貝製品	漁網鍾	ハナマルユキ	3.1	_	4.3	
63 - 8 63 - 9	3	6	Ⅲ区 c	R-21 —	I		No.93 No.31	貝製品 貝製品	漁網鍾	ハナマルユキ ハナマルユキ	2.9 3.2		7.3	
63 - 10	3	8	II ⊠ a	P-23		S594	No.519	骨製品		— /// /// —	3.7	0.3	0.9	,
73 - 1	4	5	V区	V-17	IV	_	dot.903	土器	鉢?	口縁部	21.6	_	_	
73 - 2	4	5	V	U-17	IV	_	dot.889	土器	壺?	口縁部	8.0			
73 - 3	4	5	V区	U-17	Ш		dot.904	土器	くびれ平底	底部			5.0	
74 - 1	4	5	V区	V-17			dot.581	青磁	碗	劃花文	16.2			
74 - 2 74 - 3	4	5 5	V区 V区	U-14 U-17	I		No.444 No.1020	青磁 青磁	<u>碗</u> 碗	<u>劃花文</u> 無文碗	13.6	5.8	4.4	U-17IV層、U-17Ⅲ層
74 - 4	4	5	V区	V-18		_	dot.118	青磁	碗	鎬蓮弁 b	-		-	01/11/周、01/皿周
74 - 5	4	5	V区	U-18		_	dot.33	青磁	碗	無鎬Ib	_		_	
74 - 6	4	5	V	V-17	II	_	dot.453	青磁	碗	細蓮弁a	12.7	_	_	
74 - 7	4	5	V区	V-18	IV	_	dot.800	青磁	碗	細蓮弁 a	13.2		_	
74 - 8	4	5	V区	V-18	Ш	-	dot.244	青磁	碗	細蓮弁a	12.8			V-18 S99
'4 - 9 '4 - 10	4	5 5	VZ VZ	V-18 W-18	I	S40	dot.666 No.442	青磁 青磁		細蓮弁 a 細蓮弁 c				
4 - 10	4	5 5	V区	V-18			dot.182	青磁	碗	細連弁 b	14.6		4.6	V-18 I 層
74 - 12	4	5	VZ	V-18		S72	dot.656	青磁	碗	細連弁b	15.2			V 101/H
														U-18Ⅲ 層 dot.19、V-18
74 - 13	4	5	V区	V-19	Π	_	dot.437	青磁	碗	細蓮弁 c	12.0	_	_	S322 dot.885
4 - 14	4	5	V	V-17	Ш	_	dot.552	青磁	碗	細蓮弁 b	15.0	8.0	5.4	
75 - 1	4	5	V区	V-18			dot.199	青磁	碗	雷文a	12.4			V-18 S34 dot.710
75 - 2 75 - 3	4	5	V区	V-18 U-17	Ш		dot.96	青磁	碗 rst:	雷文 a	14.4			V-17 I 層
5 - 5 5 - 4	4	5 5	VZ VZ	U-17	Ш		dot.414 No.38	青磁 青磁	<u>碗</u> 碗	<u>雷文 a</u> 雷文 a	14.6			V-17Ⅲ層
75 - 5	4	5	V区	V-18		_	dot.346	青磁	碗	雷文b	14.2			V 11 m/H
'5 - 6	4	5	V区	U-17	I	_	No.16	青磁	碗	雷文b	18.2	_	_	V-19 I 層
75 - 7	4	5	V区	U-17	II	_	No.46	青磁	碗	雷文b	16.8	_	_	U-17 I 層、U-17Ⅲ層
75 - 8	4	5	V区	V-17	Ш	_	No.585	青磁	碗	雷文 a ?	_	_	5.8	U-17Ⅲ層 dot.411、V-18Ⅱ
						C07F					146			U-17Ⅱ層
75 - 9 75 - 10	4	5 5	V区 V区	V-18 U-17		S275	dot.852 No.42	青磁 青磁	<u>碗</u> 碗	有文外反 無鎬底部	14.6		4.6	
75 - 11	4	5	VZ	V-18	I		No.49	青磁	碗	細蓮弁底部	_		6.0	
75 - 12	4	5	IV区	_	表採	_	No.2	青磁	碗	細連弁底部	_	_	5	
'5 - 13	4	5	V区	V-17	Ι	_	No.521	青磁	碗	細蓮弁底部	_	_	4.8	
76 - 1	4	5	V区	U-17	II	_	No.46	青磁	碗	無文外反	14.6			
76 - 2 76 - 3	4	5	V区	V-18 V-17	IV IV		dot.719	青磁	碗	無文外反	14.8			
76 - 3 76 - 4	4	5 5	V区 V区	V-17 V-18	I		dot.795 No.42	青磁 青磁	<u>碗</u> 碗	無文外反 無文外反	14.0			
76 - 5	4	5	V区	U-18	_	S435	dot.310	青磁	碗	無文外反	13.0			,
6 - 6	4	5	V区	V-18	_	S401	dot.909	青磁	碗	無文外反	_	_	5.8	
76 - 7	4	5	V区	V-17	${\rm I\hspace{1em}I}$	_	No.493	青磁	碗	無文直口	14.2	_	_	
6 - 8	4	5	V区	V-18	Ш		dot.105	青磁	碗	無文直口	12.0			
6 - 9	4	5	V区	U-18	I		No.44	青磁	碗	細連弁底部			4.2	
6 - 10 6 - 11	4	5	V区 V区	V-17	I		dot.93	青磁	<b>碗</b> i	雷文底部			5.2	
$\frac{6}{7} - \frac{11}{1}$	4	5 5	V X	U-18 U-18	I		No.444 dot.757	青磁 青磁	施 皿	雷文底部?	9.6		5 —	
77 - 2	4	5	VZ	U-18	Ш	_	No.38	青磁		櫛描文	10.0			
7 - 3	4	5	V区	V-17	III	_	dot.806	青磁	Ш	櫛描文	_	_	5.8	
7 - 4	4	5	V区	_	表採	_		青磁	Ш	口折 b	11.2	_	_	<del>_</del>
7 - 5	4	5	V区	V-17	II		dot.574	青磁		口折 c	12.4			
7 - 6 7 - 7	4	5	V区	U-18	I		No.28	青磁		口折 c	12.4			
<del>7 - 7</del> <del>7 - 8</del>	4	5 5	V区 V区	V-18 V-18	IV I		dot.738 No.23	青磁 青磁	<u> </u>	口折 c 口折 c	12.2		7.2	
7 - 8	4	5 5	V X	U-17	I		No.20	青磁	Ш.	正折で 底部			5.6	
7 - 10	4	5	V区	U-18	IV	_	No.877	青磁		蓮弁直口 d	11.2	_	-	
7 - 11	4	5	V区	V-18	_	S36	dot.662	青磁		蓮弁直口 c	13.0	_	_	
7 - 12	4	5	V区	U-18	I	_	No.41	青磁	Ш	蓮弁直口 e	11.8			
7 - 13	4	5	V区	V-18	II		dot.116	青磁		無文直口	9.4	3.1	5.2	V-18 I 層、U-18 I 層
7 - 14	4	5	V区	V-18	I		No.41	青磁		腰折d	10.2			
7 - 15	4	5	VX	V-18	I		No.18	青磁		腰折 d	9.0	3	5.4	
7 - 16	4	5 5	V区 V区	U-17 U-18	I II		No.12 dot.1	青磁 青磁	<u>III</u>	腰折 c 	8.8 11.6	2.9	3.6	
8 - 2	4	5	VZ	U-18	Ш	_	dot.10	青磁	Ш	腰折b	12.1	3.4	5.0	U-17 I 層、V-18 II 層、V-1 層、U-18 S187、U-18 II 層、 採、U-18 I 層、V-17 III 層
78 - 3	4	5	V区	U-18	I		No.35	青磁	Ш		11.3			1//、 U 10 1 / / ( V - 1 / 1 世 // )
8 - 4	4	5 5	V 🗵	U-18	I		No.456	青磁	Ш.	腰折底部	- 11.5		5.0	
78 - 5	4	5	V区	V-18	IV	_	dot.561	青磁		腰折底部	_		4.8	
						2004								
'8 - 6	4	5	$V\boxtimes$	_	_	S204	dot.840	青磁	Ш	腰折底部	_	_	5.4	

第27表 出土遺物観察表(6)

											計	則値(cm,	α)	
遺物番号	屋敷	次	地区	グリッド	層	遺構	dot/No	種別	形式	分類	口径	器高	底径	備考
			VZ	U-17							外径 11.8	- 厚さ 	重量	
78 - 8 78 - 9	4	5 5	V Z	V-18		S312 S57	dot.876 dot.690		<u> </u>	無文外反 無文外反	12.4			V-18 I 層
78 - 10	4	5	V区	V-17	Ш	-	dot.517	青磁	Ш	無文直口底部	-	_	5.4	
78 - 11	4	5	V区	U-17	I	_	No.472	青磁	Ш	無文外反底部	_	_	7.4	
79 - 1	4	5	V区	U-18	I		No.44	青磁	盤	盤a	21.6			***************************************
<del>79 - 2</del> <del>79 - 3</del>	4	5 5	VZ VZ	U-18 W-18	IV I		dot.752 dot.824	青磁 青磁	盤盤	盤 c 無文口縁	24.2			U-17Ⅱ層、U-17Ⅳ層 V-18Ⅳ層
79 - 4	4	5	V Z	U-18	II		No.29	青磁	盤	底部	_		8.0	V-17S176dot.806
79 - 5	4	5	VZ	V-18	_	S351	dot.901	青磁	盤	盤a	_	_	7.4	
79 - 6	4	5	V区	V-18	I		No.679	青磁	盤	底部	_	_	12	
79 - 7	4	5	V区	V-18	I		No.19	青磁	杯	碁笥底 b			3.2	***************************************
79 - 8 79 - 9	4	5 5	VZ VZ	U-17 V-17	I		No.46 No.22	青磁 青磁	壺? 器台	胴部 胴部	_			U-17 I 層、W-18 II 層
79 - 10	4	5	V区	V-18			dot.226	青磁	瓶	胴部				U-17Ⅲ層
80 - 1	4	5	VZ	V-18	IV	_	dot.740	白磁	碗	今帰仁タイプ	16.8	_	_	, <del>, , , , , , , , , , , , , , , , , , </del>
80 - 2	4	5	V区	U-17	I	_	No.33	白磁	Ш	ビロースク	_	_	_	
80 - 3	4	5	V区	U-18		S117	dot.850	白磁	碗	無文外反	15.4			
80 - 4	4	5	$V\boxtimes$	U-18	I	_	No.47	白磁	碗	無文外反	_	_	5.8	U-18Ⅲ層、U-18S187、U-17 I層とⅡ層、V-18Ⅲ層
80 - 5	4	5	V区	U-18	II		dot.5	白磁	碗	無文直口	_	_	5.6	I/ICI/IIX VIOLE/II
80 - 6	4	5	V区	V-17	I	_	No.521	白磁	Ш	口禿	11.4	_	_	
80 - 7	4	5	V区	U-17	IV	S9	dot.855	白磁	Ш	直口皿a	_	_	4.2	
80 - 8	4	5	V	U-18	Ι	_	No.444	白磁	Ш	直口皿a	9.0	2.2	4.6	U-18Ⅲ 層dot.17、U-17Ⅲ 層
80 - 9	4	5	V区	V-17	II		dot.505	自磁	Ш	直口皿a	8.4	2.0	3.4	dot.623
80 - 10	4	<u>5</u>	V Z	U-18	I		No.464	白磁	Ш.	外反皿a	12.2		- 5.4	
80 - 11	4	5	V区	V-18	_	S57	dot.696	白磁	?	外反皿a	-		7.6	
80 - 12	4	5	V区	U-18	I	_	No.35	白磁	Ш	外反皿a	_	_	5.2	V-17Ⅲ層
80 - 13	4	5	V区	V-18	— TT	S157	dot.808	白磁	<u> </u>	輪花杯	6.9	2.8	3.0	表採(底部)
80 - 14	4	5 5	VZ VZ	V-18 U-17		S116	dot.110 dot.765	<u>自磁</u> 自磁?	小杯 小杯	口縁部 底部	6.4		1.6	
80 - 16	4	5	V区		表採	- 5110	No.10	白磁	壺	口縁部	6.6		-	
80 - 17	4	5	V区	V-17	I	_	No.521	白磁	袋物	口縁部	_	_	_	
80 - 18	4	5	V	U-17	I	_	No.17	青白磁	フタ	合子	9.6	2.3	4.2	
81 - 1	4	5	V区	V-18		S82	dot.671	染付	碗	胴部	- 1.4.4			もしくは鉢
81 - 2 81 - 3	4	5 5	VZ VZ	U-17 U-17	I		No.438 dot.495	染付 	碗碗	外反碗 b 外反碗 b	14.4			主郭分類碗Ⅱ類? U-17 I 層
81 - 4	4	5	IV 🗵		表採		No.3	染付	碗	外反碗 c	-		5.7	01/1/恒
81 - 5	4	5	VZ	V-18	-	S89	dot.744	染付	碗	直口碗a	_	_	_	
81 - 6	4	5	V区	V-17	I	_	No.26	染付	碗	直口碗c	_	_	6.0	主郭分類碗Ⅲ c 類
81 - 7	4	5	V区	U-17	I		No.14	染付	碗	直口碗c	14.0			
81 - 8	4	5 5	VZ VZ	V-18 —	- I 表採		No.73	染付 染付	碗碗	直口碗 a 直口碗 c	14.2		5.6	
81 - 10	4	5	V区	V-18	I		No.894	染付	碗	口縁部	10.4	_	-	
82 - 1	4	5	V区	V-18	I	_	No.15	染付	碗	口縁部	11.2	_	_	主郭分類碗V類?
82 - 2	4	5	V区	U-17	I		No.33	染付	碗	直口皿d				
82 - 3	4	5 5	V区	U-17	I		No.17	染付?	碗?	底部	- 040			
82 - 4 82 - 5	4	 5	VZ VZ	U-17 V-18		S89	No.37 dot.863	染付 	<u>III</u>	大皿 a 外反皿 a	24.0		4.6	U-17 I 層
82 - 6	4	5	VZ	U-17	I	-	No.20	染付	<u>III.</u>	外反皿a	9.6	_	3.0	0111/1
82 - 7	4	5	V区	_	表採	_	No.11	染付	Ш	外反皿a	_	_	5.2	
82 - 8	4	5	V区	V-17	IV		dot.817	染付	Ш	碁笥底 b				
82 - 9 82 - 10	4	5 5	VZ VZ	V-18 V-18	_	S89 S80	dot.724 dot.746	染付 染付	 杯		_		3.6 5.2	
82 - 11	4	5	V 🗵	U-17	I	_	No.27	染付	杯	小杯	_		2.6	U-18 I 層
82 - 12	4	5	VZ	U-17	_	S16	No.1167	染付	杯	小杯	_	_	2.6	/14
82 - 13	4	5	V区	V-18	I	_	No.19	元様式	小壺	胴部	_	_	_	U-18 I 層
								青花?						U 101/H
82 - 14	4	5 5	VZ VZ	U-18 V-18		S97	dot.858 dot.142	坐付 褐釉	<u>瓶</u>	頸部 壺 b	8.0			
83 - 2	4	5 5	V 🗵	V-18	表採		No.8	福釉	壺	壺 b	12.0			
83 - 3	4	5	V区	V-18	17/1/		No.1130	褐釉	壺	壺b	11.2		_	V-18 I 層
83 - 4	4	5	V区	U-17	Ш	_	dot.44	褐釉	深鉢	深鉢 a	11.8	_	_	
83 - 5	4	5	V区	W-18	I		No.442	褐釉	壺	胴部			17.0	V-18Ⅱ層、表採
83 - 6	4	5 5	VZ VZ	V-17 U-17	Ш		dot.774 dot.395	褐釉 褐釉	壺壺壺		23.7		17.6	V-17 II 層 dot.444
83 - 8	4	5	IV区	-	表採		No.3	褐釉	壺	<u>量 d</u>	19.0	_		· III/H GOLTTT
84 - 1	4	5	V区	_	-	_	dot.841	褐釉	壺	底部	-	_	19.0	
84 - 2	4	5	V区	V-18	I	_	No.18	褐釉	壺	底部	-	_	13.8	
84 - 3	4	5	V区	U-17	I		No.32	褐釉		急須 b	7.4		- 2.0	
84 - 4 84 - 5	4	5 5	VZ VZ	V-18 V-17	I		No.13 dot.531	黒釉	天目茶碗 擂鉢	天目 a 口縁部	34.4		3.9	
84 - 6	4	5	V 🗵	V-17 V-18	—	S82	dot.681	瑠璃釉	袋物・瓶?		-		_	
84 - 7	4	5	V区	V-18	_	S89	dot.864	緑釉or三彩	瓶?	胴部	_	_		
84 - 8	4	5	V区	V-18	I	_	No.15	三彩	?	?	-	_	_	
84 - 9	4	5	V区	V-18	I		No.223	三彩	水注	頸部				
84 - 10 84 - 11	4	5 5	VZ VZ	U-17 U-17	I		No.20 No.515	三彩? 三彩	? 水注	脚部 底部	_			
84 - 12	4	<u>ə</u>	V 🗵	V-18	I		No.67	<u>ニャ</u> 翡翠釉		底部	11.2		4.8	
						-				/		-		

第28表 出土遺物観察表(7)

											計:	測値(cm,	g)	
NR 444 177. 121	□ ±4.	\L	tris to	12 11 10		Nets, Little	1 // > 7	66.00	4- уп	/\ \dz:	口径	器高	底径	t#: - <del>1</del> 7
遺物番号	屋敷	次		グリッド	層	遺構 	dot/No	種別	形式	分類 	外径	厚さ	重量	備 考 
85 - 1	4	5	V区	U-17	Ш	_	dot.408	擂鉢	擂鉢	備前	27.2	(9.85)		口縁部V-18 II 層No.375 U-18 II 層 dot.363、U-18 I
85 - 2	4	5	V区	V-18	Ι	_	No.13	陶器	擂鉢	備前	26.0	12.3	9.0	回,U-18Ⅱ 唐 dot.583、U-18Ⅰ 居、U-17Ⅲ 居dot.583、V-18
														I 層、U-18Ⅲ層dot.7
86 - 1	4	5	V	V-18	Ш	_	dot.207	褐釉	壺	中型長胴壺	12.0	_	_	V-17Ⅲ層(dot.80.82.81.551) (復元)
86 - 2	4	5	V区	V-18	Ш		dot.227	褐釉	壺	中型長胴壺	11.4	_	_	V-17Ⅲ層dot.534
86 - 3	4	5	V	V-18		S49	dot.703	褐釉	壺	壺b	13.6	_	_	
86 - 4	4	5 5	VZ VZ	U-17 U-17	I		No.456 No.27	褐釉	壺	壺 c 口縁部	18.8			
86 - 6	4	5	V Z	V-19	II		dot.422	褐釉 褐釉	壺	並 を 虚 a	19.0			
86 - 7	4	5	VZ	U-17	I	_	No.518	褐釉	壺	底部	_	_	25.8	
86 - 8	4	5	V区	U-17	I		No.20	褐釉	壺	底部	-		19.8	
86 - 9 86 - 10	4	5 5	VZ VZ	V-18 U-18	I		No.15 No.41	褐釉 褐釉	壺	小型壺 小型壺	7.8			
86 - 11	4	5	VZ	V-18	I		No.15	鉄絵	合子	蓋	10.2	_	_	
86 - 12	4	5	V区	V-18	I	_	No.13	鉄絵	合子	蓋	11.0	_	_	
$\frac{86 - 13}{87 - 1}$	4	5 5	VZ VZ	V-19 V-18	I		No.461 dot.208	ベトナム産青花 玉	瓶 小玉		1.183	0.084	8.4 1.34	孔径: 0.297
$\frac{87}{87} - \frac{1}{2}$	4	5	V区	V-17 · 18	_ ш	S165	No.532	玉	小玉	カラス製	-	0.666	0.25	孔径:-
87 - 3	4	5	V区	V-18	III		No.227	銭貨	□定□寶	-	_	0.123	1.37	10111
87 - 4	4	5	V区	V-18	_	S89	No.1097	銭貨	元祐通寶		3.006	0.142	5.04	
$\frac{87 - 5}{87 - 6}$	4	5 5	VZ VZ	U-17 U-17	I		No.472 No.129	銭貨 銅製品	判読不能 飾り金具		2.242	0.121	2.01	
$\frac{87}{87} - 7$	4	5	V区	V-17	I		No.26	銅製品	飾り金具		4.8	_	2.45	
87 - 8	4	5	V区	V-18	Ш		No.291	銅製品	簪		6.5	_	2.51	
87 - 9	4	5	V区	V-18	I		No.699	銅製品	簪		12.0		17.56	
$\frac{87 - 10}{87 - 11}$	4	5 5	VZ VZ	V-18 V-18	IV III		No.663 No.228	銅製品 銅製品	簪 鋲		3.4		2.51	
87 - 12	4	5	VZ	V-18	IV		No.446	銅製品	?	_	9.0	_	27.86	
87 - 13	4	5	V区	V-18	Ш		No.189	銅製品	鏡?		_	_	7.81	
$\frac{88 - 1}{88 - 2}$	4	5 5	VZ VZ	U-17 V-18			dot.398 dot.866	鉄製品 鉄製品	<u></u>		8.2 6.1		21.6	
88 - 3	4	5	V Z	V-18	IV		No.844	<b>鉄製品</b>	 釘		6.1		17.9	
88 - 4	4	5	V区	V-18	Ш	_	No.64	鉄製品	釘	_	5.2	_	6.1	
88 - 5	4	5	V区	V-18	_		dot.867	鉄製品	釘		5.1		5.4	
88 - 6 88 - 7	4	5 5	VZ VZ	U-17 U-17		 S5	dot.48 No.1075	鉄製品 鉄製品	<u></u>		5.0 3.5		5.4	
88 - 8	4	5	VZ	V-18	_	S77	dot.716	鉄製品	釘	_	3.3	_	3.3	
88 - 9	4	5	V区	V-18	Ш	_	dot.139	鉄製品	釘?	_	4.4	_	3.1	
88 - 10 88 - 11	4	5 5	VZ VZ	V-18 U-18	IV III		No.805 dot.14	鉄製品 鉄製品	<u></u>		4.2 3.9		6.6 2.8	
88 - 12	4	5	V Z	V-18	—	S89	No.948	鉄製品	<u></u>		4.0		3.6	
88 - 13	4	5	V区	V-18	IV	_	dot.749	鉄製品	釘	_	4.3	_	3.2	
88 - 14 88 - 15	4	5 5	V Z	V-17 V-18		-	dot.292	鉄製品	楔?		4.7		9.2	
88 - 15 88 - 16	4	5 5	V区	V-18 V-18		S52 S268	dot.644 dot.895	鉄製品 鉄製品	刀子 包丁		6.1		70.9	
88 - 17	4	5	V区	V-18	-	S67	dot.686	鉄製品	包丁?	_	9.1	_	30.1	
88 - 18	4	5	V区	V-18	-	S67	dot.691	鉄製品	刀子	_	10.1	_	18.8	
88 - 19 88 - 20	4	5 5	V Z	U-18 V-18	Ш		dot.279 dot.152	鉄製品 鉄製品	<u>鏃</u>		6.0 7.1		11.1	
88 - 21	4	5	VZ	V-17	II	_	dot.520	鉄製品	刀子	_	8.4	_	18.3	
88 - 22	4	5	V区	V-18	Ш		dot.322	鉄製品	錐	_	6.4	_	6.1	
88 - 23 88 - 24	4	5 5	VZ VZ	V-18	_	S52 S149	dot.646 dot.842	鉄製品 鉄製品	新 板状製品		9.5 —		20.6 84.1	
88 - 25	4	5	V 🗵	V-18		S52	dot.649	鉄製品	板状製品				29.3	
88 - 26	4	5	V区	V-18	Ш	_	dot.202	鉄製品	ヘラ?	_	_	_	40.8	
88 - 27 88 - 28	4	5	VZ	V-18	_	S67	dot.708	鉄製品	鎹状製品 板化制品		6.9 7.1		26.0	
88 - 28 88 - 29	4	5 5	VZ VZ	V-18 V-18		S67 -	dot.684 dot.185	鉄製品 鉄製品	板状製品 輪		3.9		17.5 21.2	孔径:1.4
89 - 1	4	5	V区	U-17	II	_	dot.601	石器	砥石	ヒン岩	15.1	3.8	850	
89 - 2	4	5	V区	U-18	_	S356	dot.902	石器	砥石	砂岩	14.6	5.1	1090	残存径
89 - 3 89 - 4	4	5 5	VZ VZ	V-18 V-18	IV	S237 S70	dot.850 dot.625	石器 石器	<u> </u>	粘板岩 砂岩	15.3 16.8	3.1 6.4	310 990	残存径 残存径
90 - 1	4	5	V区	V-18	I	-	No.375	貝製品	漁網錘?	ハナマルユキ	3.2	-	5.4	/2414 PE
90 - 2	4	5	V区	U-17	I		No.456	貝製品	漁網鍾?	ハナマルユキ	2.8	_	3.8	
90 - 3	4	5 5	VZ VZ	V-18 V-18	I		No.18 No.18	貝製品 貝製品	漁網錘?	ハナマルユキ	3.2		6.0 7.0	
90 - 4	4	5 5	V Z	V-18 V-18	I		No.18	貝製品	漁網錘?	ハナビラダカラ	2.5		2.2	
90 - 6	4	5	V区	U-17	I		No.16	貝製品	漁網鍾?	ハナビラダカラ	2.7	_	3.0	
93 - 1	外	2	I区a	I-17	II		No.261	カムイヤキ	壺	底部	-	_	13.6	
93 - 2	<u>外</u> 外	2	I区a I区a	J-13 J-17	表採		No.404 No.261	青磁 青磁	<u>碗</u> 碗	無鎬Ⅱ d 細蓮弁 c	15.0 11.2			
93 - 4	外	2	I⊠a	H-15	<u>1</u>		No.199	青磁	碗	細連弁 b	16.1	_	_	
93 - 5	外	2	I区a	J-17	II		No.295	青磁	碗	雷文a	14.4	_	_	
93 - 6	外加	2	I⊠a	H-16	Ш		No.332	青磁	碗 rsts	雷文a	144		5.5	
93 - 7	<u>外</u> 外	2	I区a I区a	H-15 I-16			No.228 No.239	青磁 青磁	碗碗	刻花文 b 無文外反	14.4 15.7			
			* K7 Cl		-11			IJ MAA	M/ Li	ヘ/T/A	20.1			

第29表 出土遺物観察表(8)

											\$4.5	則値(cm.	a)	
遺物番号	屋敷	次	## IZ,	グリッド	層	遺構	dot/No	種別	形式	分類	口径	器高	底径	備考
											外径	厚さ	重量	/佣 - 号
93 - 9	<u>外</u> 外	2	I 区 a I 区	J-16 撹乱			No.235 No.462	青磁 青磁	<u>碗</u> 碗	無文直口無文外反底部	17.5 —		5.0	
93 - 11	<u></u>	2	IZ	<b>撹乱</b>	_	_	No.457	青磁	碗	無文直口底部	_		4.2	もしくは細蓮弁底部
94 - 1	外	2	I区b	G-15	II	-	No.211	青磁	Ш	口折皿b	10.2	_	_	
94 - 2	<u>外</u> 外	2	I区a I区a	I-16	П		No.239	青磁 青磁		口折皿b	110		11.0	I a J-16 II
94 - 3 94 - 4	<u></u>	2	I 🗵 a	I-15 I-15	II		No.355 No.289		<u> </u>	口折皿 c 口折皿 c	11.8			
94 - 5	外	2	I⊠a	I-16	II	_	No.342	青磁	Ш	蓮弁直口 e	9.6		_	
94 - 6	外	2	I区b	G-15	<u>II</u>		No.218	青磁		無文直口	13.0		-	
94 - 7	<u>外</u> 外	2	I区a I区a	I-16 I-17	П		No.239 No.357	青磁 青磁	 杯	直口無文底部 碁笥底底部	_		6.8 3.4	
94 - 9	外	2	I区a	J-17	II	_	No.241	青磁	盤	盤f	22.0	_	-	主郭分類盤I類
94 - 10	外	2	I⊠a	J-16	II	_	No.208	青磁	瓶	肩部	_		_	
94 - 11 94 - 12	<u>外</u> 外	2	I区a I区a	K-16 H-15	П		No.291 No.208	白磁 自磁	<u>碗</u> 碗	今帰仁タイプ 印刻文碗	13.8		8.0	志慶真分類Ⅱ類
94 - 13	外	2	I区b	H-15	II	_	No.212	白磁	碗	無文外反	14.4	_	_	心度兴力艰口艰
94 - 14	外	2	I区b	J-17	Π	_	No.291	白磁	碗	無文外反	12.6	_	_	
94 - 15 94 - 16	<u>外</u> 外	2	I区a I区a	H-15 J-17	П		No.249 No.291	白磁 白磁	<u> </u>	口禿 外反皿 a	11.0		6.0	
94 - 17	<u>外</u>	2	I 🗵 a	I-16	II	_	No.234	白磁	杯	八角杯	7.1		-	
94 - 18	外	2	I区b	G-15	II	_	No.292	白磁	壺	口縁部	_	_	_	
95 - 1 95 - 2	1	2	IZ	N-16	П		No.257	染付	施工服	直口碗c			6.5	主郭分類V類
95 - 2 95 - 3	1	2	I区a I区a	I-16 I-16	П		No.294 No.214	染付 褐釉	一 不明 壺	<u>蓋</u> 壺 b	10.4			
95 - 4	1	2	I区a	J-17	II	_	No.354	褐釉	壺	壺b	8.4	_	_	
95 - 5	1	2	IZ	H-16	П	- CI 1	No.157	褐釉	壺	底部	106	_	10.0	
95 - 6 95 - 7	1	2	I区 I区a	J-17 I-16	II II	SL1	No.286 No.329	機釉 褐釉	壺 水注	<u>壺 c</u> 注口	10.6			
95 - 8	1	2	I区a	H-15	J	_	No.278	褐釉	壺	胴部	_	_	_	肩部
95 - 9	1	2	ΙZ	カクラン		_	No.462	褐釉	壺	底部	_		12.4	中型長胴壺
95 - 10 95 - 11	1	2	I区a I区a	I-16 H-16	II II		No.342 No.233	機釉 鉄絵	壺 合子		9.6		24.4	大型壺
96 - 1	1	2	I 🗵 a	H-15	II	_	No.274	鉄製品	釘		4.4	_	4.6	
96 - 2	1	2	I区b	G-15	II	_	No.220	鉄製品	釘	_	5.2	_	9.2	
96 - 3 96 - 4	1	2	I区b I区a	G-15 I-16	П		No.220 No.262	鉄製品 鉄製品	釘 杭		4.5 24.2		5.2	
96 - 5	1	2	I区b	H-16	II	_	No.213	石器	砥石	砂岩	-		169.8	
99 - 1	1	2	II区b	K-13	II	SL2	dot.71	青磁	Ш	口折皿b	14.0	_	_	
99 - 2	1	2	II Z b	K-13	<u>II</u>	SL2	dot.88	染付	碗	直口碗c	_		7.0	
99 - 3 99 - 4	1	2	I区a II区b	I-16 K-13	П	SL2	No.239 dot.119	禁付 鉄製品		肥前	4.5		7.0	
99 - 5	1	2	II区b	J-13	II	SL2	dot.132	鉄製品	板状製品	_	-	_	22.1	
99 - 6	1	2	II区b	J-13		SL2	dot.22	鉄製品	鉄塊		10.6	-	118.7	
99 - 7 103 - 1	<u>1</u> 外	6	II区b IV区	J-13 R-20	II	SL2	dot.21 No.10	骨製品 土器	ハブラシ 鍋もしくは壺	底部	10.3	0.7	10.9	
103 - 2	外	6	IV区	-	I	_	No.6	青磁	碗	鎬a	13.0	_	-	
103 - 3	外	7	IV区	_	II	_	No.11	青磁	碗	無文外反	18.8		_	-
$\frac{103 - 4}{103 - 5}$	<u>外</u> 外	6 7	IV区 IV区	S-21	I.II II		No.13 No.8	青磁 青磁	<u>碗</u> 碗	細蓮弁 b 底部			5.0	
103 - 6	外	6	IV区	_	I	_	No.7	青磁	碗	細蓮弁底部	_	_	4.4	もしくは雷文底部
103 - 7	外	7	Ν⊠	_	П	_	No.8	青磁	Ш	櫛描文	_	_	4.4	
103 - 8 103 - 9	<u>外</u> 外	7	IV区 IV区		I		No.11 No.2	青磁 青磁	瓶	腰折皿 c 頸部	12.0	3.4	4.7	
103 - 9	<u></u>	6	IV 🗵		I.II		No.7 · 8	青磁	盤	盤e	25.2		11.2	<u>,                                      </u>
103 - 11	外	6	Ν区	_	I	_	No.6	青磁	Ш	無文直口底部	_	_	6.1	
$\frac{104 - 1}{104 - 2}$	<u>外</u> 外	7	IV区		I	_	No.8 No.2	青磁 青磁	盤盤	盤 b 盤 e	25.4		10.8	
104 - 2	<u>ット</u> 外	6	IV 🗵		I . II		No.17	青磁		— —			- 10.8	
104 - 4	外	7	Ν区	_	I	_	No.1	白磁	碗	無文外反	14.8	_	_	,
104 - 5 104 - 6	<u>外</u> 外	7	IV区 IV区		П		No.8	白磁	<u>碗</u> 碗	無文外反底部	_		6.0 4.2	
104 - 6	<u>ット</u> 外	6	IV 🗵		I		No.8 3 • 7	白磁 染付	砂	無文直口 外反碗 c			6.4	
104 - 8	外	7	Ν区	_	II	_	No.11	瑠璃釉	碗	底部	_	_	4.8	
104 - 9	外	7	IV 🗵		I		No.1	褐釉	壺	壺 b ?	12.6		19.0	
$\frac{104 - 10}{104 - 11}$	<u>外</u> 外	7 6	IV区 IV区		I		No.1 No.7	機釉 鉄製品	<u>壺</u> 刃物	壺底部 -	13.0		12.8 65.7	
104 - 12	外	6	IV⊠	_	_	S20	No.10	鉄製品	鏃	_	7.4	_	8.7	
104 - 13	外	6	IV区	-	I	_	No.3	鉄製品	鑿		27.2	_	2270	
	<u>ハラクブ</u> ハラクブ	3	AD-18 AC-17		トレンチ 表採		No.36 No.33	カムィヤキ 青磁	壺 碗	胴部 細蓮弁 a	11.2			
	ハラクブ	3	AC-17	_	表採	_	No.33	青磁	碗	細連弁a	_	_	4.6	AC-17トレンチ
	ハラクブ	3	AD-18	_	_	SA3	dot.8	青磁	碗	雷文底部	-	_	4.8	もしくは細蓮弁底部
	<u>ハラクブ</u> ハラクブ	3	AD-17 AD-18		トレンチ		No.38 No.36	青磁 染付	盤 盤 碗	盤 b 直口碗 a	30.2		5.4	鍔縁
	ハラクブ	3	AD-18		- I. N. J. J	SA3	No.40	福釉		重日棚 a 壺 d	20.0		- 5.4	
107 - 8	ハラクブ	3	AD-17	_	トレンチ	_	No.38	褐釉	壺	壺底部	_	_	14.7	
	ハラクブ	3	AD-18		主 授	SA3	dot.6	褐釉	壺	壺底部			18.4	ねえ彦
	ハラクブ ハラクブ	3	AC-17 AC-17		表採 表採	_	No.43 No.33	褐釉   白磁	<u> </u>	壺底部 –	9.2	1.4	12.6 5.2	タイ産 清朝磁器
	ハラクブ	3	AE-18	_	表採	_	No.31	壺屋(荒焼)	壺	徳利	5.7	20.5	10.6	AE-19 表採

第30表 出土遺物観察表(9)